地方道改築事業　一般県道手取川自転車道線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

白山市

古宮遺跡

2022

石川県教育委員会

（公財）石川県埋蔵文化財センター

古宮遺跡

（ふるみや）

２０２２

石　川　県　教　育　委　員　会

（公財）石川県埋蔵文化財センター

例　　言

1　本書は古宮遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡の所在地は石川県白山市白山町地内である。

3　調査原因は地方道改築事業一般県道手取川自転車道線の建設であり、同事業を所管する石川県土木部道路建設課(石川土木総合事務所)が、石川県教育委員会に発掘調査を依頼したものである。

4　調査は公益財団法人石川県埋蔵文化財センターが石川県教育委員会から委託を受けて、平成30(2018)年度および令和元(2019)～令和3(2021)年度に実施した。業務内容は現地調査、出土品整理、報告書作成、報告書刊行である。

5　調査に係る費用は、石川県土木部道路建設課(石川土木総合事務所)が負担した。

6　現地調査は平成30(2018)年度に実施した。期間・面積・担当(当時)は次のとおりである。

期　間　平成30年6月27日～同年11月13日

面　積　1,350㎡(平面積530㎡)

担　当　調査部特定事業調査グループ　安中哲徳(専門員)、横山純子(嘱託調査員)

7　出土品整理は令和元年度および令和2(2020)年度に実施し、調査部特定事業調査グループおよび県関係調査グループが担当した。

8　自然科学的分析は令和3年度に(株)パレオ・ラボに委託して実施し、第4章に掲載した。

9　報告書の作成及び刊行は令和2年度および令和3年度に実施し、調査部県関係調査グループが担当した。執筆分担は次のとおりである。編集は安中が担当した。

第1章・第3～第5章第1節　安中哲徳(調査部県関係調査グループ主幹)

第2章　垣内光次郎(調査部参事)

第4章　(株)パレオ・ラボ(第1節：小林克也、第2節：藤根　久、第3節：森　将志)

第5章第2節　伊藤克江(白山比咩神社学芸員)

10　調査には下記の機関、個人の協力を得た(敬称略)。

白山市観光文化スポーツ部文化財保護課、手取川七ヶ用水土地改良区(白山管理センター)、白山市三宮町、白山市白山町、白山市八幡町、白山市立一ノ宮公民館、福井県勝山市教育委員会、白山比咩神社、金劔宮、赤澤徳明、浅野良治、阿部　来、石川インペラ工業(株)、(有)建部設備、(株)小山組、多田建築設計室、伊藤克江、川畑謙二、小阪　大、小嶋芳孝、下濱　聡、椙山林継、田村昌宏、西山郷史、三浦純夫、向井裕知、村上昂之、横幕　真

11　調査に関する記録と出土品は石川県埋蔵文化財センターで保管している。

12　本書についての凡例は下記のとおりである。

(1)　遺構図等の方位は座標北であり、座標は平成14年度国土交通省告示の平面直角座標Ⅶ系に準拠した。

(2)　水平基準は海抜高であり、T.P.(東京湾平均海面標高)による。

(3)　遺構の名称は、下の略記号に算用数字を付けて表記した。

ＳＢ：掘立柱建物、ＳＫ：土坑、ＳＬ：石列・石段、ＳＥ：井戸、ＳＤ：溝、Ｐ：柱穴・小穴、ＳＸ：その他(不定形・不明確遺構等)

(4)　遺物の報告番号は、挿図、出土遺物観察表、遺物図版で共通番号を用いた。

(5)　遺物図においては、須恵器は断面黒塗り、その他は白抜きとした。図中の主な網掛け表現は下のとおりである。ほかに、油煙痕や黒色処理等も網掛けにより示した。

赤彩　被熱　石器使用痕

目　　次

第１章　経 緯 と 経 過 …… 1

第１節　調 査 の 経 緯 …… 1
第２節　発掘作業の経過 …… 2
第３節　整理作業の経過 …… 3

第２章　位 置 と 環 境 …… 4

第１節　位置と地理的環境 …… 4
第２節　白山本宮の歴史と史跡 …… 5

第３章　調 査 の 成 果 …… 9

第１節　調 査 の 方 法 …… 9
第２節　遺　　構 …… 9
第３節　遺　　物 …… 50

第４章　自然科学的分析 …… 88

第１節　木製品の樹種同定 …… 88
第２節　石製品の石質同定 …… 89
第３節　花　粉　分　析 …… 93

第５章　総　　括 …… 97

第１節　遺跡の変遷と出土したカワラケについて …… 97
第２節　白山本宮の造営について …… 98

報 告 書 抄 録
遺構写真図版
遺物写真図版

挿 図 目 次

第１図　手取川扇状地を中心とする中世の主要遺跡分布図(S＝1/30万) …… 6
第２図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布(S＝1/2,5000) …… 7
第３図　白山の禅定道と山頂遺跡(S＝1/200,000) …… 8
第４図　調査区位置図 …… 9
第５図　調査区全体図・グリッド割図(S＝1/500) …… 11
第６図　A区Ⅰ・Ⅱ面平面図(S＝1/300) …… 12
第７図　B区Ⅰ～Ⅲ面・C区０～Ⅲ面平面図(S＝1/300) …… 13
第８図　B区Ⅲ-２～Ⅴ面平面図(S＝1/300) …… 14
第９図　C区０～Ⅲ面平面図(S＝1/300) …… 15
第10図　A区Ⅰ面(A１・A２)平面図(略図)・断面図実測箇所図１(S＝1/100) …… 16
第11図　A区Ⅰ面(A３・A４)平面図(略図)・断面図実測箇所２(S＝1/100) …… 17
第12図　A区Ⅱ面(A１～A３)平面図・断面図実測箇所図１(S＝1/100) …… 18
第13図　A区Ⅱ面(A３・A４)、B区Ⅲ面(B５)平面図・断面図実測箇所図２(S＝1/100) …… 19
第14図　A区Ⅱ面(A２～A４)平面図・土層断面図(S＝1/60) …… 20
第15図　B区Ⅰ面(B５～B７)平面図・断面図実測箇所図１(S＝1/100) …… 21
第16図　B区Ⅰ面(B７～B９)、C区0面(C９)平面図・断面図実測箇所図２(S＝1/100) …… 22
第17図　B区Ⅰ面(B５・B６)平面図・土層断面図１(S＝1/60) …… 23
第18図　B区Ⅰ面(B６・B７・B９)平面図・土層断面図２(S＝1/60) …… 24
第19図　B区Ⅱ面(B５～B７)平面図・断面図実測箇所図１(S＝1/100) …… 25
第20図　B区Ⅱ面(B７～B９)、C区Ⅰ面(C９)平面図・断面図実測箇所図２(S＝1/100) …… 26
第21図　B区Ⅱ面(B７・B８)平面図・土層断面図１(S＝1/60) …… 27
第22図　B区Ⅱ・Ⅲ面(B８)礎石29・33・根石06エレベーション図(S＝1/40) …… 27
第23図　B区Ⅱ面(B７・B８)根石04～06・礎石35エレベーション図(S＝1/40) …… 28
第24図　B区Ⅱ面(B７・B８)平面図・土層断面図２(S＝1/60) …… 28
第25図　B区Ⅱ面(B８)平面図･土層断面図３(S＝1/60) …… 29
第26図　B区Ⅱ面(B９)平面図･土層断面図４・C区Ⅰ面(C９)平面図・土層断面図１(S＝1/60) …… 30
第27図　B区Ⅲ面(B５～B７)平面図・断面図実測箇所図１(S＝1/100) …… 31
第28図　B区Ⅲ面(B７～B９)、C区Ⅱ面(C９)平面図･断面図実測箇所図２(S＝1/100) …… 32
第29図　B区Ⅲ面(B６)北石列エレベーション図(S＝1/40) …… 33
第30図　B区Ⅲ面(B６・B７)平面図・土層断面図１(S＝1/60) …… 33
第31図　B区Ⅲ面(B７・B８)平面図・土層断面図２(S＝1/60) …… 34
第32図　B区Ⅲ・Ⅳ面(B７・B８)礎石18～21エレベーション図(S＝1/40) …… 34
第33図　B区Ⅲ・Ⅳ面(B７・B８)礎石22～24・35エレベーション図(S＝1/40) …… 35
第34図　B区Ⅱ・Ⅲ面(B８)SB01a(礎石１～３・P109)エレベーション図(S＝1/40) …… 36
第35図　B区Ⅳ面(B８)SB01b(礎石１～３・P109・礎石25～28)エレベーション図(S＝1/40) …… 37
第36図　B区Ⅲ-２面・Ⅳ面(B７・B８)平面図・断面図実測箇所図(S＝1/100) …… 38
第37図　B区Ⅳ面(B６～B９)平面図・断面図実測箇所図(S＝1/100) …… 39
第38図　B区Ⅳ・Ⅴ面(B５～B７)平面図・断面図実測箇所図１(S＝1/100) …… 40
第39図　B区Ⅳ・Ⅴ面(B７～B９)、C区Ⅲ面(C９)平面図・断面図実測箇所図２(S＝1/100) …… 41
第40図　B区Ⅳ面(B６・B７)SX72エレベーション図(S＝1/40) …… 42
第41図　B区Ⅴ面(B７)平面図・土層断面図１(S＝1/30・1/60) …… 42
第42図　B区Ⅳ面(B７)平面図・土層断面図２(S＝1/60) …… 43
第43図　B区Ⅳ面(B９)平面図・土層断面図３(S＝1/60) …… 44
第44図　C区Ⅰ面(C９～C11)、０面(C10・C11)平面図･断面図実測箇所図(S＝1/100) …… 45
第45図　C区Ⅱ面(C９～C11)平面図･断面図実測箇所図(S＝1/100) …… 46
第46図　C区Ⅲ面(C９・C10)平面図･断面図実測箇所図(S＝1/100) …… 47
第47図　C区Ⅱ面(C９・C10)平面図・土層断面図１(S＝1/60) …… 48
第48図　C区Ⅱ面(C10・C11)平面図・Ⅲ面(C10)土層断面図２(S＝1/60) …… 49
第49図　A区出土土器実測図１(S＝1/3・1/6) …… 51
第50図　A区出土土器実測図２(S＝1/3) …… 52
第51図　A区出土土器実測図３(S＝1/3) …… 53
第52図　A区出土石器・石製品・金属製品実測図(S＝1/1・1/3) …… 54
第53図　B区出土土器実測図１(S＝1/3) …… 55
第54図　B区出土土器実測図２(S＝1/3) …… 56
第55図　B区出土土器実測図３(S＝1/1・1/3) …… 57
第56図　B区出土土器実測図４(S＝1/3) …… 58
第57図　B区出土土器実測図５・木製品・石器・石製品実測図１(S＝1/3・1/6) …… 59
第58図　B区出土石器・石製品実測図２(S＝1/3・1/6) …… 60
第59図　B区出土石器・石製品実測図３・金属製品・銅銭実測図(S＝1/1・1/6・1/8) …… 61

第60図　C区出土土器実測図1（S＝1/3）…… 62
第61図　C区出土土器実測図2（S＝1/3）…… 63
第62図　C区出土土器実測図3（S＝1/3）…… 64
第63図　C区出土土器実測図4（S＝1/3）…… 65
第64図　C区出土土器実測図5（S＝1/3）…… 66
第65図　C区出土土器実測図6（S＝1/3）…… 67
第66図　C区出土土器実測図7（S＝1/3）…… 68
第67図　C区出土土器実測図8（S＝1/3）…… 69
第68図　C区出土石器・石製品実測図（S＝1/6）…… 70
第69図　古宮遺跡木製品の光学顕微鏡写真…… 88
第70図　古宮遺跡と周辺の地質図…… 91
第71図　岩石表面の拡大写真（マーカー幅：2mm）… 92
第72図　古宮遺跡における花粉分布図…… 95
第73図　産出した花粉化石…… 96
『白山之記（白山縁起）』嘉祥元年（848）
白山本宮の造立（白山比咩神社所蔵）…… 105
『白山宮荘厳講中記録』延応元年（1239）8月
白山本宮の焼失記事（白山比咩神社所蔵）…… 105
『白山宮荘厳講中記録』文明12年（1480）10月
白山本宮の焼失記事（白山比咩神社所蔵）…… 105
「正親町天皇綸旨」天正12年（1584）
（白山比咩神社所蔵）…… 105
明和7年（1770）4月造立の「白山比咩神社」本殿 ‥ 105

表　目　次

第１表　調査・整理体制 …… 3
第２表　出土土器観察表1 …… 71
第３表　出土土器観察表2 …… 72
第４表　出土土器観察表3 …… 73
第５表　出土土器観察表4 …… 74
第６表　出土土器観察表5 …… 75
第７表　出土土器観察表6 …… 76
第８表　出土土器観察表7 …… 77
第９表　出土土器観察表8 …… 78
第10表　出土土器観察表9 …… 79
第11表　出土土器観察表10…… 80
第12表　出土土器観察表11…… 81
第13表　出土土器観察表12…… 82
第14表　出土土器観察表13…… 83
第15表　出土土器観察表14…… 84
第16表　出土土器観察表15…… 85
第17表　出土土器観察表16…… 86
第18表　石器・石製品観察表 …… 87
第19表　木製品観察表…… 87
第20表　金属製品観察表 …… 87
第21表　銅銭観察表 …… 87
第22表　古宮遺跡出土木製品の樹種同定
結果一覧…… 88
第23表　石製品とその詳細…… 89
第24表　石材の特徴と同定結果…… 90
第25表　年代測定試料名及び処理方法…… 90
第26表　分析試料一覧…… 93
第27表　産出花粉胞子一覧表 …… 94
第28表　造営・遷宮史料（中世）…… 104

図 版 目 次

図版１　遺跡の位置
図版２　各調査区の全景
図版３　A区遺構1
図版４　A区遺構2・B区遺構1
図版５　B区遺構2
図版６　B区遺構3
図版７　B区遺構4
図版８　B区遺構5
図版９　B区遺構6
図版10　B区遺構7
図版11　C区遺構1
図版12　C区遺構2
図版13　C区遺構3
図版14　C区遺構4
図版15　A区出土遺物1
図版16　A区出土遺物2
図版17　A区出土遺物3
図版18　A区出土遺物4
図版19　A区出土遺物5・B区出土遺物1
図版20　B区出土遺物2
図版21　B区出土遺物3
図版22　B区出土遺物4
図版23　B区出土遺物5
図版24　B区出土遺物6
図版25　B区出土遺物7
図版26　B区出土遺物8
図版27　B区出土遺物9・C区出土遺物1
図版28　C区出土遺物2
図版29　C区出土遺物3
図版30　C区出土遺物4
図版31　C区出土遺物5
図版32　C区出土遺物6
図版33　C区出土遺物7
図版34　C区出土遺物8
図版35　C区出土遺物9
図版36　C区出土遺物10
図版37　C区出土遺物11
図版38　C区出土遺物12
図版39　C区出土遺物13
図版40　C区出土遺物14

第1章　経 緯 と 経 過

第1節　調 査 の 経 緯

古宮遺跡の発掘調査は、石川県土木部道路建設課(石川土木総合事務所)(以下「県土木」)が所管する地方道改築事業一般県道手取川自転車道線(通称、手取キャニオンロード)の建設工事に係るものである。本道路は、1級河川の手取川河口部を起点とし、堤防上の河川管理用道路を共用しながら上流へと進み、山間部は白山市白山町の手取川七ヶ用水給水口付近の古宮公園横からは平成21年に廃線となった北陸鉄道石川線および昭和62年に廃止となった北陸鉄道金名線の鉄道敷跡を利用して手取川ダム付近に至る全長43.3kmの自転車歩行者専用道路である。平成8年に路線認定・工事が着工され、平成18年にⅠ期区間(白山市白山町～瀬戸)19.6kmが完成した。

今回調査を実施した鶴来地区(古宮公園～北陸電力白山発電所)区間の工事については、平成26年度に事業化されたものである。石川県教育委員会事務局文化財課(以下「県文化財課」)では国・県等の開発部局に対し、次年度以降の土木工事等予定を照会・事業ヒアリングし、埋蔵文化財の保護措置を決定する「埋蔵文化財調査等に関する協議会」を毎年実施している。同協議会は、文化財保護法第94条に基づく埋蔵文化財の保護措置を遺漏なく行うとともに、工事中の不時発見等による法第97条に基づく緊急調査等の保護措置を避け、円滑な埋蔵文化財保護と開発事業の計画的な実施を調整することを目的としている。平成29年度に県文化財課が実施した次年度の事業照会に対し、県土木から同事業の鶴来地区における工事について回答があった。同工事では今回の事業地内に周知の埋蔵文化財包蔵地である古宮遺跡のほか、未確認の包蔵地が含まれることが予想されることから、県文化財課は県土木に対し、事業地の一部に周知の埋蔵文化財包蔵地が含まれていること、また周知外についても新たに包蔵地が確認される可能性があることを伝え、準備が整い次第分布調査が必要である旨を通知した。また、同事業については上流部側に位置する周知の埋蔵文化財包蔵地である白山町遺跡の一部と隣接地において県文化財課により平成28年4月に試掘調査が行われ、事業地内には遺跡の分布が広がらないと判断し、計画通り工事を実施して支障なしと回答している。

平成29年9月に県土木から埋蔵文化財分布調査の依頼が石川県教育長あてにあり、同年11月に県文化財課が試掘調査を実施し、旧加賀一の宮駅と古宮公園周辺に分布する周知の埋蔵文化財包蔵地「古宮遺跡」範囲内(第2図)において、鉄道敷跡にあたる計画部分延長約90mに遺構・遺物を確認、事業範囲内における埋蔵文化財の範囲を確定した。分布調査の結果は同年11月に県文化財課長から県土木あて回答され、事業範囲内で埋蔵文化財が確認されたこと、事業の実施にあたっては文化財保護法第94条に基づく発掘調査等の保護措置が必要である旨回答した。平成30年3月に県土木から「土木工事等のための発掘通知」が提出され、現状で埋蔵文化財包蔵地を迂回するルートに変更することは困難であり、工事の実施も急がれることから、平成30年度に道路敷および付帯工事等で埋蔵文化財が損壊する範囲で記録保存調査を実施することで県土木と調整が進められた。同年3月県教育長から県センター理事長あて「周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について」が通知された。

発掘調査は、平成30年3月に県土木からの依頼を受けた県教育委員会(以下「県教委」)の委託事業として、公益財団法人石川県埋蔵文化財センター(以下「県埋文センター」)が実施した。現地調査は平成30年度、出土品整理は令和元年度および令和2年度、報告書作成作業は令和2年度および令和3年度、報告書編集・刊行事業は令和3年度に実施(作業内容は第1章第3節に記載)した。

第２節　発掘作業の経過

１．現地作業の経過

発掘調査の実施については、県教委と県埋文センターとの間で平成30年４月１日付けで発掘調査等業務委託契約を締結、それを受け文化財保護法第92条１項の規定に基づく発掘調査届（同年５月８日付け財埋第78号）を県教育委員会あて届出、県教育長から「発掘調査届に対する通知について」（同年５月８日付教文第445号）を受けた。当初依頼面積は500㎡（遺構面１面）である。

調査範囲は、旧加賀一の宮駅と古宮公園周辺に分布する周知の埋蔵文化財包蔵地「古宮遺跡」範囲内において、鉄道敷跡にあたる延長約110m（調査着手時は延長約90m）、幅約５mの細長い調査区で、への字状にややカーブしている（第４・５図）。調査に先立ち、同年４月に県文化財課と県埋文センターで現地下見を行い、作業ヤードが限定されること、上流部側の道路工事との調整が必要となるなど、調査着手前までに県土木も含め調整が必要な課題を把握した。同年５月県土木、県文化財課、県埋文センターの３者で現地打ち合わせを行い、前回把握した課題等について協議した。

同年６月中旬より、現地作業の準備に着手し、地元挨拶・調査案内後、仮設建物等建上準備および借上機材搬入を行ったが、南側隣接地での道路・橋工事との調整や作業ヤードが狭く限定されることなどから、建物等設置や駐車場の確保、機材搬入など準備完了まで通常より時間を要した。現地調査では表土・排土置き場が限られることから、A・B・C地区の３地区に分けて調査を行うこととし、６月後半に北側のA地区から着手し、７月上旬から作業員を入れて発掘機材搬入後、A区の壁面精査、遺構検出作業を実施した。鉄道建設時の攪乱が遺構面に及んでおり、遺構の遺存状況は良くなかったが、攪乱の穴を精査すると、遺構面が複数面（３面以上）に及ぶことが判明した。７月中旬に県文化財課に報告し、その後も３面以下の状況確認を続け、７月下旬に概要が判明した。また、遺構面の増加に伴う作業の進捗を図るため、さらに広範囲に作業員募集の案内を行った。調査面積および調査期間、調査費の増加が見込まれることから、８月上旬に県文化財課が県土木に状況を報告し、調査計画変更の協議を打診した。変更工程表の提出を求められため、県センターにて遺構面最大３面の場合、11月上旬調査終了見込みの変更計画表を作成し、県庁にて状況説明と今後の取り扱いについての協議を行った。その結果、これまで県土木は県議会に対し、秋に道路を供用することを２度説明しているため、提示工程案では難しいこと、a. 部分引き渡し後に段階的に工事、b. 一旦調査を中断し盛土のうえ、施工・供用し、11月末の冬季閉鎖後、盛土を撤去し、調査を再開。c. 並行する古宮公園内の管理道理を暫定道路として仮供用などの案が出されたが、解決はつかず、県土木が持ち帰り検討することになった。また、現地で重要な遺構が発見された場合、道路工事は盛土による施工であることから、掘削は遺構面に及ばず現地で保存できることも確認された。その後、県土木から県文化財課に連絡があり、南側から引き続き工事を継続するため、C区を先行して引き渡すこと、調査概要の説明資料を提出するよう依頼があり、県センターでは改めて調査工程表を作成し、A・C区の調査を並行して実施し、C区を９月中旬に先行して引き渡し、その後B区の調査を再開し、11月上旬に全体を撤収する工程を提示した。県教育長から県センター理事長あての委託業務の計画変更協議書（同年８月10日付け教文第1763号）が提出され、調査範囲と遺構面の増加により、調査面積が500㎡から1,250㎡へと増加した。県センター理事長から県教育長あてに現地作業の部分完了報告書を提出（同年10月２日付け財埋第248号）し、C区200㎡を先行して県土木に引き渡した。また、さらに遺構面の増加が確認されたことから、再度県教育長から県センター理事長あての委託業務の計画変更協議書（同年10月18日付け教文第2576号）が提出され、調査面積が1,250㎡から1,350㎡へと増加した。

10月下旬に現地説明会として発掘調査の内容説明と出土品を一般に公開するため、10月19日に県文教記者室に調査概要の資料提供を行い、当日夕刊および翌20日の地元新聞誌にて、加賀国一宮である白山比咩神社の前身となる「白山宮」の変遷を示す平安時代後半～室町時代後半の遺構と遺構面が4層で確認されたと、大きく報道され、10月27日に現地説明会が開催されることも紹介された。10月27日午前・午後2回、現地説明会を開催し、天気は雨模様であったが、合計約110人が参加し、翌28日の地元新聞誌でも当日の状況が紹介された。その後調査を進め、最終的にB区では最大5面の遺構面を確認し、11月上旬までに4面までの掘削作業および5面以下の確認作業を終了、礎石建物の礎石や石列、石敷き遺構、大型土坑など重要な遺構を透水性のある農業用ポリシートと山砂にて保護し、埋め戻した。11月9日に調査区を県土木に引き渡し、11月中旬に発掘機材や借上機材、仮設建物等撤収作業も含め、現地での作業を完了した。

平成30年11月13日付け財埋第297号で教育長あてに発掘調査現地作業の完了報告を提出、調査完了面積は1,350㎡（平面積530㎡）であり、当初から850㎡増加した。現地調査で出土した遺物については、遺失物法第4条の規定に基づき、同年11月13日付け財埋298号で白山警察署長に埋蔵物発見届を提出、同年11月26日付け教文第2690号で古宮遺跡出土品が文化財として認定された旨、白山警察署長および県埋文センターに通知がなされた。

また、出土遺物の洗浄作業は、県埋文センターにて平成31年2～3月に実施した。

なお、同事業に伴う鶴来地区の自転車道は、工事完了後の同年3月に供用が開始されている。

第3節　整理作業の経過

1．出 土 品 整 理

県土木から依頼を受けた県教委の委託事業として、県埋文センターが令和元年度および令和2年度に実施した。作業内容は出土遺物の記名・分類・接合、復元、遺物の実測及びトレース、遺構図トレースである。令和元年度は国関係調査グループが、令和2年度は県関係調査グループが担当した。

自然科学的分析は、令和3年度に株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。

2．報告書作成・刊行

県土木から依頼を受けた県教委の委託事業として、県埋文センターが実施した。報告書作成は令和2年度および令和3年度、編集・刊行は令和3年度であり、県関係調査グループが担当した。

第1表　調査・整理体制

調査年度	平成30年度（2018）
調査主体	（公財）石川県埋蔵文化財センター
理事長	田中 新太郎
総　括	紺野 欽一（専務理事）
事　務	釜親 利雄（事務局長）
総　務	山口　登（総務GL）
調　査	藤田 邦雄（所長）
	垣内 光次郎（調査部長）
	土屋 宣雄（特定事業調査GL）
担　当	特定事業調査G

整理年度	令和元年度（2019）
整理主体	（公財）石川県埋蔵文化財センター
理事長	田中 新太郎
総　括	紺野 欽一（専務理事）
事　務	釜親 利雄（事務局長）
総　務	伊藤　直（総務GL）
整　理	垣内 光次郎（所長）
	伊藤 雅文（調査部長）
	澤辺 利明（特定事業調査GL）
担　当	特定事業調査G

整理年度	令和2年度（2020）
整理主体	（公財）石川県埋蔵文化財センター
理事長	徳田　博
総　括	田村 彰英（専務理事）
事　務	北谷 俊彦（事務局長）
総　務	伊藤　直（総務GL）
整　理	伊藤 雅文（所長）
	川畑　誠（調査部長）
	久田 正弘（県関係調査GL）
担　当	県関係調査G

整理・刊行年度	令和3年度（2021）
整理・刊行主体	（公財）石川県埋蔵文化財センター
理事長	徳田　博
総　括	田村 彰英（専務理事）
事　務	北谷 俊彦（事務局長）
総　務	北谷 祥子（総務GL）
整理・刊行	伊藤 雅文（所長）
	川畑　誠（調査部長）
	柿田 祐司（県関係調査GL）
担　当	県関係調査G

G：グループ、GL：グループリーダー

第２章　位 置 と 環 境

第１節　位置と地理的環境

両白山地の北部に位置する白山(2,702m)は、富士山・立山と並ぶ霊山で、山稜から流下した手取川は、山麓の小河川を合流しながら加賀の丘陵地を北流する。中流域では、手取川渓谷や河岸段丘を刻み、下流においては広大な手取川扇状地を形成した。古宮遺跡はこの手取川が丘陵地の谷間を抜け、流路が西方へと曲がり始める谷頭に位置する古代から中世の神社跡である。地籍は白山市白山町地内で、標高109mの段丘は火山礫凝灰岩の岩盤で、15mほどの崖下を手取川が北流している。遺跡名の古宮は、段丘上に遺る白山比咩神社の旧社地に対する呼称で、明治初期に描かれた「安久濤之森」の絵図(図版14)には、東西35間、南北41間と計測され、社地は白山市の古宮公園として管理されている。

白山神社の総本社である白山比咩神社は、古宮遺跡の南東200mの三宮町に鎮座する。これは戦国時代の文明12年(1480)の火災により、当地に置かれた神殿を失い三宮の社殿へ動座したことによる。文明12年まで、白山比咩神社は「古宮」と呼ばれる旧社地に鎮座していた。社地の西側は手取川の断崖で、河畔の景勝は安久濤ヶ淵と呼ばれている。また南方に広がる白山町の集落は、標高110mほどの河岸段丘に設営された白山比咩神社の氏子集落で、神社に関係した歴史と文化財が残されている。このため本遺跡の地理的な環境は、白山町の四方にみられる地勢を俯瞰することになる。

白山町の東側には、標高140m前後の河岸段丘が広がり、三宮町の集落や農耕地、白山比咩神社や石川県林業試験所が位置する。背後は急峻な丘陵となり、東方1.3㎞で標高600mを越える獅子吼高原の稜線となる。丘陵を西方へ流下する谷川は、斜面を刻み手取川へ注ぐ。本遺跡の南辺を流れる後世川、白山町の北を画する大谷川、南を画する桂谷川も、段丘を横断し手取川へ注いでいる。このため、各谷川は土石流などの災害を引き起こし、段丘に立地した遺跡を覆う土砂を運んでいる。

古宮遺跡の崖下を北流する手取川は、川幅150mの広がりをもち、対岸は能美市和佐谷町となる。標高200mを越える丘陵は、西方の能美平野へ向かって標高が下がり、西流する手取川に沿った前山では、開析谷が入り込み、白山信仰に関係した岩本宮や長瀧神社などが所在する。

白山町の段丘を南下する国道157号は、手取川の渓谷を遡り、白山麓の白峰町から谷峠を越えて、福井県勝山市へ向かう山間の要路である。かつて古宮遺跡の脇を通過していた国道は、白山麓と手取川扇状地や金沢を結ぶ幹線道として、多くの人と産物が往来していた。白山禅定へ登拝する加賀禅定道も、白山町を通り抜けた白山大路に設けられた内鳥居を起点として、手取川の中流域を拠点とした加賀馬場の中宮三社(笥笠中宮、佐羅宮、別宮)と結ばれていた。

白山町の北縁は、独立的な丘陵である舟岡山である。標高186mの山上に本丸を置く舟岡山城跡は、戦国時代から江戸時代初期にかけて構築された石垣が残り、本遺跡と白山比咩神社は、その眼下に位置する。古くは、白山本宮の要害であったとみられ、山上にはここを創祭の地と伝える白山比咩神社の記念碑が建立されている。また北方を望むと、金剣宮の門前に広がる鶴来の町場や、手取川扇状地に広がる村里と日本海が遠望される。その舟岡山の西麓は、凝灰岩が露出した崖で、不動明王を刻んだ波切不動の前面を、扇状地の幹線用水である手取川七ヶ用水が流下している。狭い岸辺には、白山町を縦断した道路が通り、白山比咩神社と鶴来の町場や金沢の城下町を結ぶ街道として利用された。さらに手取川の岸辺には、対岸へ渡る船着き場が置かれ、能美郡への往来に利用されていた。

第２節　白山本宮の歴史と史跡

文明12年(1480)10月16日の火災で、白山比咩神社(白山本宮)の正殿・講堂・大拝殿・常行堂などの神殿堂宇が焼失するまで、旧社地の安久濤之森は、白山信仰の神々が祀られ加賀馬場の拠点であった。このため、本遺跡の歴史的環境は、旧社地に所在した白山比咩神社の歴史と、手取川流域に形成された加賀馬場の史跡を俯瞰することになる。

手取川の河岸段丘と能美の丘陵地では、旧石器人の足跡や縄文人の集落跡が残されているが、古宮遺跡と白山町が位置する低位段丘で縄文集落が設営されるのは、縄文時代でも後期と新しい。

弥生時代から古墳時代にかけて、加賀地方でも低地の開発が進み、農耕による生活が展開すると、集落の一角にある水辺では、土器や祭具を使用した古代祭祀がおこなわれた。白雪に覆われた白山は、神々が住む世界に最も近い聖地として仰ぎみられ、いつしか「しらやま」と呼ばれていた。霊峰白山の山岳信仰は、このような自然崇拝から始まり、加賀では白山比咩神社がその中心であった。

平安時代の弘仁14年(823)、越前国の北部に位置した江沼郡と加賀郡を割いて加賀国が立国された。同年には、江沼郡から能美郡、加賀郡からは石川郡が分けられ、当地は加賀国石川郡未智郷に属した。加賀国府の位置は不明であるが、承和8年(841)に国分寺に転用した定額寺「勝興寺」が、小松市古府町にある十九堂山遺跡に比定され、隣接する旧国府村にある台地を所在地とする説が有力である。

仁寿3年(853)、白き神の霊験に期待した律令国家は、白山比咩神社を従三位に叙したことが『日本文徳天皇実録』にみえる。これが白山神の名前が文献に登場する初見である。官社となった白山比咩神社は、天安3年(859)には「加賀国白山比女神正三位」(日本三代実録)として神位が昇叙され、その後においても、五畿七道の「諸神・名神」の一座として神位が昇叙している。またこの頃から、神の姿を求めて白山の禅定(山頂)へ登拝する行者が現れたようで、主峰の御前峰には9世紀後半の土器がみられ、山頂祭祀の開始が知られている。古宮に所在した白山比咩神社でも、活動が本格化したことは、遺跡の堆積層の下面から9世紀代の須恵器や土師器が出土したことで知られる。

白山比咩神社に伝わる記録『白山大神宮御鎮座伝記』によると、白山の大神が最初に鎮座したのは舟岡山とされる。この伝記では、舟岡山から手取川の「十八講河原」へ遷座したのち、安久濤之森の社地に鎮座したとある。白山比咩神社の縁起である『白山之記』では、白山比咩神は霊亀元年(715)に示現し、天長9年(832)に加賀・越前・美濃の三馬場が開かれたと伝えている。

延長5年(927)にまとめられた『延喜式』神名帳(巻十、神祇十)では、加賀国42座のうち石川郡10座の一番に白山比咩神社が登載されている。この時期、官社に位置づけされた白山系の神社は、越前や美濃の馬場にはみられず、加賀の白山比咩神社が唯一であった。また治暦四年(1068)10月に「白山社神殿并御躰等焼亡」(続左丞抄)とあることから、官社として神殿やご神体の整備が進められ、加賀馬場の拠点である白山本宮として「加賀白山本宮焼亡」(東寺王代記)と記録された。

平安時代の末頃、国ごとに定められた鎮守神が「一宮」と呼ばれると、白山比咩神社は加賀一宮の地位を得た。寛治5年(1091)7月に任地へ下向していた国守藤原為房は、神社において年穀物祈祷として最勝講の法会を修している。これは、本地垂迹説による山岳信仰が定着するなか、白山本宮でも仏堂や講堂が所在したことを示している。天永2年(1111)にも、国守藤原顕輔が白山本宮を神拝しており、国守の勤めとして一宮での法会や神前参拝があった。本遺跡の下層からは、12世紀前半とみられる柱状高台の土器が大量に出土しており、供献に適した土器の大量消費は、神前祭祀の盛行があったと考えられている。またこの時期、山頂の御前峰では、三馬場から運ばれた土器や陶磁器に加えて、本地垂迹を示す密教具や神具の銅鏡、経筒の出土などがみられる。この本地垂迹説により、御前峰が白山妙理大菩薩で本地仏は十一面観音、大汝峰は大己貴神で本地仏は阿弥陀如来、別山は小白山大行事で本地仏は聖観音とする白山三所権現が祀られ、白山禅定の世界が成立したと考えられている。

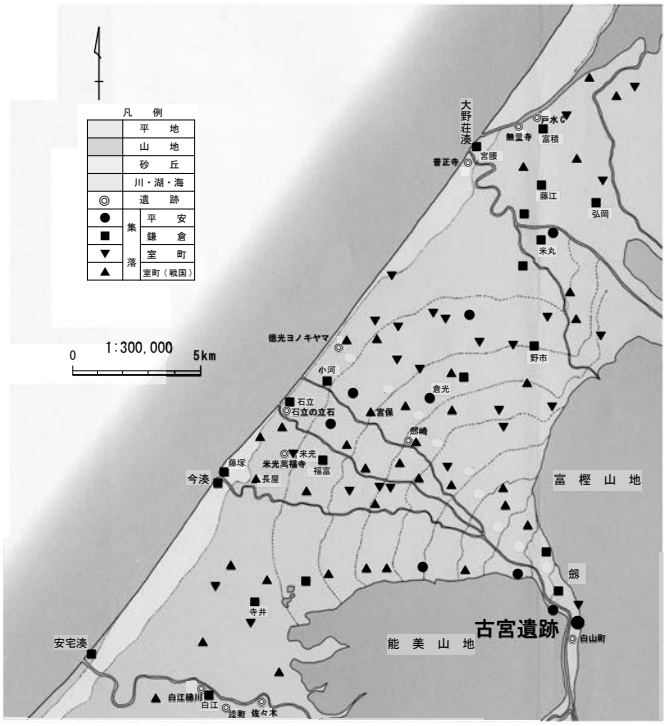
加賀馬場の拠点となった中宮三社(笥笠中宮、佐羅宮、別宮)の社殿や講堂等が、手取川の中流域で建立され、禅定道の稜線にある桧新宮を能美郡軽海郷の僧が建立したことを『白山之記』は伝えている。中宮や加賀禅定道の遺跡から出土した土器には、小松市南部の窯場で焼成された須恵器もみられ、中宮三社の行人や在家人は、三坂越えの街道を経て、国衙が所在した能美郡とも交流していた。

大治5年(1130)、「神事料物・公物儲料」を火災で失った中宮執行の大法師は、越中の目代に加賀郡津幡津に置かれた倉米40～50石の借用を依頼している。この時期の手取川は、扇状地を潤す大慶寺用水の流路を下り、河口の入江は「小川津」(白山市小川町付近)と呼ばれていた。小川は白山宮の神領として別山大行事を勧請した小白山社が祀られ、神殿跡の脇には宿の町場とみられる小川新遺跡が発掘されている。『白山之記』によると、小川を通過していた海沿い街道には、白山宮の総門が置かれ、往来した旅人が白山を遙拝したとある。加賀馬場では、禅定の聖地に奥宮の建立し、手取谷の要所に中宮や本宮の山岳寺社を構え、手取川河口の要津まで神領を広げ加賀馬場の領域としていた。さらに手取川以北の石川・加賀の両郡においても、白山宮の神免田が国衙領の各所に置かれたようで、祭礼や神事の公物が白山本宮へ貢納されたことが史料にみえる。

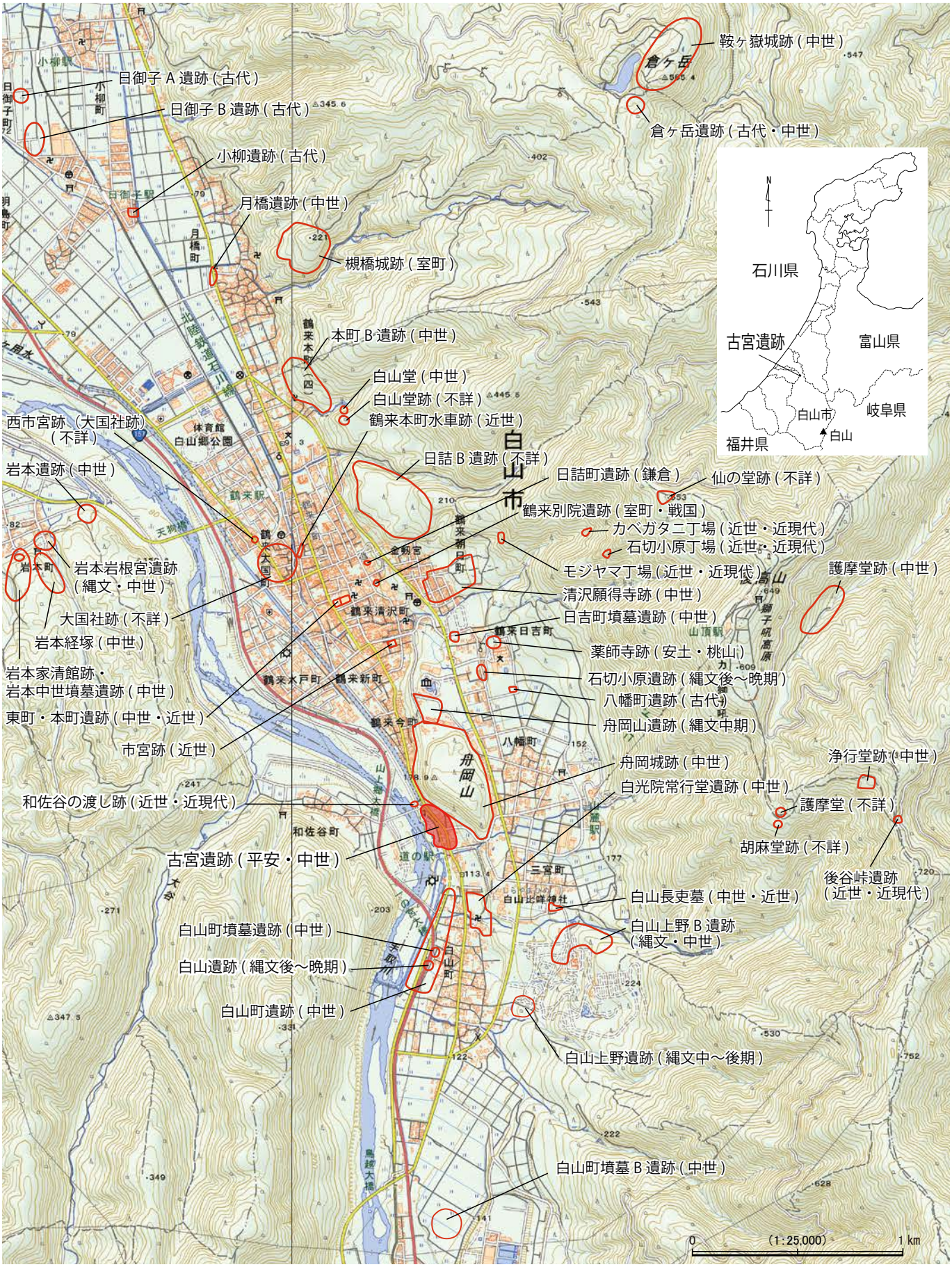
長寛元年(1163)に成立したと推定される『白山之記』によると、白山本宮には宝殿(本殿)・拝殿・彼岸所をはじめ、管理施設の政所・大倉や摂社である荒御前・滝宮などの本殿や拝殿、白山寺の堂宇である大講堂・十一面堂(法華常行堂)・馬頭堂等に、付属施設の鐘楼・武徳殿・五重塔など40余宇に及んだとされる。その白山本宮は加賀国の一宮であったことから、神殿の造営料は国衙が国内一円に賦課する一国平均役により賄われていた。神殿の上棟が行なわれた延応元年(1239)、神主の宮保氏盛の宮倉から出火した火炎は、新造の「神殿以下廿一宇」を焼亡した。その際、宝殿の御正体は延焼を免れた武徳殿へ渡り、彼岸所の観音像は大講堂へ遷されている。鎌倉時代に比叡山末の山岳寺院として神殿堂宇の整備が進んだ白山本宮では、古宮の社地に白山大神の神殿などが造営され、講堂や武徳殿等の仏堂は、これより少し離れた仏地に整備されていた可能性が高い。

文明12年に社殿や仏堂が焼亡すると、神社では直ちに再建が企てられたが、造営は進まなかった。そのため、白山本宮は長享2年(1488)6月1日に三宮町の現社地に置かれた神殿へ正式に遷座することになり、再建の準備を進めた旧社地は、江戸時代の頃から古宮と呼ばれるようになった。

明治初期の古宮を描いた安久濤之森の絵図(図版14)には、測量図の甲図と景観図の乙図があり、その景観は今に残されている。また中世の磨崖仏と解説される鶴来今町の「波切不動明王」と、白山町の通称神主町で祀られる「カタガリ地蔵」は、明治36年(1903)に完了した七ヶ用水の合口事業で移設されるまで、舟岡山の西麓に所在した「妙法の岩室」の磨崖仏であった。磨崖仏にみられる信仰は、天台系密教を背景としたもので、白山本宮の鬼門を守護する目的で岩窟に刻まれたものとみられる。

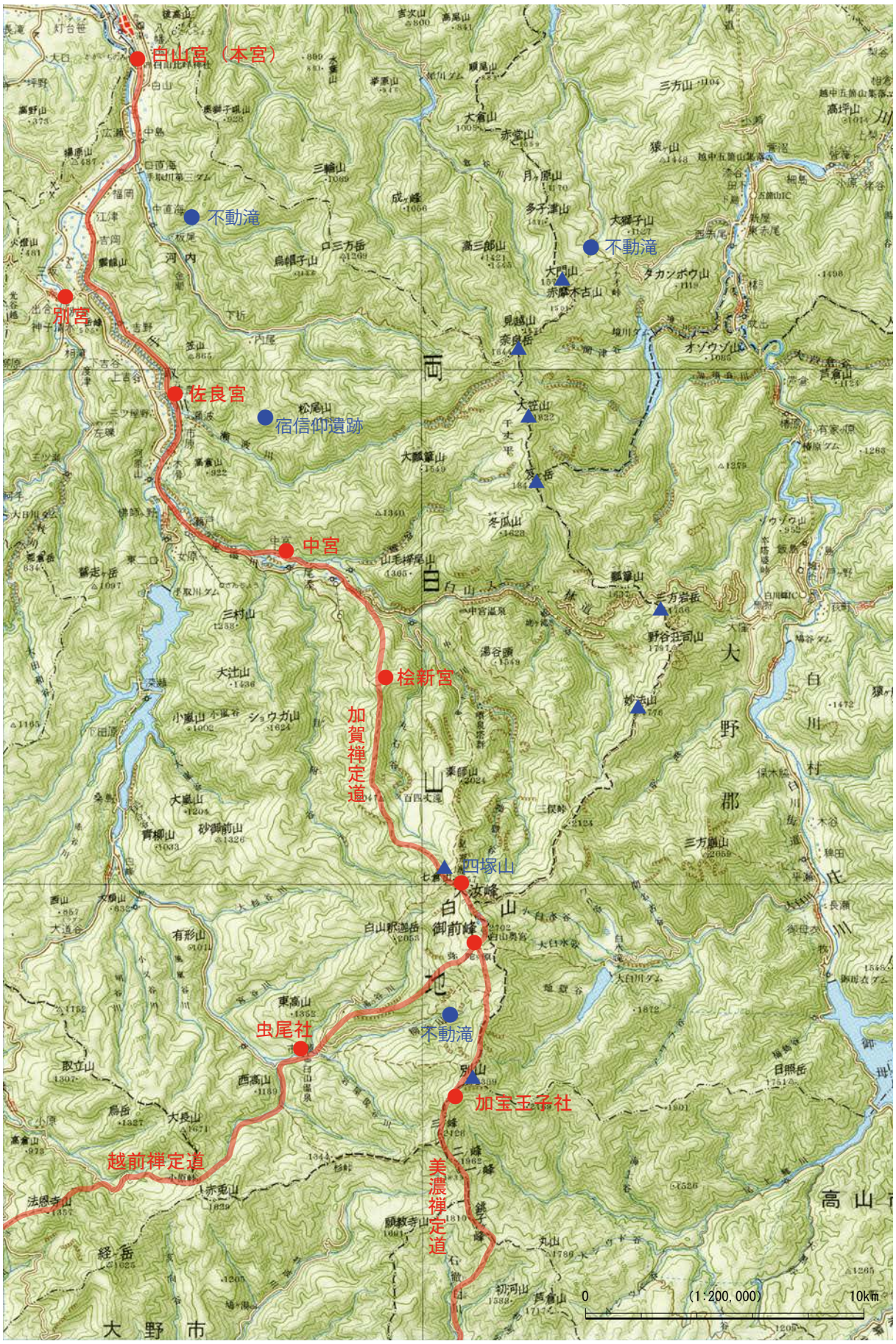


第１図　手取川扇状地を中心とする中世の主要遺跡分布図(S=1/30万)
『米光萬福寺遺跡』1987 石川県立埋蔵文化財センター第27図を加工して使用



第 2 図　遺跡の位置と周辺の遺跡分布図（S=1/25,000）

電子地形図 25000（国土地理院発行）
「粟生」・「鶴来」を加工して使用

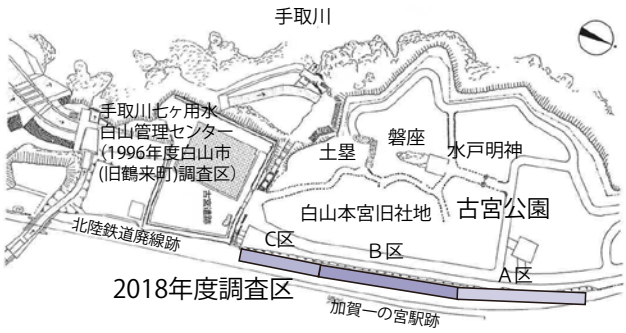


第３図　白山の禅定道と山頂遺跡（S=1/200,000）

20 万分 1 地勢図（国土地理院発行）
「金沢」を加工して使用

第3章　調 査 の 成 果

第1節　調 査 の 方 法



第4図　調査区位置図

周知の埋蔵文化財包蔵地である古宮遺跡(県番号922500)は、手取川右岸の河岸段丘上に位置し、舟岡山裾部を通る県道野々市鶴来線をまたぎ北陸鉄道旧加賀一の宮駅や古宮公園付近に広がる平安時代から中世にかけての遺跡(第2図)である。現在の古宮公園一帯は、安久濤之森と呼ばれ文明12(1480)年まで白山本宮(白山比咩神社の前身)が所在していた地とされており(第2章)、鶴来町(現白山市)教委による手取川七ヶ用水白山管理センター建設に伴う1996年の発掘調査では、中世のカワラケ(素焼き土器の皿1,700枚以上)が大量にまとまって出土した祭祀遺構とみられる竪穴状遺構などが確認されたことで注目され、公園の一角に発掘当時の遺構を復元した施設がつくられている。

今回の自転車道建設に伴う調査は、北陸鉄道の旧線路敷部分にあたる幅約5.0～5.5m、延長約110mと細長い調査区が対象であり、調査面積は1,350㎡(平面積550㎡)である。自転車道工事との調整から、A区・B区・C区の3地区に分けて調査を行い、B区では平安時代後期～室町時代後期までの最大5層の遺構面を確認した。本章ではA～C区の調査区ごとに遺構と遺物に分けて報告する。

調査区が狭長であることから、任意に幅10m間隔のグリッド杭を設置し、北から南へ1～11のグリッド番号を振り、さらに番号の頭に調査区名のA～Cを組み合わせ、A3区やB6区などと呼称した(第5図)。そのグリッドをさらに2分割し、B8北やC10南など方位を加えた幅5m間隔のグリッドも併用し、遺構の位置管理や図面・写真の整理、出土遺物の取り上げなどに使用した。

第5図の調査区全体図・グリッド割図(S=1/500)は、各区ごとに面数の異なる平面図を隣接する区・面と対応する面ごとに合成した全体図を並べて掲示した。上段には前述した10m間隔のグリッドを記載した。各調査区･面ごとの平面図(S=1/300)は第6～9図に掲載した。また、土層断面図･礎石エレベーション図の実測個所は各区・面の平面図・断面図実測箇所図(S=1/100)に赤線を入れて図示し、赤丸数字の断面図番号を付けて遺構平面図と断面図とを対応させた。複数面にまたがる断面図等は同位置に青線と青丸数字を付けて掲示した。また、遺構面の表記はⅠ～Ⅴ面とローマ数字を使用した。

第2節　遺　　構

1．A区(第49～52図、図版1～4)

A区は延長約40mの調査区でA1～A4区のグリッドを設定した。北端は鉄道建設時に上部を削平された岩盤が露出しており、試掘調査でも北へしばらく岩盤が続くことから、遺跡範囲の境界となっている。2面の遺構面を確認したが、Ⅰ面は攪乱が著しく、遺構も希薄であり部分的な手実測での図化を行った。Ⅰ・Ⅱ面間の包含層からは、中世のカワラケが多く出土した。Ⅱ面は地形の傾斜に合わせた南北方向の断続的な溝や建物柱穴とは復元できない小穴(ピット)が中心であるが、A4区北端で検

出した不整形な浅い土坑SX13からは、細かく割れた中世後半のカワラケ片が遺構を覆い尽くす形で出土しており、儀礼後のかたづけ行為でまとめて廃棄された可能性がある。SX13北西のP91上面からは中世の青磁碗が、北東のP93上面からは完形に近い土師器皿が割れた状態で出土した。Ａ２区で下層確認トレンチを設定し、Ⅱ面下を掘削したが、無遺物層が続き下層面は確認できなかった。Ａ４南～Ｂ５北区にかけては鞍部堆積で地形が低くなり、部分的にⅡ面下に中世の遺物包含層（第14図）を確認した。

Ⅱ面 A4 SX13（第６・13・14図、図版３）

長径約2.5m、短径約1.5m、深さ約５～10cmを測る不整形の浅い土坑である。中世後半のカワラケ片が遺構を埋め尽くすように出土しており、142～188を図示した。儀礼後の廃棄とみている。

Ⅱ面 A3 SX15（第６・13図、図版３）

調査区外に続く長径約2.6mの浅く方形の竪穴状遺構である。中世前半の珠洲焼や白磁碗・カワラケが出土し、27・28・46・50を図示した。

Ⅱ面 A3・4 SX16（第６・13・14図、図版３）

残存長約3.4mを測る中世の浅い竪穴状遺構である。101～104の瀬戸焼壺やカワラケを図示した。

Ⅱ面 A3 P91（第６・13・14図、図版４）

直径約50cm、深さ約20cmを測る円形のピットである。上面から中世の青磁碗107が出土した。

Ⅱ面 A4 P93（第６・13・14図、図版４）

直径約35cmを測る円形のピットである。上面から中世のカワラケ109・112が出土した。

Ⅱ面 A3 SD11（第６・13図、図版４）

幅約70～100cmを測り南北方向に延びる浅い溝である。加賀焼甕26やカワラケ87が出土した。

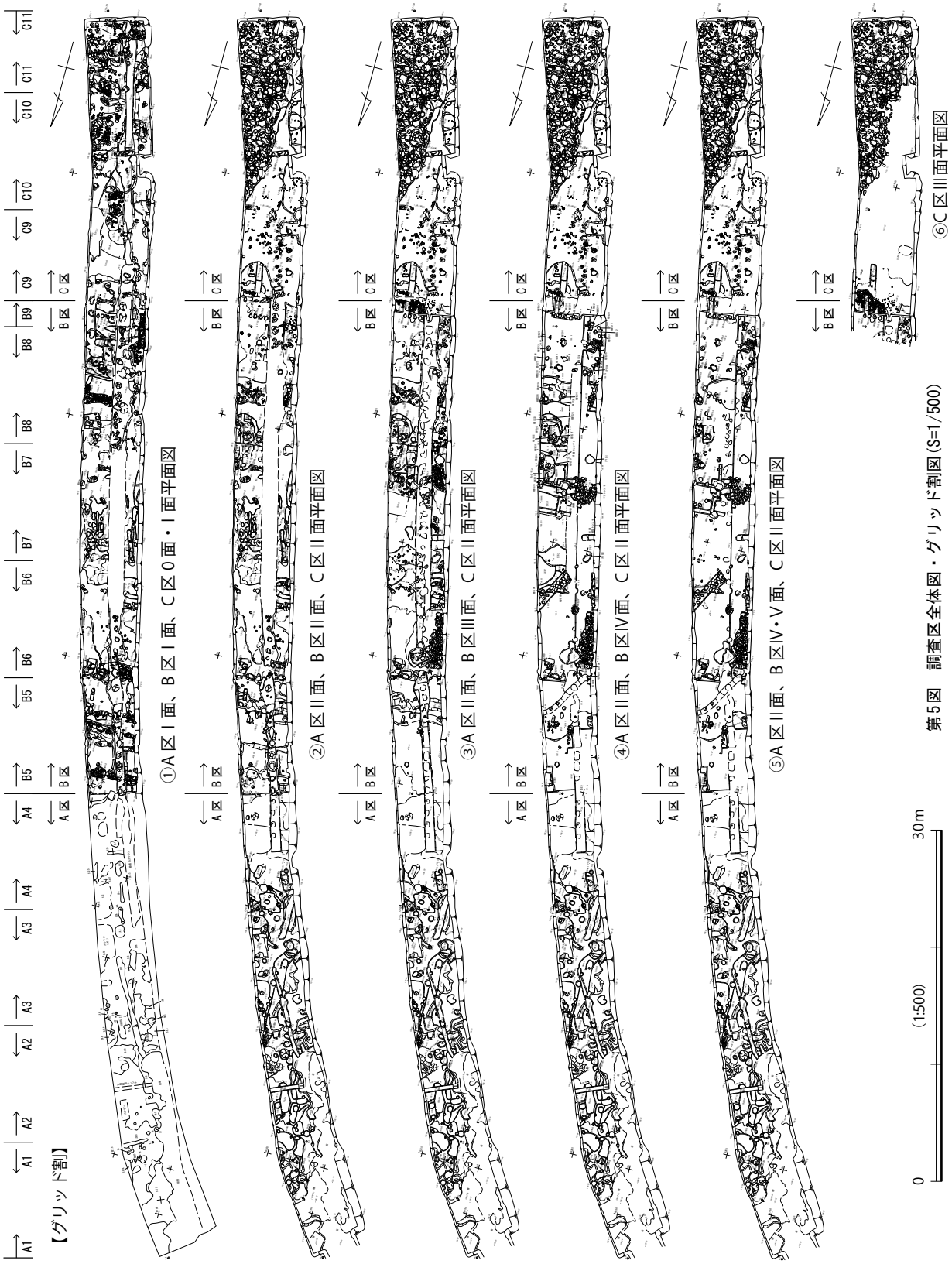
２．Ｂ区（第53～59図、図版１・２・４～10・14）

Ｂ区は延長約43mで、Ｂ５～Ｂ９区のグリッドを設定した。平安時代末頃～室町時代後半までの遺構面を５面確認したが、Ⅴ面以下は部分的な下層確認のみで保存することになり、最下層面の状況は不明である（第41図）。Ａ区との境には堀または水路とみられる溝状遺構と幅約50～80cm大でＡ区側に平らな面をもつ大型の石列06（石積みの基部か）を検出した。それ以南では焼土粒や炭化物とカワラケ片を大量に含む包含層や整地層により火災後に敷地を嵩上げしていった状況が確認できた。Ｂ区の古宮公園側にはかつて加賀一の宮駅のホームが存在しており、ホームを支えていた支柱の柱穴と溝状の攪乱が調査区中央を縦断し、線路敷の砕石直下が遺構面であったことから、特にⅠ～Ⅱ面は遺構の遺存状況が悪かった。Ⅰ面では東西方向の石敷きの道状遺構と石段を持つB６区SD18・SX75やB８区SX29を確認した。Ⅱ面以下は、多くの建物の礎石や礎石の根石、配石・敷石状遺構のⅢ面B６区SX76、B７・８区SX65a・b、Ⅳ面B７区SX71、火災後の片付け行為に伴うとみられる土坑Ⅱ～Ⅳ面B７・８区SX46・47、飛び石状の道状遺構Ⅳ面B６区SX72などを検出した。礎石建物には同じ場所で建て替えられたⅡ～Ⅳ面B８区SB01a・bや火災により大型の礎石上面が被熱し赤色化したⅣ・Ⅴ面B７区SB02などを確認した。Ⅴ面B８区の竪穴状の大型土坑SK19からは底部が柱状高台のカワラケが多く出土した。

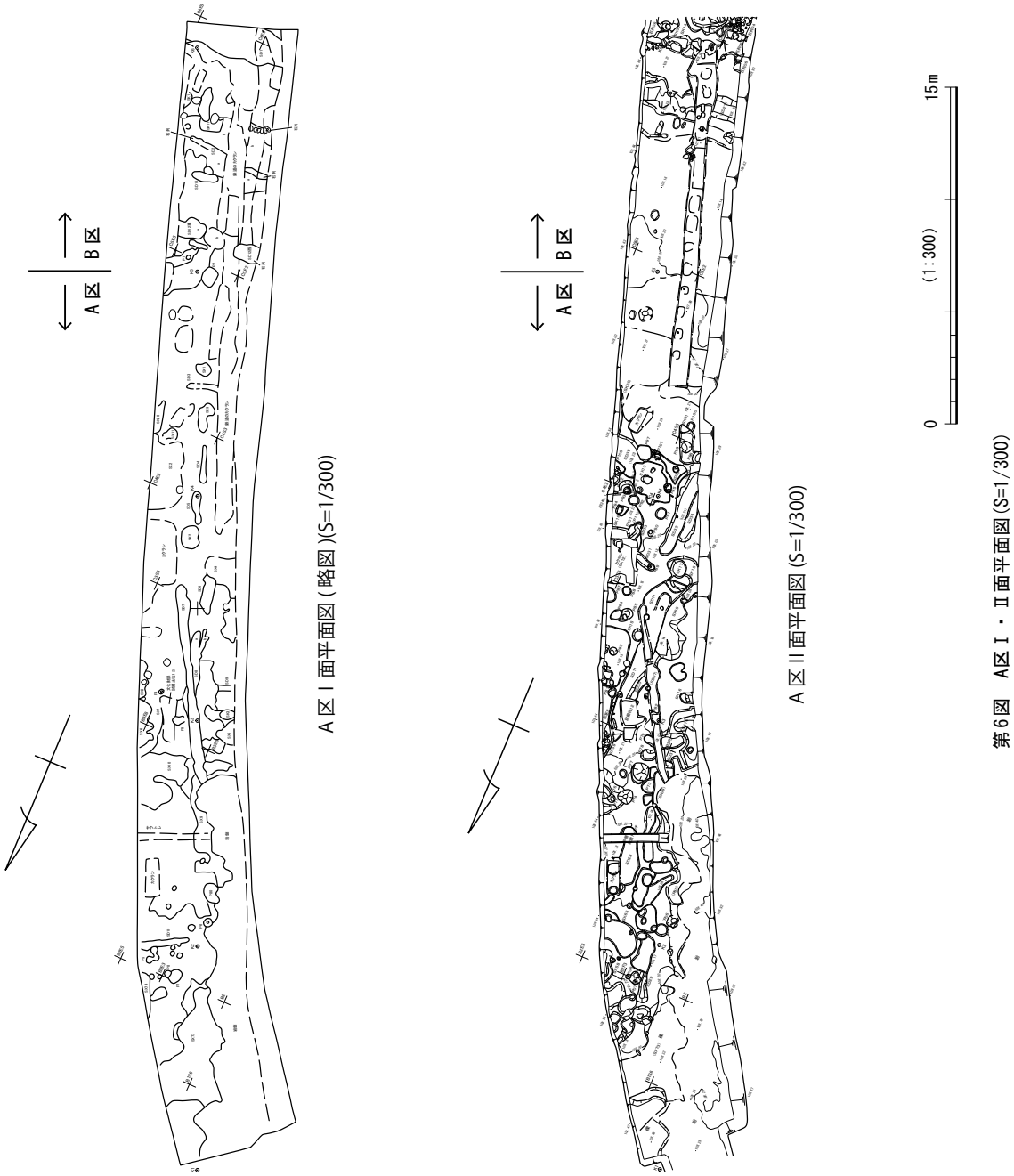
Ｂ区の遺構面の時期は、第Ⅰ面は室町時代後半～戦国時代、第Ⅱ・Ⅲ面は室町時代中頃～後半、第Ⅳ面は鎌倉時代前半～室町時代前半、第Ⅴ面は平安時代後半～鎌倉時代前半、第Ⅵ面以下は平安時代中頃～後半頃が中心と考えられるが、部分的な整地もあり、各面が全て同時期の遺構ではない。

Ⅰ面 B8 SX29（第７・16図、図版５）

幅約70～90cmを測り、礫で埋められた東西方向の浅い溝である。石敷の道状遺構とみている。



第5図　調査区全体図・グリッド割図(S=1/500)



第６図　A区Ⅰ・Ⅱ面平面図(S=1/300)

Ⅰ～Ⅲ面 B５・６ SD01・石列04～06（大型石列）（第７・15・19・27図、図版５～７）

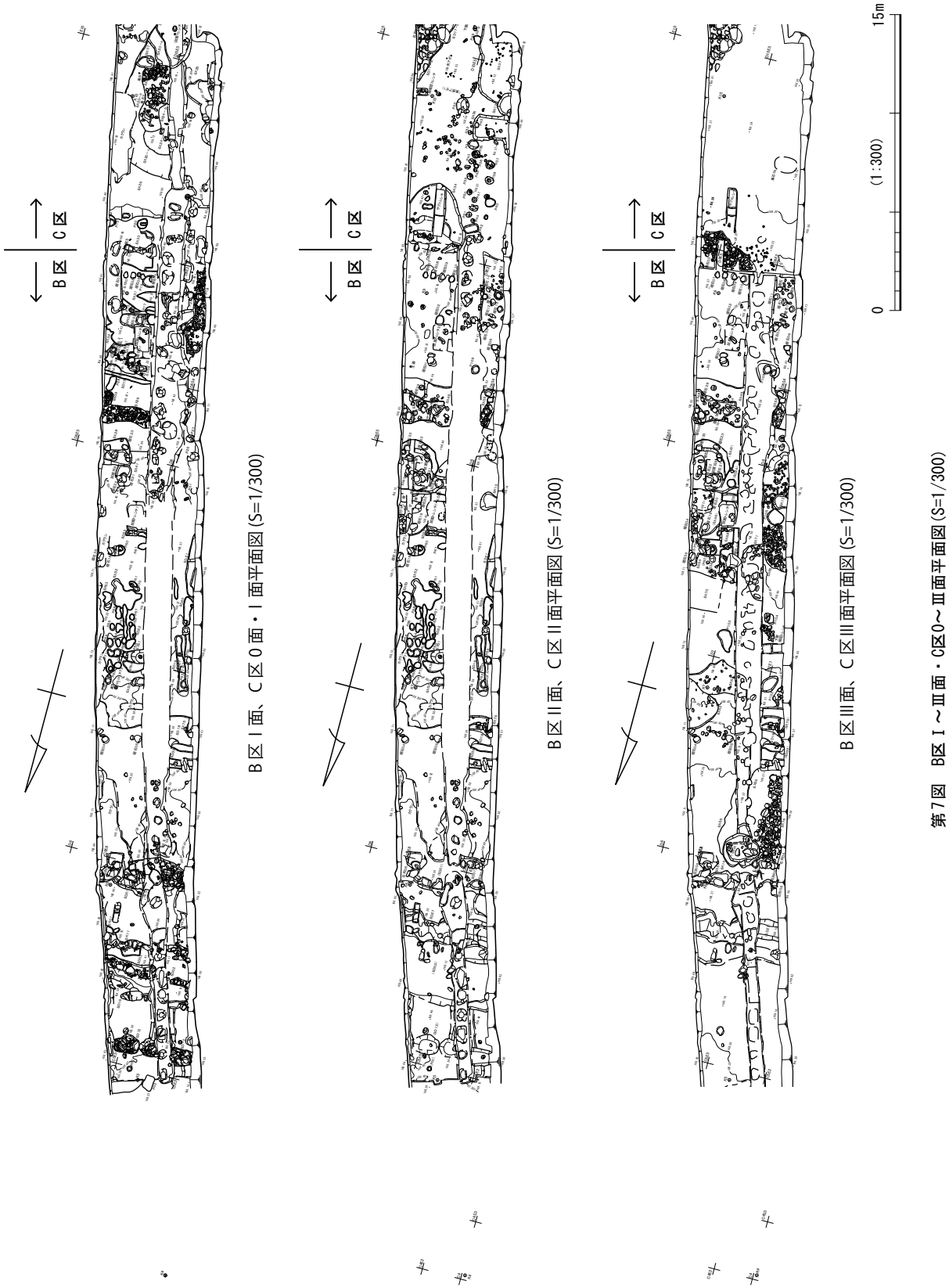
Ａ区側に平坦面を持ち東西方向に延びる大型の石列06と南側の礫で埋められたSD01は、敷地境に積まれた石積みまたは土塀基礎の可能性を想定している。SD01下部には石列04・05を両側に持つ溝があり、炭化物・焼土粒と共に細片となったカワラケが多く出土した。石組み側溝の可能性もある。

Ⅰ面 B５ SD02東・西、Ⅱ面 SD27、Ⅲ・Ⅳ面SD36（第７・８・15・17・19・38図、図版５～７）

鎌倉時代の珠洲焼・加賀焼・越前焼が出土したⅢ・Ⅳ面の自然流路SD36は、Ⅱ面SD27、Ⅰ面SD02とほぼ同位置で変遷する。SD02は石列を伴い幅約2.5ｍから約１ｍの溝へと縮小するが、南側の石列06やSD01と主軸方向が同じであり、敷地境の堀または水路の可能性がある。

Ⅰ・Ⅱ面 B６ 礎石４・５・SD18・SX75（第７・15・17・18図、図版５・９）

Ⅰ面SD18は東西方向に延びる溝で、礫敷の道状遺構とみている。西壁に接して上部に平坦面を持つ

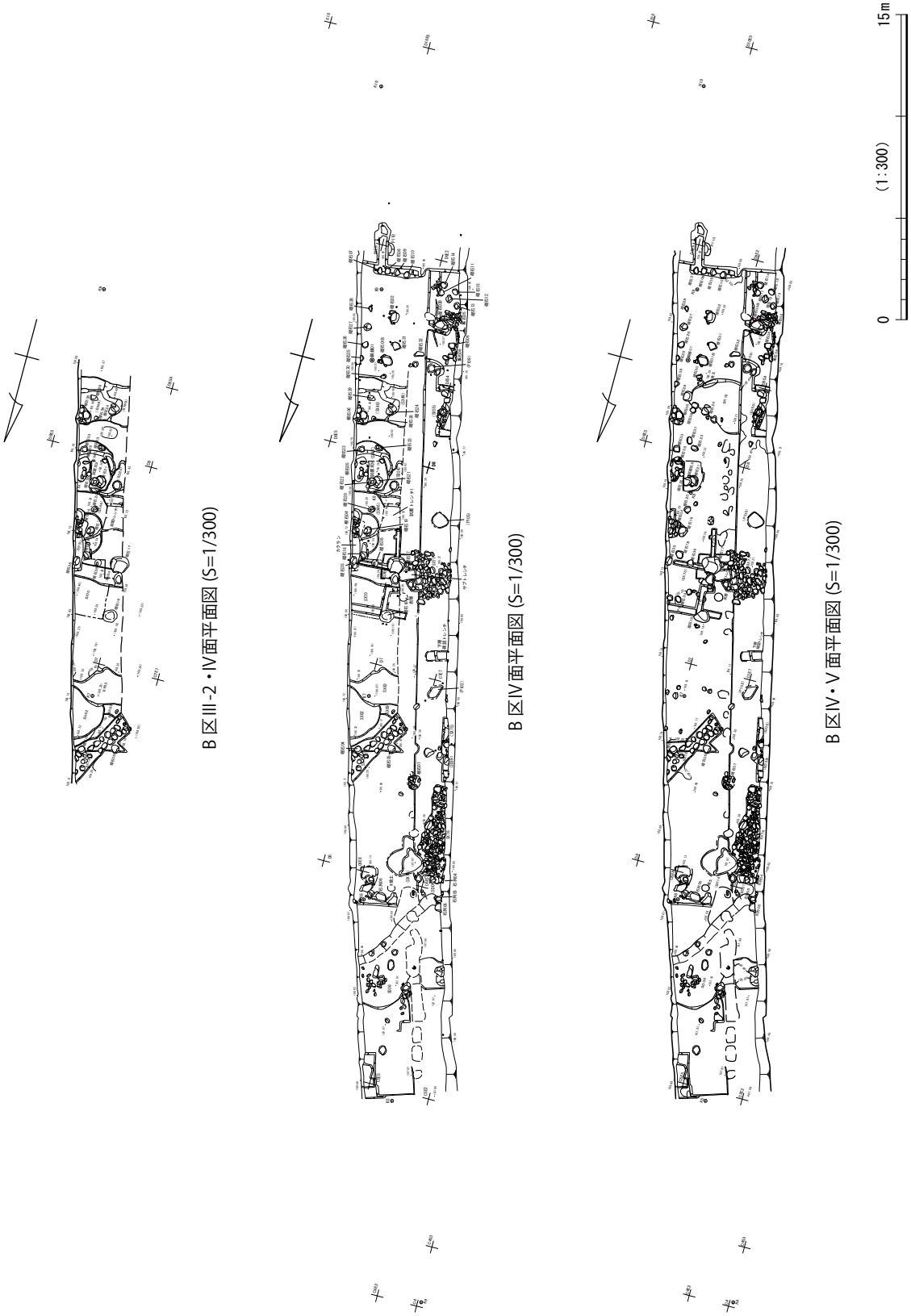


B区Ⅰ面、C区０面・Ⅰ面平面図(S=1/300)

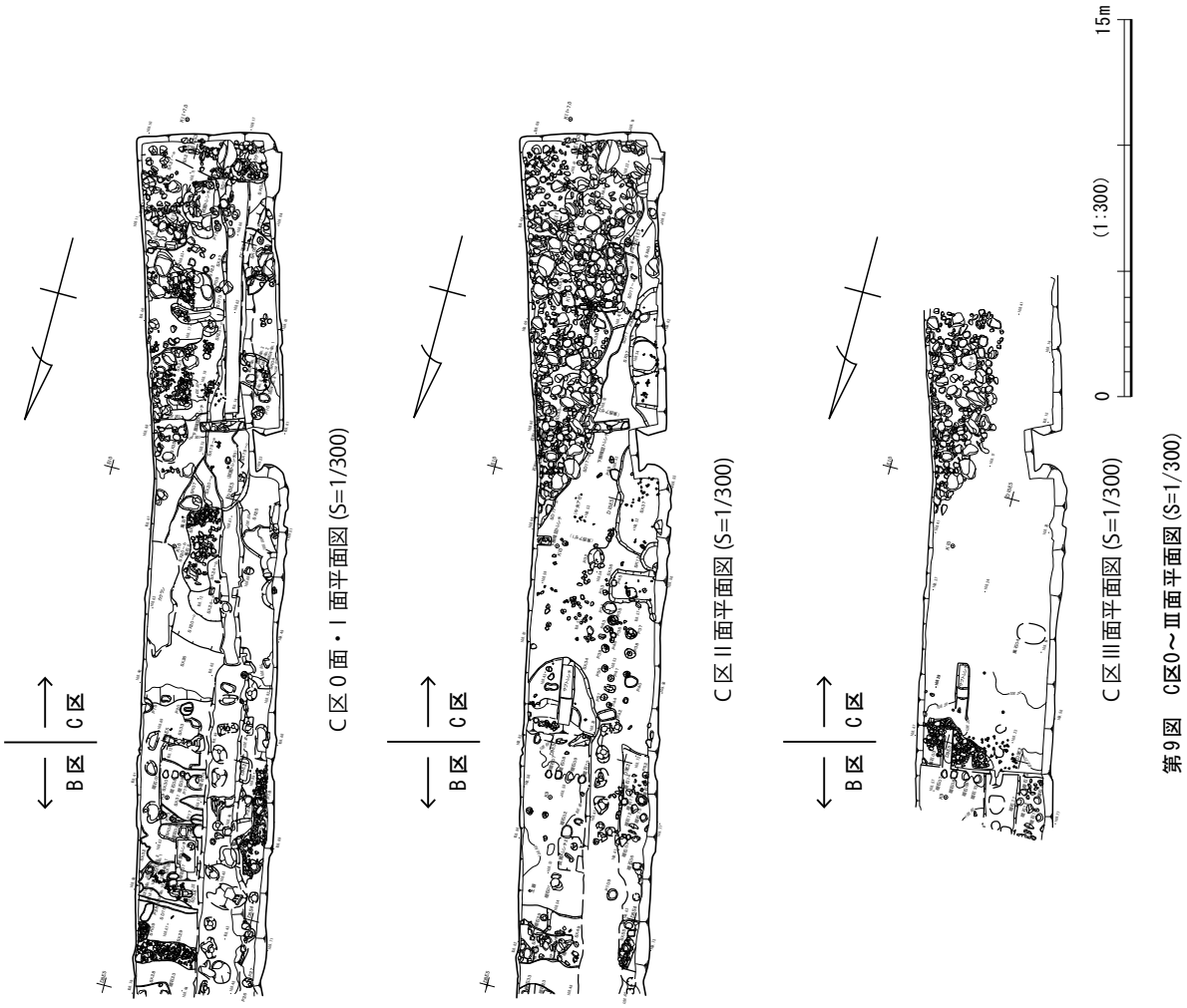
B区Ⅱ面、C区Ⅱ面平面図(S=1/300)

B区Ⅲ面、C区Ⅲ面平面図(S=1/300)

第7図　B区Ⅰ～Ⅲ面・C区0～Ⅲ面平面図(S=1/300)



第8図　B区Ⅲ-2～Ⅴ面平面図(S=1/300)



第９図　C区0～Ⅲ面平面図 (S=1/300)

石段状のSX75があり、公園側に登る階段状の遺構となる可能性がある。東側にはⅡ面の礎石04・05が重なり、整地土を挟んだ下部には敷石列の道状遺構とみているⅣ面SX72が重なる。

Ⅱ～Ⅳ面 B8 SB01a・b（礎石01～03・P109）（第7・8・20・24・25・28・34・35・37図、図版6・8）

柱間2.2m、1×1間の礎石建物で、礎石01～03が検出された。P109は礎石の抜き取り痕である。Ⅳ面SB01bは約1.1m離れた東側に南北方向で80cm間隔の礎石列25～28を伴い、堂舎前面の屋根を支えた柱の礎石になる可能性がある。Ⅱ・Ⅲ面では整地層を挟み同じ場所に礎石を重ねたSB01aが建て替えられているが、前面の礎石列は伴わない。Ⅳ面礎石01b東側から銅銭の開元通寶が出土した。

Ⅱ～Ⅳ面 B7・8 SX46・47・礎石19（第7・8・20・22・28・36・37図、図版7・8）

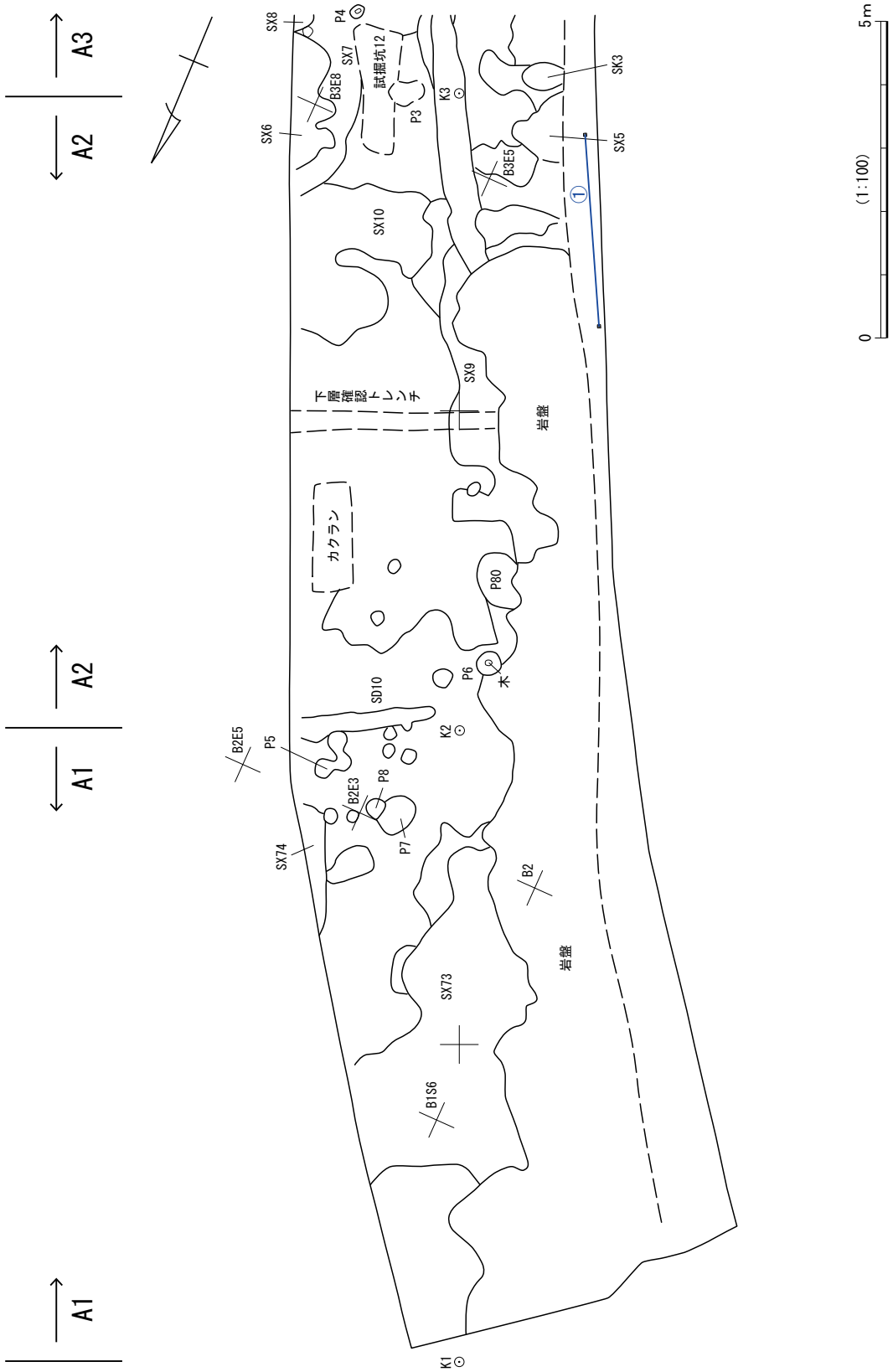
直径約2.5mの円形で底が擂鉢状の浅い土坑SX46・47を並んで検出した。どちらも炭化物や土器小片を多く含む覆土で、火災後の廃棄土坑の可能性がある。礎石や礎石の根石が重複している。

Ⅱ・Ⅲ面 B8 SX48・49・55（第7・20・24・28図、図版5）

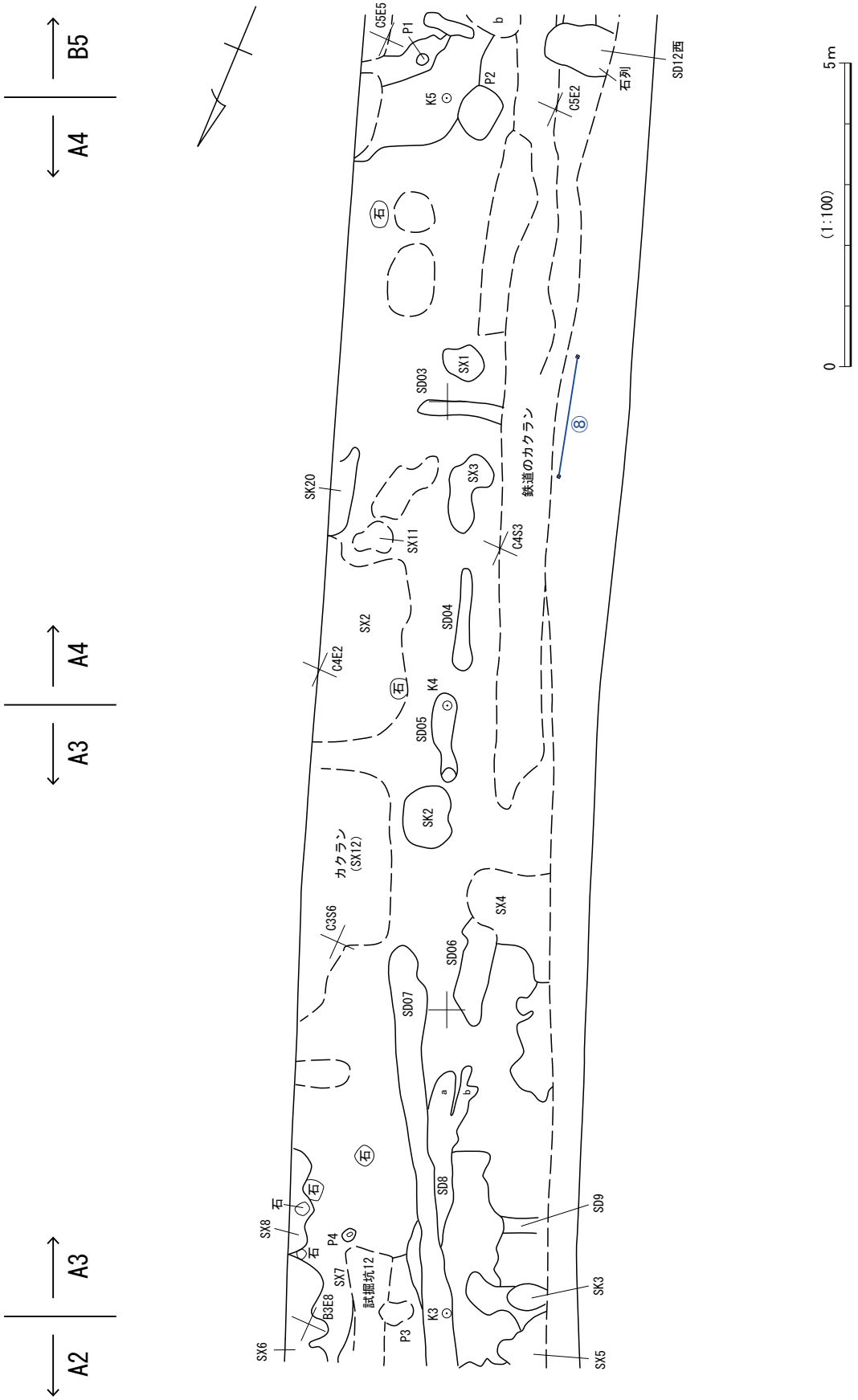
Ⅰ面の道状遺構SX29の下部に位置する幅約2mの溝で1段深いSX48には大型の礫が、上層のSX49は固くしまった小礫交じりの土で埋められており、東西方向の道状遺構とみている。西側の石列SX55の裏側は固くしまった土で埋められており、石段または階段状の遺構とみられる。

Ⅱ・Ⅲ面 B9 礎石07～10（第7・20・26・28図、図版5・9）

径約30～35cm大の礎石を約45cm間隔で並べた礎石列で、小規模な堂舎に伴う可能性がある。

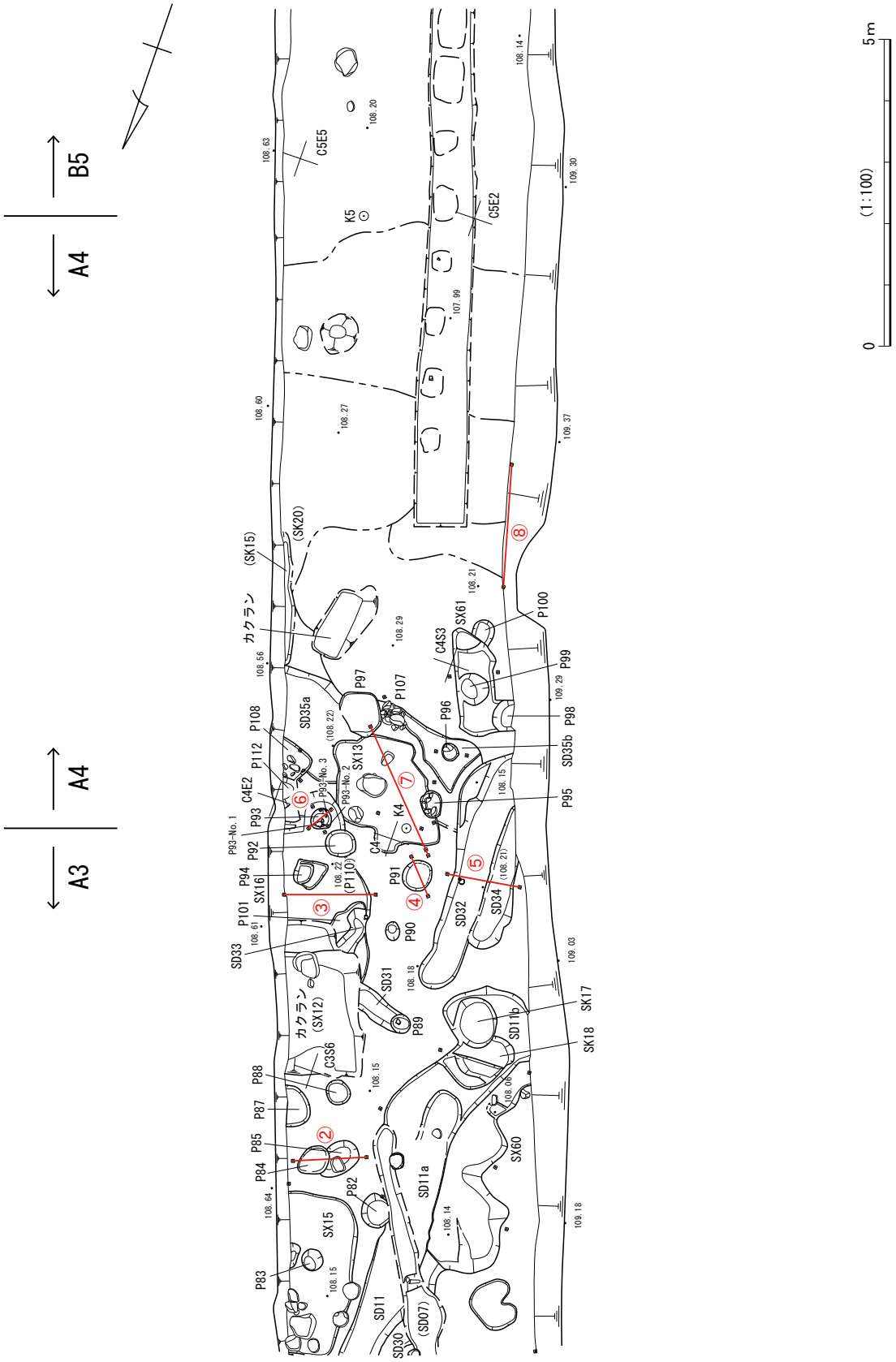


第10図　A区Ⅰ面(A1・A2)平面図(略図)・断面図実測箇所図1(S=1/100)



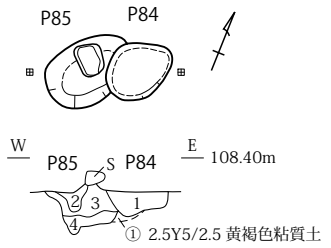
第11図　A区Ⅰ面(A3・A4)平面図(略図)・断面図実測箇所図2(S=1/100)

第12図　A区Ⅱ面(A1～A3)平面図・断面図実測箇所図1(S=1/100)



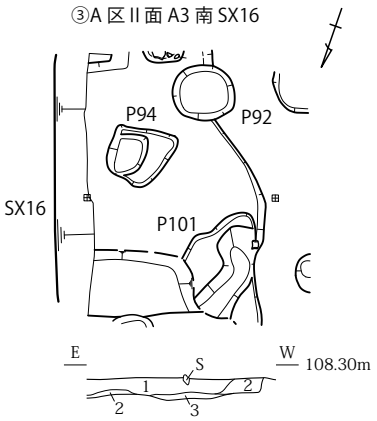
第13図　A区Ⅱ面(A3・A4)、B区Ⅲ面(B5)平面図・断面図実測箇所図2(S=1/100)

②A 区Ⅱ面 A3 北 P84・85



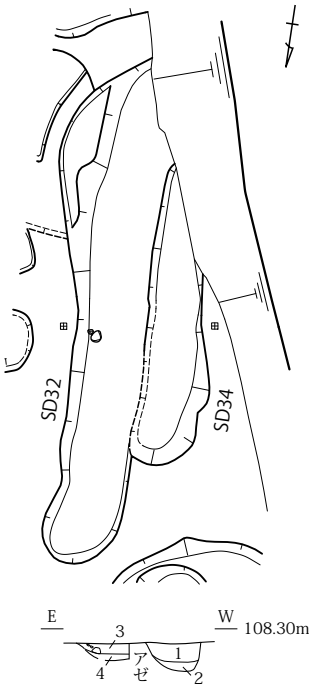
【A区Ⅱ面A3北 P84・P85】
1 2.5Y4/1.5 暗灰黄色砂質土,粘性あり,炭化物やや多混,土器混
2 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土,粘性あり,炭化物少混,土器少混
3 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色砂質土,粘性あり, 炭化物少混, 土器少混
4 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色砂質土,3層よりわずかに暗,粘性あり,炭化物極少混
※① 2.5Y5/2.5 黄褐色砂質土,粘性あり

③A 区Ⅱ面 A3 南 SX16



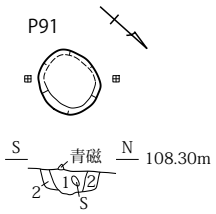
【A区 Ⅱ面A3南 SX16】
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土,粘性あり,2.5Y5/3 黄褐色砂ブロック混,炭化物少混,土器少混
2 2.5Y5/2 暗灰黄色砂
3 2.5Y5/2.5 暗灰黄色砂

⑤A 区Ⅱ面 A3 南 SD32・34



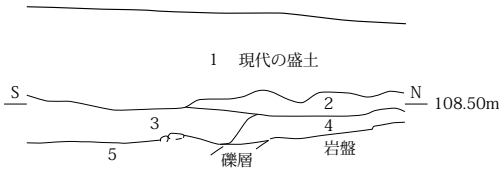
【A区Ⅱ面A3南 SD32・34】
1 2.5Y5/2 暗灰黄色砂,炭化物少混
2 2.5Y5/2 暗灰黄色砂,1層よりやや明
3 2.5Y4.5/2 暗灰黄色砂,土器混
4 5Y5/2灰オリーブ色砂

④A 区Ⅱ面 A3 南 P91



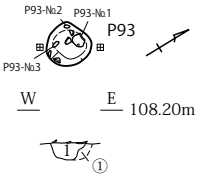
【A区Ⅱ面A3南 P91】
1 2.5Y4/2 暗灰質砂質土,粘性あり,炭化物少混,土器混
2 2.5Y5/2.5 黄褐色砂質土,粘性あり,炭化物極少混

①A 区Ⅰ～Ⅱ面 A2 西壁



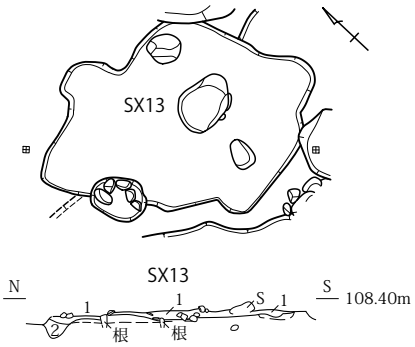
【A区Ⅰ～Ⅱ面 A2 西壁】
1 現代の盛土
2 2.5Y3/2 黒褐色砂,酸化鉄多
3 2.5Y4/2 暗灰黄色砂,酸化鉄多
4 2.5Y3/2.5 黒褐色砂,礫混
5 10YR4/3 にぶい黄褐色砂,酸化鉄多

⑥A 区Ⅱ面 A4 北 P93



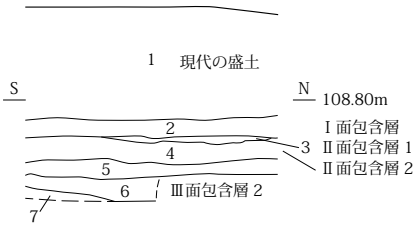
【A区Ⅱ面A4北 P93】
1 2.5Y5/3 黄褐色砂 炭化物極少混,上面に土器多混
① 2/5Y5/3 黄褐色砂,1層よりわずかに明

⑦A 区Ⅱ面 A4 北 SX13



【A区Ⅱ面A4北 SX13】
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土,粘性あり,炭化物多混,土器多混
2 2.5Y4/2.5 暗灰黄色砂質土,粘性あり,土器少混
① 2.5Y5/3 黄褐色砂土

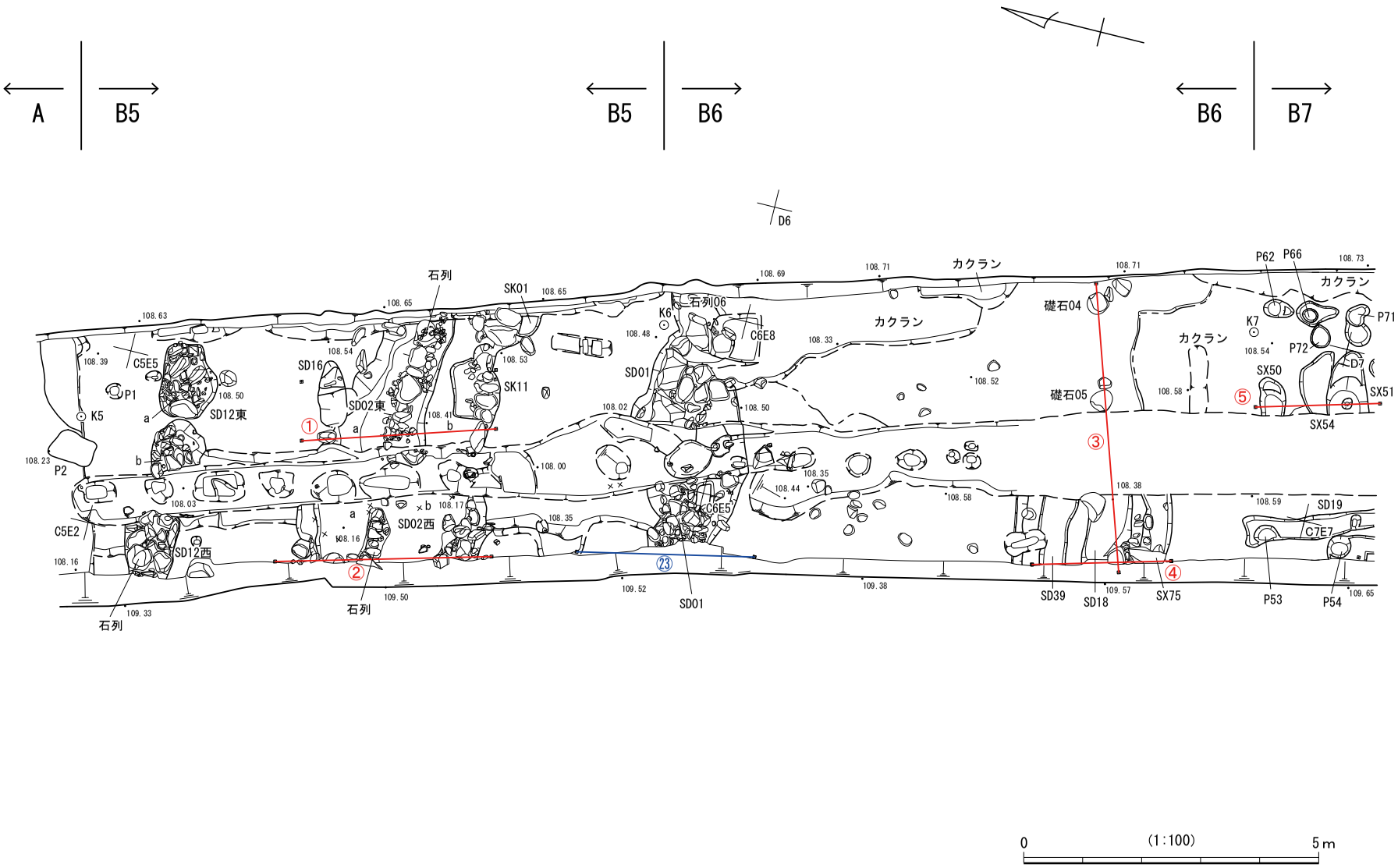
⑧A 区Ⅰ～Ⅲ面 A4 西壁



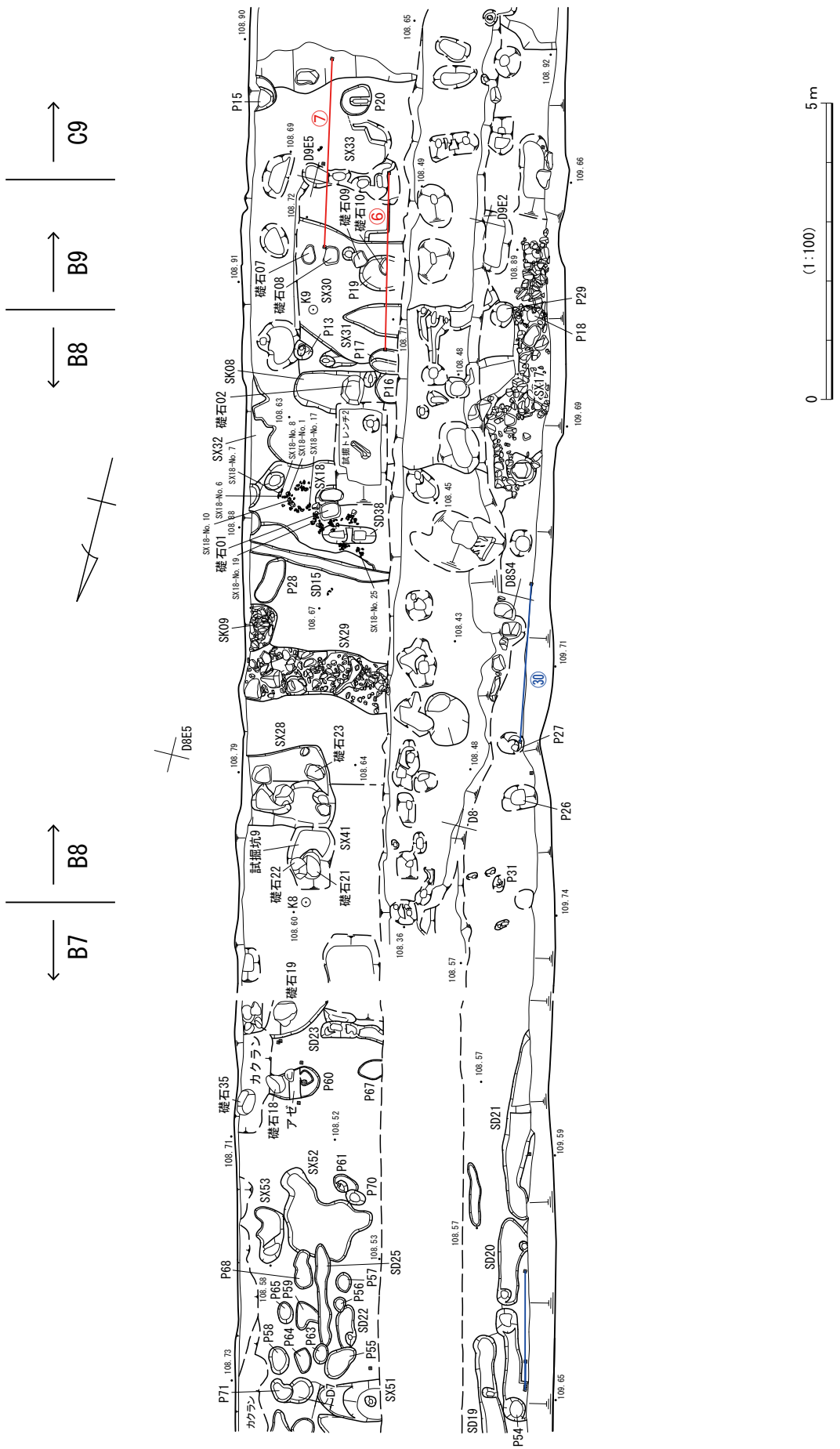
【A区Ⅰ～Ⅲ面 A4 西壁】
1 現代の盛土
2 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土,砂混,炭化物極少混
3 2.5Y4.5/2 暗灰黄色砂質土,粘性あり,2.5Y8/4 淡黄色粘土ブロック多混
4 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土,粘性あり,炭化物少混,土器少混
5 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土,砂混,2.5Y6/4 にぶい黄色粘土ブロック多混
6 2.5Y5/2 暗灰黄色砂質土,粘性あり,土器極少混
7 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色砂質土,粘性あり
※2層:Ⅰ面包含層,3層:Ⅱ面包含層1,4層:Ⅱ面包含層2,5層:Ⅱ面ベース1,6層:Ⅲ面包含層2,7層:Ⅲ面ベース

0　(1:60)　2m

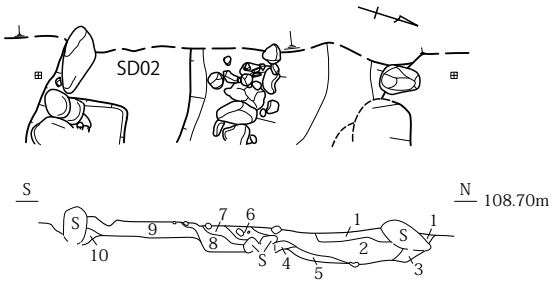
第14図　A区Ⅱ面(A2～A4)平面図・土層断面図(S=1/60)



第15図　B区Ⅰ面(B5～B7)平面図・断面図実測箇所図1(S=1/100)

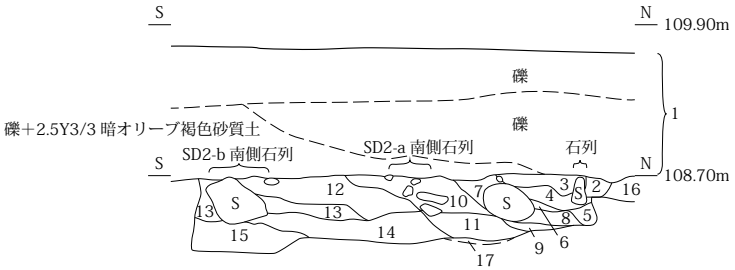

B7
B8
B8
B9
B8
C9
D8E5
D9E5
D9E2
D8S4
D8
P15
P20
SX33
P29
P18
SX17
P27
P26
P31
SX30
P19
P13
SX31
P17
P16
K9
SK08
SX32
SX18
SD38
SD15
P28
SK09
SX29
SX28
SX41
試掘坑9
試掘トレンチ2
試掘坑19
試掘坑20
試掘坑21
試掘坑22
試掘坑23
試掘坑24
試掘坑25
試掘坑26
試掘坑27
試掘坑28
試掘坑29
試掘坑30
試掘坑31
試掘坑32
試掘坑33
試掘坑34
試掘坑35
試掘坑36
試掘坑37
試掘坑38
試掘坑39
試掘坑40
試掘坑41
試掘坑42
試掘坑43
試掘坑44
試掘坑45
試掘坑46
試掘坑47
試掘坑48
試掘坑49
試掘坑50
試掘坑51
試掘坑52
試掘坑53
試掘坑54
試掘坑55
試掘坑56
試掘坑57
試掘坑58

①B区 Ⅰ面 B5南SD02



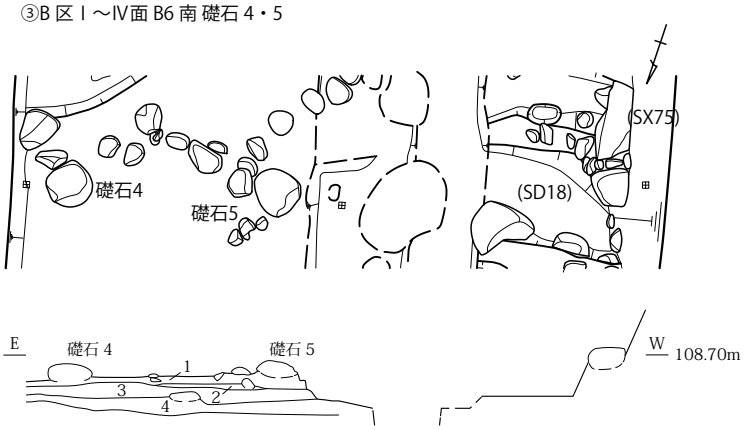
【B区Ⅰ面B5南 SD02】
1 2.5Y5/2 暗灰黄色砂,2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂ブロック状に混,土器少混
,2.5Y4/3 オリーブ褐色砂ブロック状に混
2 2.5Y3/2 黒褐色砂
3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂
4 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂,5層小ブロック少混
5 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土,砂混
6 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂,礫混
7 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂,6層よりやや明
8 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂,2.5Y3/2黒褐色土小ブロック少混
9 2.5Y5/4 黄褐色砂,2.5Y3/2 黒褐色砂が互層状に混,上位に礫混
10 2.5Y3/2 黒褐色砂

②B 区Ⅰ面 B5 南 SD02 西壁



【B区Ⅰ面B5南 SD02西壁】
1 表土
2 2.5Y3/3 暗灰黄色土
3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土
4 2.5Y3.5/2 黒褐色砂質土,5Y7/4 浅黄色砂帯状に入る,土器多混
5 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土,2.5Y4/2 黄色灰黄色砂質土,小ブロック混,土器多混
6 2.5Y5/4 黄褐色砂
7 2.5Y5/2 暗灰黄色土,小礫多混
8 2.5Y4/3 オリーブ褐色,シルト,砂混,北側は5層に似る,土器少混
9 2.5Y4.5/3 黄褐色砂
10 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土
11 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,2.5Y5/4 黄褐色砂小ブロック少混
12 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂,2.5Y5/4 黄褐色砂小ブロック少混,南側礫混
13 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂,2.5Y5/4 黄褐色砂帯状混,南側少礫混
14 2.5Y4/2 オリーブ褐色粘質土,礫少混,炭化物極少混,土器少混㊳
15 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘質土
16 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土,砂少混
17 2.5Y4/2.5 暗灰黄色粘質土,砂混

③B 区Ⅰ～Ⅳ面 B6 南 礎石 4・5

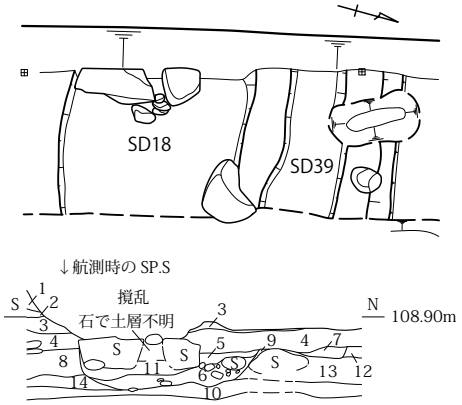


【B区Ⅰ～Ⅳ面 B6南 礎石4～5】
1 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土 砂少混,小石・礫混,土器少混,炭化物少混
2 2.5Y6/2 灰黄色粘土,炭化物少混,3層が下位で漸移的に混
3 2.5Y7/4 浅黄色粘土,2.5Y5/2暗灰黄色粘土ブロック混
4 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混,炭化物極少混,土器極少混
※1層:Ⅲ面包含層1,2層:Ⅲ面ベース1,3層:Ⅲ面ベース2,4層:Ⅳ面包含層1

0 (1:60) 2m

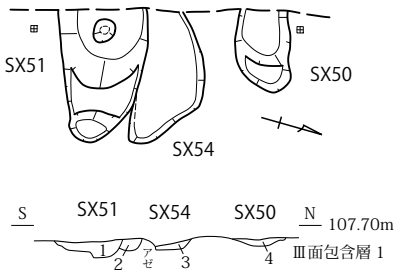
第17図　B区Ⅰ面(B5・B6)平面図・土層断面図1(S=1/60)

④B 区Ⅰ～Ⅲ面 B6 南 SD18・39



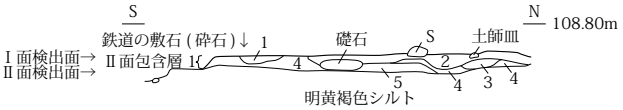
【B区Ⅰ～Ⅲ面B6南 SD18･SD39】
1 2.5Y5.5/2 灰黄色粘質土,小石少混
2 2.5Y7/4 浅黄色粘質土,下面は3層漸移的に混
3 2.3Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混,炭化物極少混,土器少混
4 2.5Y5/2.5 黄褐色粘質土,小石,礫少混,土器混
5 2.5Y3/1 黒褐色粘質土,2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土小ブロック混, 炭化物極少混,土器少混
6 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混,礫混
7 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土,土器極少混
8 2.5Y5/3 黄褐色粘質土
9 2.5Y5/2.5 暗灰黄色土,小石少混,炭化物極少混,土器少混,2.5Y6/4 にぶい黄色粘土小ブロック少混
10 2.5Y6/4 にぶい黄色粘土,2.5Y5/2 暗灰黄色粘土ブロックとの混土層
11 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,礫混,土器極少混
12 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色粘質土,2.5Y5/4 黄褐色粘質土ブロック混,小礫少混,土器少混
13 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,礫混,土器少混
14 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
※1層:近代以降の整地層2,2層:Ⅰ面ベース,4層:Ⅱ面包含層1,5･6層:SD18,7層:SD39,8層:Ⅲ面包含層　1,9層:Ⅱ面ベース,10層:Ⅲ面ベース,11層:SD18,13層

⑤B 区Ⅰ・Ⅱ面 B7 北 SX50・51・54



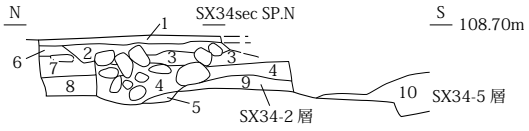
【B区Ⅰ・Ⅱ面B7 SX50･51･54】
1 2.5Y4/2 暗灰黄色土,炭化物少混,土器少混
2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土,炭化物少混
3 2.5Y5/3 黄褐色土,炭化物少混,2.5Y4/3 オリーブ褐色土,ブロック混,炭化物少混,土器少混
4 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土,土器少混
※1.2層:SX51,3層:SX54,4層:SX50

⑥B 区Ⅰ・Ⅱ面 B9 北 中央アゼ



【B区Ⅰ・Ⅱ面B9北 中央アゼ】
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土(上面鉄道の砕石)
2 10YR4/4 にぶい黄褐色土,礫混(上面鉄道の砕石),炭化物混,土器やや多混(残存率高)
3 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土,粘性微あり,明黄褐色微砂ブロック少混,炭化物少混
4 2.5Y4.5/3 オリーブ褐色砂質土,明黄褐色微砂ブロック少混
5 2.5Y5/3 黄褐色砂質土,礫多混

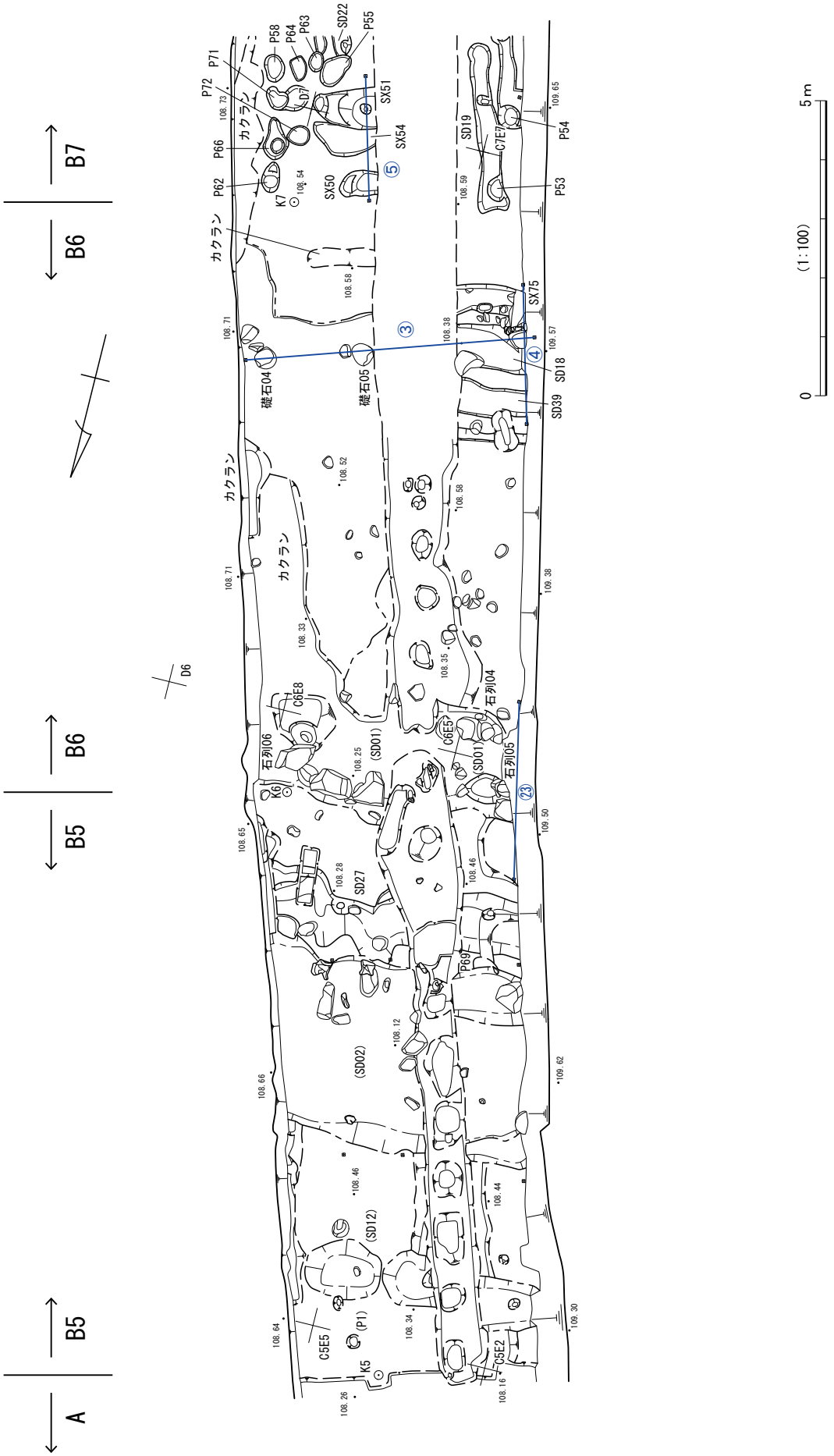
⑦B 区Ⅰ・Ⅱ面 B9 北 (C 区 0 面 C9 北) 中央アゼ (SX33)



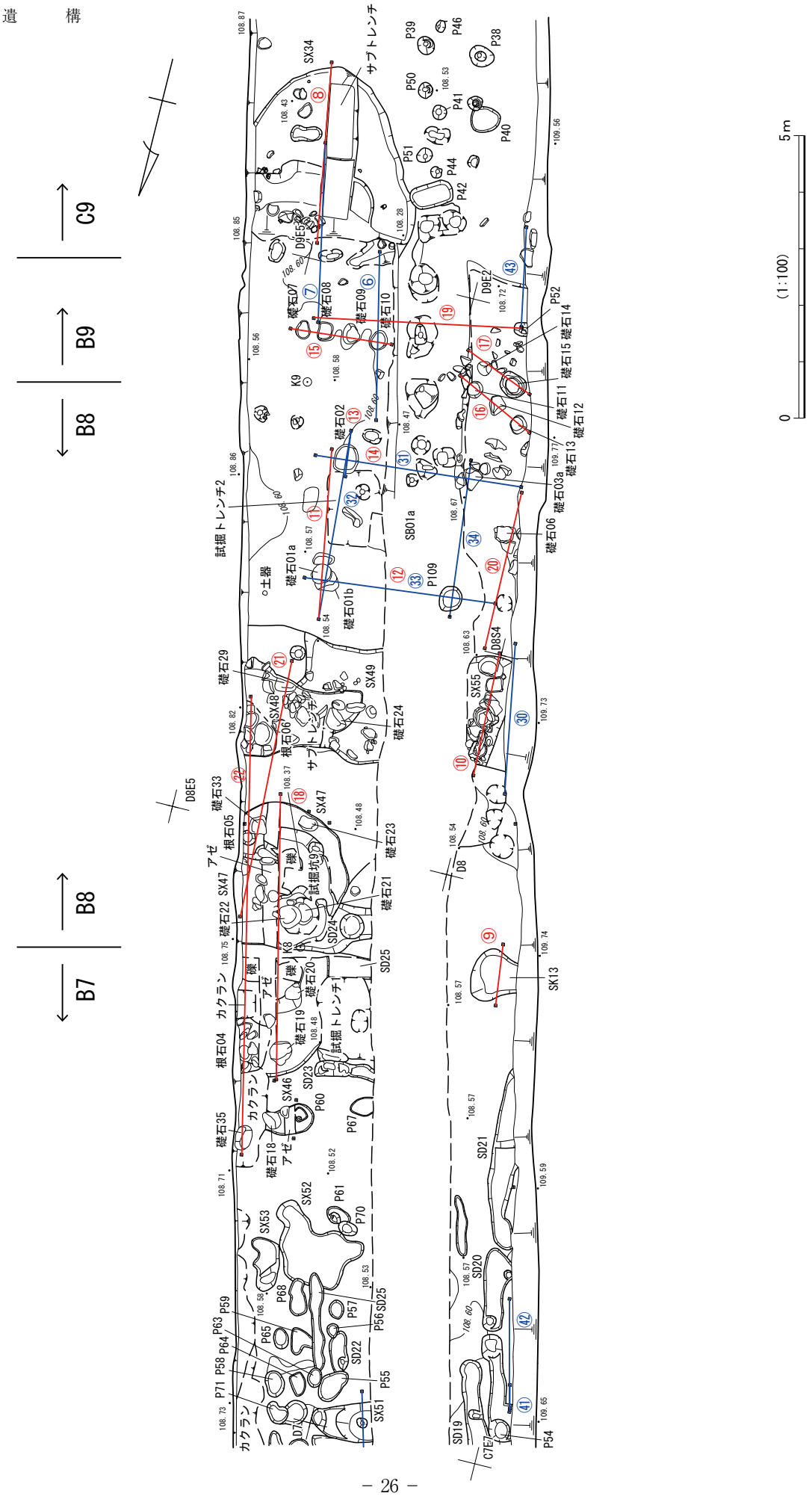
【B区 Ⅰ・Ⅱ面B9北 (C区 0 面C 9 北)中央アゼ (SX33)】
1 2.5Y6/6 明黄褐色粘質土,炭化物少混,2層小ブロック少混　(礫石7～10 sec-2層)
2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土,2.5Y6/8 明黄褐色粘質土(シルトに近い)ブロック混礫混
3 2.5Y4/4 オリーブ褐色土,礫多混
4 10YR4/6 褐色土,礫多混,炭化物少混,土器混
5 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混
6 2.5Y4/4 オリーブ褐色土,礫混,炭化物極少混,土器極少混　(B9北西壁-5層)
7 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土,土器混,5層よりわずかに明　(B9北西壁-6層)
8 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土,炭化物少混,土器混　(B9北西壁-7層)
9 10YR4/4 褐色シルト,砂混　(SX34 sec-2層)
10 10YR4/4 褐色粘質土,砂混　(SX34 sec-5層)
※1層:Ⅱ面ベース,3･4層:SX34土層断面1層,5層:P110,6層:Ⅲ面包含層1,7層　Ⅲ面包含層　2,8層:Ⅲ面包含層3

0　(1:60)　2m

第18図　B区Ⅰ面(B6・B7・B9)平面図・土層断面図2(S=1/60)

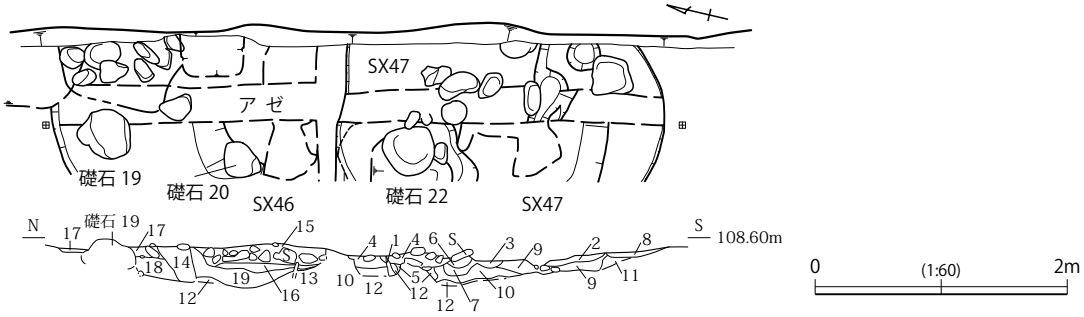


第19図　B区Ⅱ面(B5～B7)平面図・断面図実測箇所図1(S=1/100)



第20図　B区Ⅱ面(B7～B9)、C区Ⅰ面(C9)平面図・断面図実測箇所図2(S=1/100)

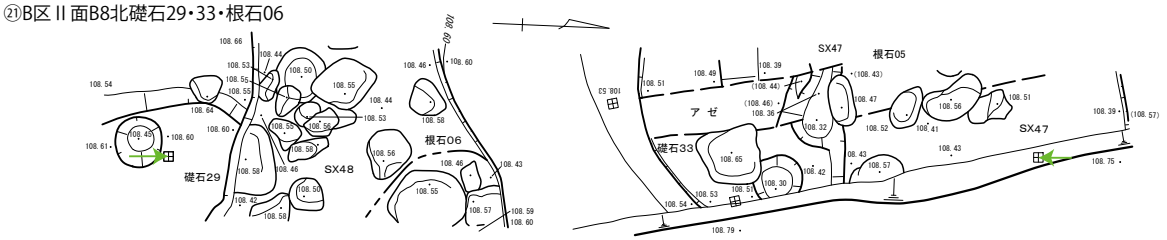
⑱B区Ⅱ～Ⅳ面 B7 南、B8 北 SX46・47・礎石 19



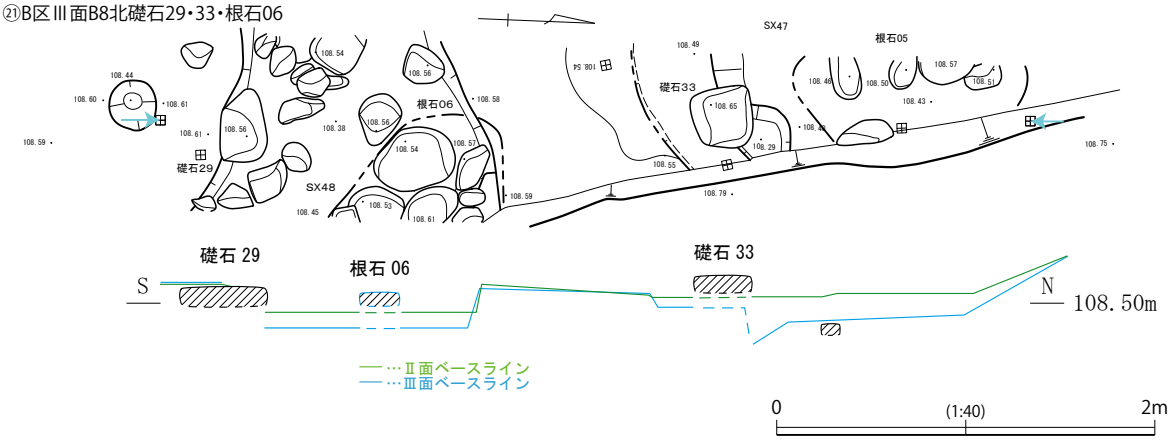
【B区Ⅱ～Ⅳ面 B7南・B8北 SX46・SX47】
1 2.5Y3.5/1 黒褐色粘質土,砂混,黄褐色土小ブロック混
2 2.5Y3.5/1 黒褐色粘質土,砂混,炭化物混,土器多混
3 2.5Y3/2 黒褐色粘質土,砂混,炭化物混,土器混
4 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,砂混,2.5Y3/1 黒褐色粘質土ブロック混,炭化物少混,土器混,礫多混
5 2.5Y4/3.5 黒褐色粘質土,砂混
6 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,砂混,炭化物混,土器少混
7 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土,粘性あり,炭化物少混
8 2.5Y5/3 黄褐色粘質土,砂混,土器少混
9 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土,粘性あり,炭化物少混,礫混
10 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色砂質土,粘性あり,土器少混
11 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土,砂混,炭化物混,土器多混
12 2.5Y5/2.5 暗灰黄色砂質土,粘性あり,炭化物少混,土器少混
13 2.5Y3/1.5 黒褐色粘質土,砂混,炭化物混
14 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,砂混,炭化物混,土器混
15 2.5Y4/1 暗灰黄色粘質土,砂混,炭化物混,土器混
16 2.5Y4.5/2 暗灰黄色砂質土,粘性あり,炭化物極少混
17 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,砂混,礫混,炭化物少混,土器少混,(17層よりやや暗)
18 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,砂混,炭化物混,土器少混
※1～12層:SX47,13～18層:SX46,11層:Ⅳ面包含層1,12層:Ⅳ面包含層2
※2・3・4・14層:色質似る

第21図　B区Ⅱ面(B7・B8)平面図・土層断面図1(S=1/60)

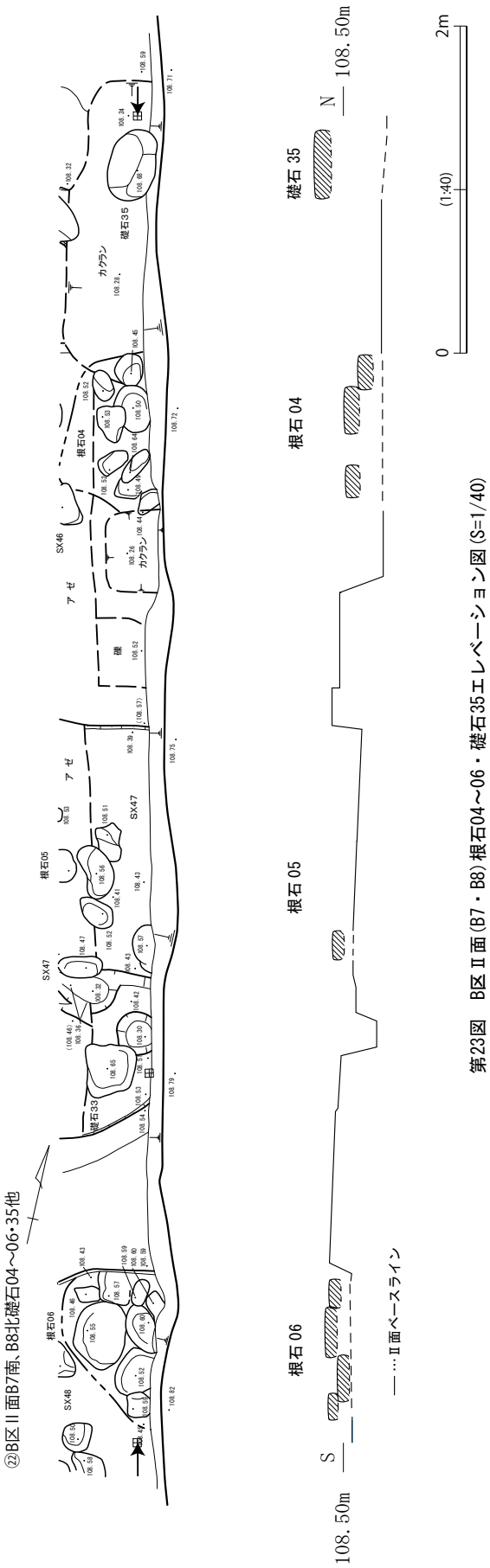
㉑B区Ⅱ面B8北礎石29・33・根石06



㉑B区Ⅲ面B8北礎石29・33・根石06

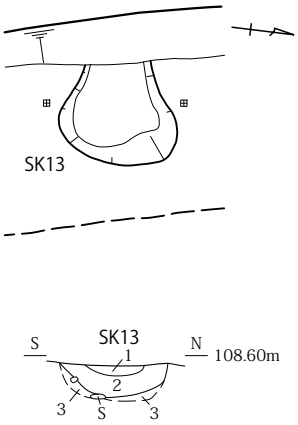


第22図　B区Ⅱ・Ⅲ面(B8)礎石29・33・根石06エレベーション図(S=1/40)



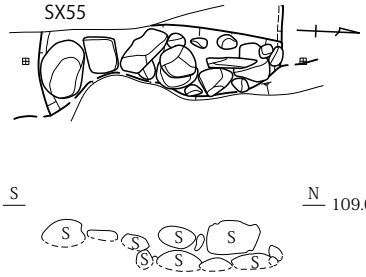
第23図　B区Ⅱ面(B7・B8)根石04～06・礎石35エレベーション図(S=1/40)

⑨B区Ⅱ・Ⅲ面B7南SK13



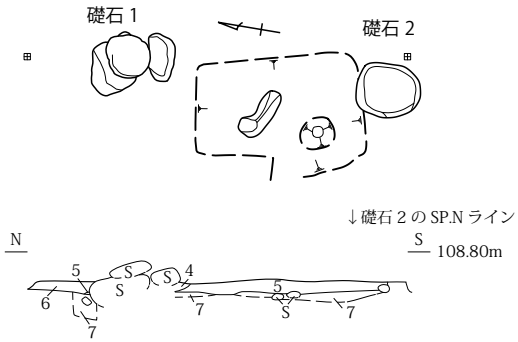
【B区Ⅱ・Ⅲ面B7南SK13】
1 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土,砂混,炭化物少混,土器少混
2 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土,砂混,土器少混,
3 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘土,礫混,砂混,土器少混
※3層:Ⅲ面包含層

⑩B区Ⅱ・Ⅲ面B8北SX55



【B区 Ⅱ・Ⅲ面B8北 SX55 石エレベーション図】
※土色なし

⑪B区Ⅱ～Ⅳ面B8南 礎石1(礎石2)

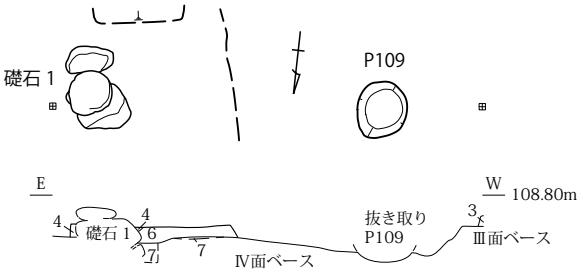


【B区 Ⅱ～Ⅳ面 B8南 礎石1(礎石2)】
4 2.5Y4.5/2 暗灰黄色砂
5 10YR6/6 明黄褐色粘質土(シルトに近い),2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土ブロック混,微砂混,炭化物混,土器少混
6 10YR5/6 明黄褐色砂
7 2.5Y4/8 オリーブ褐色粘質土,砂混, 礫混,土器混

0　(1:60)　2m

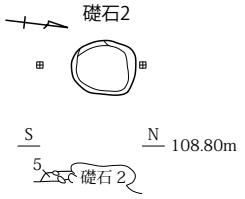
第24図　B区Ⅱ面(B7・B8)平面図・土層断面図2(S=1/60)

⑫B 区Ⅱ～Ⅳ面 B8 南 礎石 1・P109



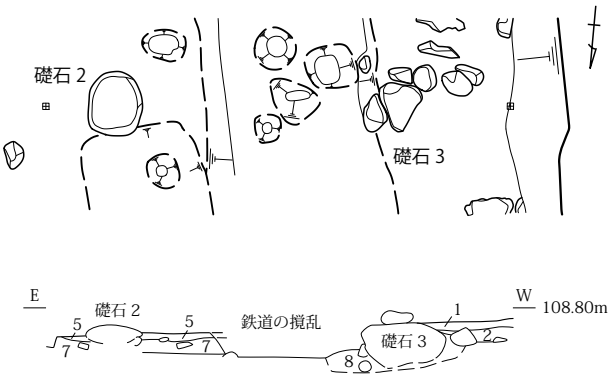
【B区 Ⅱ～Ⅳ面 B8南 礎石1・P109】
3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混,炭化物混,土器混
4 2.5Y4.5/2 暗灰黄色砂
6 10YR5/6 明黄褐色砂
7 2.5Y4/8 オリーブ褐色粘質土,砂混, 礫混,土器混
※5層:Ⅲ面ベース

⑬区Ⅱ～Ⅳ面 B8 南 礎石 2



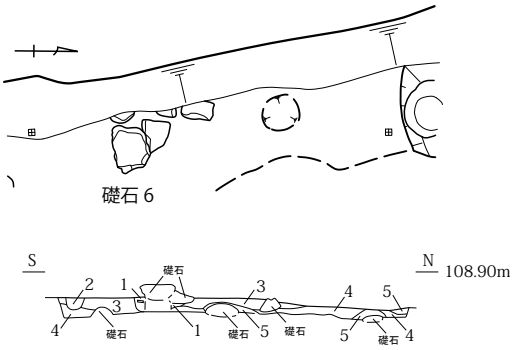
【B区 Ⅱ～Ⅳ面 B8南 礎石2】
5 10YR6/6 明黄褐色粘質土(シルトに近い),2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土ブロック混　微砂混　炭化物混,土器少混

⑭B 区Ⅱ～Ⅳ面 B8 南 礎石 2・3



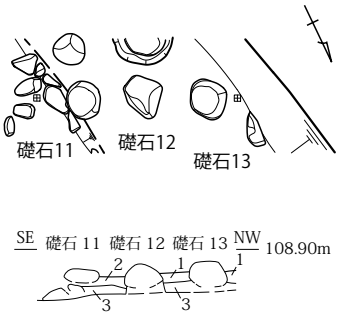
【B区Ⅱ～Ⅳ面 B8南 礎石1・2・3】※まとめて
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂,土器極少混
2 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂質土,炭化物極少混
5 10YR6/6 明黄褐色粘質土(シルトに近い),2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土ブロック混　微砂混,炭化物混,土器少混
7 2.5Y4/8 オリーブ褐色粘質土,砂混, 礫混,土器混
8 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土,砂混,礫混

⑳B 区Ⅱ面 B8 南 礎石 6



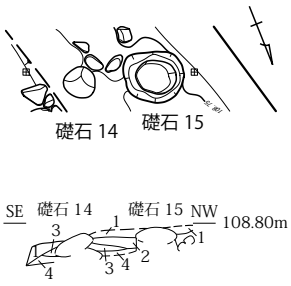
【B区Ⅱ面 B8南 礎石6】
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混,炭化物少混,土器少混
2 10YR4/2.5 褐色砂質土,粘性あり,炭化物極少混
3 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂,土器極少混　(礎石2～3 東西アゼ-1層)
4 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂質土,炭化物極少混　(礎石2～3 東西アゼ-2層)
5 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土,砂混,礫混　(礎石2～3 東西アゼ-8層)
※1層:礎石掘方,3層:Ⅱ面ベース1,4層:Ⅱ面ベース2

⑯B 区Ⅱ・Ⅲ面 B8 南 礎石 11・12・13



【B区Ⅱ・Ⅲ面B8南 礎石11・12・13】
1 10YR5/6 黄褐色砂質土　(礎石14・15sec1層)
2 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土　(礎石14・15sec2層)
3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土　(礎石14・15sec4層)
※1層:Ⅱ面ベース,2層:Ⅲ面包含層1上層,3層:Ⅲ面包含層1

⑰B 区Ⅱ・Ⅲ面 B8 南 礎石 14・15

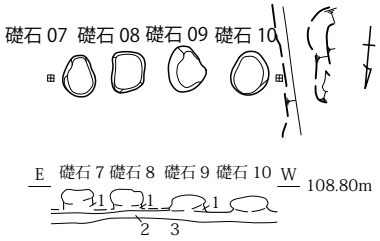


【B区Ⅱ・Ⅲ面 B8南 礎石14・15】
1 10YR5/6 黄褐色砂質土
2 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土,砂混,礫混
3 2.5Y4/3.5 オリーブ褐色粘質土,砂混,土器極少混
4 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混,土器極少混
※1層:Ⅱ面ベース,2層:Ⅲ面包含層1の上層,4層:Ⅲ面包含層1

0　(1:60)　2m

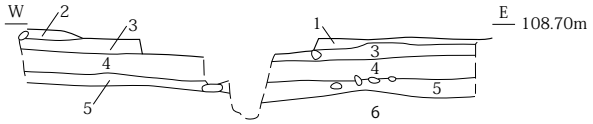
第25図　B区Ⅱ面(B8)平面図・土層断面図3(S=1/60)

⑮B 区Ⅱ・Ⅲ面 B9 北 礎石 07 ～ 10



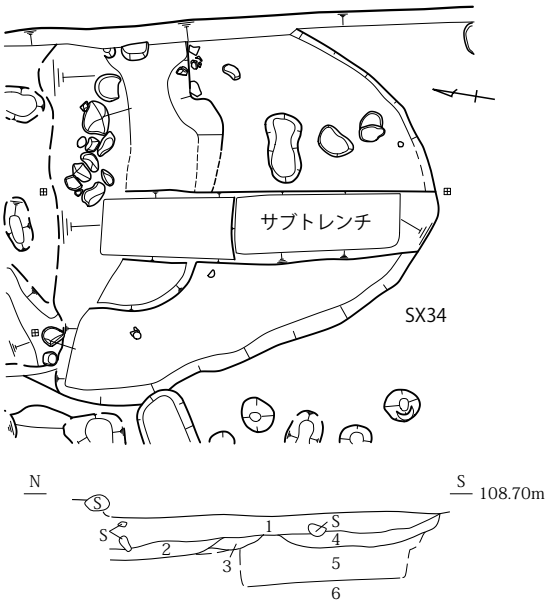
【B区Ⅱ・Ⅲ面 B9北礎石07～10】
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土,粘性あり
2 2.5Y6/6 明黄褐色粘質土,炭化物少混,2層小ブロック少混
3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混,礫少混
※2層:Ⅱ面ベース→B8南Ⅲ面ベースと同じ層

⑲B 区Ⅱ～Ⅳ面 B9 北 B・C 区境の東西アゼ



【B区 Ⅱ～Ⅳ面B9北 B･C区境の東西アゼ】
1 2.5Y7/6 明黄褐色土,2.5Y4/3 オリーブ褐色土,ブロック混,小礫少混,土器少混　(B9北 西壁-3層)
2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土,礫混,炭化物少混,土器少混　(B9北 西壁-4層)
3 2.5Y4/4 オリーブ褐色土,礫混,炭化物極少混,土器極少混　(B9北 西壁-5層)
4 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土,土器混,5層よりわずかに明　(B9北 西壁-6層)
5 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土,炭化物少混,土器混　(B9北 西壁-7層)
6 2.5Y4.5/6 オリーブ褐色粘質土,(B9北西壁･8層)
※１層:Ⅱ面ベース,2層:Ⅲ面包含層1の上面,3層:Ⅲ面包含層1,4層:Ⅲ面包含層2,
5層:Ⅲ面包含層3,6層:Ⅳ面

⑧C 区Ⅰ面 C9 北 SX34(サブトレンチ)



【C区 Ⅰ面C9北2面 SX34(サブトレンチ) 】
1 10YR4/4 褐色土, 礫少混,炭化物少混,土器少混
2 10YR4/4 褐色シルト,砂混
3 10YR4/6 褐色粘質土,砂混
4 10YR4/4 褐色粘質土,土器少混
5 10YR4/4 褐色粘質土,砂混
6 10YR3.5/2 黒褐色粘質土,砂混

0　(1:60)　2m

第26図　B区Ⅱ面(B9)平面図・土層断面図4・C区Ⅰ面(C9)平面図・土層断面図1(S=1/60)

Ⅱ・Ⅲ面 B8・9 礎石11～15(第7・20・25・28図、図版5・9)

Ⅱ面礎石11～13とⅢ面礎石14・15は両者とも約50㎝の間隔で並べられており、近接した場所で建て替えられた小規模な堂舎に伴う礎石または、飛び石状の道状遺構になる可能性がある。

Ⅱ・Ⅲ面 B7・8 礎石29・33・35・根石04～06(第7・20・22・23・28図、図版5)

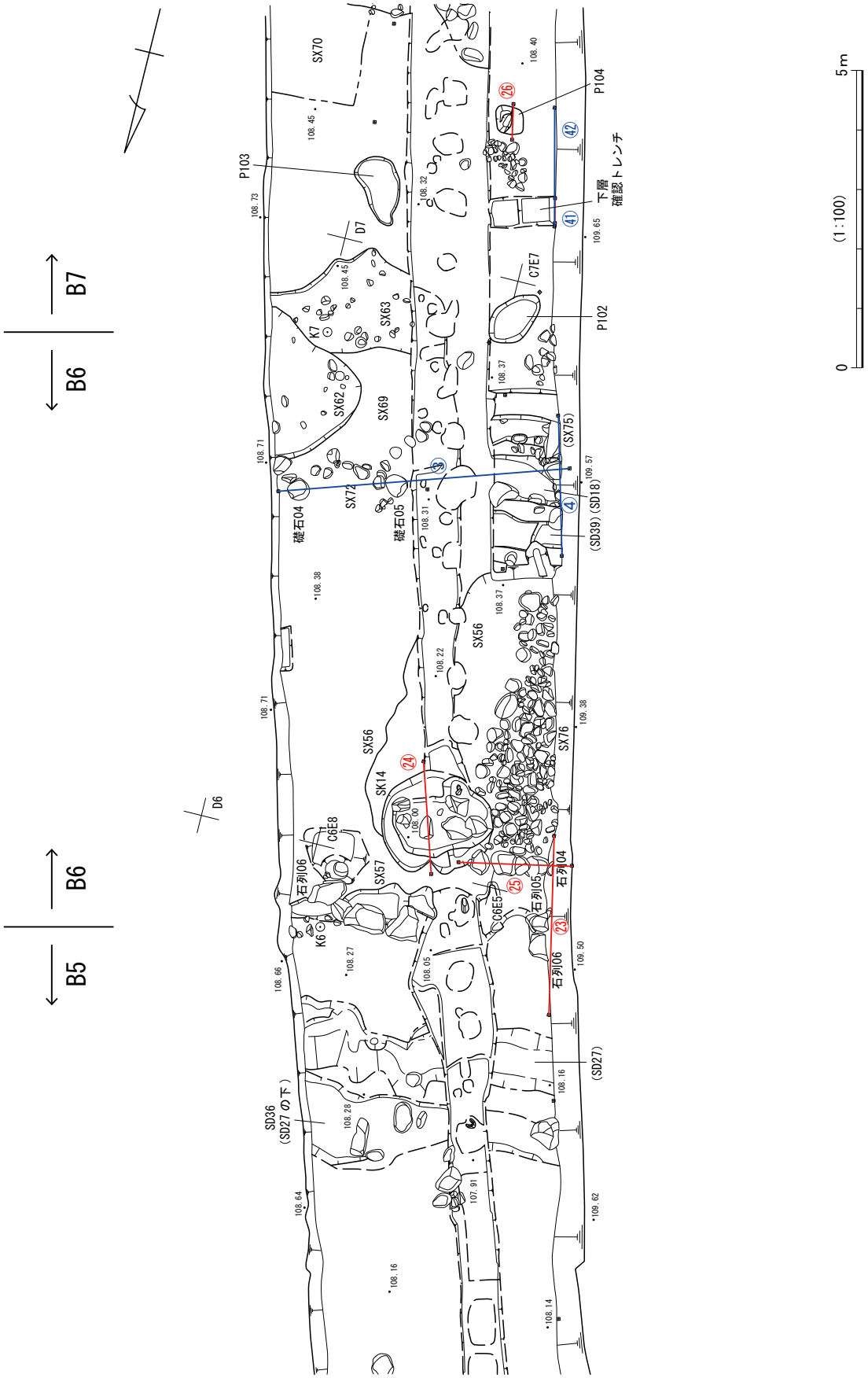
B7・8区東側で礎石や礎石の根石を検出した。複数列並ぶようにみえるが、他の遺構との重複や調査区際にあることから礎石建物の復元はできず、礎石エレベーション図を図示した。

Ⅲ・Ⅳ面 B6 SK14(第7・8・27・29・30・38図、図版6・7)

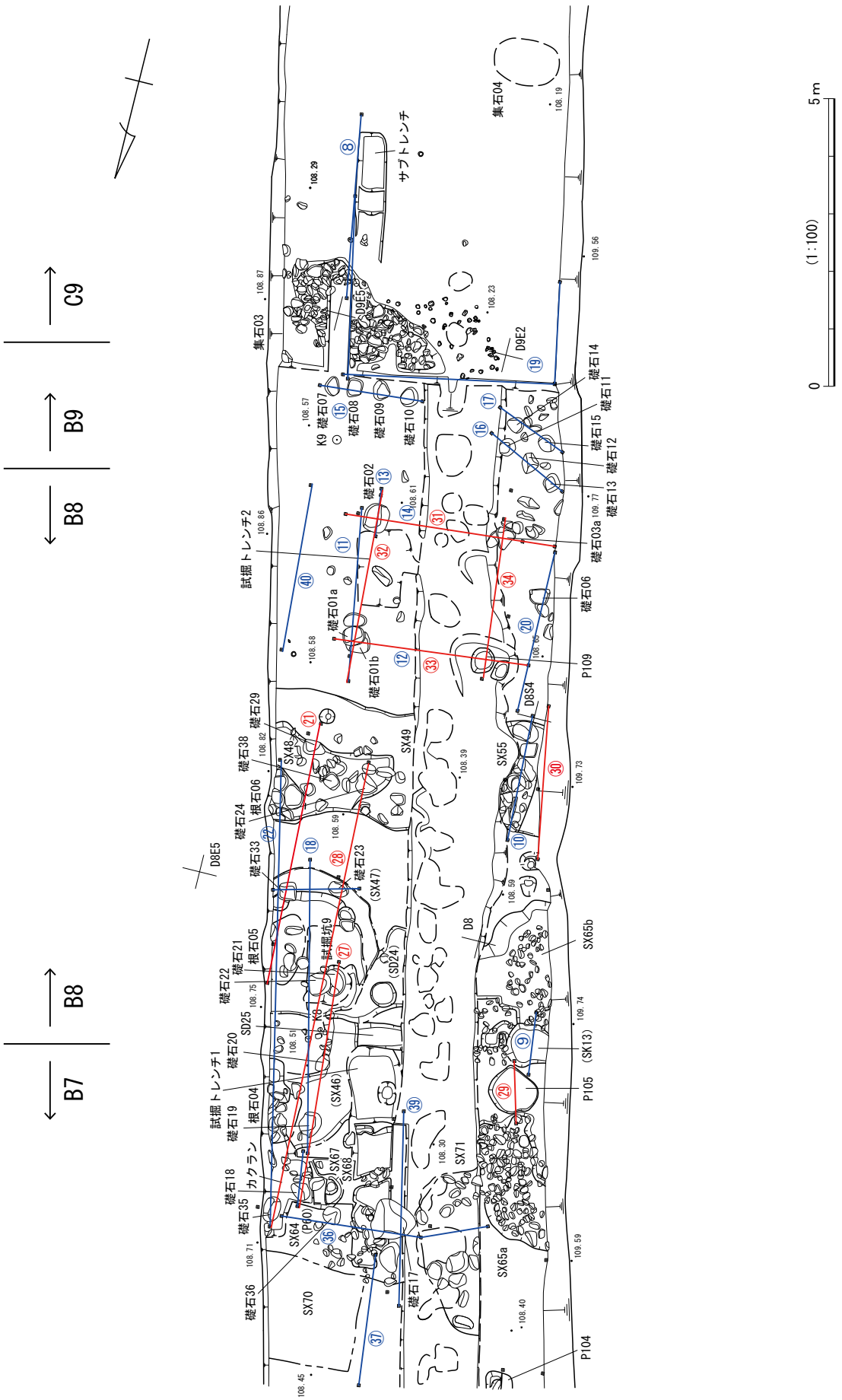
径30～50㎝大の礫が出土した直径約1.8mで略円形の土坑であり、石列04・配石SX76を切る。

Ⅲ面 B7・8 SX65a・b(第7・28図、図版8)

径6mの浅い窪みに小礫が敷き詰められた全形不明の遺構で、北側のSX65aが礫の密度が濃い。

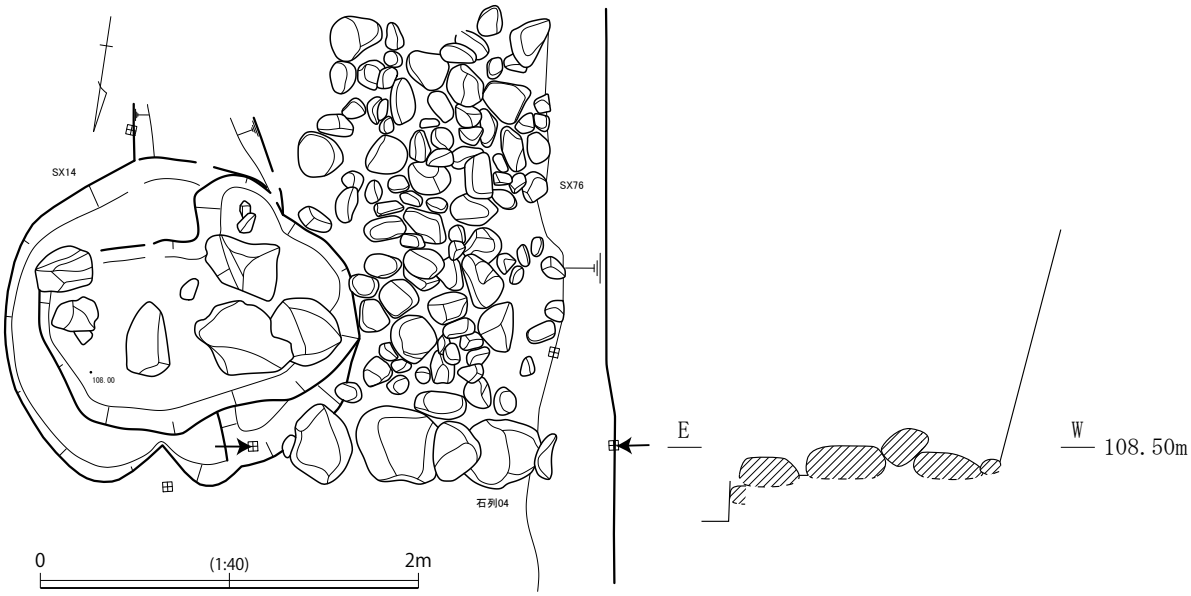


第27図　B区Ⅲ面(B5～B7)平面図・断面図実測箇所図1(S=1/100)



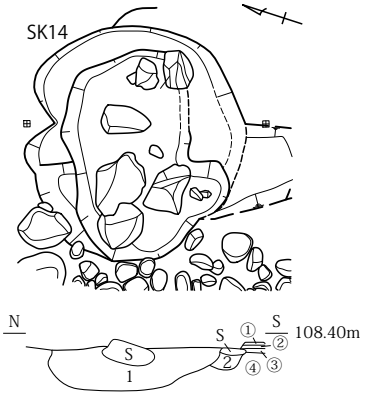
第28図　B区Ⅲ面(B7～B9)、C区Ⅱ面(C9)平面図・断面図実測箇所図2(S=1/100)

㉕B区Ⅲ・Ⅳ面B6北石列04



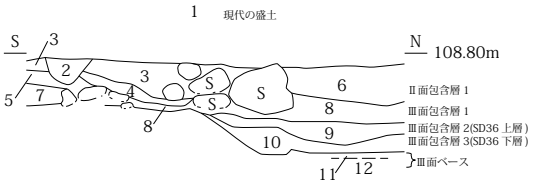
第29図　B区Ⅲ面(B6)北石列エレベーション図(S=1/40)

㉔B 区Ⅲ面 B6 北 SK14



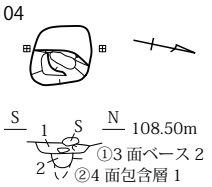
【B区 Ⅲ面B6北 SK14】
1 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土 2.5Y7/2 灰黄色粘土ブロック少混
礫少混,土器少混
2 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘土,砂混
① 2.5Y3/1 黒褐色粘質土
② 2.5Y7/6 明黄褐色粘土
③ 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土,②層の漸移層
④ 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土,粘性あり

㉓B 区Ⅰ～Ⅲ面 B6 北西壁 (SD01・36・石列 04～06)

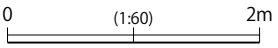


【B 区Ⅰ～Ⅲ面 B6 北 SD01・36・石列 04～06 周辺 調査区西壁】
1 現代の盛土 , 礫 2.5Y3/1 黒褐色土 , 礫層
2 2.5Y5/4 黄褐色砂 , 小礫多混
3 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色土 , 小礫多混 , 炭化物混 , 土器混
4 2.5Y3/2 黒褐色土 , 少礫多混 , 炭化物混 , 土器混
5 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土 , 小礫少混 , 炭化物少混 , 土器少混
6 2.5Y5/2.5 暗灰黄色粘土 , 炭化物極少混 , 土器極少混
7 2.5Y4/2 暗灰黄色土 , 礫多混
8 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘土 , 上位に 2.5Y8/3 淡黄色粘土ブロック混 , 炭化物少混 , 土器少混
9 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘土 (8 層よりやや暗), 炭化物少混 , 土器極少混 , 小礫少混
10 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土 , 砂混 , 礫少混 , 炭化物少混 , 土器混
11 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土 , 粘性あり
12 2.5Y4/6 オリーブ褐色砂質土
※2 層 : カクラン ,5 層 :Ⅱ面包含層 1,6 層 :Ⅱ面包含層 1,7 層 :Ⅱ面包含層 2,8 層 :Ⅲ面包含層 1,9 層 :Ⅲ面包含層 2(SD36 上層),10 層 :Ⅲ面包含層 3(SD36 下層)
11・12 層 :Ⅲ面ベース

㉖B 区Ⅲ(2.5) 面 B7 北 P104

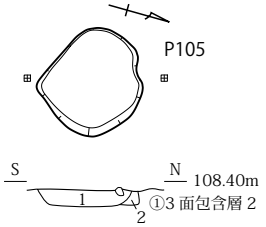


【B区 Ⅲ(2.5)面B7北2面 P104】
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土,礫混
2 2.5Y4/2.5 暗灰黄色粘土,①小ブロック少混
※①:Ⅲ面ベース2,②:Ⅳ面包含層1



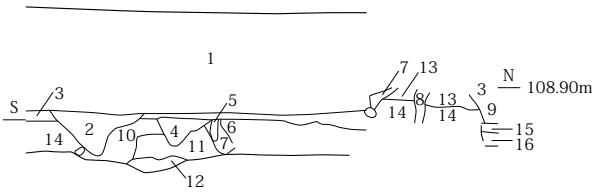
第30図　B区Ⅲ面(B6・B7)平面図・土層断面図1(S=1/60)

㉙B 区Ⅲ(Ⅱ-2) 面 B7 南 P105



【B区Ⅲ(Ⅱ-2)面B7南 P105】
1 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土,砂混,炭化物少混,土器少混
2 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘質土,砂混,炭化物極少混
① 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘質土(2層よりやや暗),砂混
※①:Ⅲ面包含層2

㉚B 区Ⅰ～Ⅲ面 B8 北 (SX55 配石の西側) 調査区西壁

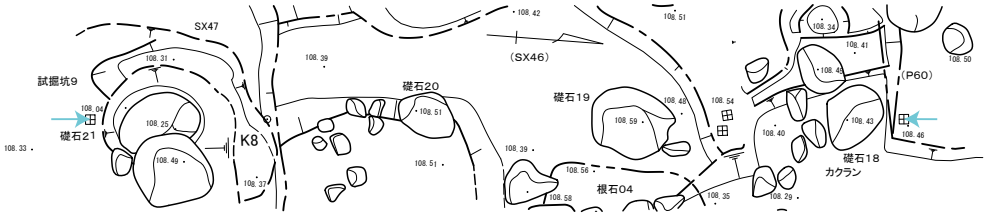


【B区 Ⅰ～Ⅲ面B8北(SX55配石の西側)調査区西壁】
1 現代の盛土
2 撹乱
3 2.5Y4/2 暗灰黄色砂,小礫混,土器少混
4 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色砂質土,礫混,炭化物少混,土器多混
5 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色砂質土,土器少混
6 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色砂質土,2.5Y5/4 黄褐色砂質土小ブロック混,礫混
7 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘質土,砂混
8 2.5Y4.5/3 オリーブ褐色砂質土,粘性あり,2.5Y5/4 黄褐色粘質土ブロック混
炭化物極少混,土器少混
9 2.5Y5/2.5 暗灰黄色砂質土,小礫混,土器少混
10 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色粘質土,砂混,炭化物極少混,土器少混 礫少混
11 2.5Y4/3.5 オリーブ褐色粘質土,砂混
12 2.5Y4.5/3 オリーブ褐色粘土
13 2.5Y5/3.5 黄褐色砂質土,礫極少混,土器少混
14 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色粘質土,炭化物少混,土器少混,礫混
15 2.5Y5/2.5 黄褐色土(シルトに近い),16層の漸移層的様相
16 2.5Y6/4 にぶい黄色粘質土,2.5Y4/2.5 暗灰黄色粘質土小ブロック少混
※10･11･12層:SX55,16層:Ⅲ面ベース

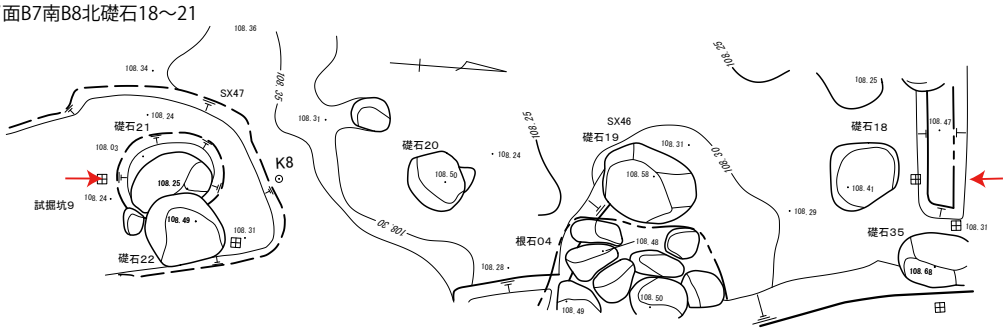
0 (1:60) 2m

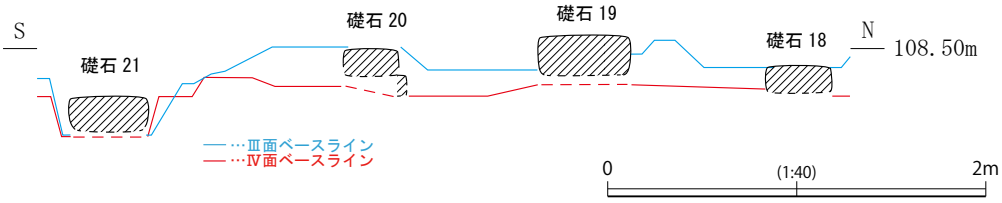
第31図　B区Ⅲ面(B7・B8)平面図・土層断面図2(S=1/60)

㉗B区Ⅲ面B7南B8北礎石18～21



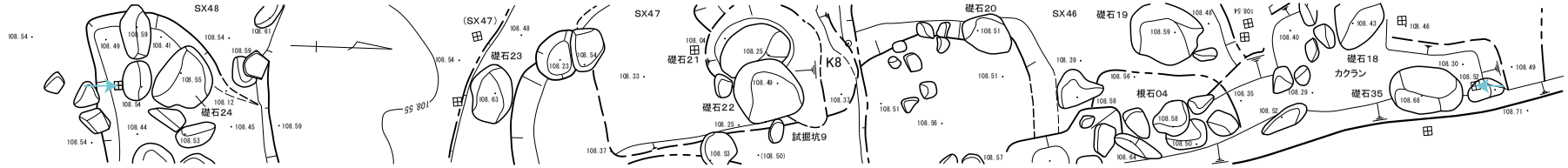
㉗B区Ⅳ面B7南B8北礎石18～21



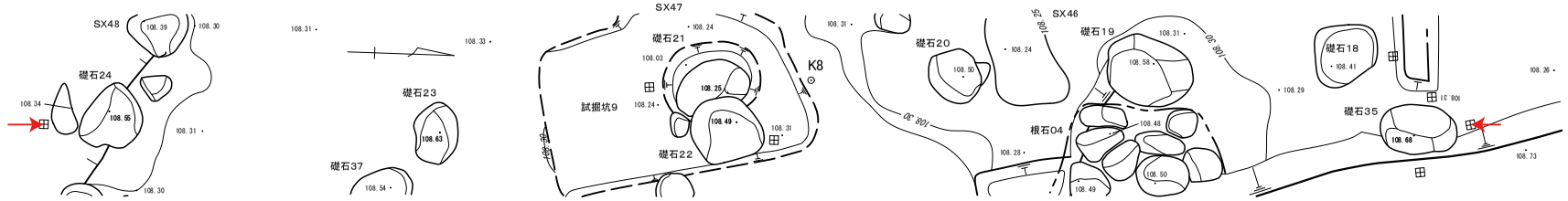


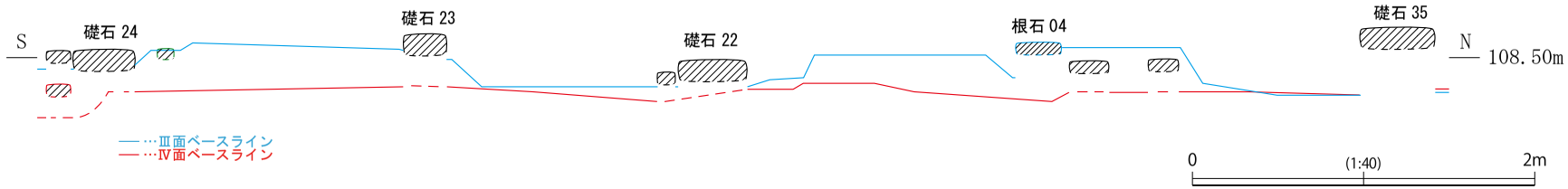
第32図　B区Ⅲ・Ⅳ面(B7・B8)礎石18～21エレベーション図(S=1/40)

㉘B区Ⅲ面B7南B8北礎石22～24・35



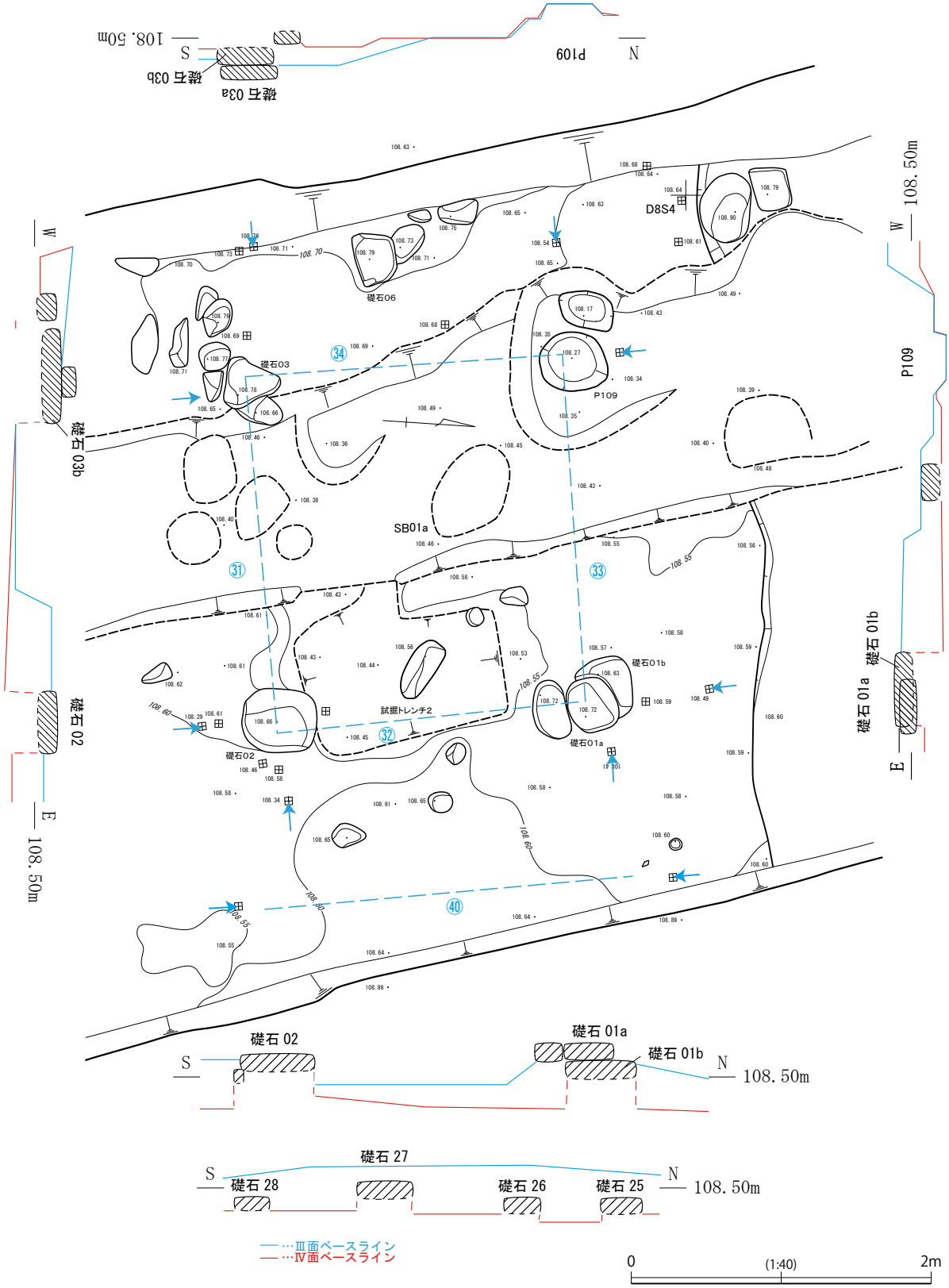
㉘B区Ⅳ面B7南B8北礎石22～24・35





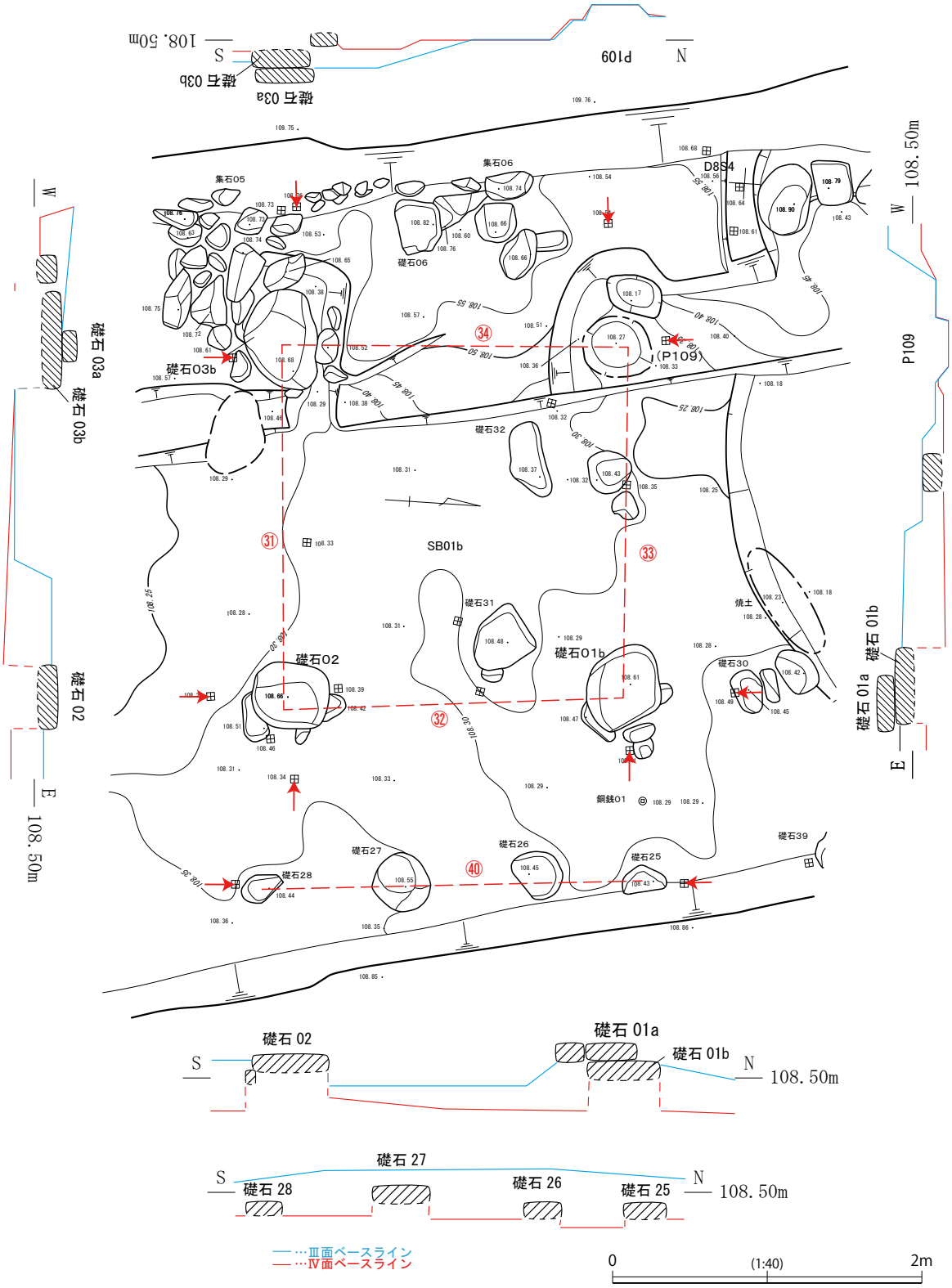
第33図　B区Ⅲ・Ⅳ面(B7・B8)礎石22～24・35エレベーション図(S=1/40)

㉛～㉞Ⅱ・Ⅲ面B8南SB01a(礎石1～3・P109)

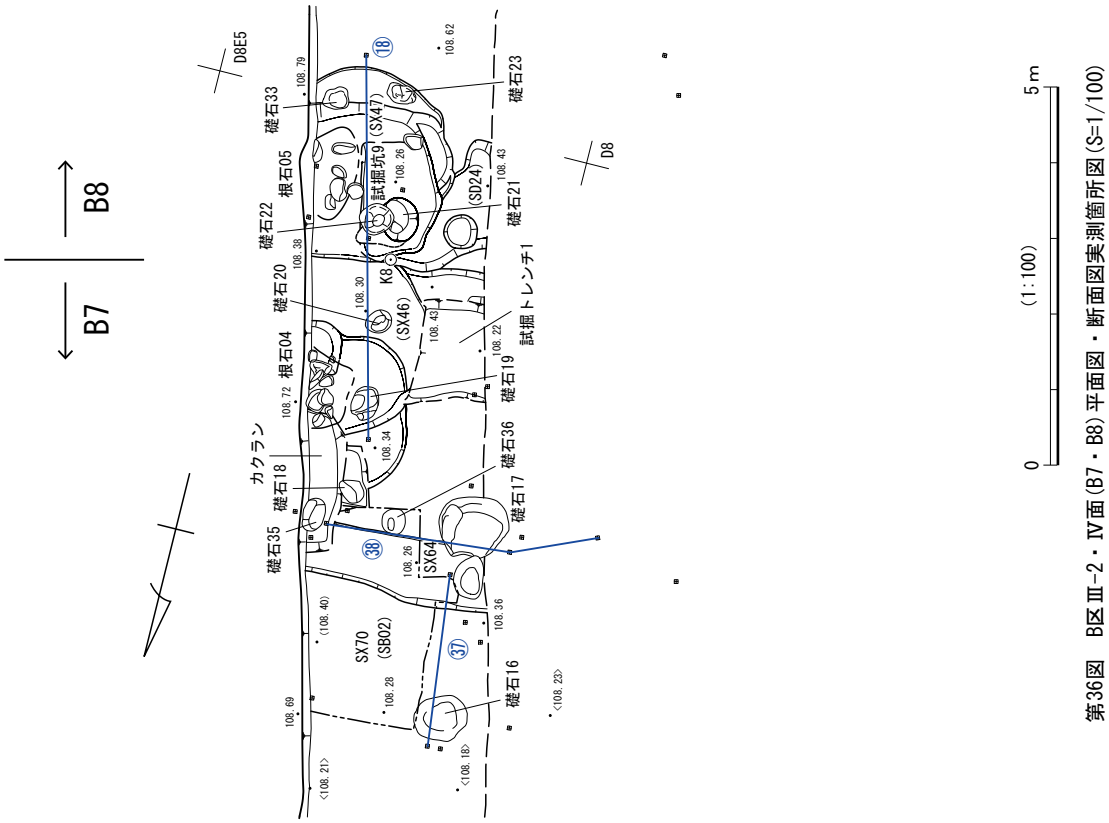


第34図　B区Ⅱ・Ⅲ面(B8)SB01a(礎石1～3・P109)エレベーション図(S=1/40)

㉛～㉞・㊵B区Ⅳ面B8南SB01b(礎石1～3・P109・礎石25～28)



第35図　B区Ⅳ面(B8)SB01b(礎石1～3・P109・礎石25～28)エレベーション図(S=1/40)



第36図　B区Ⅲ-2・Ⅳ面(B7・B8)平面図・断面図実測箇所図(S=1/100)

Ⅲ面 B6 SX76(SX56)(第７・27図、図版６・７)

浅い窪みSX56内で検出した配石遺構で、東辺約4.5mは礫が直線状で、北側は石列04と接する。

Ⅲ・Ⅳ面 B7・8 礎石18～24・35(第７・８・28・32・33・37図、図版７～９)

Ⅱ・Ⅲ面と同様にB7・8区で複数の礎石列を検出し、エレベーション図を作成した。

Ⅳ面 B7 SB02(SX70)(礎石16・17・35)(第８・37・39・42図、図版９・10)

SB02は径約80cmの礎石16と径約100cmの礎石17を伴う大型礎石建物で、礎石の上面が赤く焼けており、火災により柱が焼けた痕跡とみている。柱間の距離は南北方向2.2～2.5mであるが、東西方向は調査区外に延び不明である。SX70とした建物内部には炭化物やカワラケ小片が多量に混入する固く踏みしまった粘質土の整地土で覆われており、土間状の施設または門の可能性も考えている。

Ⅳ面 B7 SX71(第８・37・39・42図、図版９・10)

石畳状に上面が平らな石が敷かれた遺構で、北側は攪乱により残っていなかったがSB02の西側全面に敷き詰められていたとみられる。火災後に焼土や炭化物交じりの整地土で埋められていた。

Ⅳ面 B6・7 SX72(第８・37・38・41図、図版９)

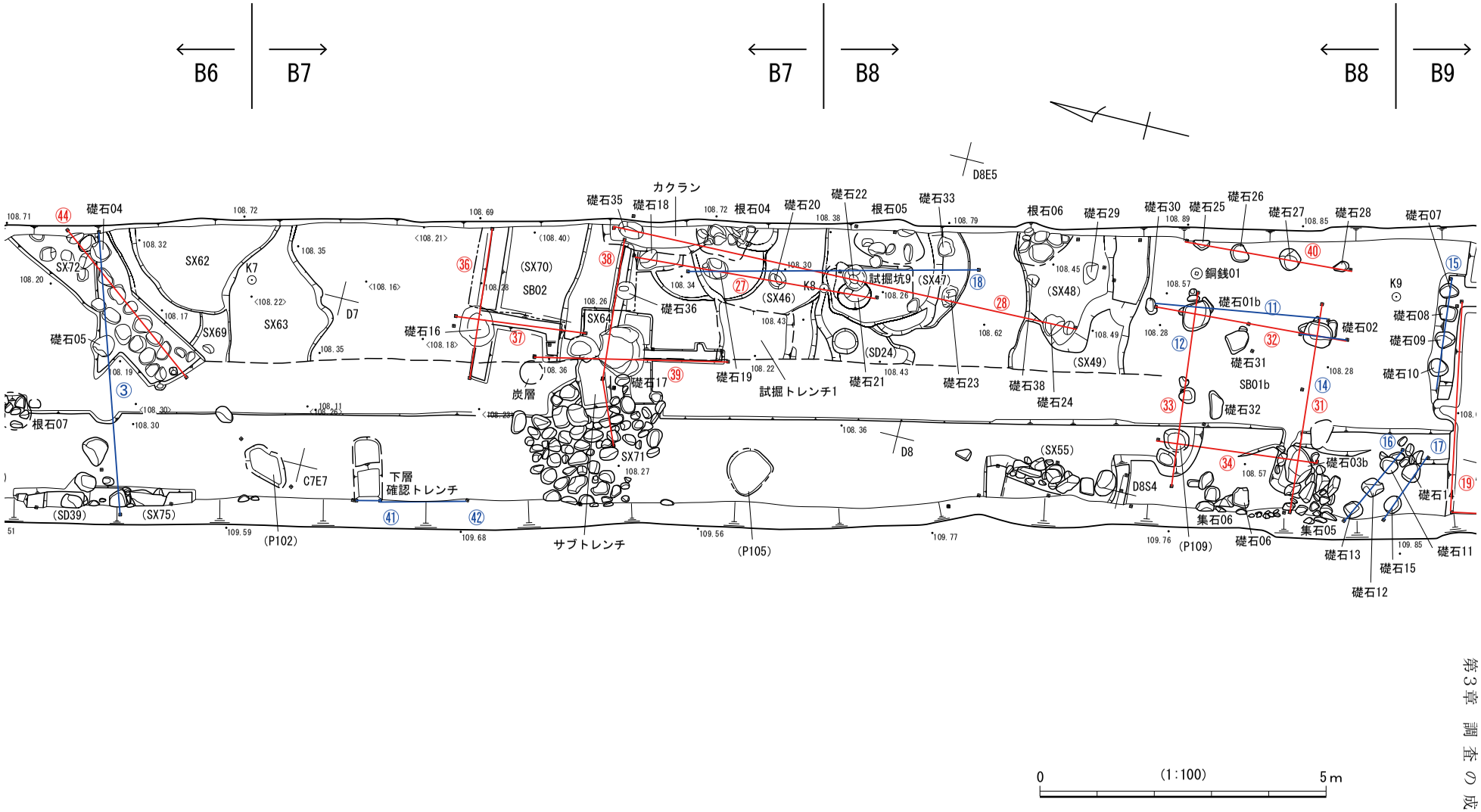
径20～30cm大の上面が平らな石を２列に並べた遺構で、敷石列の道状遺構とみている。

Ⅴ面 B8 SK19(第８・39図、図版９・10)

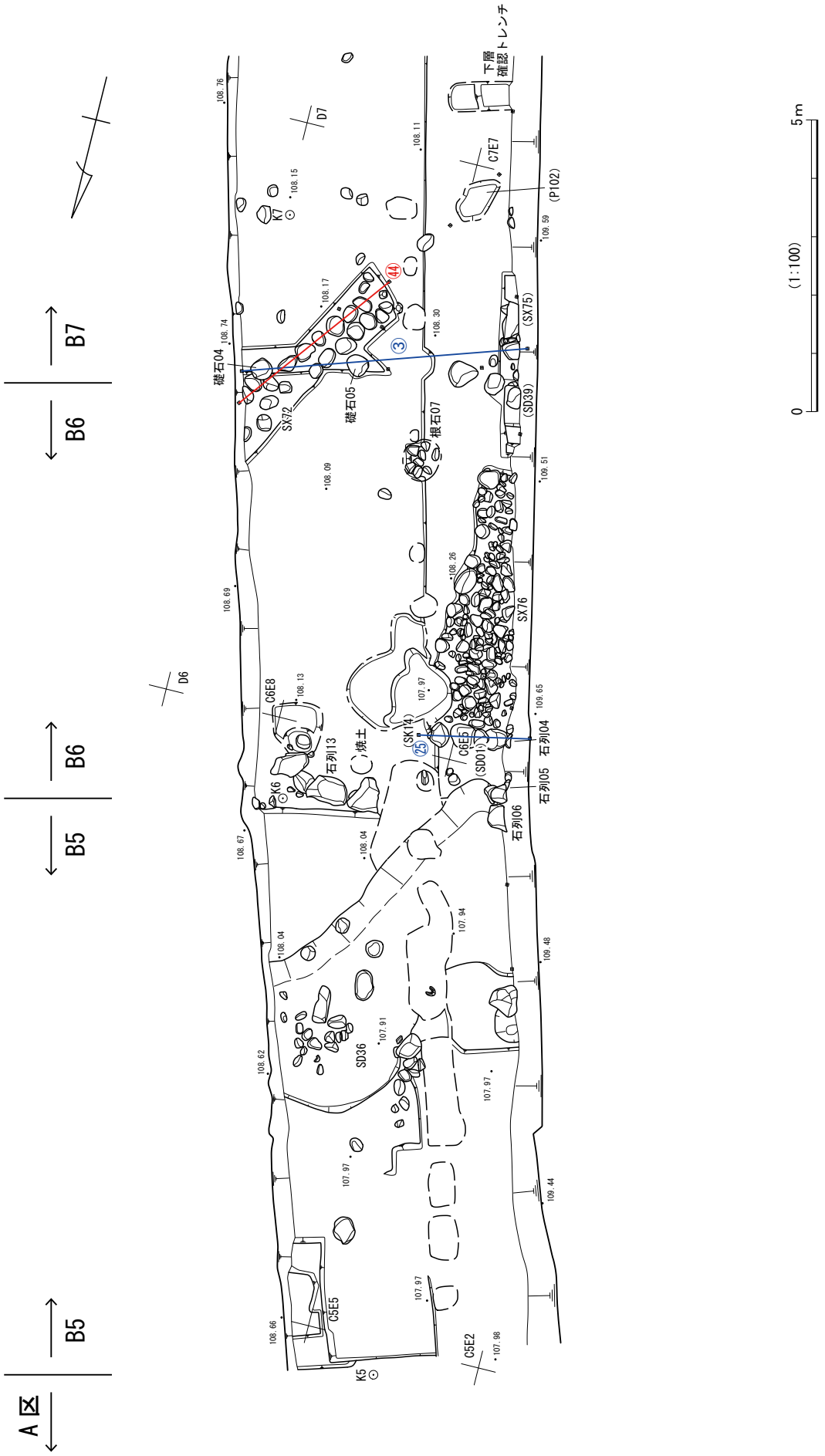
全形は不明であるが深さ約10～15cmを測る竪穴状の土坑で、東西・南北方向とも約2.5m分を検出した。南側の壁面の一部が被熱により赤褐色化しており、カワラケの皿や埦587～594が出土した。

3.　C区(第60～68図、図版１・２・11～14)

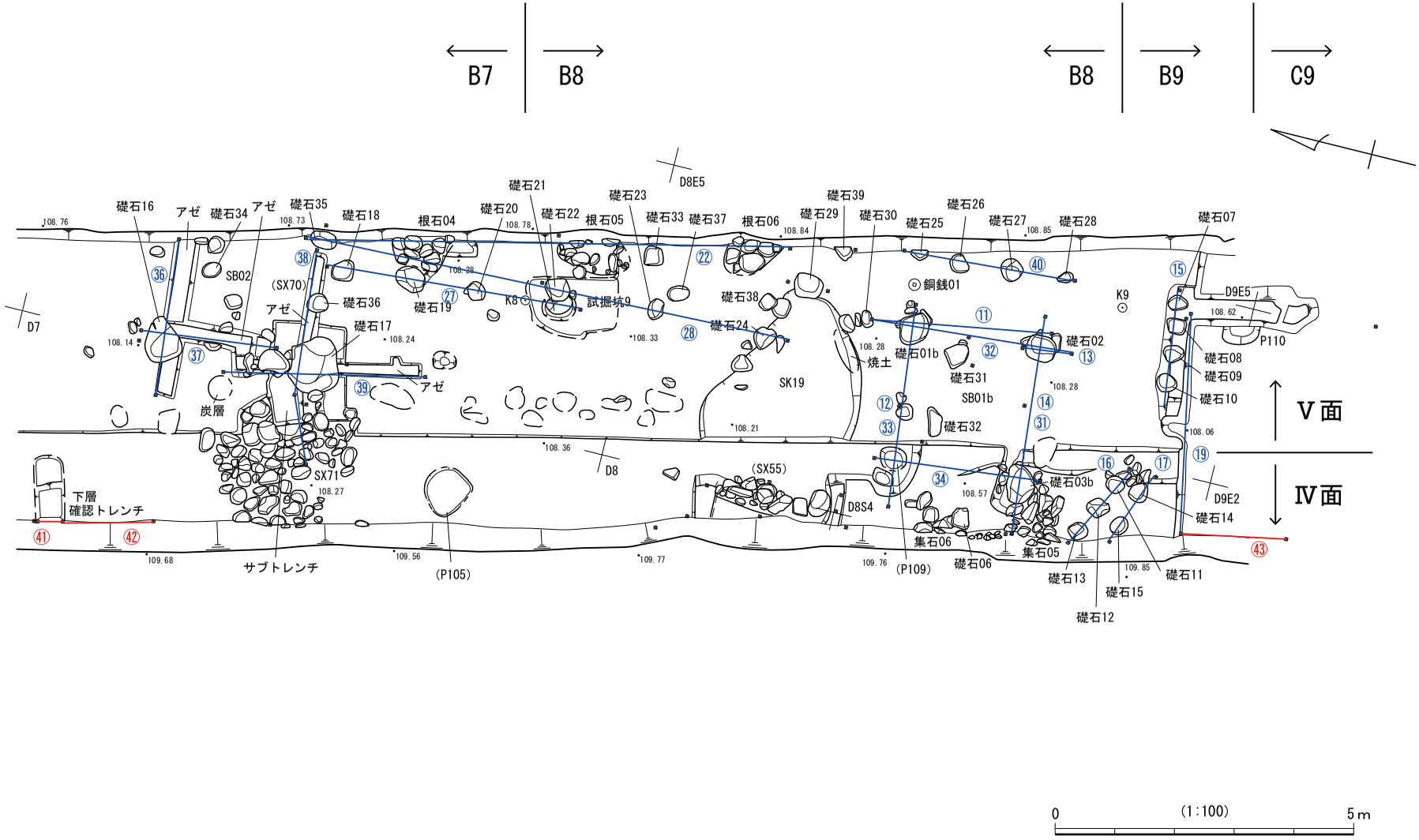
C区は延長約24mで、C9～C11区のグリッドを設定した。平安時代後期～室町時代後半の遺構面４面を確認し、０面はC10・11区の西側部分のみ遺存していた。土坑SK04上層から中世のカワラケがま



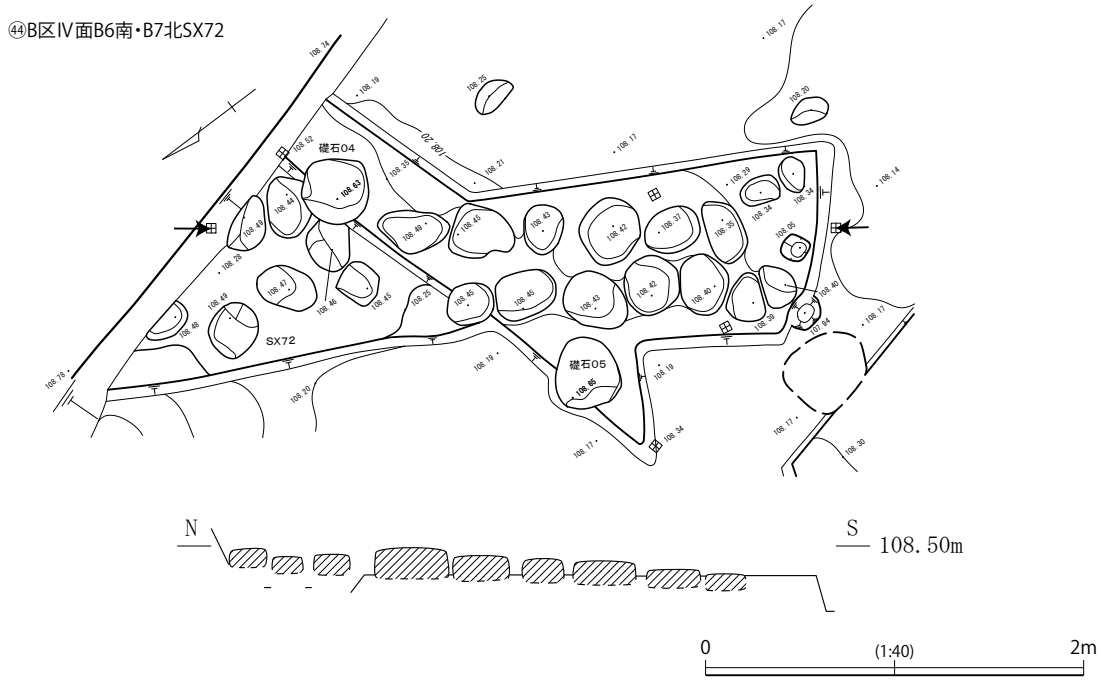
第37図　B区Ⅳ面(B6～B9)平面図・断面図実測箇所図(S=1/100)



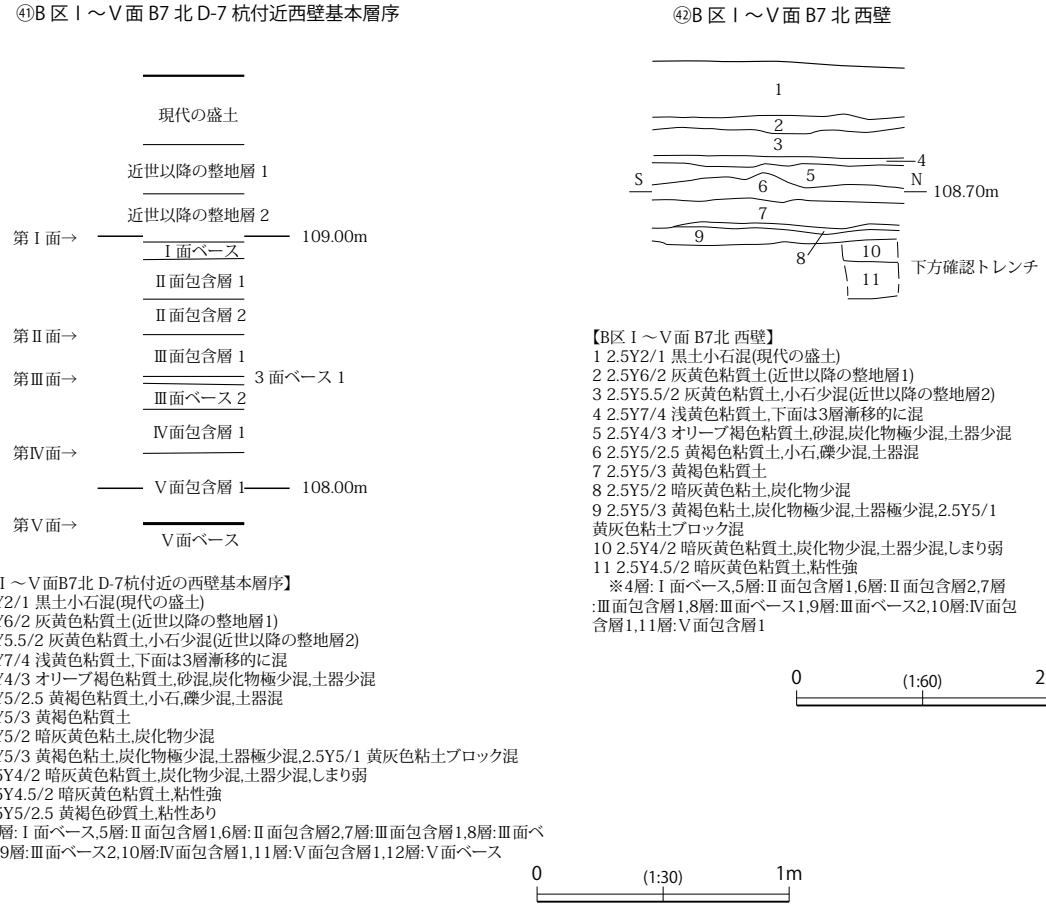
第38図　B区Ⅳ・Ⅴ面(B5～B7)平面図・断面図実測箇所図1(S=1/100)



第39図　B区Ⅳ・Ⅴ面(B7～B9)、C区Ⅲ面(C9)平面図・断面図実測箇所図2(S=1/100)



第40図　B区Ⅳ面(B6・B7)SX72エレベーション図(S=1/40)

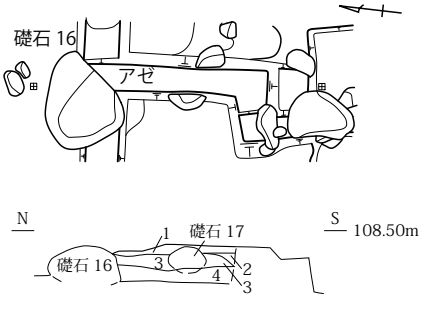


【B区 Ⅰ～Ⅴ面B7北 D-7杭付近の西壁基本層序】
1 2.5Y2/1 黒土小石混(現代の盛土)
2 2.5Y6/2 灰黄色粘質土(近世以降の整地層1)
3 2.5Y5.5/2 灰黄色粘質土,小石少混(近世以降の整地層2)
4 2.5Y7/4 浅黄色粘質土,下面は3層漸移的に混
5 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混,炭化物極少混,土器少混
6 2.5Y5/2.5 黄褐色粘質土,小石,礫少混,土器混
7 2.5Y5/3 黄褐色粘質土
8 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土,炭化物少混
9 2.5Y5/3 黄褐色粘土,炭化物極少混,土器極少混,2.5Y5/1 黄灰色粘土ブロック混
10 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,炭化物少混,土器少混,しまり弱
11 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘質土,粘性強
12 2.5Y5/2.5 黄褐色砂質土,粘性あり
※4層:Ⅰ面ベース,5層:Ⅱ面包含層1,6層:Ⅱ面包含層2,7層:Ⅲ面包含層1,8層:Ⅲ面ベース1,9層:Ⅲ面ベース2,10層:Ⅳ面包含層1,11層:Ⅴ面包含層1,12層:Ⅴ面ベース

【B区Ⅰ～Ⅴ面B7北 西壁】
1 2.5Y2/1 黒土小石混(現代の盛土)
2 2.5Y6/2 灰黄色粘質土(近世以降の整地層1)
3 2.5Y5.5/2 灰黄色粘質土,小石少混(近世以降の整地層2)
4 2.5Y7/4 浅黄色粘質土,下面は3層漸移的に混
5 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混,炭化物極少混,土器少混
6 2.5Y5/2.5 黄褐色粘質土,小石,礫少混,土器混
7 2.5Y5/3 黄褐色粘質土
8 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土,炭化物少混
9 2.5Y5/3 黄褐色粘土,炭化物極少混,土器極少混,2.5Y5/1 黄灰色粘土ブロック混
10 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,炭化物少混,土器少混,しまり弱
11 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘質土,粘性強
※4層:Ⅰ面ベース,5層:Ⅱ面包含層1,6層:Ⅱ面包含層2,7層:Ⅲ面包含層1,8層:Ⅲ面ベース1,9層:Ⅲ面ベース2,10層:Ⅳ面包含層1,11層:Ⅴ面包含層1

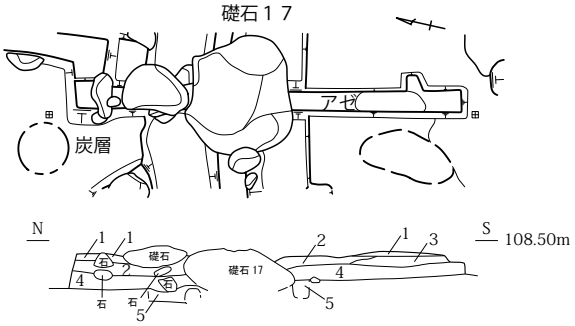
第41図　B区Ⅴ面(B7)平面図・土層断面図1(S=1/30・1/60)

㊲B 区Ⅲ・Ⅳ面 B7 北 礎石 16・17A



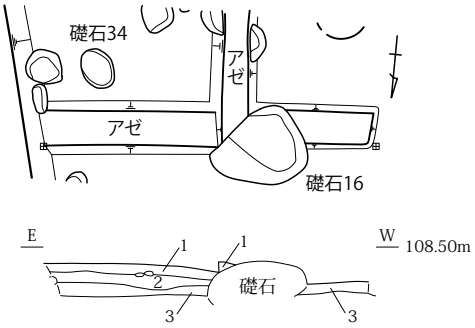
【B区 Ⅲ・Ⅳ面B7北 礎石16・17A】
1 2.5Y5/3 黄褐色粘質土,炭化物混,土器多混
2 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘土,炭化物混,土器多混
3 2.5Y5/2.5 黄褐色粘土,2.5Y6/4 にぶい黄色粘土ブロック下位に混,炭化物多混,土器極少混
4 2.5Y4/1.5 黄色灰粘土,2.5Y6/4 にぶい黄色粘土ブロック少混,炭化物混,土器多混
※1層:Ⅲ面包含層1,2層Ⅲ面包含層2,3層:Ⅲ面ベース,4層:Ⅳ面包含層1

㊴B 区Ⅲ・Ⅳ面 B7 南 礎石 16・17B



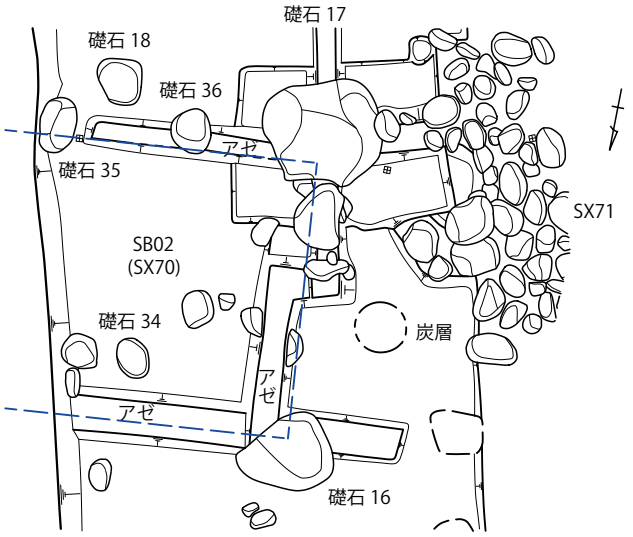
【B区 Ⅲ・Ⅳ面B7南 礎石16・17B】
1 2.5Y5/3 黄褐色粘質土,炭化物混,土器多混　(礎石16・17Asec-1層)
2 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘土,炭化物混,土器多混　(礎石16・17Dsec-6層)
3 2.5Y5/2.5 黄褐色粘土,2.5Y6/4 にぶい黄色粘土ブロック下位に混,炭化物多混　土器極少混(礎石16・17Asec-3層)
4 2.5Y4/1.5 黄色灰粘土,2.5Y6/4 にぶい黄色粘土ブロック少混,炭化物混,土器　多混　(礎石16・17Asec-4層)
5 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土,炭化物少混,土器少混,礫少混　(礎石16・17Dsec-3層)
※1層:Ⅲ面包含層1,2層:Ⅲ面包含層2,3層:Ⅲ面ベース,4層:Ⅳ面包含層1,5層:Ⅳ面　包含層2

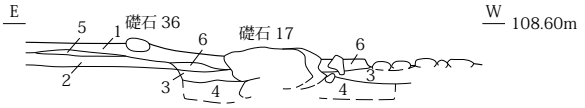
㊱B 区Ⅳ面 B7 北 礎石 16C



【B区Ⅳ面B7北 礎石16C】
1 2.5Y5/3 黄褐色粘質土,炭化物混,土器多混　(礎石16・17Asec-1層)
2 2.5Y5/2.5 黄褐色粘土,2.5Y6/4 にぶい黄色粘土ブロック下位に混炭化物多混,土器極少混　(礎石16・17Asec-3層)
3 2.5Y4/1.5 黄色灰粘土,2.5Y6/4 にぶい黄色粘土ブロック少混,炭化物混,土器多混　(礎石16・17Asec-4層)

㊳B 区Ⅳ・Ⅴ面 B7 南 礎石 16・17D SB02(SX70)

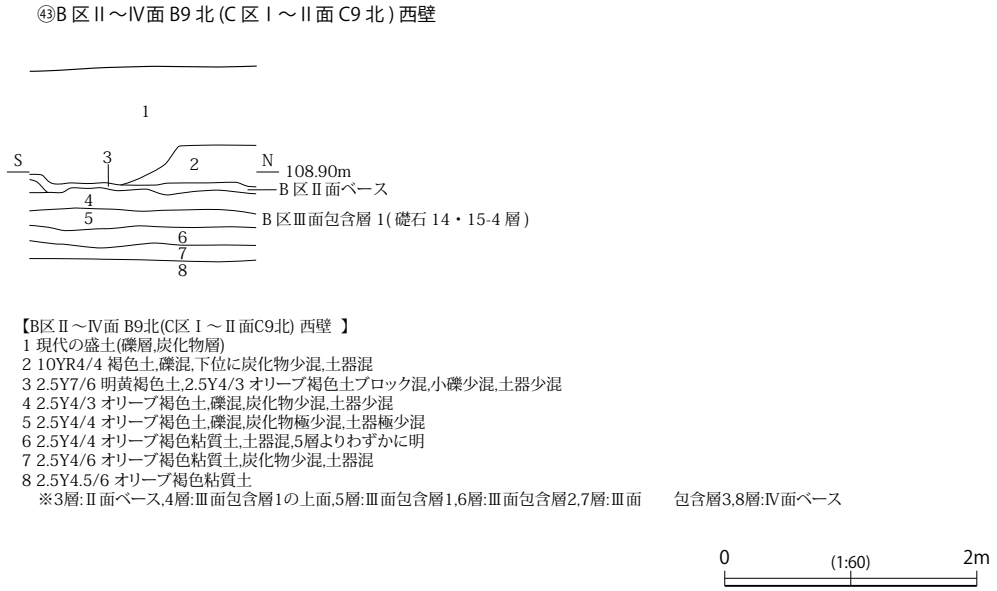




【B区 Ⅳ・Ⅴ面B7南 礎石36・17D SB02(SX70)】
1 2.5Y5/3 黄褐色粘質土,炭化物混,土器多混　(礎石16・17Asec-1層)
2 2.5Y4/1.5 黄色灰粘土,2.5Y6/4 にぶい黄色粘土ブロック少混,炭化物混,土器多混　(礎石16・17Asec-4層)
3 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土,炭化物少混,土器少混,礫少混
4 2.5Y4/2 暗灰黄色粘土,砂混,炭化物極少混(3層よりやや暗)
5 2.5Y5/2.5 黄褐色粘土,2.5Y6/4 にぶい黄色粘土ブロック下位に混,炭化物多混,土器極少混　(礎石16・17Asec-3層)
6 2.5Y4.5/2 暗灰黄色粘土,炭化物混,土器多混　(礎石16・17Asec-2層)
※1層:Ⅲ面包含層1,2層Ⅳ面包含層1,3層:Ⅳ面包含層2,4層:Ⅴ面包含層1,5層:Ⅲ面ベース,6層:Ⅲ面包含層2

0　(1:60)　2m

第42図　B区Ⅳ面(B7)平面図・土層断面図2(S=1/60)



【B区Ⅱ～Ⅳ面 B9北(C区Ⅰ～Ⅱ面C9北) 西壁 】
1 現代の盛土(礫層,炭化物層)
2 10YR4/4 褐色土,礫混,下位に炭化物少混,土器混
3 2.5Y7/6 明黄褐色土,2.5Y4/3 オリーブ褐色土ブロック混,小礫少混,土器少混
4 2.5Y4/3 オリーブ褐色土,礫混,炭化物少混,土器少混
5 2.5Y4/4 オリーブ褐色土,礫混,炭化物極少混,土器極少混
6 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土,土器混,5層よりわずかに明
7 2.5Y4/6 オリーブ褐色粘質土,炭化物少混,土器混
8 2.5Y4.5/6 オリーブ褐色粘質土
※3層:Ⅱ面ベース,4層:Ⅲ面包含層1の上面,5層:Ⅲ面包含層1,6層:Ⅲ面包含層2,7層:Ⅲ面　包含層3,8層:Ⅳ面ベース

第43図　B区Ⅳ面(B9)平面図・土層断面図3(S=1/60)

とまって出土した。検出面から火災に伴う被熱により、表面の釉薬が溶けた青磁花瓶片が出土し、被熱した大型の礫を多く検出した土坑SK05も検出した。１面にはC９・10区に集石状遺構SX20、C10・11区東側には土石流または洪水により堆積したとみられる径約１ｍの大型自然礫を含む河原石の堆積層や礫敷状の集石群を検出した。Ⅰ・Ⅱ面には礫群を掘り込む石列01・SX23・SX43、Ⅱ面には炭層を検出したC９区P32、落ち込み状の浅い窪みC10区SX37から柱状高台を持つカワラケの底部や須恵器双耳瓶などが出土した。Ⅱ面下包含層掘削後のⅢ面は、集石遺構以外の遺構密度は希薄である。

0面 C10 SK04(第９・44・14図、図版11)

南北方向約1.6ｍ、深さ約35㎝を測る土坑である。上面から中世のカワラケ1555～1591がまとまって出土し、儀礼後の片付け行為とみている。他に被熱痕跡がある龍泉窯系の青磁花瓶が出土した。

0面 C11 SK05(第９・44・14図、図版11)

南北方向約2.6ｍ、深さ約20㎝を測る土坑であり、被熱痕跡のある大型の礫を多く検出した。

Ⅰ面 C９・10 SX20・24・25(第９・44図、図版12)

南北方向約６ｍの範囲に広がる礫敷遺構で、中央のSX20d・eでは集石が３か所でみられた。

Ⅰ・Ⅱ面 C10・11 SX43(第９・45・14図、図版12・13)

径約50～80㎝大の河原石を周りに並べ、自然礫層を掘り込んだ溝または土坑である。

Ⅰ・Ⅱ面 C11 石列01(第９・44・45図、図版12)

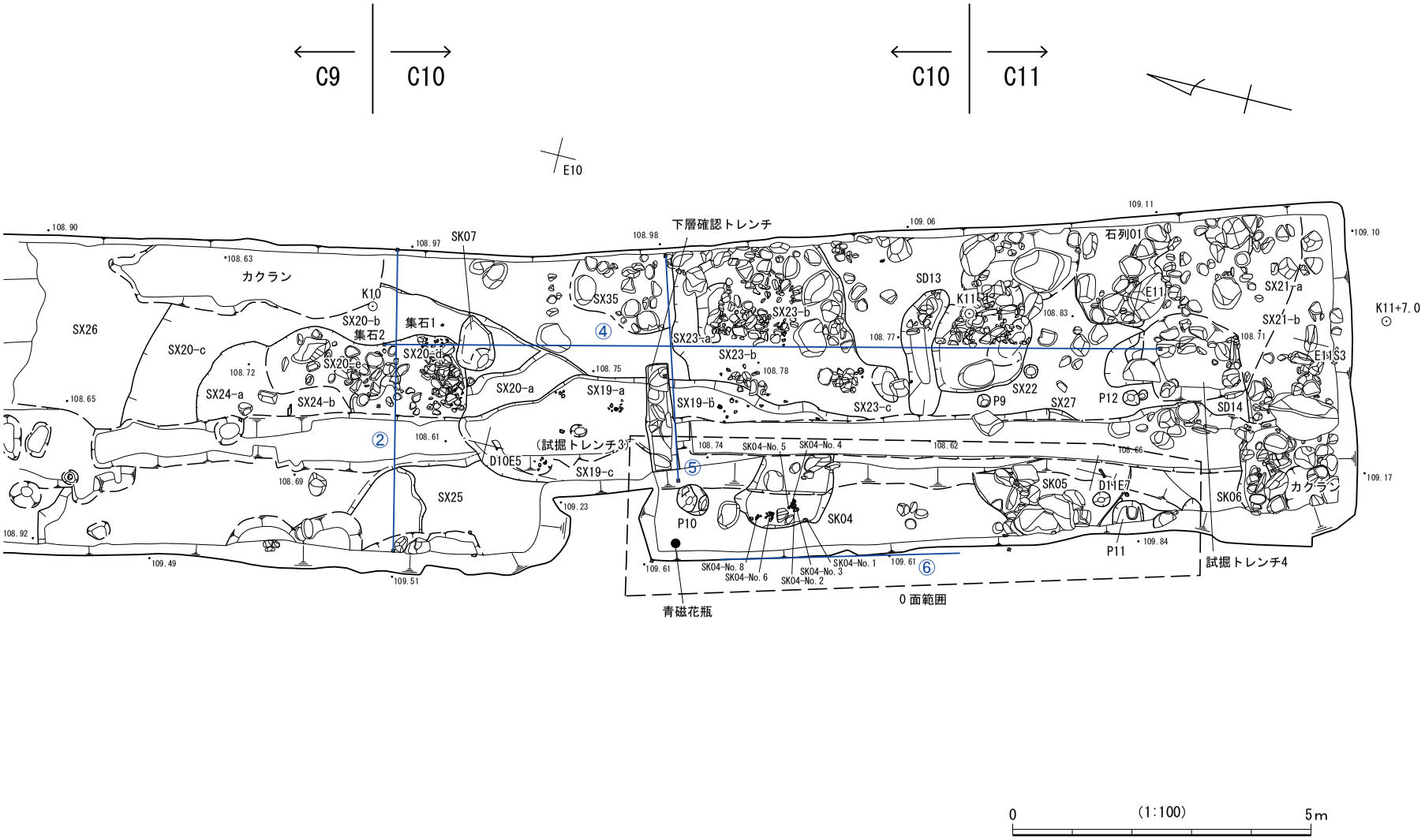
自然礫層を掘り込む幅約50㎝の溝の中に、約30～40㎝大の河原石が東西方向約４ｍに渡り並べられた石列で、北側に平らな面を意識して置かれていた傾向が強い。

Ⅱ面 C９・10 SX37(第９・45・48図、図版13・14)

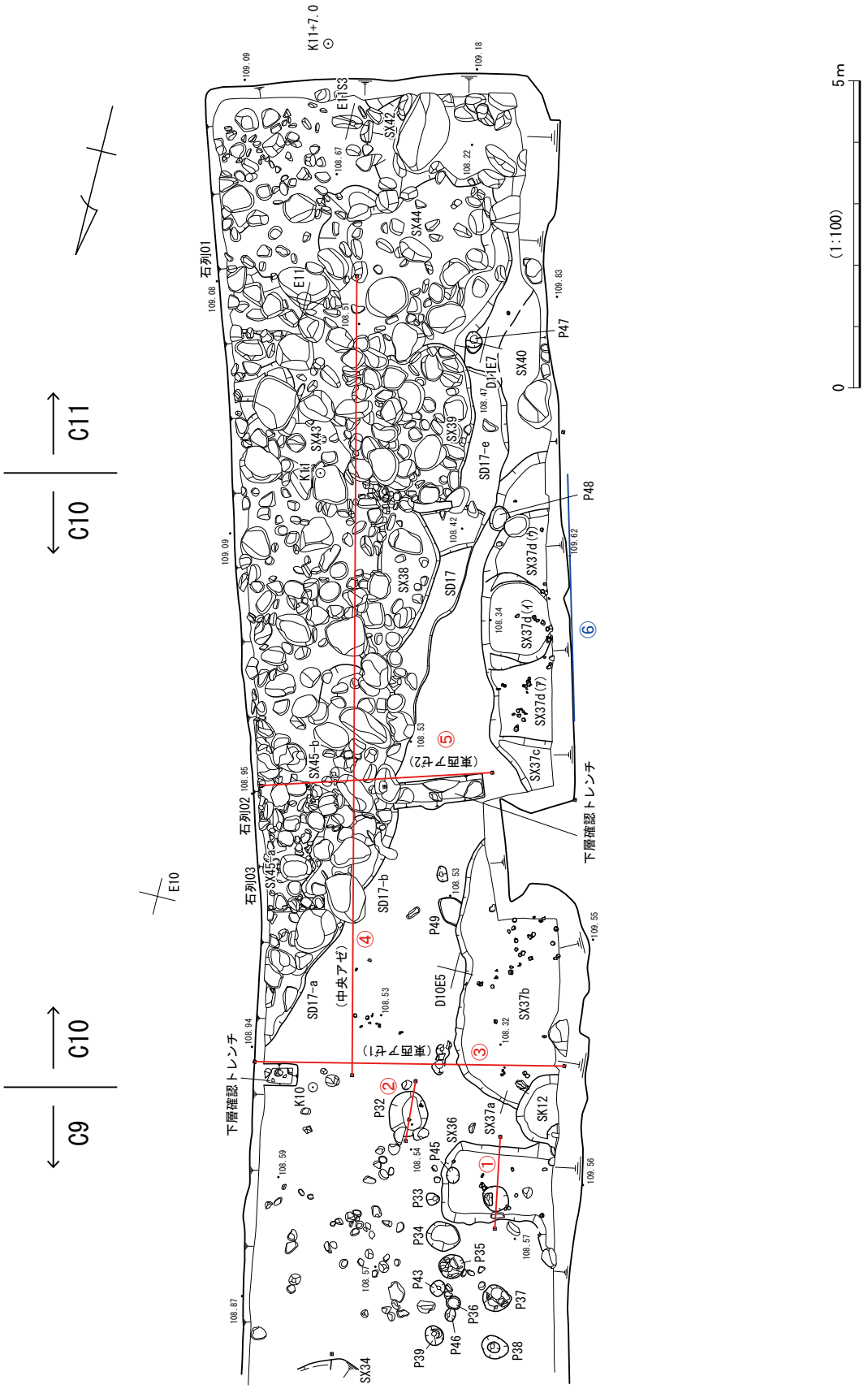
南北方向約10.5ｍ、深さ15～20㎝で検出した落ち込み(竪穴)状の遺構で、古代末～中世初頭の柱状高台皿を多く含むカワラケや底部に糸切り痕が残る土師器埦・皿、須恵器双耳瓶などが出土した。

Ⅱ面 C９ P32(第９・45・47図、図版13)

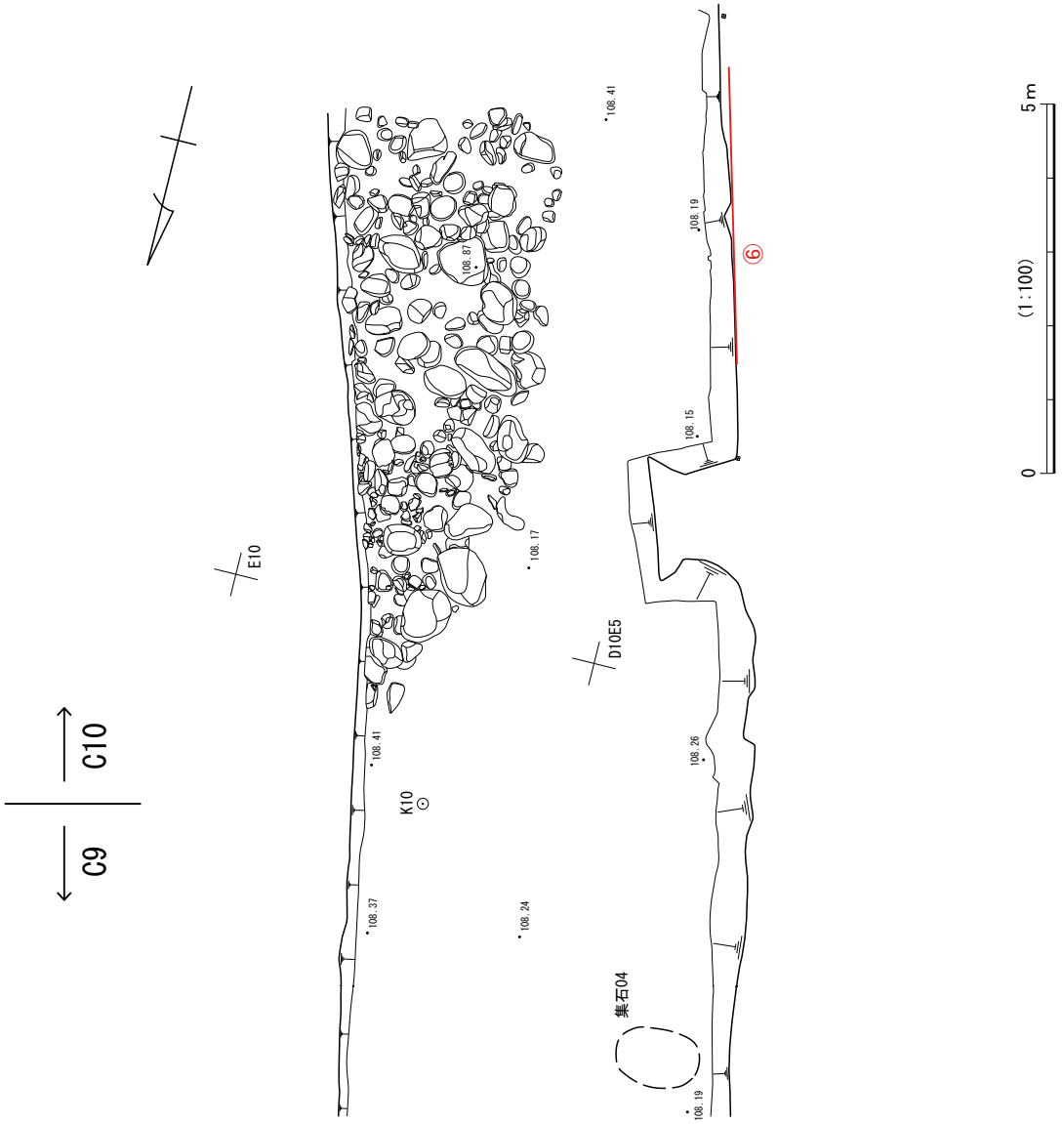
中央部に炭化物と焼土層を検出した直径60×75㎝の浅いピットで、カワラケ片が出土した。



第44図　C区Ⅰ面(C9～C11)、0面(C10・C11)平面図・断面図実測箇所図(S=1/100)

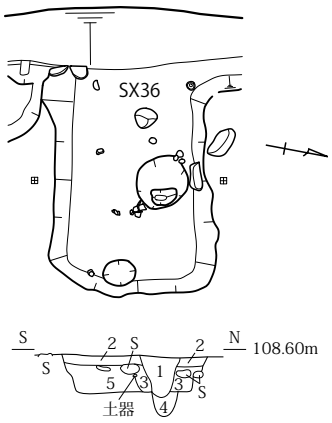


第45図　C区Ⅱ面(C9～C11)平面図・断面図実測箇所図(S=1/100)



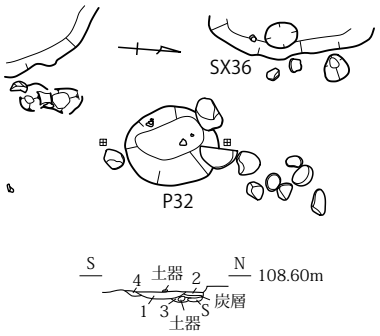
第46図　C区Ⅲ面(C9・C10)平面図・断面図実測箇所図(S=1/100)

①C 区Ⅱ面 C9 南 SX36 アゼ



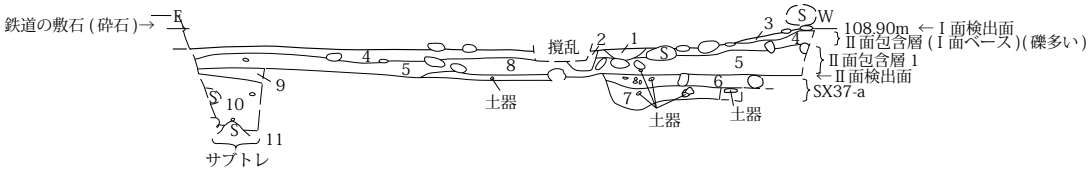
【C区 Ⅱ面C9南 SX36アゼ 】
1 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色土,小礫やや多混,炭化物少混
2 2.5Y4/4 オリーブ褐色土,小礫上位多混,土器少混
3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,礫混,炭化物少混,土器少混
4 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土
5 2.5Y4.5/4 オリーブ褐色土,礫少混,炭化物少混,土器混

②C 区Ⅱ面 C9 南 P32



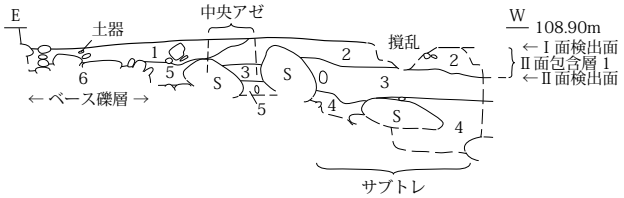
【C区 Ⅱ面C9南 P32 】
1 10YR4/4 褐色粘質土,小礫少混,炭化物多混,土器(焼土も混る?)混
2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土,炭化物やや多混,土器混
3 10YR4/4 褐色粘質土,炭化物少混
4 10YR4/4 褐色土

③C 区Ⅰ・Ⅱ面 C10 北 東西アゼ 1



【C区 Ⅰ・Ⅱ面C10 北東西アゼ1】
1 2.5Y4/3 オリーブ褐色土,小礫多混
2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土,小礫多混
3 2.5Y4/3 オリーブ褐色土,小礫多混(1層・中央アゼ21層と同じ?)
4 2.5Y4/4 オリーブ褐色土,礫多混,土器少混　(中央アゼ－34層)
5 2.5Y4/3 オリーブ褐色土,炭化物混,土器混　(中央アゼ－35層)
6 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘土,炭化物少混,土器少混(Ⅱ面SX37-a)
7 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土,土器多混(Ⅱ面SX37-a)
8 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘土
9 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土,砂混
10 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質土,粘性やや強,礫少混
11 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色粘質土,粘性やや強,砂混

⑤ C 区Ⅰ・Ⅱ面 C10 北 東西アゼ 2

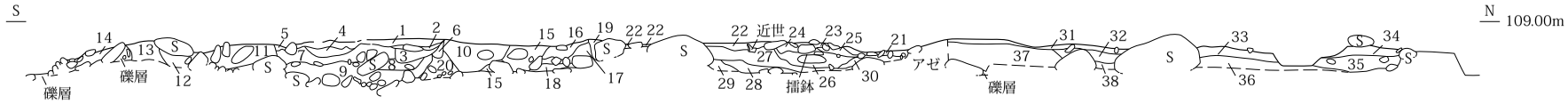


【C区 Ⅰ・Ⅱ面C10 北 東西アゼ2】
1 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土,土器少混　(中央アゼ-30層)
2 2.5Y4.5/3 黄褐色土小礫混,土器混　(中央アゼ-37層)
3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,炭化物少混
4 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土(無遺物層),砂少混,ベース(東西アゼ 10層に対応)
5 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土,礫少混,砂少混
6 礫層(ベース)

0　(1:60)　2m

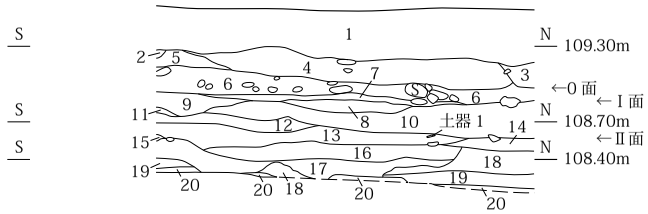
第47図　C区Ⅱ面(C9・C10)平面図・土層断面図1(S=1/60)

④C区Ⅰ・Ⅱ面C10・C11中央アゼ



【C区 Ⅰ・Ⅱ面 C10中央アゼ】
1 5Y5/2 灰オリーブ色土,小礫混,土器混
2 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
3 2.5Y4/2 暗灰黄色土
4 2.5Y4/3 オリーブ褐色土,土器混
5 5Y5/2 灰オリーブ色土,小礫混,土器混　(1層と同じ)
6 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土
7 10YR4/2 灰黄色粘土,礫混
8 2.5Y4/2 暗灰黄色土(7層よりやや暗),小礫混
9 2.5Y4/2 暗灰黄色土,礫多混,砂混
10 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色粘質土,小礫多混
11 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土,礫混
12 2.5Y4/2 暗灰黄色砂質土,やや粘性あり
13 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土,土器混
14 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色砂質土
15 2.5Y4/2 暗灰黄色土,礫混
16 2.5Y4/2 暗灰黄色土,小礫多く混
17.2.5Y4/3 オリーブ褐色土
18 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,小礫多混
19 2.5Y5/4 黄褐色土
20 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,砂礫多混
21 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土,小礫多混
22 2.5Y4/2.5 暗灰黄色土,小礫混,砂混,炭化物混,土器やや多混
23 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,礫混
24 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,礫混　(23層と同じ)
25 2.5Y4.5/2 暗灰黄色土
26 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,礫少混,炭化物少混,土器混(擂鉢)
27 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色粘質土,砂少混,土器少混(近世陶器)
28 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,砂混
29 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混
30 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土,土器少混
31 2.5Y5/3 黄褐色土,礫少混
32 2.5Y4/4 オリーブ褐色土
33 2.5Y4/4 オリーブ褐色土,炭化物少混,土器少混
34 2.5Y4/4 オリーブ褐色土,礫多混
35 2.5Y4/3 オリーブ褐色土,礫混,炭化物混,土器混
36 2.5Y5/3 黄褐色土
37 2.5Y4.5/3 黄褐色土,礫少混,土器少混
38 2.5Y4/3 オリーブ褐色土

⑥C区0～Ⅲ面C10西壁



【C区0～Ⅲ面C10西壁】
1 2.5Y4/2 暗灰黄色土,礫少混,しまり弱
2 10YR4/4 褐色土,礫少混
3 2.5Y4/4 オリーブ褐色土,礫やや多混
4 10YR4/4 褐色土,礫やや多混
5 10YR4/4 褐色土,礫やや多混,4層よりやや暗
6 2.5Y4/6 オリーブ褐色土,礫多混
7 2.5Y4/4 オリーブ褐色砂質土,黄褐色砂帯状に入,土器少混
8 2.5Y4/4 オリーブ褐色土,土器少混
9 2.5Y4/3 オリーブ褐色土
10 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土,炭化物混,土器やや多混
11 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂質土,炭化物混,土器やや多混　(10層と同じ)
12 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,土器混
13 2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土,砂混,炭化物混,土器混
14 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色粘質土,砂混,炭化物混,土器混
15 2.5Y4/2.5 オリーブ褐色粘質土,砂混,炭化物混,土器混　(14層と同じ)
16 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混,炭化物混,土器混
17 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質土,砂混,炭化物少混
18 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土,砂混
19 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質土,砂混,18層よりやや暗
20 2.5Y3/3 暗オリーブ褐色質土,砂混　(SX34-6層に対応)
※1層:表土,2層:0面遺構,3～6層:Ⅰ面包含層,7～12層:Ⅱ面包含層,13～15層:SX37,16層:SX37-dイ,17～20層:ベース

0　(1:60)　2m

第48図　C区Ⅱ面(C10・C11)、Ⅲ面(C10)土層断面図2(S=1/60)

第３節　遺　　物(第49～68図、第2～21表、図版21・22・32)

出土遺物は、調査区ごとに土器、石器・石製品、木製品・金属製品・銅銭に分けて図示した。調査地は後世の攪乱が著しく、同じ遺構面でも部分的な敷地の整地や建て替えなどで遺物の時期がずれているものもあり、遺物実測図・遺物観察表とも基本的にはA3北区やB8南区など5ｍグリッドごとに、上から下の面(層)へと遺構や包含層ごとに遺物を並べ提示した。また、遺物実測図・遺物写真記載の各面の表記はアラビア数字を使用しており、ローマ数字を用いた遺構図・遺構写真と対応する。

今回の調査では、平安時代後半～鎌倉時代前半頃の素焼きの土師器皿であるカワラケの出土量が大多数を占めている。その中で、埦・皿類の底部形態は、①無台なもの、②柱状高台という中実で厚くなったもの、③有台皿など輪状の高台持つものの3種類に大きく分けられる。さらに②柱状高台と③輪状高台それぞれ、底部の厚さがが薄いもの～極めて厚くなるものまであり、後者の中で中実の高台(第56図772)と輪状の高脚台を持つもの(第56図592)は、横からの見た目は高坏の脚状を呈する。

また、かわらけの成形方法には、回転台を用いて製作し、内外面がロクロナデで底部に糸切り痕を残す「ロクロ成形(Ａ)」と、いわゆる京都系土師器皿に代表される手づくねでつくられた「非ロクロ成形(Ｂ)」の2種類があり、遺物観察表では、土師器皿(カワラケ)の中で(Ａ)は調整欄の内外面にロクロナデの表記が、(Ｂ)は一番右の備考欄に非ロクロ(調整欄にはナデ・ヨコナデの表記が多い)と表記している。法量欄で「底厚」とした数値は中実の柱状高台を含む土器の底部の厚さを示し、「底高」としたものは、有台埦の台部や輪状高脚台を持つ土器の底部の高さを示している。

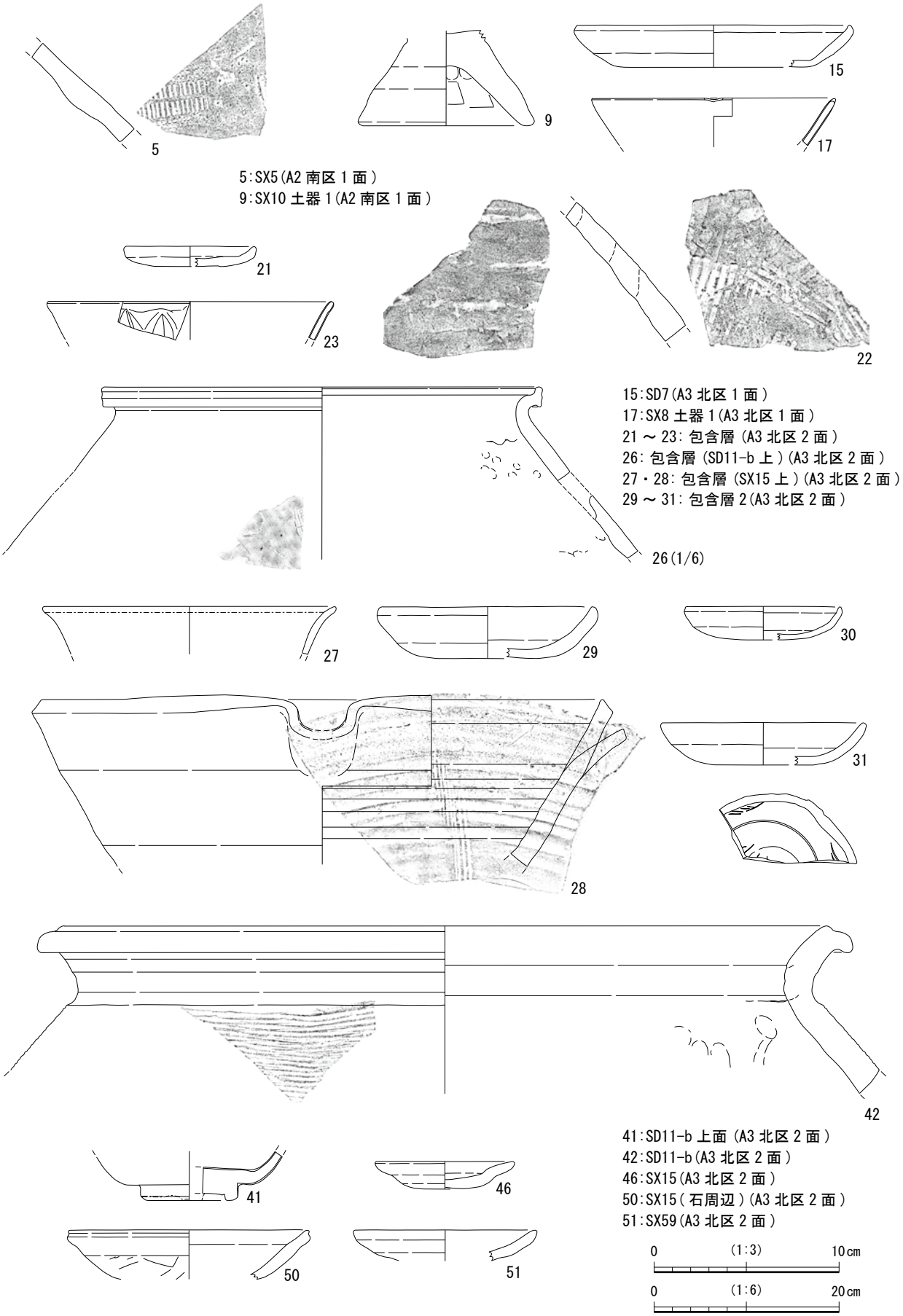
今回、未実測だが法量を計測・記録した土器にも遺物番号を振ったため、報告番号は連続していない。未実測土器の計測値も含めた検討は別稿に譲るが、掲載したカワラケは、形態の違いだけでなく、色調や胎土の違いなどの要素からも分類できる。今後、調査区・出土層位(面)・形・法量などを総合的に検討することで、古代～中世のカワラケの変遷を明らかにしていきたいと考えている。

１．Ａ区(第49～52図、第2～4・18表、図版15～19)

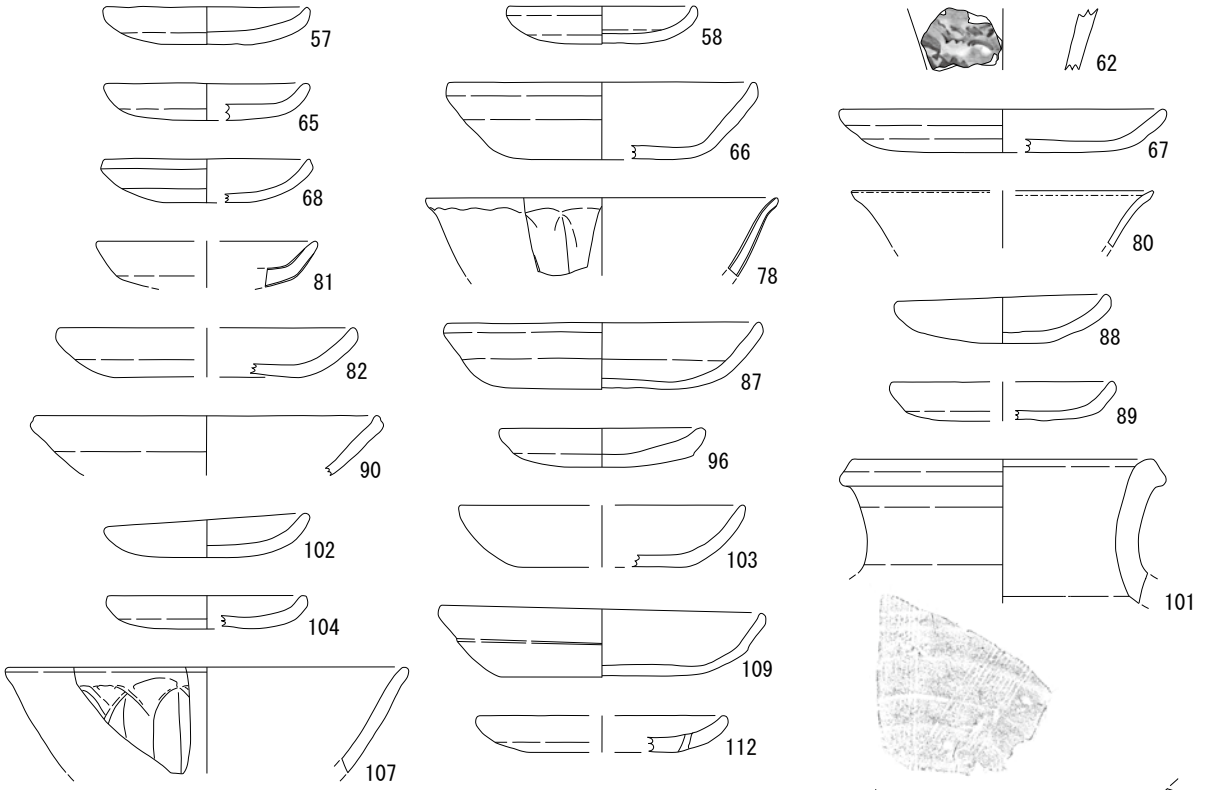
2面の遺構面を確認し、1・2面間の包含層からは、中世のカワラケ片が多く出土した。A4北区2面の土坑SX13からは、鎌倉時代前半とみられる細かく割れたカワラケ142～187がまとまって出土した。口径は7～15cm代のものまで幅があるが、169の口径6.4cmでいわゆる「コースター形」を呈する底部から口縁がすぐ折り返された浅いカワラケも含まれる。107はP91上面から出土した龍泉窯系鎬蓮弁文の青磁碗である。P93上面からは完形に近い土師器皿194・195が割れた状態で出土し、他に193の加賀焼Ⅱ期のすり鉢も出土した。A4南～B5北区にかけては部分的にⅡ面下に中世の遺物包含層を確認した。Ａ区からはカワラケや白磁・青磁の他にも珠洲・加賀・越前・瀬戸・常滑などの瓷器系陶器の出土が目立つ。石3は凝灰岩製の石鉢口縁、石4は鳴滝産の仕上げ砥石である。

２．Ｂ区(第53～59図、第4～9・18表、図版19～27)

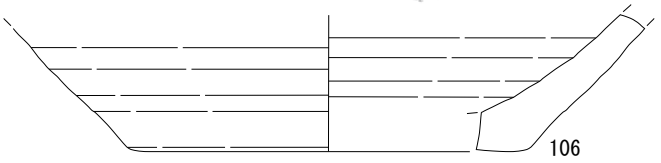
平安時代末頃～室町時代後半までの遺構面を5面確認し、各面の間には火災後の整地層に伴い炭化物や焼土とともに細かく割れたカワラケ片が多量に出土しており、遺物包含層として取り上げた。238～241・245は1面B5南区 SD02aから出土した非ロクロのカワラケで、口径7～9cm代を測る。他に246の青磁龍泉窯系劃花文碗が出土した。SD02bからは251の珠洲焼Ⅰ期の甕と252の加賀焼甕が出土した。下部に位置する2面B5南 SD27からは280～282の非ロクロのカワラケが出土し、口径6～9cm代を測る。さらに下部の3面SD36からは285・290の非ロクロのカワラケや286の菊花文の押印を持つ加賀



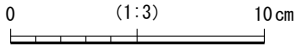
第49図　A区出土土器実測図1 (S=1/3・1/6)

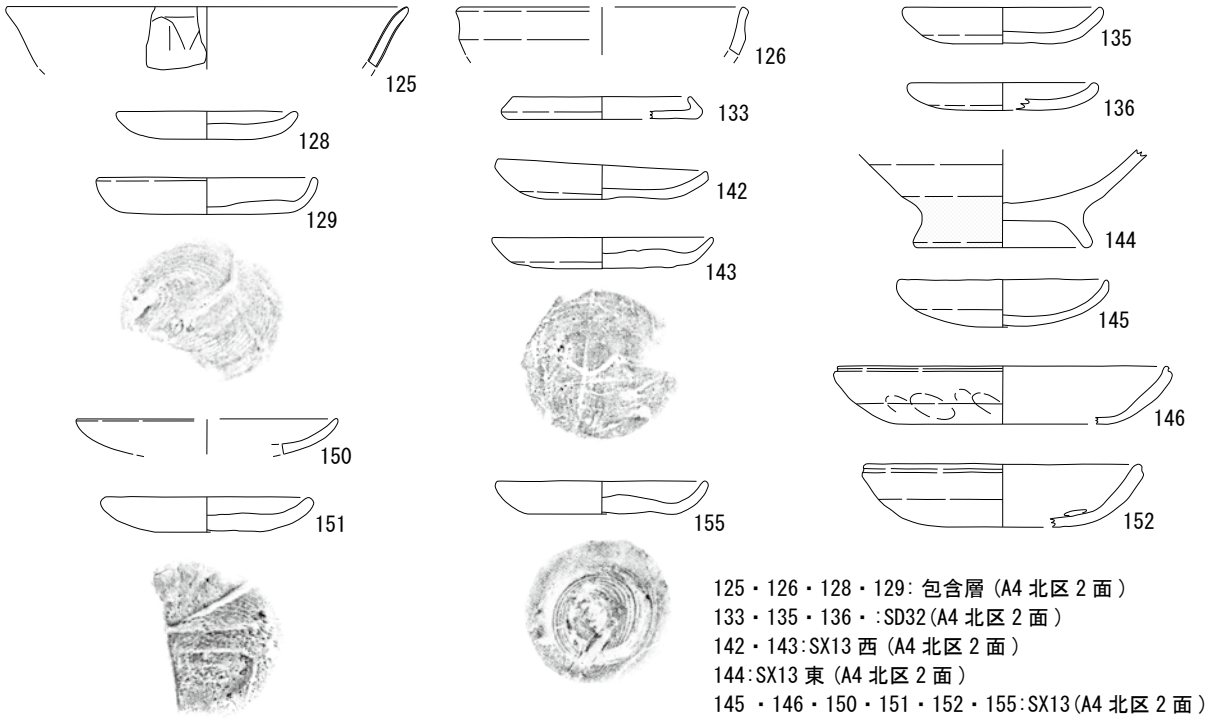


57・58:P85(A3 北区２面)
62:SX4(A3 南区１面)
65: 包含層 (A3 南区２面)
66 ～ 68: 包含層土器集中１(A3 南区２面)
78: 包含層 (SX15 上珠洲２下)(A3 南区２面)
80 ～ 82: 包含層２(A3 南区２面)
87:SD11-e(A3 南区２面)
88 ～ 90: 包含層２(A3 南区２面)
96:SK18(A3 南区２面)



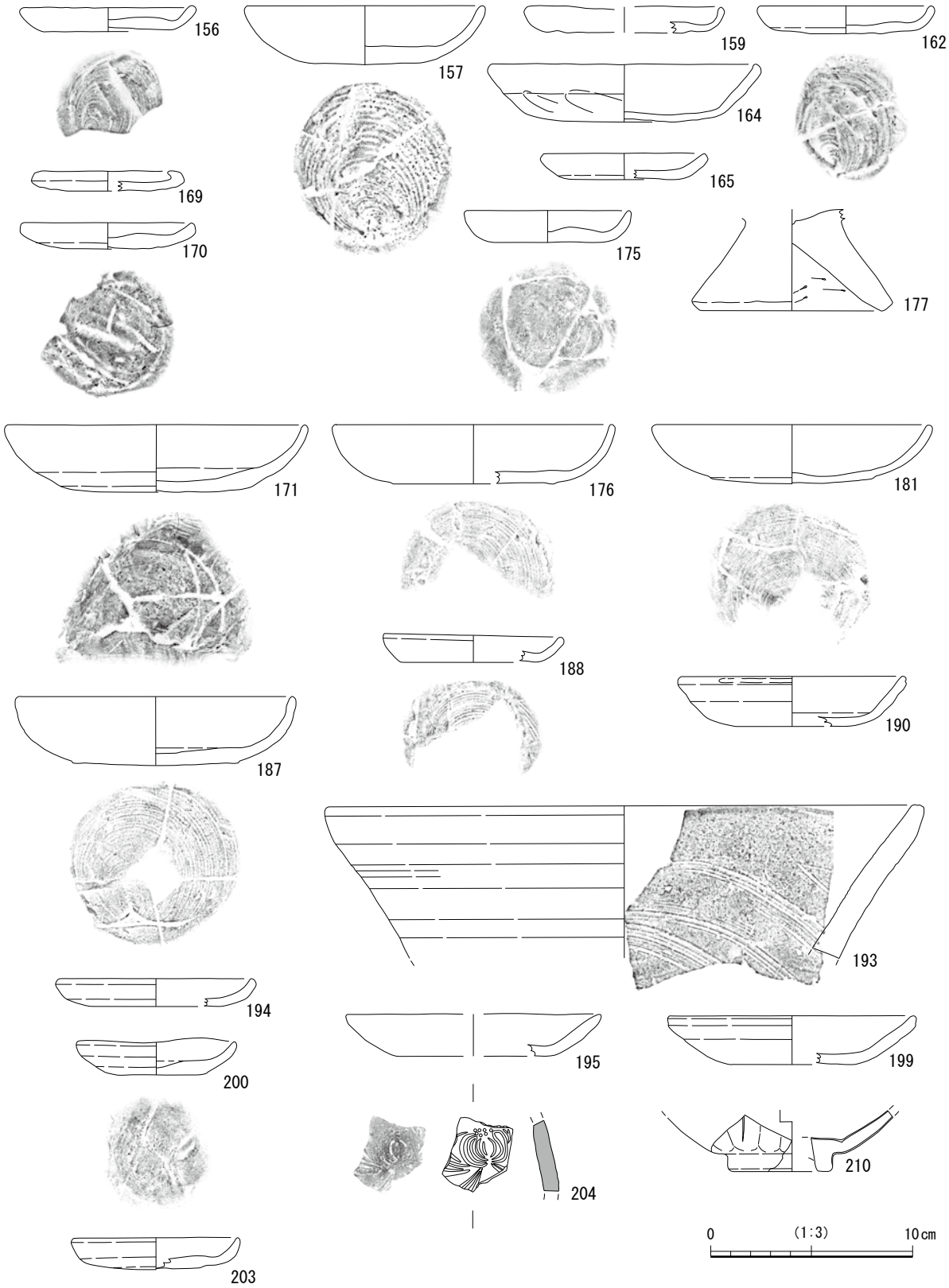
101:SX16 アゼ (A3 南区２面)
102:SX16(P92 アゼ)(A3 南区２面)
103・104:SX16(P94 周りアゼ)(A3 南区２面)
106・107・109・112:Pit(A3 南区２面)





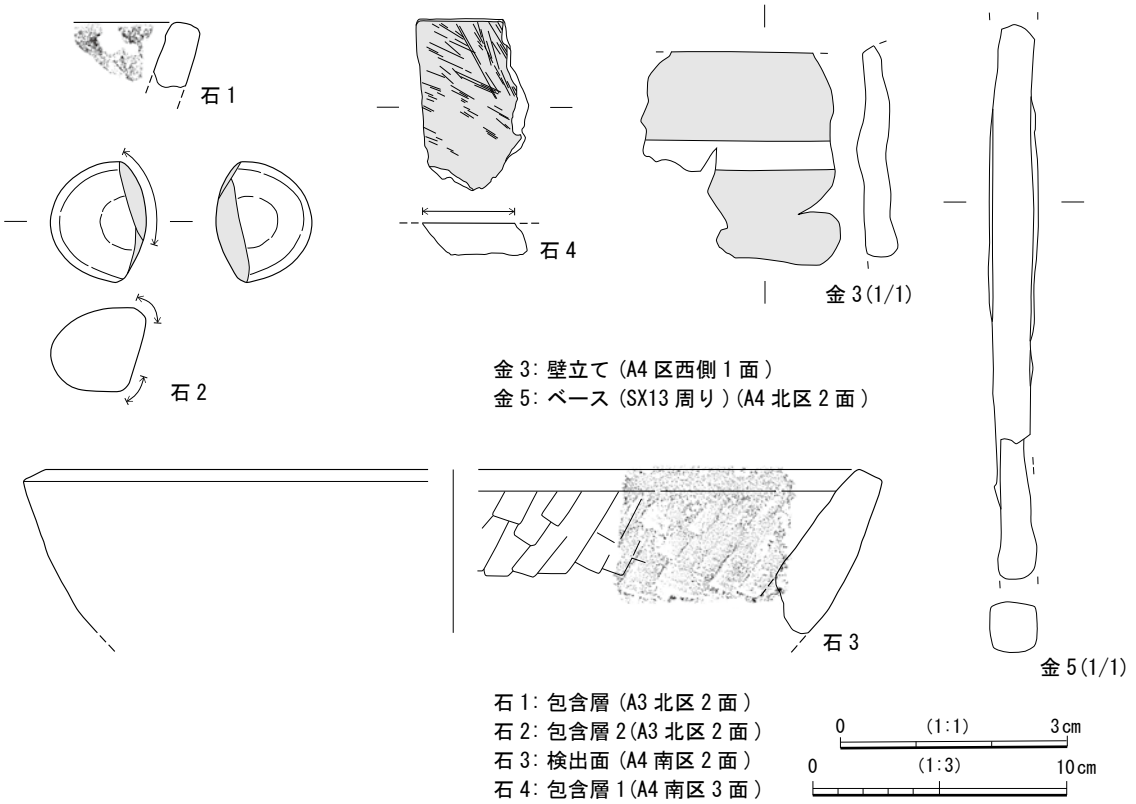
125・126・128・129: 包含層 (A4 北区２面)
133・135・136・:SD32(A4 北区２面)
142・143:SX13 西 (A4 北区２面)
144:SX13 東 (A4 北区２面)
145 ・146・150・151・152・155:SX13(A4 北区２面)

第50図　A区出土土器実測図２ (S=1/3)



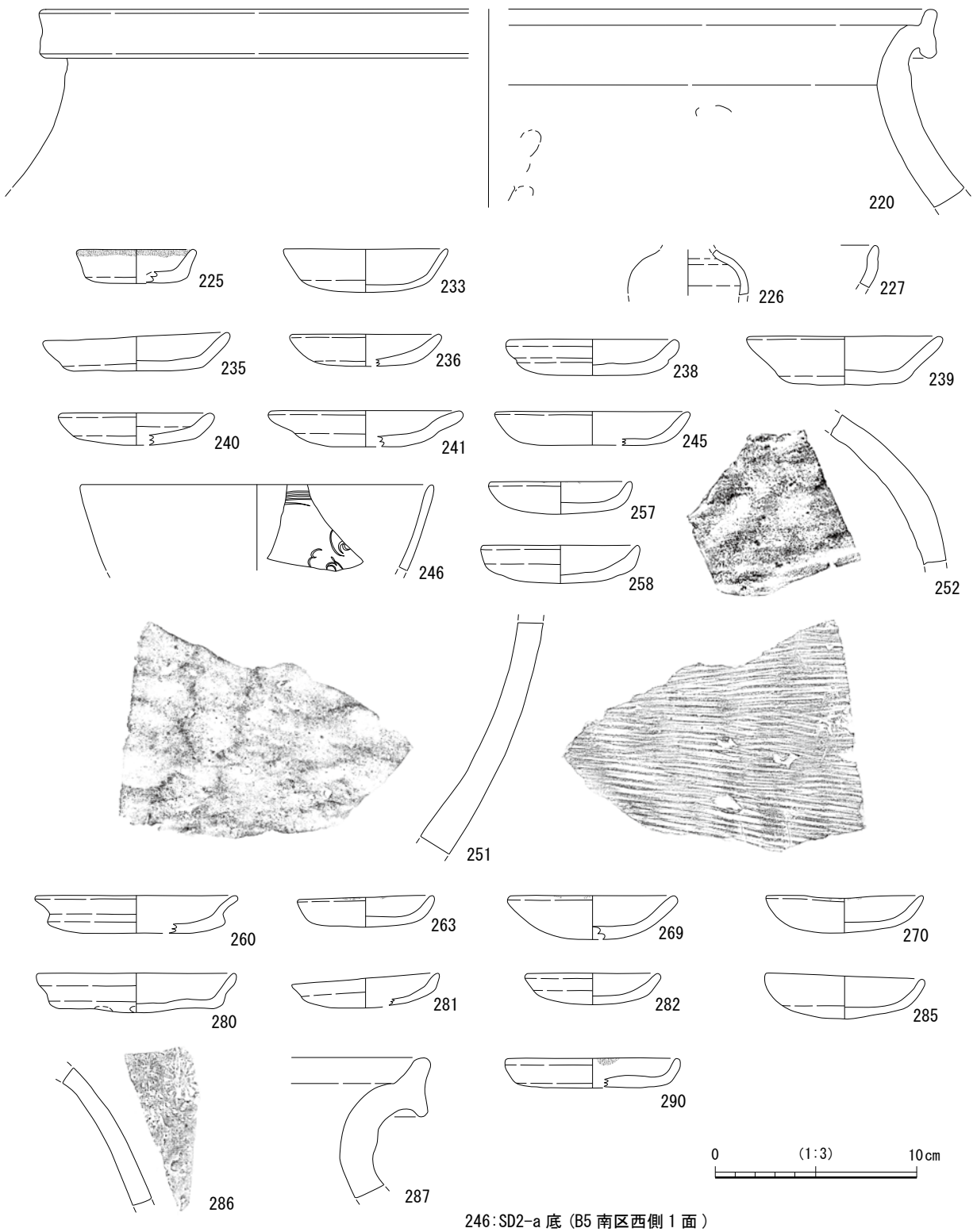
156・157・159・162・164・165・
169～171・175～177:SX13(A4 北区 2 面)
181:SX13-a(A4 北区 2 面)
187・188:SX13 最下層 (A4 北区 2 面)
190:SX61(A4 北区 2 面)
193～195・199:Pit(A4 北区 2 面)
200: ベース (A4 北区 2 面)
203: ベース (SX61 東側)(A4 北区 2 面)
204: 包含層 (A4 南区 2 面)
210: 包含層 2(A4 南区西側 2 面)

第51図　A区出土土器実測図3 (S=1/3)



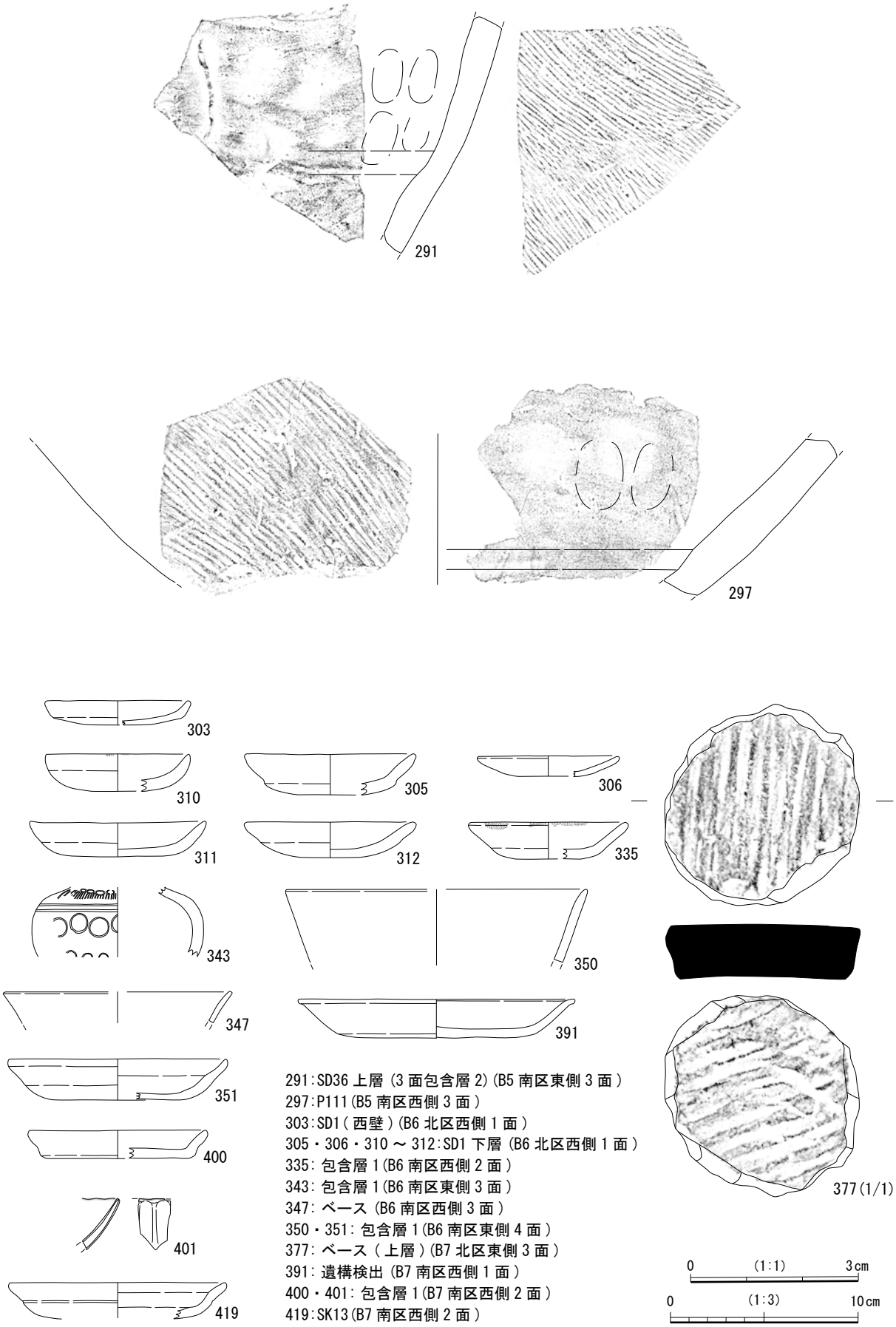
第52図　A区出土石器・石製品・金属製品実測図（S=1/1・1/3）

焼甕、287の越前焼甕、291の珠洲焼甕が出土した。303～312は、B6北１面SD01出土の非ロクロのカワラケで、口径７～９cm代を測る。310は口縁に燈芯油痕が残る灯明皿、343はB6南３面包含層１出土の古瀬戸中期の合子である。401はB7南区２面包含層１出土の白磁口錆の菊皿で室町時代後半とみている。420・421はB7南区２面SX46出土のカワラケで、421は口縁に燈芯の油痕が残る灯明皿である。B7南区３面SX64出土の439は龍泉窯系鎬蓮弁文を持つ青磁鉢または碗で、440は非ロクロのカワラケである。B7南区３面SX67出土の451は輪状の高脚台を持つ有台皿で、452は底部に回転糸切り痕を残す口径12cm、器高3.3cmの土師器皿で、４面SX64出土の破片と接合する。B8北区１面SX28(土器溜まり)から496～498の口径８～11cm代の非ロクロカワラケとともに499の円盤状土製品や500の有台皿の輪状高脚台が出土した。506・509はB8北区１面SX29の道状遺構出土の非ロクロカワラケである。B8北５面SK19の竪穴状遺構からは594の非ロクロ成形のカワラケ以外はロクロ成形が主であり、587･589は(無台)埦、588・591は有台埦、590・593は(無台)皿、592は輪状高台を持つ有台皿の脚台部である。元々中実につくられた底部糸切りの柱状高台の内面を工具で削り取り輪状に成形したとみられ、粘土の節約や乾燥の進展などの効果があると考えている。外見からは中実タイプの柱状高台との区別はできない。B8南区１面の礫敷遺構SX17から口径６～９cm代を測る606～621の非ロクロカワラケが出土した。607は焼成時に還元状態で須恵器のように硬質化している。622～669はB8南区１面SX18(土器溜まり)出土の非ロクロカワラケで、口径５～11cm代を測る。B8南区２面包含層１・２と３面ベースからは口径５～11cm代を測る685～762の非ロクロカワラケが出土した。礎石建物SB01や礎石列07～10周辺のB8南区４面包含層１・２からは、口径７～13cm代を測る773～778の非ロクロのカワラケとともにロクロ成形の無台埦779・807や中実タイプの柱状高台で底部が糸切りされ底厚な772・806、須恵器広口瓶780などが出土した。



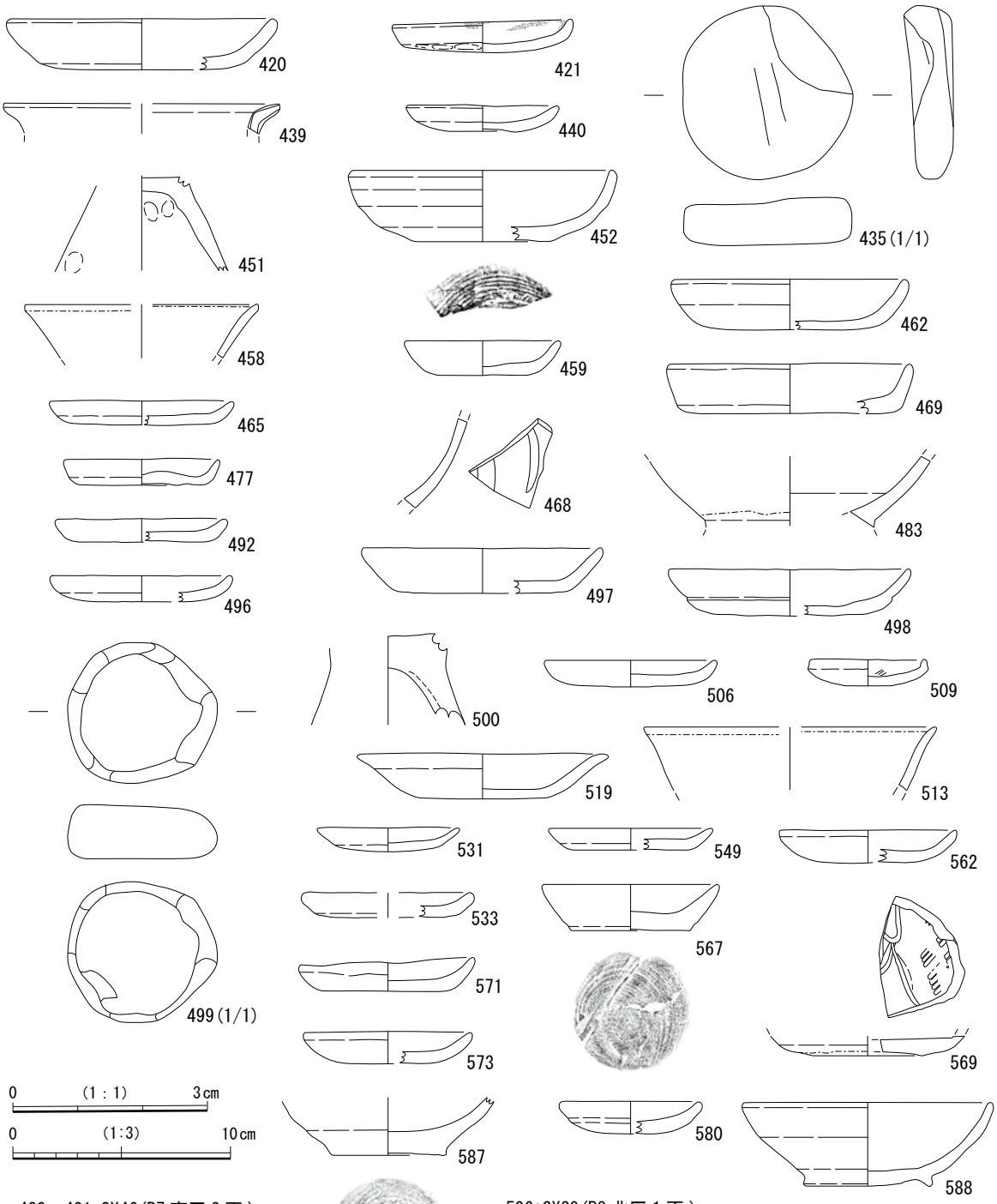
220:SD2-a 下層 (B5 北区 1 面)
225: 包含層 1(B5 北区西側 2 面)
233: 包含層 1(B5 北区中央 3 面)
226・227: 包含層 1(B5 北区東側 2 面)
235:SD1-a(B5 南区 1 面)
236:SD1-a 西 (B5 南区西側 1 面)
238 ～ 241:SD2-a(B5 南区 1 面)
245:SD2-a 下層 (B5 南区東側 1 面)
246:SD2-a 底 (B5 南区西側 1 面)
251・252:SD2-a 底 (集石)(南側石列下含む)(B5 南区東側 1 面)
257: 包含層 (B5 南区東側 2 面)
258: 包含層　土師 1(B5 南区 2 面)
260: 包含層 (B5 南区 2 面)
263: 包含層 (B5 南区西側 2 面)
269・270: 包含層 2(B5 南区東側 2 面)
280 ～ 282: 包含層 1(SD27 下)(B5 南区東側 3 面)
285 ～ 287・290:SD36 上層 (3 面包含層 2)(B5 南区東側 3 面)

第53図　B区出土土器実測図1 (S=1/3)



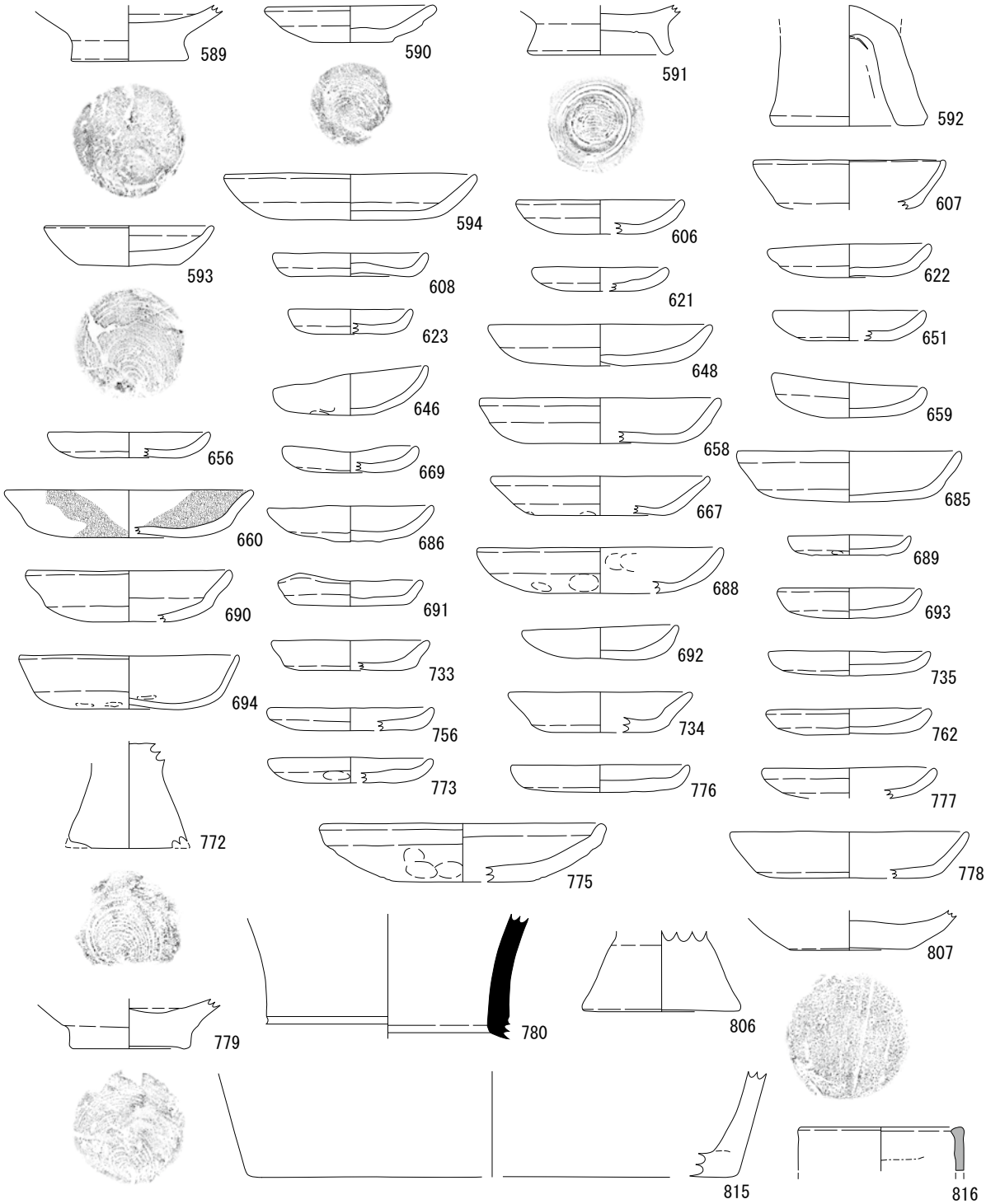
291:SD36 上層（3 面包含層 2）(B5 南区東側 3 面）
297:P111(B5 南区西側 3 面）
303:SD1（西壁）(B6 北区西側 1 面）
305・306・310 ～ 312:SD1 下層（B6 北区西側 1 面）
335: 包含層 1(B6 南区西側 2 面）
343: 包含層 1(B6 南区東側 3 面）
347: ベース（B6 南区西側 3 面）
350・351: 包含層 1(B6 南区東側 4 面）
377: ベース（上層）(B7 北区東側 3 面）
391: 遺構検出（B7 南区西側 1 面）
400・401: 包含層 1(B7 南区西側 2 面）
419:SK13(B7 南区西側 2 面）

第54図　B区出土土器実測図２（S=1/3）



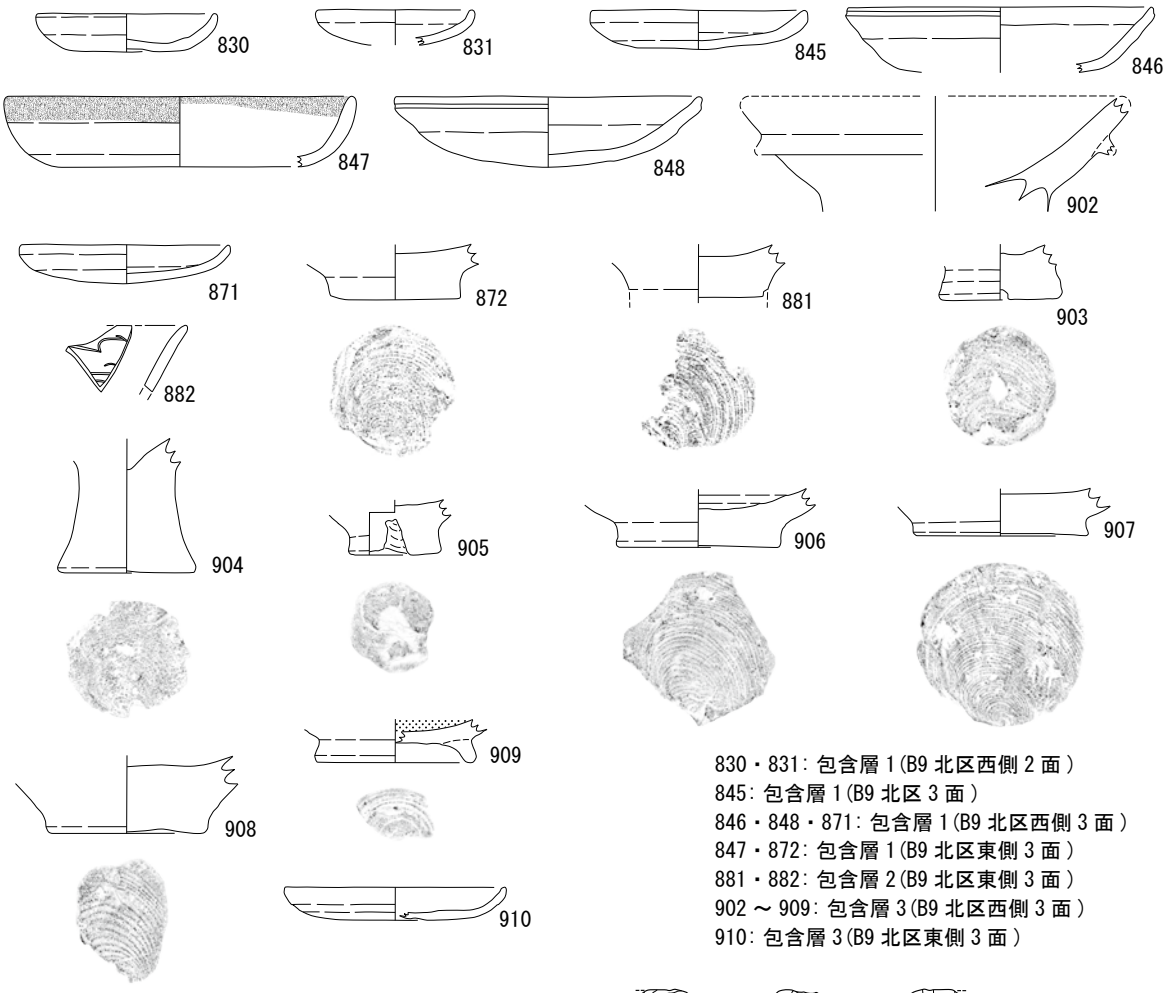
420・421:SX46(B7 南区 2 面)
435: 包含層 2(B7 南区東側 3 面)
439・440:SX64(B7 南区 3 面)
451・452:SX67(B7 南区 3 面)
458:SX68(B7 南区東側 3 面)
459:SX70(B7 南区東側 3 面)
462: ベース(礎石 17 南側アゼ)(B7 南区東側 3 面)
465: 包含層 1(SX46 西側周辺)(B7 南区東側 4 面)
468: 包含層 1(SX68 下)(B7 南区 4 面)
469: 包含層 1(SX68 下)(B7 南区東側 4 面)
477: 包含層 1(礎石 16 ～ 17 アゼ)(B7 南区東側 4 面)
483: 包含層 1(礎石 17 南西側)(B7 南区東側 4 面)
492:SK9 石下 (B8 北区 1 面)
496 ～ 500:SX28(B8 北区 1 面)
506:SX29(B8 北区 1 面)
509:SX29 下層 (B8 北区 1 面)
513:P26(カクラン)(B8 北区 1 面)
519: 包含層 1(B8 北区西側 2 面)
531: 包含層 2(B8 北区西側 2 面)
533:SX47(B8 北区 2 面)
549:SX49(B8 北・南区 2 面)
562: ベース (SX47・48 間)(B8 北区東側 3 面)
567: ベース (SX55 北側)(B8 北区北西側 3 面)
569: 包含層 1(B8 北区東側 4 面)
571: 包含層 1(SX47 南側)(B8 北区東側 4 面)
573: 包含層 1(SX47 ～ 49 下周辺)(B8 北区東側 4 面)
580: 包含層 1(SX48・49 下周辺)(B8 北区東側 4 面)
587・588:SK19(B8 北区 5 面)

第55図　B区出土土器実測図3 (S=1/1・1/3)

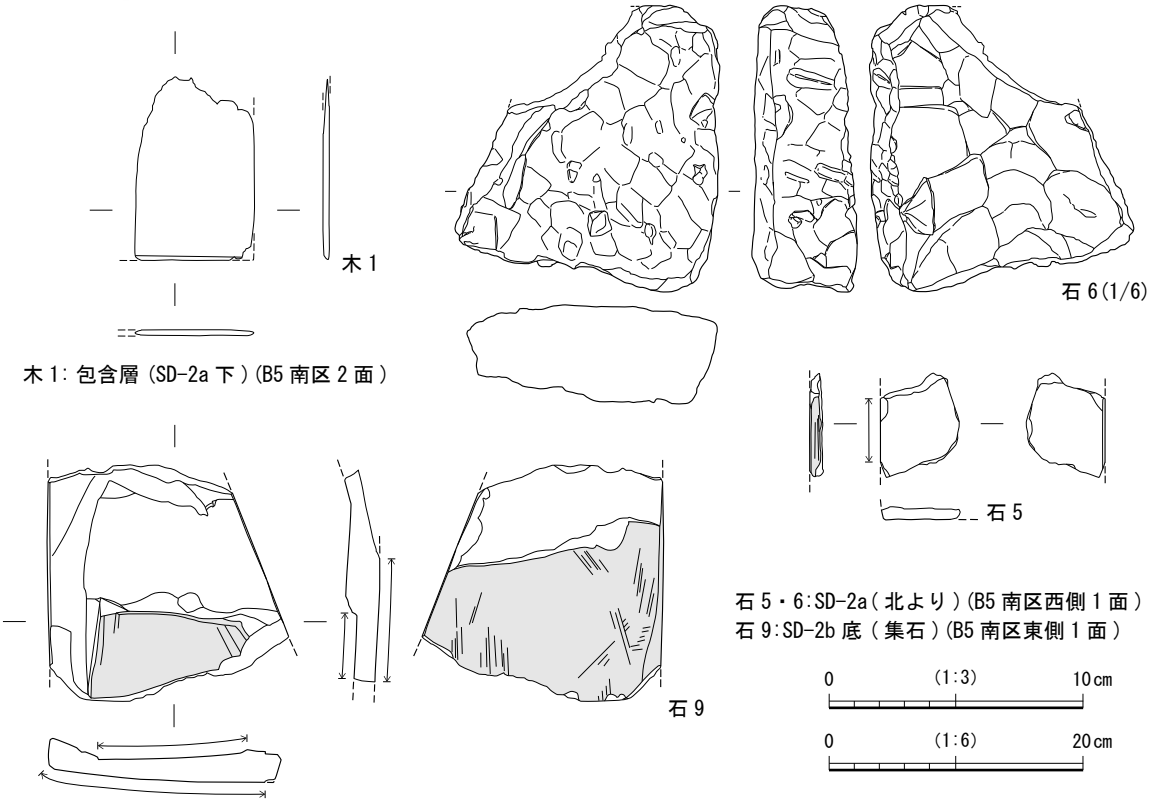


589 ～ 594:SK19(B8 北区 5 面)
606 ～ 608: 遺構検出 (SX17 含む)(B8 南区西側 1 面)
621:SX17(B8 南区 1 面)
622・623:SX18(B8 南区 1 面)
646・648・651・656・
658 ～ 660・667・669:SX18(B8 南区 1 面)
685・686: 包含層 1(B8 南区 2 面)
688 ～ 694: 包含層 1(B8 南区西側 2 面)
733 ～ 735: 包含層 2(B8 南区 2 面)
756: ベース (B8 南区東側 2 面)
762: ベース (礎石 1・2 周辺)(B8 南区東側 3 面)
772: 包含層 1(礎石 1 東側下)(B8 南区東側 4 面)
773: 包含層 1(礎石 1 ～ 3 アゼ)(B8 南区東側 4 面)
775 ～ 780: 包含層 1(礎石 1 ～ 3 周辺)(B8 南区 4 面)
806・807: 包含層 2(礎石 7 ～ 10 北側下)(B8 南区東側 4 面)
815: 遺構検出 (カクラン)(B9 北区西側 1 面)
816: 検出面精査 (B9 北区 1 面)

第56図　B区出土土器実測図４ (S=1/3)



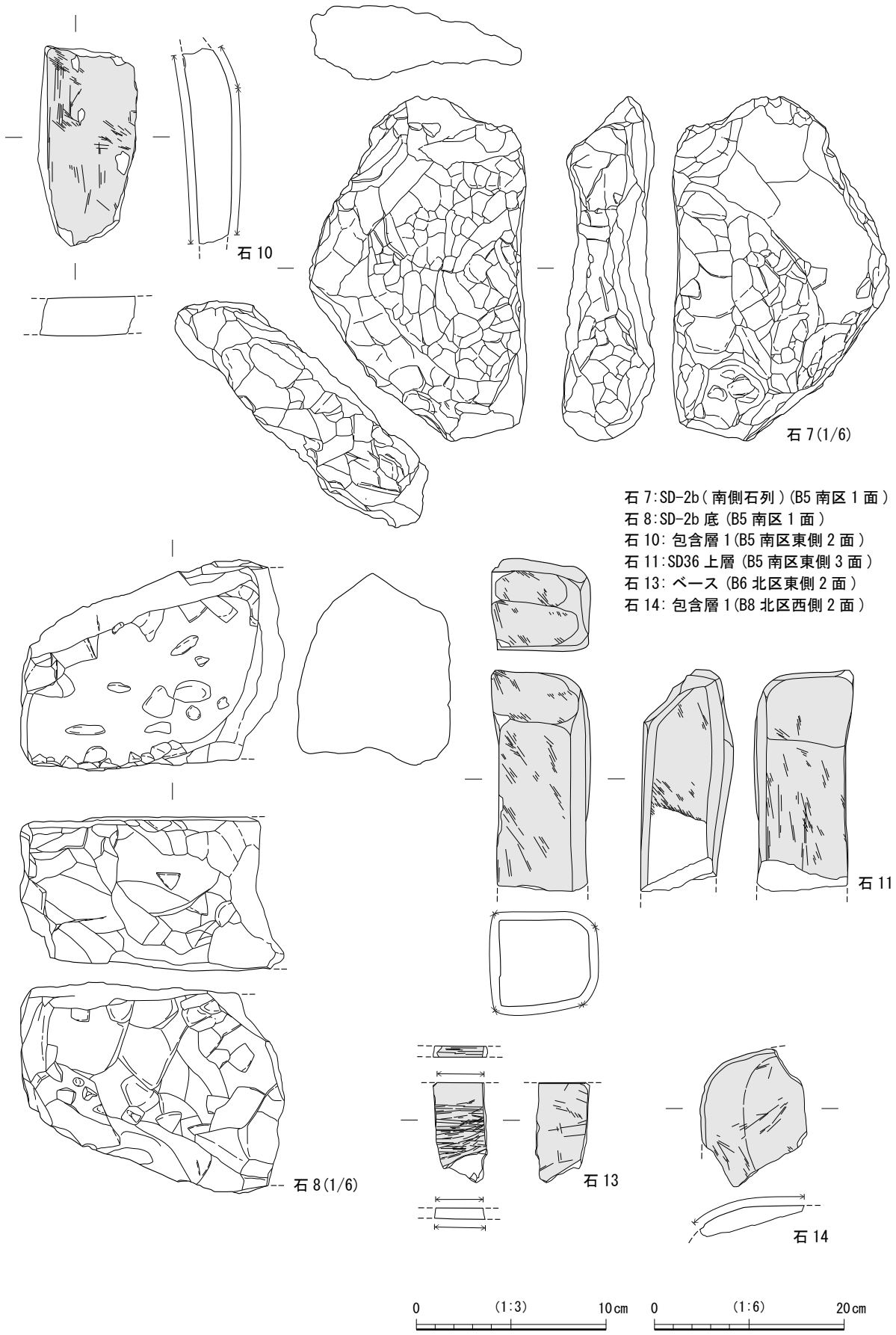
830・831: 包含層 1(B9 北区西側 2 面)
845: 包含層 1(B9 北区 3 面)
846・848・871: 包含層 1(B9 北区西側 3 面)
847・872: 包含層 1(B9 北区東側 3 面)
881・882: 包含層 2(B9 北区東側 3 面)
902 ～ 909: 包含層 3(B9 北区西側 3 面)
910: 包含層 3(B9 北区東側 3 面)



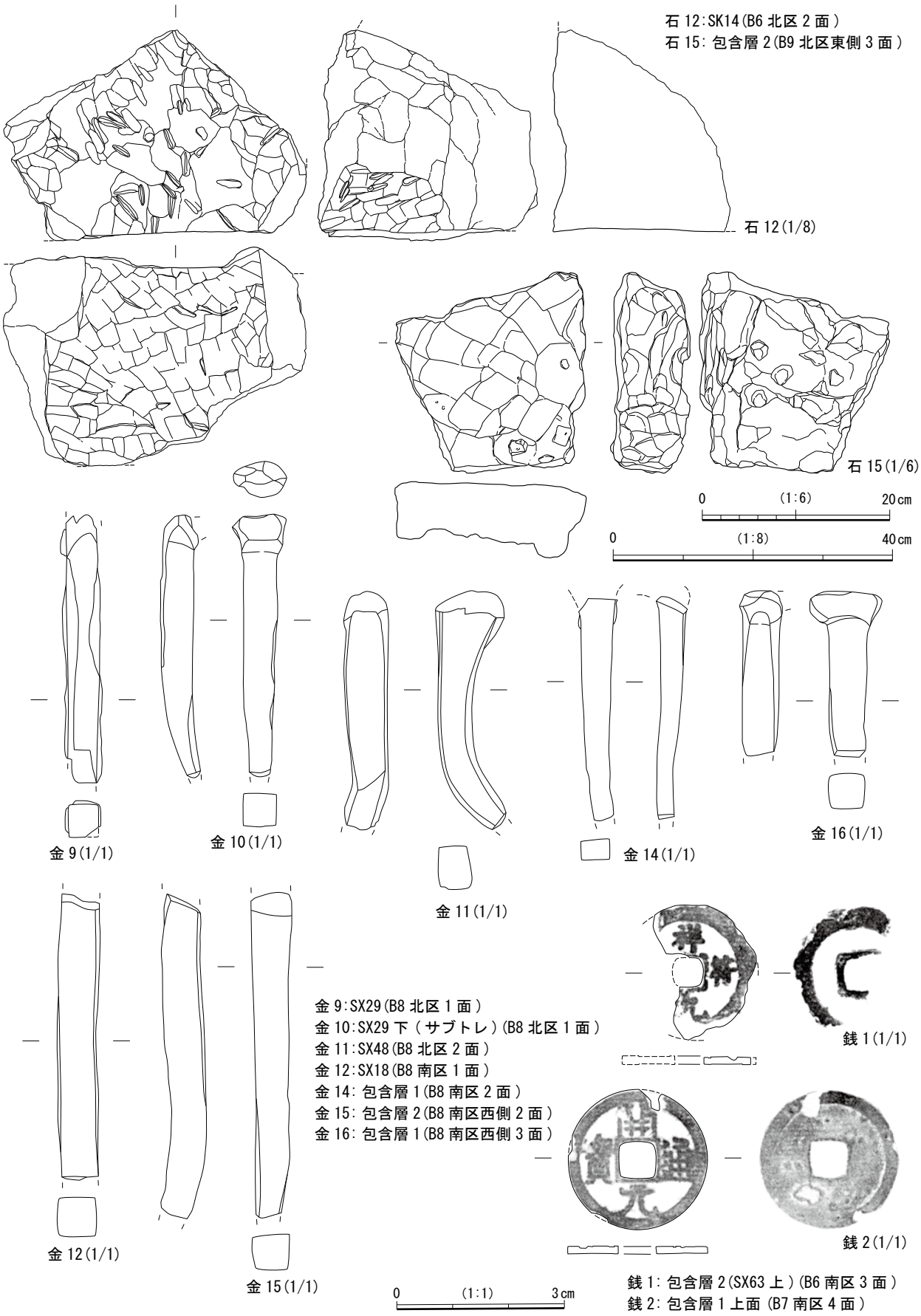
木 1: 包含層 (SD-2a 下)(B5 南区 2 面)

石 5・6:SD-2a(北より)(B5 南区西側 1 面)
石 9:SD-2b 底 (集石)(B5 南区東側 1 面)

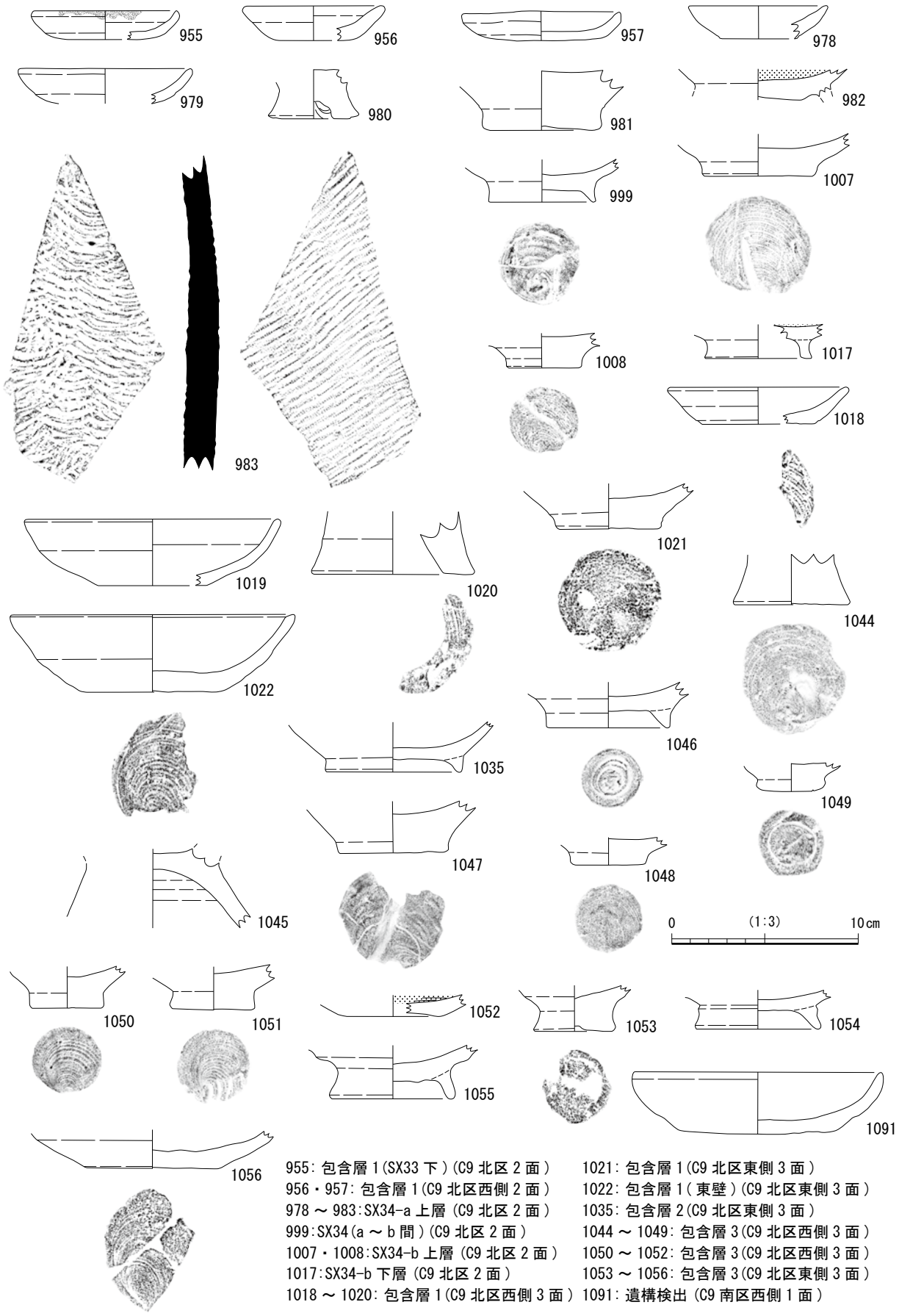
第57図　B区出土土器実測図5・木製品・石器・石製品実測図1 (S=1/3・1/6)



第58図　B区出土石器・石製品実測図２（S=1/3・1/6）

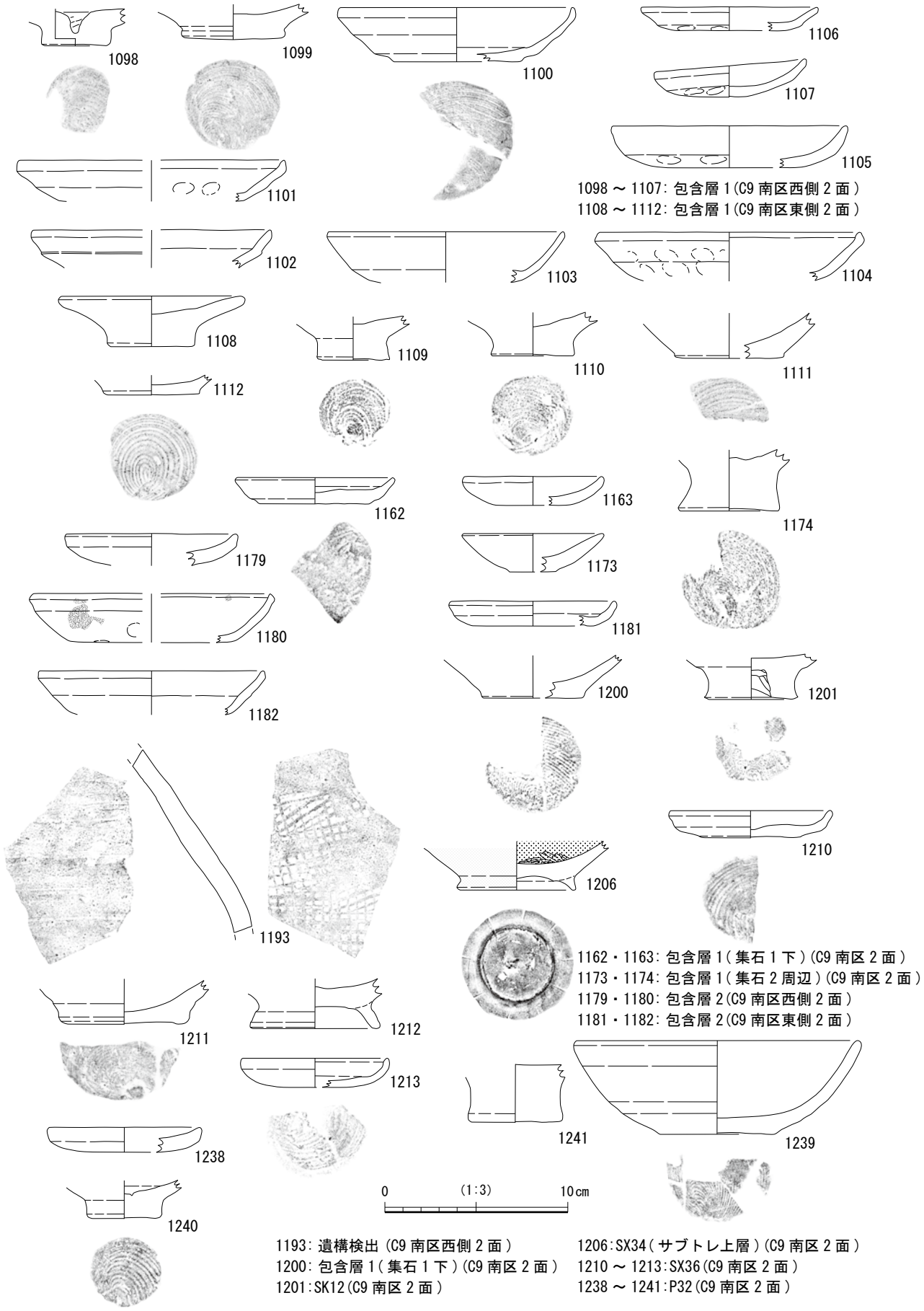


第59図　B区出土石器・石製品実測図3・金属製品・銅銭実測図 (S=1/1・1/6・1/8)

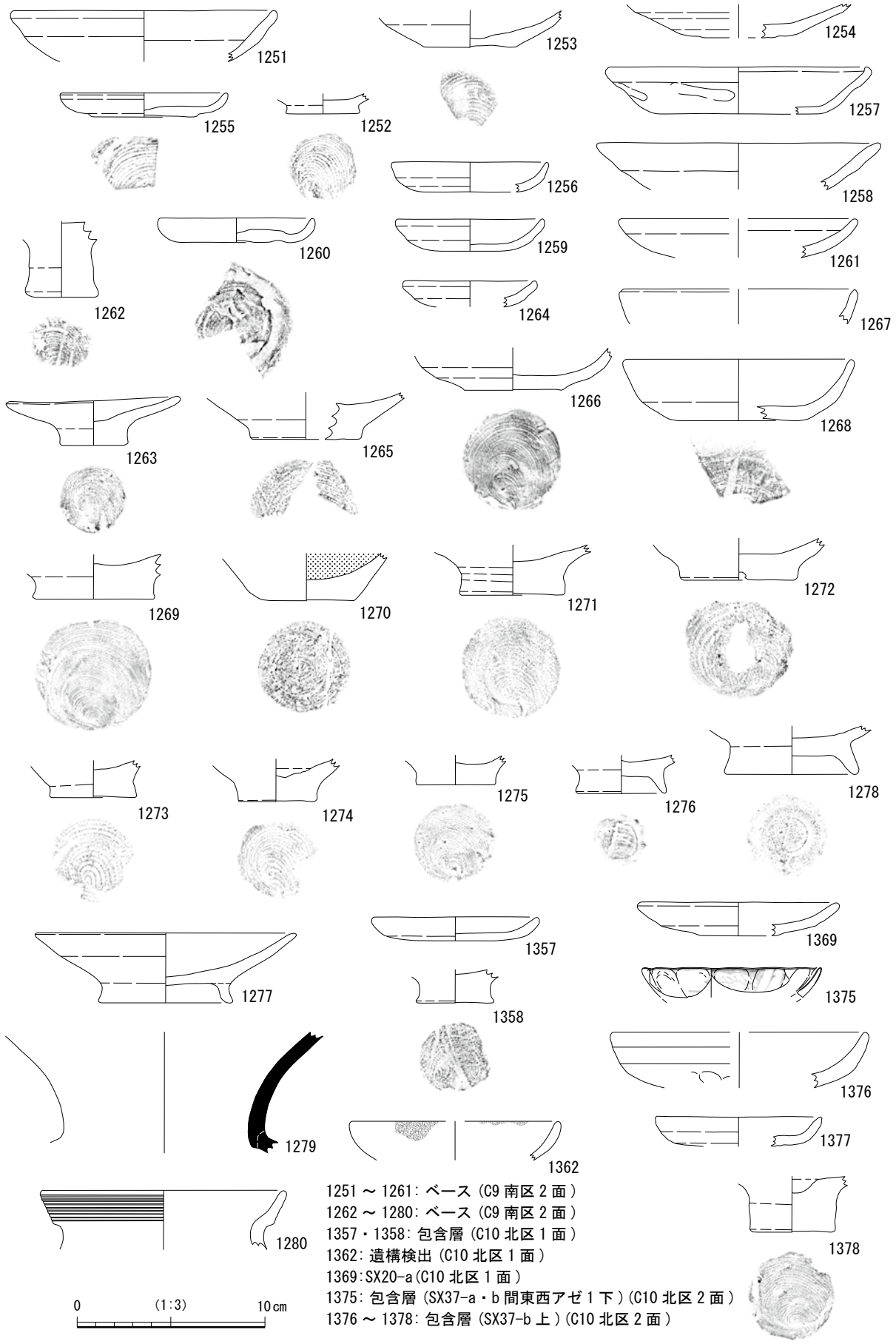


955: 包含層 1(SX33 下)(C9 北区 2 面)
956・957: 包含層 1(C9 北区西側 2 面)
978 ～ 983:SX34-a 上層 (C9 北区 2 面)
999:SX34(a ～ b 間)(C9 北区 2 面)
1007・1008:SX34-b 上層 (C9 北区 2 面)
1017:SX34-b 下層 (C9 北区 2 面)
1018 ～ 1020: 包含層 1(C9 北区西側 3 面)
1021: 包含層 1(C9 北区東側 3 面)
1022: 包含層 1(東壁)(C9 北区東側 3 面)
1035: 包含層 2(C9 北区東側 3 面)
1044 ～ 1049: 包含層 3(C9 北区西側 3 面)
1050 ～ 1052: 包含層 3(C9 北区西側 3 面)
1053 ～ 1056: 包含層 3(C9 北区東側 3 面)
1091: 遺構検出 (C9 南区西側 1 面)

第60図　C区出土土器実測図1 (S=1/3)

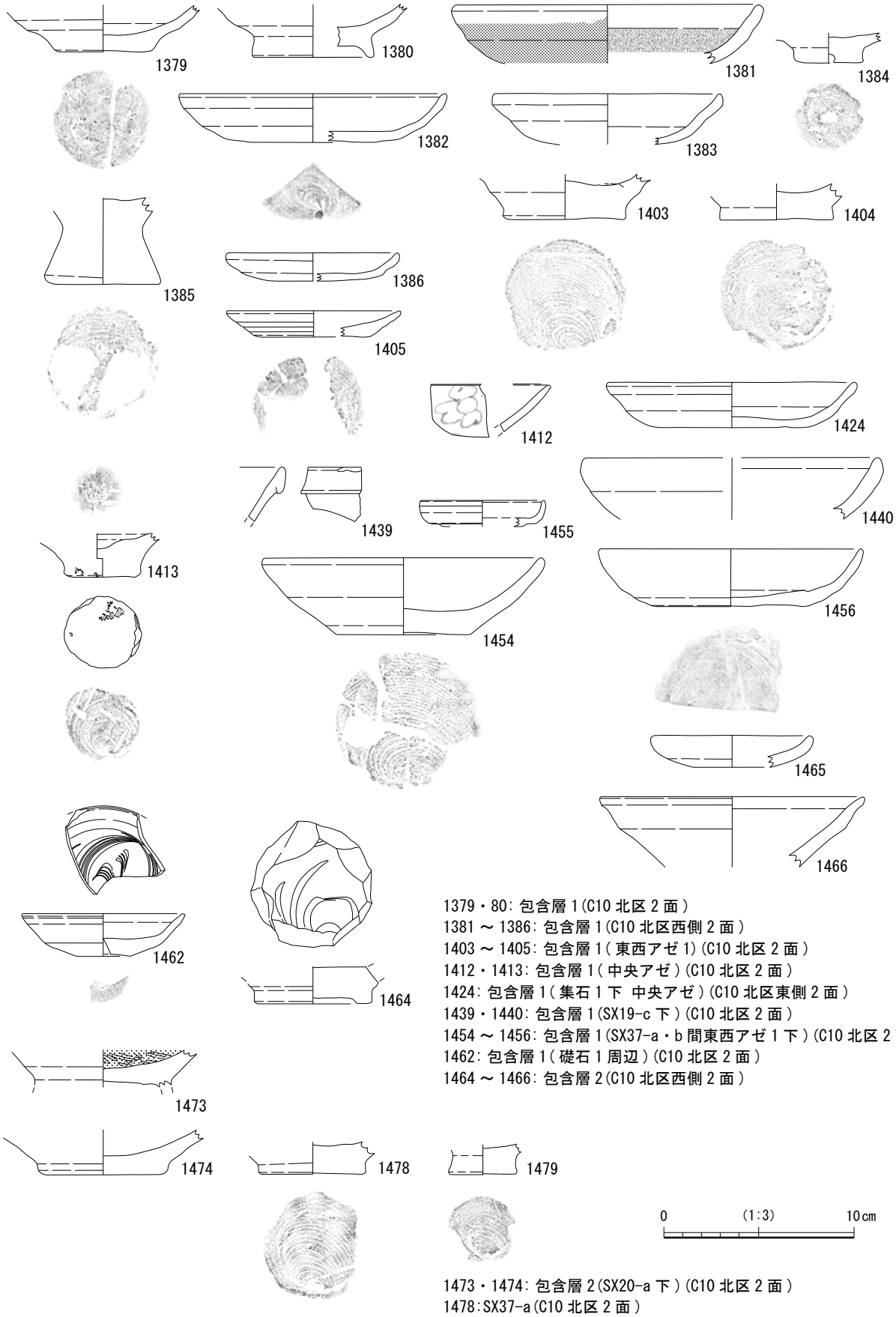


第61図　C区出土土器実測図2 (S=1/3)



1251 ～ 1261: ベース (C9 南区 2 面)
1262 ～ 1280: ベース (C9 南区 2 面)
1357・1358: 包含層 (C10 北区 1 面)
1362: 遺構検出 (C10 北区 1 面)
1369:SX20-a(C10 北区 1 面)
1375: 包含層 (SX37-a・b 間東西アゼ 1 下)(C10 北区 2 面)
1376 ～ 1378: 包含層 (SX37-b 上)(C10 北区 2 面)

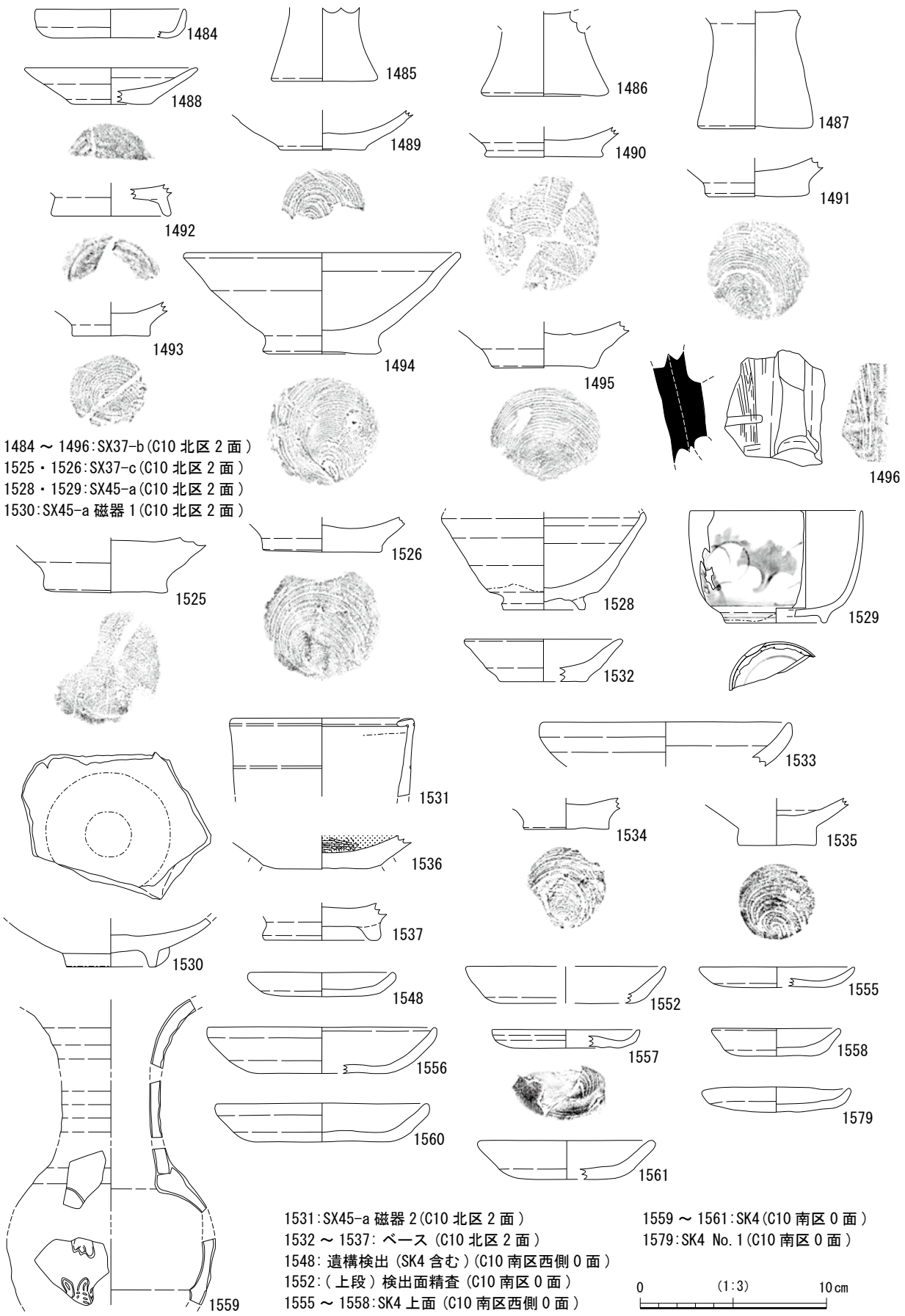
第62図　C区出土土器実測図3 (S=1/3)



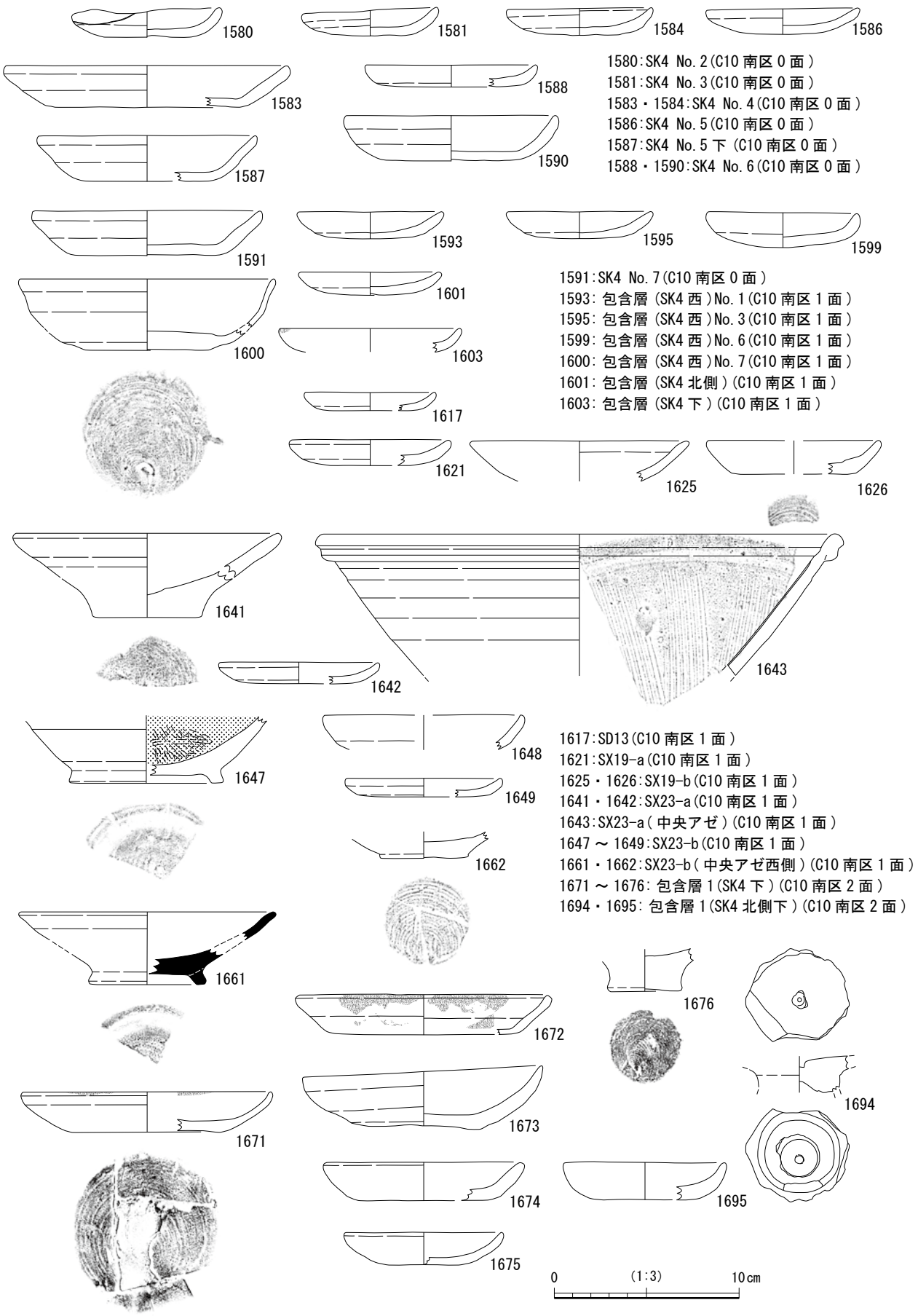
1379・80: 包含層1(C10北区2面)
1381～1386: 包含層1(C10北区西側2面)
1403～1405: 包含層1(東西アゼ1)(C10北区2面)
1412・1413: 包含層1(中央アゼ)(C10北区2面)
1424: 包含層1(集石1下 中央アゼ)(C10北区東側2面)
1439・1440: 包含層1(SX19-c下)(C10北区2面)
1454～1456: 包含層1(SX37-a・b間東西アゼ1下)(C10北区2面)
1462: 包含層1(礎石1周辺)(C10北区2面)
1464～1466: 包含層2(C10北区西側2面)

1473・1474: 包含層2(SX20-a下)(C10北区2面)
1478:SX37-a(C10北区2面)
1479:SX37(a・b間 東西アゼ1)(C10北区2面)

第63図　C区出土土器実測図4 (S=1/3)



第64図　C区出土土器実測図５ (S=1/3)

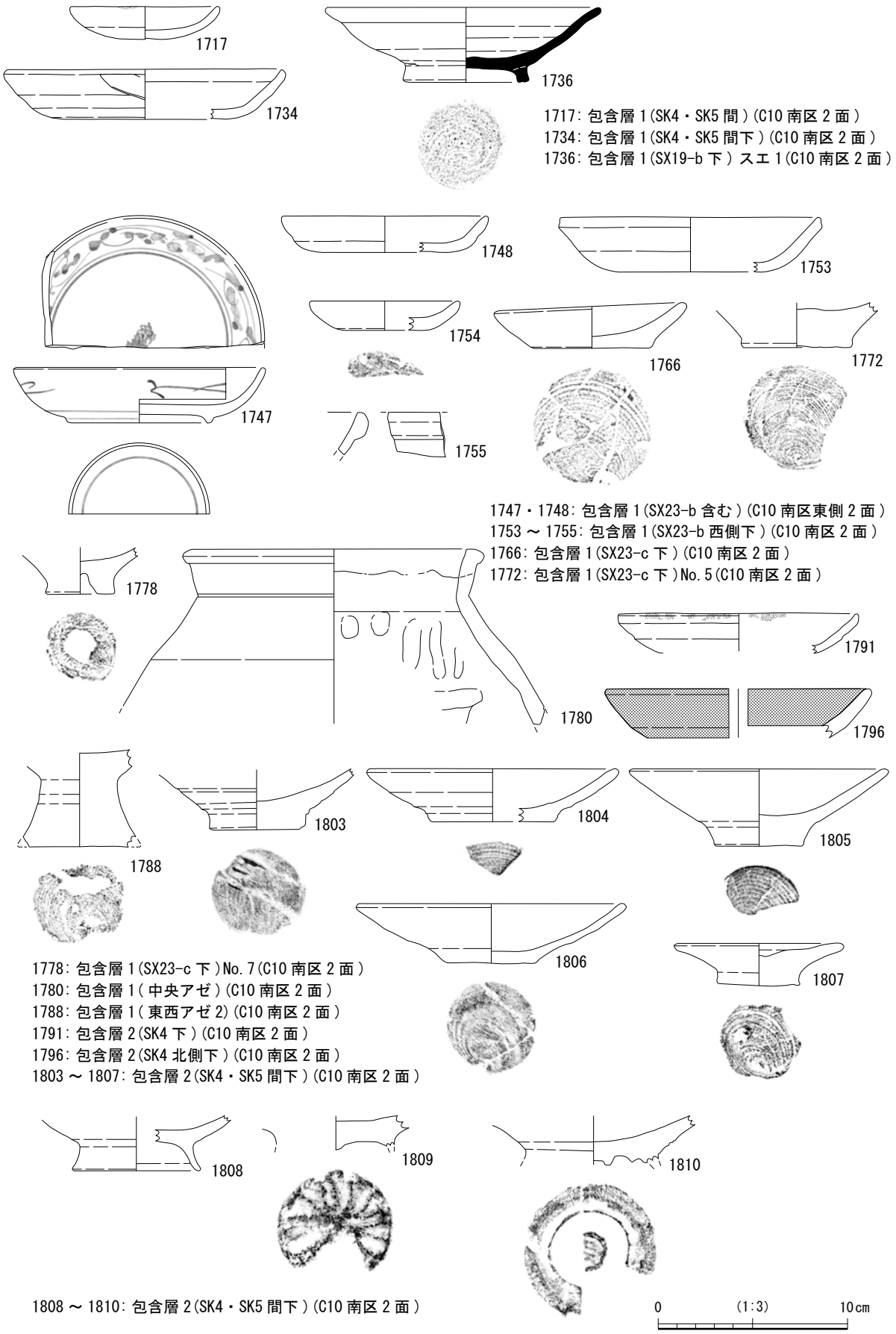


1580:SK4 No.2(C10 南区 0 面)
1581:SK4 No.3(C10 南区 0 面)
1583・1584:SK4 No.4(C10 南区 0 面)
1586:SK4 No.5(C10 南区 0 面)
1587:SK4 No.5 下 (C10 南区 0 面)
1588・1590:SK4 No.6(C10 南区 0 面)

1591:SK4 No.7(C10 南区 0 面)
1593: 包含層 (SK4 西)No.1(C10 南区 1 面)
1595: 包含層 (SK4 西)No.3(C10 南区 1 面)
1599: 包含層 (SK4 西)No.6(C10 南区 1 面)
1600: 包含層 (SK4 西)No.7(C10 南区 1 面)
1601: 包含層 (SK4 北側)(C10 南区 1 面)
1603: 包含層 (SK4 下)(C10 南区 1 面)

1617:SD13(C10 南区 1 面)
1621:SX19-a(C10 南区 1 面)
1625・1626:SX19-b(C10 南区 1 面)
1641・1642:SX23-a(C10 南区 1 面)
1643:SX23-a(中央アゼ)(C10 南区 1 面)
1647 ～ 1649:SX23-b(C10 南区 1 面)
1661・1662:SX23-b(中央アゼ西側)(C10 南区 1 面)
1671 ～ 1676: 包含層 1(SK4 下)(C10 南区 2 面)
1694・1695: 包含層 1(SK4 北側下)(C10 南区 2 面)

第65図　C区出土土器実測図6 (S=1/3)



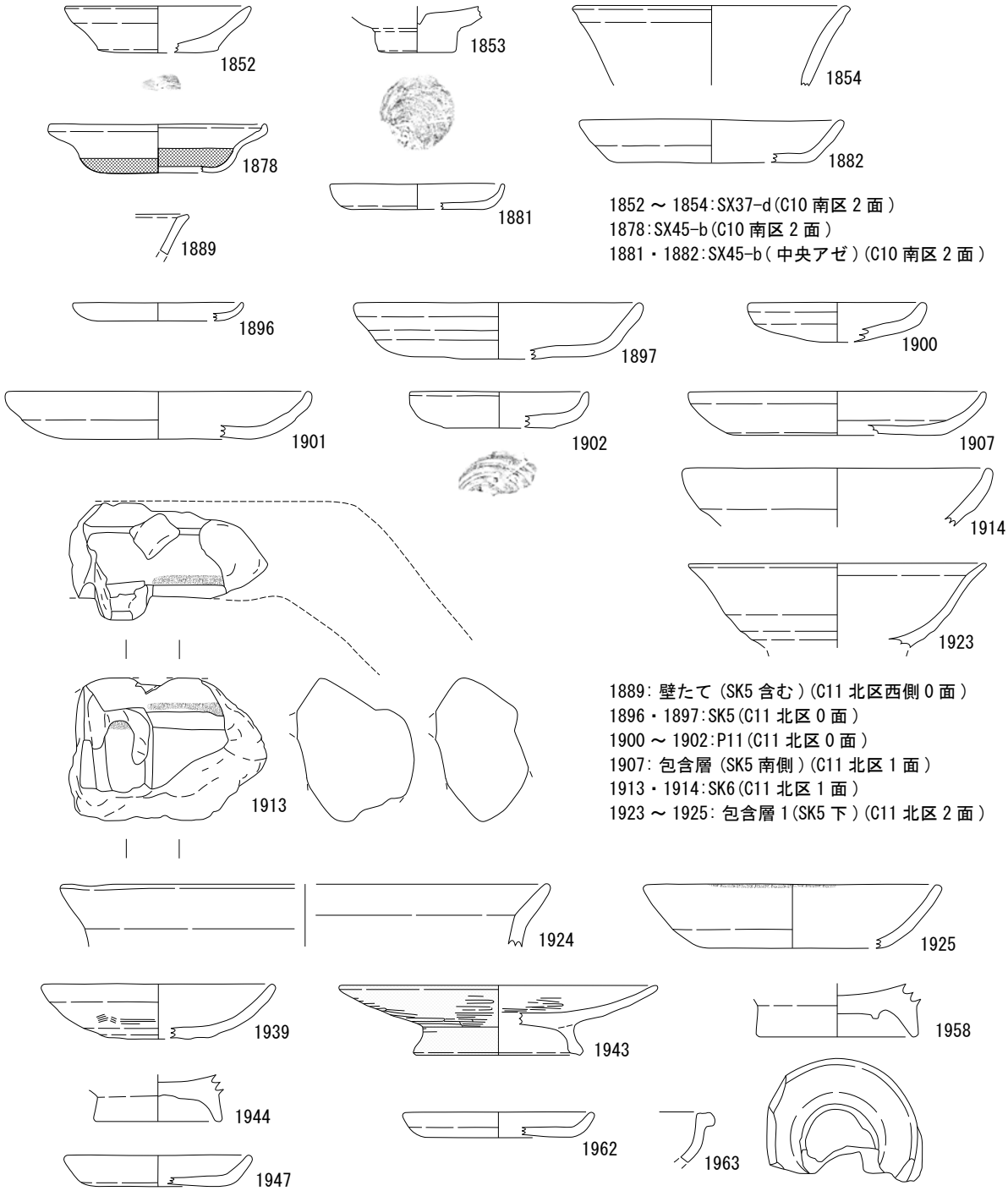
1717: 包含層1(SK4・SK5間)(C10南区2面)
1734: 包含層1(SK4・SK5間下)(C10南区2面)
1736: 包含層1(SX19-b下)スエ1(C10南区2面)

1747・1748: 包含層1(SX23-b含む)(C10南区東側2面)
1753～1755: 包含層1(SX23-b西側下)(C10南区2面)
1766: 包含層1(SX23-c下)(C10南区2面)
1772: 包含層1(SX23-c下)No.5(C10南区2面)

1778: 包含層1(SX23-c下)No.7(C10南区2面)
1780: 包含層1(中央アゼ)(C10南区2面)
1788: 包含層1(東西アゼ2)(C10南区2面)
1791: 包含層2(SK4下)(C10南区2面)
1796: 包含層2(SK4北側下)(C10南区2面)
1803～1807: 包含層2(SK4・SK5間下)(C10南区2面)

1808～1810: 包含層2(SK4・SK5間下)(C10南区2面)

第66図　C区出土土器実測図7 (S=1/3)



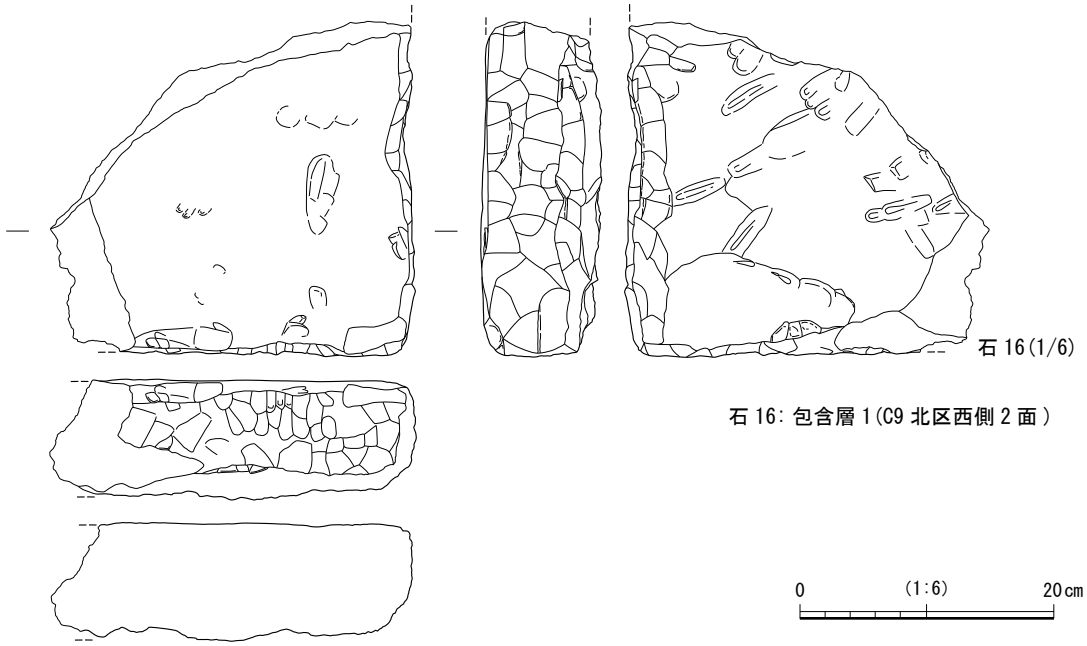
1852 ～ 1854:SX37-d(C10 南区 2 面)
1878:SX45-b(C10 南区 2 面)
1881・1882:SX45-b(中央アゼ)(C10 南区 2 面)

1889: 壁たて (SK5 含む)(C11 北区西側 0 面)
1896・1897:SK5(C11 北区 0 面)
1900 ～ 1902:P11(C11 北区 0 面)
1907: 包含層 (SK5 南側)(C11 北区 1 面)
1913・1914:SK6(C11 北区 1 面)
1923 ～ 1925: 包含層 1(SK5 下)(C11 北区 2 面)

1939: 包含層 1(SK5 南側下)(C11 北区 2 面)
1943・1944: 包含層 2(SK5 下)(C11 北区 2 面)
1947:SX44(C11 北区 2 面)
1958: カクラン (2 面包含層)(C11 南区 1 面)
1962・1963:SX42(カクラン含む)(C11 南区 2 面)

0　(1:3)　10cm

第67図　C区出土土器実測図8 (S=1/3)



第68図　C区出土石器・石製品実測図（S=1/6）

石５は１面SD02a出土の砥石、石９はSD02b出土の硯、石11は３面SD36出土の砥石、石13は２面ベース出土の鳴滝石の仕上げ砥石である。Ｂ８区１・２面を中心に金９～16の鉄釘が出土している。銭１はB６南区３面包含層２(SX63上)出土の祥符元寶、銭２はB７南区４面包含層１出土の開元通寶である。

３．Ｃ区(第60～68図、第９～18表、図版27～40)

平安時代後期～室町時代後半の遺構面４面を確認し、Ａ・Ｂ区に比べロクロ成形で柱状高台のカワラケが多く出土している。978～1034はC９北区２面SX34出土の土器でロクロ成形の柱状高台皿・有台埦・内黒有台埦、手づくね成形のカワラケ、須恵器甕が出土した。980の中実タイプの柱状高台は、高台部分の粘土紐を回転させながらつくる際に中央部分が埋まらずに凹みができたままのものである。C９区２・３面の包含層やベース土からは、ロクロ成形の柱状高台カワラケが多く出土している。C９南区はC９北区に比べて手づくね成形の非ロクロカワラケの割合が多く、C10区の包含層やベース土も同様な傾向を示す。1478～1526はC10北区２面落ち込みSX37出土のカワラケで、ロクロ成形の柱状高台埦・皿が中心であり、1485～1487は中実タイプで底厚の高い柱状高台皿である。1496は南加賀窯産の須恵器双耳瓶である。1555～1591はC10南区０面土坑SK04出土のカワラケで、非ロクロ成形の手づくねカワラケがまとまって出土した。すぐ横の検出面とSK04から火災に伴う被熱により表面の釉薬が溶けた青磁花瓶片1559が出土した。石17はC９北区２面包含層２出土の打製石斧、石19はC11北区１面SX22出土の砥石、石20はC11北区２面SX44出土の打製石斧で、金18～20は鉄釘である。

第2表　出土土器観察表1

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
5	0002	甕	加賀	A2南区	Ⅰ面	SX5	−	−	−	−	(5.4)	−	−	灰	灰	指押え、ナデ	押印	砂礫少ない	押印は湯上ユノカミダニ窯跡Ⅴ−102
9	0006	有台皿	土師器	A2南区	Ⅰ面	SX10　土器1	−	9.6	1.8	5.2	(5.2)	−	5/12	浅黄橙	浅黄橙	板状工具ナデ、指押え	ロクロナデ	粘質、緻密、細砂多、礫微、赤色粒少	
15	0092	皿	土師器	A3北区	Ⅰ面	SD7	(15.0)	(11.3)	0.4	−	2.3	2/12	2/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂含む	非ロクロ
17	0014	碗	青磁	A3北区	Ⅰ面	SX8	(13.2)	−	−	−	(2.6)	−	−	青磁釉(灰オリーブ)		ロクロナデ	ロクロナデ	灰白、堅緻	龍泉窯系輪花碗
21	0149	皿	土師器	A3北区	Ⅱ面	包含層	(7.0)	(3.9)	0.5	−	1.1	2/12	2/12	浅黄橙	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少し	非ロクロ
22	0151	甕	常滑	A3北区	Ⅱ面	包含層	−	−	−	−	(7.6)	−	−	褐	褐	ナデ、接合痕	ヘラナデ、押印	粗砂多く、礫少し	大甕体部片
23	0169	碗	青磁	A3北区	Ⅱ面	包含層	(15.3)	−	−	−	(2.1)	1/12	−	青磁釉(灰オリーブ)		ロクロナデ	鎬連弁	灰白、堅緻	龍泉窯系鎬蓮弁文碗
26	0153	甕	加賀	A3北区	Ⅱ面	包含層(SD11−b上)、B5南区南側Ⅱ面包含層(SD2北側右側下)	(47.6)	−	−	−	(10.2)＋(6.9)	1/12	−	灰黄褐	灰	ヨコナデ、指押え	ヘラナデ、押印	砂礫少ない	押印は湯上ユノカミダニ窯跡Ⅳ−107か
27	0136	碗	白磁	A3北区	Ⅱ面	包含層(SX15上)	(16.0)	−	−	−	(2.6)	1/12	−	白磁釉(灰白)		ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ、ヘラケズリ	灰白、堅緻	白磁口禿碗、被熱変色
28	0154	すり鉢	珠洲	A3北区	Ⅱ面	包含層(SX15上)	(31.0)	−	−	−	(9.4)	2/12	−	灰白	灰	ロクロナデ、おろし目	ロクロナデ	明灰、精良、海綿骨針含む	おろし目1.5cm幅7本 珠洲Ⅱ期
29	0160	皿	土師器	A3北区	Ⅱ面	包含層2	(12.0)	(7.8)	0.5	−	2.8	3/12	3/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多く含む	非ロクロ
30	0171	皿	土師器	A3北区	Ⅱ面	包含層2	(8.3)	(7.6)	0.3	−	1.8	3/12	1/12以下	橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	礫少し含む	非ロクロ
31	0147	皿	土師器	A3北区	Ⅱ面	包含層2、包含層	(10.9)	(5.4)	0.5	−	2.3	2/12	2/12	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	非ロクロ、口縁煤付着
41	0087	碗	青磁	A3北区	Ⅱ面	SD11−b上面	−	(5.3)	1.4	1.8	(2.7)	−	4/12	青磁釉(緑灰)		ロクロナデ	ロクロナデ、ロクロケズリ	灰白、堅緻	龍泉窯系劃花文碗
42	0088	甕	珠洲	A3北区	Ⅱ面	SD11−b	(41.8)	−	(9.1)	−	(9.1)	1/12	−	灰	灰	ナデ、指押え	タタキ	砂礫少ない、海綿骨針含む	タタキ目3cm幅11本
46	0016	皿	土師器	A3北区	Ⅱ面	SX15	(7.4)	(4.6)	0.7	−	1.5	1/12	2/12	灰白	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	細砂少し、海綿骨針含む	非ロクロ
50	0020	皿	土師器	A3北区	Ⅱ面	SX15(石周辺)、SX15、包含層(SX15上)、A2南区包含層	(12.9)	−	−	−	(2.7)	3/12	−	にぶい橙	淡赤橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少し、海綿骨針含む	非ロクロ
51	0011	皿	土師器	A3北区	Ⅱ面	SX59	(9.8)	−	−	−	(1.7)	2/12	−	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少ない	非ロクロ
57	0116	皿	土師器	A3北区	Ⅱ面	P85	(8.0)	3.6	0.6	−	1.5	5/12	5/12	にぶい橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多く、雲母含む	非ロクロ
58	0118	皿	土師器	A3北区	Ⅱ面	P85	7.4	−	0.4	−	1.5	5/12	−	淡橙	淡橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	非ロクロ
62	0013	小鉢	土器	A3南区	Ⅰ面	SX4	−	−	−	−	(2.5)	−	−	浅黄橙	にぶい橙、緑釉彩	ロクロナデ	ナデ	細砂少ない	鉢形の近世玩具か
65	0176	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	包含層	8.0	−	0.7	−	1.5	4/12	−	明灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ?	ヨコナデ、ナデ?	粗砂少ない	非ロクロ
66	0137	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	包含層　土器集中1	(12.7)	(8.2)	0.6	−	3.1	3/12	1/12	淡橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少ない	非ロクロ
67	0139	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	包含層　土器集中1	(13.0)	(9.6)	0.6	−	1.7	2/12	2/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少ない	非ロクロ
68	0142	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	包含層　土器集中1	(8.1)	(3.2)	0.4	−	1.7	3/12	2/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂目立ち、雲母含む	非ロクロ
78	0170	碗	青磁	A3南区	Ⅱ面	包含層(SX15上　珠洲2下)	(14.0)	−	−	−	(3.1)	1/12以下	−	青磁釉(灰オリーブ)		ロクロナデ	鎬連弁	灰白、堅緻	龍泉窯系鎬蓮弁文碗
80	0179	皿	白磁	A3南区	Ⅱ面	包含層2	「11.8」	−	−	−	(2.3)	1/12	−	白磁釉(灰白)		ロクロナデ、ヘラケズリ	ロクロナデ	明灰白、堅緻	白磁口禿皿
81	0180	皿	青磁	A3南区	Ⅱ面	包含層2	「8.6」	−	−	−	(1.9)	1/12	−	青磁釉(緑灰)		ロクロナデ	ロクロナデ	灰白、堅緻	龍泉窯系劃花文碗
82	0184	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	包含層2	「11.8」	「7.6」	0.4	−	2.0	2/12	2/12	橙	淡橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
87	0091	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	SD11−e、SD11−e(SD7とのアゼ)、SD11−a−c間アゼ	12.3	6.7	0.4	−	2.6	7/12	7/12	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂目立つ	非ロクロ
88	0095	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	SD32	8.4	−	0.5	−	2.0	6/12	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
89	0096	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	SD32、A4北区Ⅱ面SD32	「8.8」	「6.3」	0.4	−	1.6	3/12	3/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
90	0099	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	SD32、SD34(SD32とのアゼ)	(13.6)	−	−	−	(2.4)	3/12	−	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
96	0029	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	SK18	8.0	−	0.5	−	1.6	9/12	−	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂礫少ない	非ロクロ

第3表　出土土器観察表2

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
101	0026	壺	加賀	A3南区	Ⅱ面	SX16アゼ	(12.0)	−	−	−	(5.7)	2/12	−	オリーブ灰、褐	オリーブ灰	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白、良好	内外面自然釉
102	0023	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	SX16(P92アゼ)、A4北区Ⅱ面P93、A4区Ⅱ面包含層2(SX16上)	7.9	6.9	0.5	−	最大高1.8(最小高1.2)	10/12	12/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	
103	0027	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	SX16(P94周りアゼ)	「11.2」	「6.2」	0.5	−	2.5	1/12	2/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
104	0028	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	SX16(P94周りアゼ)	(7.9)	(4.2)	0.5	−	1.3	2/12	3/12	浅黄橙	淡橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		外底黒斑、非ロクロ
106	0120	すり鉢	珠洲	A3南区	Ⅱ面	P89	−	(16.0)	1.5	−	(5.4)	2/12	−	灰白	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、静止糸切り	細砂多く、海綿骨針含む	おろし目2.1㎝幅11本、珠洲Ⅱ～Ⅲ期
107	0121	碗	青磁	A3南区	Ⅱ面	P91	「15.8」	−	−	−	(4.2)	1/12	−	青磁釉(オリーブ灰)		ロクロナデ	鎬連弁	灰白、堅緻	龍泉窯系鎬連弁文碗
109	0124	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	P93　No.1、A4北区Ⅱ面P93	12.8	8.3	0.5	−	2.9	11/12	11/12	浅黄橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多い	底に板状痕、非ロクロ
112	0127	皿	土師器	A3南区	Ⅱ面	P93　No.3	「9.6」	「6.0」	0.6	−	1.5	2/12	3/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	穿孔1ヶ所、非ロクロ
125	0187	碗	青磁	A4北区	Ⅱ面	包含層	「16.0」	−	−	−	(2.5)	1/12	−	青磁釉(明緑灰)		ロクロナデ	鎬連弁	灰白、堅緻	龍泉窯系鎬連弁文碗
126	0188	天目茶碗	瀬戸	A4北区	Ⅱ面	包含層	「10.8」	−	−	−	(1.9)	1/12以下	−	鉄釉(にぶい黄褐)		ロクロナデ	ロクロナデ	灰白、密	古瀬戸後期Ⅰ期
128	0185	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	包含層2	(7.0)	(3.4)	0.7	−	1.1	3/12	4/12	にぶい橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	非ロクロ
129	0182	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	包含層2、A3南区Ⅱ面包含層2	(8.6)	7.0	0.6	−	1.5	1/12	8/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂少ない	
133	0102	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SD32	(7.0)	(7.6)	0.3	−	0.9	3/12	3/12	橙	橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、ナデ		非ロクロ
135	0104	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SD32、A3南区Ⅱ面SD34(SD32とのアゼ)	(7.8)	(4.9)	0.4	−	1.5	5/12	3/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂粒少ない	口縁部に黒線、非ロクロ
136	1927	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SD32、A3南区Ⅱ面SD34(SD32とのアゼ)	(7.4)	(4.0)	0.4	−	1.1	3/12	3/12	明赤褐	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
142	0073	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13西、A4北区SX13アゼ	8.2	4.6	0.4	−	最大高1.6(最小高1.1)	8/12	8/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	非ロクロ
143	0135	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13西、A3南区Ⅱ面包含層2	(8.6)	5.8	0.8	−	1.3	3/12	11/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	細砂多い	
144	0098	有台埦	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13東、A3南区Ⅱ面ベース	−	(7.1)	0.8	1.8	(3.9)	−	9/12	淡橙	淡橙	ロクロナデ	ロクロナデ	粗砂並、礫微、赤色粒少、海面骨針微	外面赤彩
145	0034	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.1	(8.2)	(6.8)	0.5	−	1.9	7/12	7/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	細砂多い	非ロクロ
146	0080	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.3、包含層2、A3南区Ⅱ面包含層2	(12.9)	(8.3)	0.3	−	2.3	5/12	−	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	非ロクロ
150	0039	皿	白磁	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.9	「10.2」	−	−	−	(1.4)	1/12	−	白磁釉(灰白)		ロクロナデ	ロクロナデ	淡黄灰、	貫入多い、15C
151	0040	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.11	(8.0)	(4.2)	0.8	−	1.4	4/12	6/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ	細砂多く、粗砂少ない	
152	0041	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.12	(10.8)	(4.5)	0.4	−	2.5	3/12	5/12	浅黄橙	灰白	ヨコナデ、ナデ、指押え	ヨコナデ、ナデ	細砂含む	非ロクロ
155	0043	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.13、SX13最下層	8.2	5.8	0.8	−	1.3	10/12	12/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	細砂多く、粗砂少ない	
156	0044	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.14	(8.4)	6.4	0.6	−	1.2	4/12	6/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	細砂多く、粗砂少ない	
157	0036	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.15	(12.7)	(7.2)	0.9	−	2.9	2/12	12/12	灰白	灰白	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	細砂多く、粗砂少ない	
159	0046	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.19	「9.7」	「5.6」	0.6	−	1.3	3/12	2/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	細砂多く	歪み強い
162	0050	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.23、No.42、A4区SX13西	(8.4)	7.6	0.5	−	1.4	4/12	12/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	細砂多く、粗砂少ない	
164	0052	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.24、No.20、A4区SX13西	(13.0)	9.9	0.4	−	2.9	3/12	4/12	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	非ロクロ
165	0053	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.25	(8.0)	(5.2)	0.4	−	1.3	4/12	3/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	非ロクロ
169	0057	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.27	(6.4)	(6.8)	0.4	−	1.0	5/12	5/12	にぶい黄橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	細砂多く、粗砂少ない	非ロクロ、口縁部1ヶ所くぼみあり
170	0058	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.27	(8.3)	6.4	0.8	−	1.3	2/12	4/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	細砂多く	

第4表　出土土器観察表3

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
171	0059	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.28、No.12	(14.8)	9.6	0.5	−	3.4	2/12	6/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	細砂多く	
175	0063	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.32	8.0	5.1	0.8	−	1.6	11/12	12/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	細砂少ない	
176	0064	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.33	(13.8)	8.0	0.6	−	(3.0)	3/12	7/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り		
177	0065	有台皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13　No.33、SX13西、SX13−b	−	10.0	1.2	5.1	(4.9)	−	9/12	浅黄橙	浅黄橙	ケズリ	ミガキ	雲母	ロクロ土師器
181	0074	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13−a	(13.6)	8.0	0.5	−	3.0	4/12	9/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り		丸底に歪む
187	0070	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13最下層、SX13西	(13.6)	8.2	0.7	−	3.5	4/12	11/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り		内底丁寧なナデ
188	0082	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX13最下層	(8.8)	6.8	0.5	−	1.4	4/12	6/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り		
190	0084	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	SX61	(11.2)	(6.0)	0.4	−	2.5	4/12	2/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
193	0123	すり鉢	加賀	A4北区	Ⅱ面	P93	(29.4)	−	−	−	(7.6)	1/12	−	灰	紫灰	ロクロナデ、おろし目	ロクロナデ	粗砂多く、石英粒含む	おろし目1.3cm幅6本、加賀Ⅱ期
194	0131	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	P93	(9.6)	(6.8)	0.4	−	1.4	1/12	2/12	にぶい橙	にぶい褐	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	非ロクロ
195	0132	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	P93	「12.6」	「7.4」	0.5	−	2.1	1/12	2/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多く、粗砂も含む	非ロクロ、内面摩耗
199	0134	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	P95	(12.2)	(6.4)	0.5	−	2.4	2/12	2/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂粒少ない	非ロクロ
200	0204	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	ベース	7.8	5.2	0.7	−	1.8	5/12	7/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	砂粒少ない	
203	0203	皿	土師器	A4北区	Ⅱ面	ベース(SX61東側)	8.4	4.8	0.6	−	1.6	6/12	9/12	にぶい橙	浅黄橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、底部回転糸切り	砂粒少ない	
204	0193	瓶子	瀬戸	A4南区	Ⅱ面	包含層	−	−	−	−	(3.5)	−	−	露胎(灰白)	灰釉(灰黄)	ナデ、指押え	刻花文	灰白、緻密	古瀬戸中期、漆継ぎ、表面被熱
210	0196	碗	青磁	A4南区 西側	Ⅱ面	包含層2	−	(4.6)	1.8	−	(3.1)	−	2/12	青磁釉(明灰オリーブ)		ロクロナデ	鎬連弁	灰白、堅緻	龍泉窯系鎬連弁文碗
220	0152	甕	加賀	B5北区 東側	Ⅰ面	SD2−a下層、A3南区Ⅱ面包含層(SD11−aの上)	「44.6」	−	−	−	(9.9)	1/12以下	−	にぶい褐	にぶい橙	ナデ、指押え	ヘラナデ	明灰、良好	加賀v期
225	0271	小皿	土師器	B5北区 西側	Ⅱ面	包含層1	(5.8)	(5.0)	0.6	−	1.7	−	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ、口縁に燈芯油痕あり
226	0272	瓶子	瀬戸	B5北区 東側	Ⅱ面	包含層1	−	−	−	−	(2.3)	−	−	露胎(灰白)	鉄釉(暗褐)	ロクロナデ	ロクロナデ	灰白、緻密	刻線帯
227	0274	天目茶埦	瀬戸	B5北区 東側	Ⅱ面	包含層1	「11.6」	−	−	−	(2.1)	1/12以下	−	鉄釉(黒褐)		ロクロナデ	ロクロナデ	灰白、精良	古瀬戸後期Ⅱ〜Ⅲ期
233	0278	皿	土師器	B5北区 中央	Ⅲ面	包含層1、東側Ⅲ面包含層1、北側Ⅲ面包含層1	(8.0)	(3.4)	0.4	−	2.2	6/12	−	浅黄橙	淡橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	非ロクロ
235	0300	皿	土師器	B5南区	Ⅰ面	SD1−a、SD1、B6北区Ⅰ面検出面精査(カクラン含む)、カクラン	9.1	6.4	0.5	−	1.9	6/12	9/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	非ロクロ
236	0281	皿	土師器	B5南区 西側	Ⅰ面	SD1−a西、壁立て	(7.4)	(5.2)	0.4	−	1.6	4/12	4/12	浅黄橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	雲母少し	非ロクロ
238	0222	皿	土師器	B5南区	Ⅰ面	SD2−a	(8.2)	(4.6)	0.6	−	1.8	1/12	3/12	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂含む	非ロクロ
239	0296	皿	土師器	B5南区	Ⅰ面	SD2−a	(9.4)	(5.0)	0.7	−	2.5	3/12	3/12	浅黄	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
240	0215	皿	土師器	B5南区 東側	Ⅰ面	SD2−a	(7.4)	(5.8)	0.5	−	1.6	4/12	4/12	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂含む	非ロクロ
241	0217	皿	土師器	B5南区 東側	Ⅰ面	SD2−a	(9.4)	(6.0)	0.5	−	1.8	5/12	6/12	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	非ロクロ
245	0220	皿	土師器	B5南区 東側	Ⅰ面	SD2−a下層	(9.6)	(6.0)	0.4	−	1.9	2/12	2/12	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂含む	非ロクロ
246	0213	碗	青磁	B5南区 西側	Ⅰ面	SD2−a底	「17.6」	−	−	−	(4.3)	1/12以下	−	青磁釉(オリーブ灰)		劃花文	ロクロナデ	灰白、堅緻	龍泉窯系劃花文碗
251	0227	甕	珠洲	B5南区 東側	Ⅰ面	SD2−b底(集石)(南側石列下含む)	−	−	−	−	(11.6)	−	−	灰	暗灰	ナデ、当て具痕	タタキ	砂粒少ない	タタキ3cm幅9本、珠洲Ⅰ期

第5表　出土土器観察表4

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
252	1984	甕	加賀	B5南区 東側	Ⅰ面	SD2-b底(集石)(南側石列下含む)、SD2(北側石列下)、西側Ⅲ面包含層1、西側SD2-b、B6北区Ⅲ面SX57	−	−	−	−	(7.5)	−	−	にぶい黄橙	自然釉(オリーブ灰)、明茶褐	ナデ、指押え	ヘラナデ	明灰白、砂礫少ない	胎土と自然釉は湯上ユノカミダニ窯跡
257	0231	皿	土師器	B5南区 東側	Ⅱ面	包含層	7.0	3.0	0.6	−	1.6	10/12	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	非ロクロ、燈芯油痕残る
258	0245	皿	土師器	B5南区	Ⅱ面	包含層　土師1	(7.8)	(3.0)	0.5	−	1.9	10/12	7/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	精緻	非ロクロ
260	0246	皿	土師器	B5南区	Ⅱ面	包含層、包含層(カクラン含む)	(10.0)	(5.9)	0.5	−	1.9	1/12	1/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・石英・角閃石少し含む	非ロクロ
263	0237	皿	土師器	B5南区 西側	Ⅱ面	包含層、B5南区Ⅱ面包含層カクラン含む	6.7	3.0	0.5	−	1.6	9/12	12/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少し	非ロクロ、燈芯油痕あり
269	0232	皿	土師器	B5南区 東側	Ⅱ面	包含層2	(8.2)	(2.6)	0.7	−	2.2	3/12	3/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ、燈芯油痕あり
270	0234	皿	土師器	B5南区 東側	Ⅱ面	包含層2、包含層1	7.8	(2.0)	0.5	−	1.9	6/12	4/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ、燈芯油痕あり
280	0263	皿	土師器	B5南区 東側	Ⅲ面	包含層1(SD27下)	(9.6)	(8.5)	0.5	−	2.0	3/12	4/12	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え		非ロクロ
281	0264	皿	土師器	B5南区 東側	Ⅲ面	包含層1(SD27下)	7.4	−	0.3	−	1.8	10/12	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂礫少ない	非ロクロ
282	0262	皿	土師器	B5南区 東側	Ⅲ面	包含層1(SD27下)、B5南区Ⅱ面P69	6.6	−	0.4	−	1.6	5/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
285	0248	皿	土師器	B5南区 西側	Ⅲ面	SD36上層　包含層2 SD27下、Ⅱ面包含層2	7.8	−	0.7	−	2.3	6/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少	非ロクロ
286	0251	甕	加賀	B5南区 西側	Ⅲ面	SD36上層(Ⅲ面包含層2)	−	−	−	−	(6.9)	−	−	赤褐	赤褐	ナデ	ヘラナデ、押印	白色砂粒少ない	押印菊花文、湯上ユノカミダニ窯跡Ⅲ-101
287	0256	甕	越前	B5南区 東側	Ⅲ面	SD36上層(Ⅲ面包含層2)	−	−	−	−	(7.0)	1/12	−	にぶい赤褐	淡黄、褐灰	ロクロナデ	ロクロナデ	明灰砂粒多い	外面降灰、越前Ⅱ2期
290	0253	皿	土師器	B5南区	Ⅲ面	SD36下層(Ⅲ面包含層3)、SD36上層(Ⅲ面包含層2)	(8.4)	(5.6)	0.6	−	1.5	3/12	−	灰白	灰白	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、ナデ、回転糸切り		口縁燈芯油痕
291	0255	甕	珠洲	B5南区 東側	Ⅲ面	SD36下層(Ⅲ面包含層3)、B5北区東側Ⅲ面包含層	−	−	−	−	(12.7)	−	−	灰	灰	ヨコナデ、当て具痕	タタキ	黒色粒・細砂目立つ	タタキ目3cm幅11本
297	0267	甕	珠洲	B5南区 西側	Ⅲ面	P111	−	−	−	−	(10.5)	−	−	灰	灰黄	ヨコナデ、当て具痕	タタキ	海綿骨針目立つ	タタキ目3cm幅8本
303	0294	皿	土師器	B6北区 西側	Ⅰ面	SD1(西壁)	(7.5)	(3.6)	0.3	−	1.3	3/12	4/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない、白色粒含む	非ロクロ
305	0293	皿	土師器	B6北区 西側	Ⅰ面	SD1下層	(8.9)	(4.0)	0.6	−	2.2	3/12	3/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	非ロクロ
306	1983	皿	土師器	B6北区 西側	Ⅰ面	SD1下層	(7.4)	(3.6)	0.3	−	1.1	1/12	1/12	橙	黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	白色粒含む	非ロクロ
310	0285	皿	土師器	B6北区 東側	Ⅰ面	SD1下層、SD1	(7.6)	(6.1)	0.6	−	2.0	5/12	1/12以下	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	非ロクロ、口縁燈芯油痕
311	0290	皿	土師器	B6北区 東側	Ⅰ面	SD1下層、B6区Ⅰ面遺構検出(カクラン)	(9.3)	(5.0)	0.4	−	1.9	5/12	6/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少し	非ロクロ
312	0286	皿	土師器	B6北区 東側	Ⅰ面	SD1下層、B6区カクラン	(8.8)	(3.0)	0.4	−	1.9	3/12	2/12	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂含む	非ロクロ
335	0325	皿	土師器	B6南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(8.3)	(3.4)	0.5	−	2.0	3/12	4/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ、口縁燈芯油痕
343	0333	合子	瀬戸	B6南区 東側	Ⅲ面	包含層1	−	−	−	−	(3.8)	−	−	露胎(淡黄)	灰釉(淡黄)	ヨコナデ	スタンプ、境線	淡黄、緻密	古瀬戸中期Ⅲ～Ⅳ期
347	0329	皿	青磁	B6南区 西側	Ⅲ面	ベース	「12.0」	−	−	−	(1.7)	1/12以下	−	青磁釉(明オリーブ灰)		ロクロナデ	ロクロナデ	灰白、堅緻	龍泉窯系青磁碗
350	0317	碗	青磁	B6南区 東側	Ⅳ面	包含層1	「16.0」	−	−	−	(3.9)	1/12	−	青磁釉(オリーブ灰)		ロクロナデ	ロクロナデ	灰白、堅緻	龍泉窯系劃花文碗
351	0339	皿	土師器	B6南区 東側	Ⅳ面	包含層1、B6北区東側Ⅳ面包含層1	(11.6)	(7.0)	0.3	−	2.2	2/12	2/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
377	0347	円盤状陶製品	須恵器	B7北区 東側	Ⅲ面	ベース(上層)	最大長3.5	最大幅3.6	最大厚1.0	−	−	−	−	灰	灰	同心円当て具痕	平行タタキ	粗砂含む	重さ17g
391	0359	皿	土師器	B7南区 西側	Ⅰ面	遺構検出	(14.8)	(10.6)	0.5	−	2.1	1/12	1/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂含む	非ロクロ
400	0364	皿	土師器	B7南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(9.5)	(8.2)	0.6	−	1.5	小片	3/12	黄橙	黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂含む	非ロクロ

第6表　出土土器観察表5

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
401	0365	菊皿	白磁	B7南区 西側	Ⅱ面	包含層1	−	−	−	−	(2.7)	小片	−	白磁釉(明灰白)		型押し		灰白	口錆、16C
419	0368	皿	土師器	B7南区 西側	Ⅱ面	SK13	(11.7)	−	0.5	−	1.9	1/12	−	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少し	非ロクロ
420	0370	皿	土師器	B7南区	Ⅱ面	SX46、B7区Ⅱ面SX46	(12.1)	−	0.6	−	2.4	4/12	−	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少し	非ロクロ
421	0373	皿	土師器	B7南区	Ⅱ面	SX46	8.3	−	0.5	−	最大高1.6(最小高1.3)	7/12	−	浅黄橙	浅黄橙	摩耗で不明	摩耗で不明	粗砂少し	非ロクロ、燈芯油痕あり
435	0382	円盤状土製品	土師器	B7南区 東側	Ⅲ面	包含層2	最大長2.7	最大幅2.6	最大厚0.7	−	−	−	−	浅黄橙	浅黄橙			粗砂・白石粒少し	重さ4.3g
439	0379	鉢	青磁	B7南区	Ⅲ面	SX64	「12.8」	−	−	−	(1.4)	1/12以下	−	青磁釉(オリーブ灰)		ロクロナデ	鎬連弁	灰白、堅緻	龍泉窯系鎬蓮弁文碗
440	0386	皿	土師器	B7南区	Ⅲ面	SX64	(6.8)	(3.0)	0.3	−	1.4	1/12	4/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂・白色粒微量	非ロクロ
451	0393	有台皿	土師器	B7南区	Ⅲ面	SX67(Ⅳ面包含層1含む)	−	−	0.6	−	(4.3)	−	−	灰白	灰白	ナデ、指押え	ナデ、指押え	精緻、粗砂微	歪み大、胎土の練りが不十分で縞状模様
452	0380	皿	土師器	B7南区	Ⅲ面	SX67(Ⅳ面包含層1含む)、Ⅳ面SX64下(トレンチ)	(12.0)	(6.2)	0.6	−	3.3	4/12	4/12	灰白	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂・粗砂含む	
458	0377	皿	白磁	B7南区 東側	Ⅲ面	SX68	「10.6」	−	−	−	(2.5)	1/12以下	−	白磁釉(灰白)		ロクロナデ	ロクロケズリ、ロクロナデ	灰白、堅緻	白禿皿　14C後半
459	0395	皿	土師器	B7南区 東側	Ⅲ面	SX70(Ⅲ面包含層2)	(7.0)	(4.2)	0.6	−	1.6	4/12	7/12	赤橙	赤橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂含み、白色粒微量	非ロクロ
462	0398	皿	土師器	B7南区 東側	Ⅲ面	ベース(礎石17南側アゼ)	(10.6)	(6.0)	0.4	−	2.3	2/12	3/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂含み、粗砂・白色粒微量	非ロクロ
465	0406	皿	土師器	B7南区 東側	Ⅳ面	包含層1(SX46西側周辺)	(8.3)	(6.1)	0.5	−	1.1	3/12	4/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
468	0412	碗	青磁	B7南区	Ⅳ面	包含層1(SX68下)	−	−	−	−	(4.1)	−	−	青磁釉(オリーブ黄)		ロクロナデ	鎬連弁	灰白、堅緻	龍泉窯系鎬蓮弁文碗
469	0410	皿	土師器	B7南区 東側	Ⅳ面	包含層1(SX68下)	(11.1)	(8.8)	0.6	−	2.3	2/12	2/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂・礫微量	
477	0420	皿	土師器	B7南区 東側	Ⅳ面	包含層1(礎石16～17アゼ)、(礎石17南西側)	(7.5)	(3.2)	0.5	−	1.2	2/12	3/12	灰白	灰白	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂・白色粒微量	
483	0421	碗	白磁	B7南区 東側	Ⅳ面	包含層1(礎石17南西側)	−	−	−	−	(3.3)	−	−	淡黄	淡黄	ロクロナデ	ロクロケズリ、露胎	淡黄、緻密	白磁碗V類
492	0463	皿	土師器	B8北区	Ⅰ面	SK9石下	(7.6)	(6.8)	0.5	−	1.1	4/12	4/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多、粗砂少、礫微、赤色粒微	非ロクロ、内外面黒斑
496	0470	皿	土師器	B8北区	Ⅰ面	SX28	(8.2)	(4.2)	0.4	−	1.2	3/12	3/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	非ロクロ
497	0472	皿	土師器	B8北区	Ⅰ面	SX28	(10.8)	(8.0)	0.6	−	2.1	2/12	3/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	非ロクロ
498	0474	皿	土師器	B8北区	Ⅰ面	SX28	(11.0)	(8.8)	0.4	−	2.2	1/12	6/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	非ロクロ
499	0475	円盤状土製品	土師器	B8北区	Ⅰ面	SX28	最大長2.2	最大幅2.3	最大厚0.9	−	−	−	−	浅黄橙	浅黄橙	摩耗	摩耗	細砂多い	重量3.6g
500	0476	有台皿か	土師器	B8北区	Ⅰ面	SX28	−	−	1.5	−	(4.2)	−	−	浅黄橙	にぶい黄橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ	細砂多、礫微、赤色粒少	
506	0477	皿	土師器	B8北区	Ⅰ面	SX29	(7.8)	(6.6)	0.6	−	1.2	3/12	4/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多く、砂礫少ない	非ロクロ
509	0479	皿	土師器	B8北区	Ⅰ面	SX29下層	(5.2)	(4.8)	0.4	−	1.2	2/12	3/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	非ロクロ
513	0467	碗	白磁	B8北区	Ⅰ面	P26(カクラン)	「13.4」	−	−	−	(3.9)	2/12	−	白磁釉(灰白)		ロクロケズリ、ロクロナデ	ロクロケズリ、ロクロナデ	灰白、堅緻	白禿碗　14C
519	0504	皿	土師器	B8北区 西側	Ⅱ面	包含層1、Ⅰ面カクラン	(11.2)	(4.0)	0.5	−	2.1	4/12	5/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂微量	非ロクロ、京都系か
531	0512	皿	土師器	B8北区 西側	Ⅱ面	包含層2	(6.4)	(2.0)	0.4	−	1.1	3/12	5/12	橙、にぶい橙	橙、にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少い	非ロクロ
533	0483	皿	土師器	B8北区	Ⅱ面	SX47	「7.6」	「6.8」	0.5	−	1.2	2/12	2/12	灰白	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	細砂目立つ	非ロクロ
549	0499	皿	土師器	B8北・南区	Ⅱ面	SX49	(7.4)	(5.2)	0.5	−	1.0	2/12	2/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂目立つ	非ロクロ、燈芯油痕
562	0520	皿	土師器	B8北区 東側	Ⅲ面	ベース(SX47・48間)	(8.0)	(4.2)	0.6	−	(1.5)	3/12	5/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少ない	非ロクロ
567	0524	皿	土師器	B8北区 北西側	Ⅲ面	ベース(SX55北側)、B8区東側Ⅳ面包含層(SX48・49下周辺)	(8.0)	(5.6)	0.8	−	2.1	5/12	11/12	黄橙	黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂微、粗砂微	底部やや台状
569	0525	皿	青磁	B8北区 東側	Ⅳ面	包含層1	−	(5.1)	0.6	−	(0.9)	−	4/12	青磁釉(灰白)、白濁化		劃花文	ロクロケズリ、露胎	灰白、堅緻	龍泉窯系劃花文碗、被熱で施釉は白濁化
571	0552	皿	土師器	B8北区 東側	Ⅳ面	包含層1(SX47南側)	8.0	6.6	0.6	−	最大高1.6(最小高1.2)	12/12	12/12	浅黄橙、にぶい橙	浅黄橙、にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少い	非ロクロ

第7表　出土土器観察表6

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
573	0548	Ⅲ	土師器	B8北区 東側	Ⅳ面	包含層1(SX47～49下周辺)	(7.6)	(3.2)	0.5	−	1.4	3/12	3/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂微量	非ロクロ
580	0750	Ⅲ	土師器	B8北区 東側	Ⅳ面	包含層1(SX48・49下周辺)	(6.2)	(2.7)	0.5	−	1.5	2/12	3/12	にぶい黄橙、浅黄	浅黄橙、黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂微量	非ロクロ
587	0529	埦	土師器	B8北区	Ⅴ面	SK19	−	5.3	1.0	−	(2.7)	−	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	緻密、細砂多、粗砂多、礫少	全体摩耗
588	0530	有台埦	土師器	B8北区	Ⅴ面	SK19	(11.4)	6.0	0.7	−	3.9	1/12	12/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り		台部貼付け
589	0531	埦	土師器	B8北区	Ⅴ面	SK19	−	5.7	1.9	−	(2.7)	−	12/12	橙	橙	ロクロナデ、ミガキ?	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒多	外面成型時のヘラ状工具痕
590	0532	Ⅲ	土師器	B8北区	Ⅴ面	SK19	8.0	4.0	0.8	−	1.8	12/12	12/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、赤色粒多、海面骨針並	全体摩耗
591	0533	有台埦	土師器	B8北区	Ⅴ面	SK19	−	7.0	0.8	2.0	2.4	−	6/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ、回転糸切り	粗砂多、赤色粒少	台部貼付け
592	0536	有台Ⅲか	土師器	B8北区	Ⅴ面	SK19	−	7.6	−	−	(4.4)	−	10/12	にぶい橙	にぶい橙	工具によるケズリ	ロクロナデ、ナデ	粗砂多、赤色粒少	外面摩耗顕著
593	0540	Ⅲ	土師器	B8北区	Ⅴ面	SK19	(8.0)	5.0	0.7	−	2.0	4/12	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り		
594	0541	Ⅲ	土師器	B8北区	Ⅴ面	SK19	(12.0)	8.6	0.6	−	2.2	1/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂多い	非ロクロ
606	0613	Ⅲ	土師器	B8南区 西側	Ⅰ面	遺構検出(SX17含む)	(7.9)	(5.0)	0.5	−	1.7	3/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂多い	非ロクロ、還元焼成品
607	0615	Ⅲ	土師器	B8南区 西側	Ⅰ面	遺構検出(SX17含む)	(9.0)	−	−	−	(2.4)	2/12	−	灰	灰	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多い	非ロクロ、還元焼成で須恵器質化
608	0617	Ⅲ	土師器	B8南区 西側	Ⅰ面	遺構検出(SX17含む)	(7.2)	(6.0)	0.5	−	1.1	4/12	4/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂多い	非ロクロ
621	0560	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX17	(6.3)	(4.2)	0.5	−	1.2	3/12	3/12	褐灰	褐にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂粒少ない	非ロクロ
622	0588	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX18	7.6	−	0.5	−	1.6	8/12	−	褐灰	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
623	0590	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX18	(5.8)	(3.0)	0.5	−	1.2	4/12	6/12	橙	灰褐	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂微量	非ロクロ
646	0561	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX18　No.1	7.4	−	0.4	−	最大高2.4(最小高1.3)	12/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	非ロクロ、煤付着
648	0563	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX18　No.8	(10.6)	(6.9)	0.5	−	2.0	2/12	3/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂礫少い	非ロクロ
651	0566	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX18　No.12	(7.2)	(4.1)	0.5	−	1.5	5/12	4/12	淡黄	淡黄	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂礫少い	非ロクロ
656	0571	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX18　No.16、SX18	(7.6)	(4.8)	0.4	−	1.2	5/12	5/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂礫少い	非ロクロ
658	0573	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX18　No.17、No.20、SX18、検出面精査	(11.3)	(7.3)	0.5	−	2.2	3/12	2/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂含む	非ロクロ、2段ナデ
659	0574	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX18　No.19、No.20	7.1	−	0.5	−	最大高2.2(最小高1.5)	8/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	非ロクロ
660	0576	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX18　No.20	(11.7)	(6.8)	0.4	−	2.3	3/12	3/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	雲母含む	非ロクロ
667	0581	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX18　No.22、SX18	(10.4)	(6.0)	0.4	−	1.9	4/12	4/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少ない	非ロクロ、2段ナデ
669	0577	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅰ面	SX18　No.23	(6.4)	(2.8)	0.4	−	1.3	4/12	4/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂微量	非ロクロ
685	0624	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅱ面	包含層1	(10.6)	7.2	0.4	−	2.5	3/12	4/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少ない	非ロクロ
686	0625	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅱ面	包含層1	(7.8)	1.6	0.5	−	1.8	7/12	12/12	浅黄橙	淡浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂微量	非ロクロ
688	0643	Ⅲ	土師器	B8南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(11.4)	(6.8)	0.6	−	1.8	2/12	4/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂含み、粗砂少ない	非ロクロ
689	0648	Ⅲ	土師器	B8南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(5.8)	(5.8)	0.4	−	0.9	2/12	2/12	灰	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂目立つ	非ロクロ、還元状態
690	0650	Ⅲ	土師器	B8南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(9.6)	(8.0)	0.4	−	2.5	3/12	3/12	黄橙	灰黄褐	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂目立つ	非ロクロ
691	0651	Ⅲ	土師器	B8南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(7.0)	(5.5)	0.4	−	最大高1.6(最小高1.3)	3/12	3/12	灰	明灰	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂目立つ	非ロクロ
692	0660	Ⅲ	土師器	B8南区 西側	Ⅱ面	包含層1	7.3	3.0	0.5	−	1.7	6/12	12/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、指押え	粗砂多い	非ロクロ
693	0661	Ⅲ	土師器	B8南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(6.7)	(5.7)	0.5	−	1.5	4/12	5/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多い	非ロクロ
694	0652	Ⅲ	土師器	B8南区 西側	Ⅱ面	包含層1、B8北区Ⅱ面包含層1排土中	(10.4)	(8.0)	0.3	−	2.6	4/12	5/12	淡橙、灰白	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ、指押え	ヨコナデ、ナデ、指押え	粗砂多い	非ロクロ、内面還元気味
733	0630	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅱ面	包含層2	(7.6)	(4.8)	0.4	−	1.9	3/12	3/12	灰白	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少ない	非ロクロ
734	0633	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅱ面	包含層2	(9.5)	(4.5)	0.7	−	2.0	2/12	2/12	にぶい橙	褐灰	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂く、海綿骨針含む	非ロクロ
735	0635	Ⅲ	土師器	B8南区	Ⅱ面	包含層2	(7.7)	(3.4)	0.5	−	1.2	3/12	3/12	橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	摩耗	粗砂・礫少ない	非ロクロ
756	0620	Ⅲ	土師器	B8南区 東側	Ⅱ面	ベース	(7.7)	(5.5)	0.5	−	1.4	5/12	6/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂少ない	非ロクロ

第8表　出土土器観察表7

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
762	0691	皿	土師器	B8南区 東側	Ⅲ面	ベース(礎石1・2周辺)	7.6	6.8	0.4	−	1.3	7/12	8/12	淡黄橙	淡黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	粗砂目立つ	非ロクロ
772	0723	皿か(柱状高台)	土師器	B8南区 東側	Ⅳ面	包含層1(礎石1東側下)	−	−	5.0	−	(5.1)	−	−	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、赤色粒	
773	0724	皿	土師器	B8南区 東側	Ⅳ面	包含層1(礎石1～3アゼ)	(7.7)	(6.3)	0.5	−	1.2	3/12	3/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	粗砂多い	非ロクロ
775	0701	皿	土師器	B8南区 東側	Ⅳ面	包含層1(礎石1～3下周辺)	(13.5)	6.6	0.8	−	2.8	2/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	粗砂多い	非ロクロ、肥厚で外面調整荒い
776	0706	皿	土師器	B8南区 東側	Ⅳ面	包含層1(礎石1～3下周辺)	(8.5)	(7.3)	0.6	−	1.4	4/12	4/12	淡黄橙	淡黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多い	非ロクロヵ
777	0708	皿	土師器	B8南区 東側	Ⅳ面	包含層1(礎石1～3下周辺)	(8.1)	−	0.5	−	(1.5)	4/12	3/12	黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多い	非ロクロ
778	0716	皿	土師器	B8南区 東側	Ⅳ面	包含層1(礎石1～3下周辺)	(11.3)	(7.9)	0.5	−	2.3	1/12	3/12	黄橙	黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多い	非ロクロ
779	0722	無台埦	土師器	B8南区 東側	Ⅳ面	包含層1(礎石1～3下周辺)	−	5.8	1.6	−	(2.4)	−	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒多	
780	0733	広口瓶	須恵器	B8南区 東側	Ⅳ面	包含層1(礎石1～3下周辺)	−	−	−	−	(6.0)	−	−	暗青灰	灰	ロクロナデ	ロクロナデ、沈線	粗砂多い	内外面降灰、黒化、小松産
806	0727	皿か(柱状高台)	土師器	B8南区 東側	Ⅳ面	包含層2(礎石7～10北側下)	−	7.6	−	−	(4.0)	−	2/12	−	黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、礫少、赤色粒	全体摩耗
807	0731	無台埦	土師器	B8南区 東側	Ⅳ面	包含層2(礎石7～10北側下)	−	6.0	1.3	−	(1.9)	−	12/12	黄橙	黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り後ナデ?	粗砂多、赤色焼土塊多	底部摩耗、板状圧痕あり
815	0783	壺	陶器	B9北区 西側	Ⅰ面	遺構検出(カクラン)	−	「23.6」	1.1	−	(5.1)	−	1/12	灰白	明灰	ヨコナデ	ナデ	細砂・粗砂目立つ	瓷器系陶器、二次加熱で軟質化
816	0785	香炉	瀬戸	B9北区	Ⅰ面	検出面精査	(7.6)	−	−	−	(2.1)	1/12	−	露胎(灰オリーブ)	灰釉(灰黄)	ロクロナデ	ロクロナデ	明灰白、堅緻	灰釉筒形香炉、古瀬戸後期Ⅱ期
830	0791	皿	土師器	B9北区 西側	Ⅱ面	包含層1	(7.0)	(4.8)	0.5	−	1.5	5/12	5/12	にぶい黄橙	茶褐	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多く、礫少い	非ロクロ、口縁の一部に煤付着
831	0797	皿	土師器	B9北区 西側	Ⅱ面	包含層1	(6.0)	−	0.4	−	(1.4)	3/12	−	にぶい橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂多い	非ロクロ
845	0819	皿	土師器	B9北区	Ⅲ面	包含層1、Ⅱ面包含層1	8.4	5.8	0.4	−	1.6	6/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂多い	非ロクロ
846	0811	皿	土師器	B9北区 西側	Ⅲ面	包含層1、Ⅱ面包含層1	(12.0)	(7.6)	0.4	−	(2.6)	4/12	−	淡黄	淡黄	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂多い	非ロクロ
847	0828	皿	土師器	B9北区 東側	Ⅲ面	包含層1	(13.6)	(10.0)	−	−	2.8	3/12	1/12以下	灰白	灰白	ヨコナデ	ヨコナデ	細砂少い	非ロクロ、燈芯油痕あり
848	0814	皿	土師器	B9北区 西側	Ⅲ面	包含層1	(12.0)	−	0.5	−	2.8	5/12	−	淡黄	淡黄	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂多い	非ロクロ
871	0818	皿	土師器	B9北区 西側	Ⅲ面	包含層1、Ⅱ面包含層1、C9北区西側Ⅱ面包含層2	8.2	−	0.5	−	1.5	6/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂多い	非ロクロ
872	0839	無台皿か	土師器	B9北区 東側	Ⅲ面	包含層1(礎石7～10下周辺)(B8南区Ⅳ面包含層1と同じ層)	−	5.2	1.8	−	(2.2)	−	11/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	礫少、赤色粒少、雲母	
881	0863	無台皿か(柱状高台か)	土師器	B9北区 東側	Ⅲ面	包含層2(B8南区Ⅳ面包含層2と同じ層)	−	5.1	1.7	−	(2.1)	−	−	明赤褐	明赤褐	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	礫少、赤色粒少、海面骨針少、雲母	柱状高台の底部分剝がれた可能性あり
882	0867	碗	青磁	B9北区 東側	Ⅲ面	包含層2(B8南区Ⅳ面包含層2と同じ層)	−	−	−	−	(2.6)	1/12以下	−	青磁釉(オリーブ黄)		ロクロナデ	劃花文	灰白、堅緻	龍泉窯系劃花文碗
902	0868	鉢	土師器	B9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	−	−	−	(4.6)	1/12以下	−	橙	橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、突帯貼付け	礫少、赤色粒少、雲母	
903	0873	皿か(柱状高台)	土師器	B9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	4.9	1.5	1.8	(2.2)	−	11/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多	
904	0899	皿か(柱状高台)	土師器	B9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	(5.5)	4.0	−	(5.3)	−	2/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り?	粗砂並、赤色粒少	内外面摩耗
905	0881	皿か	土師器	B9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	(3.7)	0.6	2.0	(2.2)	−	4/12	浅黄橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並、赤色粒少	底部絞り痕

第9表　出土土器観察表8

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
906	0875	無台埦	土師器	B9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	(6.5)	1.5	−	(2.3)	−	5/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並、赤色粒並	
907	0885	無台埦	土師器	B9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	6.9	1.6	−	(1.9)	−	12/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並、礫、赤色粒多(2～3mm大)	
908	0876	無台埦	土師器	B9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	(6.4)	2.6	−	(3.1)	−	小片	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、赤色粒少	全体摩耗
909	0883	有台埦(内黒)	土師器	B9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	(6.4)	0.6	1.2	(1.8)	−	1/12	褐灰	にぶい橙	ミガキ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多	
910	0900	皿	土師器	B9北区 東側	Ⅲ面	包含層3	(8.7)	(5.1)	0.4	−	1.3	2/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂並、礫含む	非ロクロ、底部板状圧痕
955	1059	皿	土師器	C9北区	Ⅱ面	包含層1(SX33下)	(7.6)	(4.0)	0.4	−	1.6	3/12	3/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂微量	非ロクロ、口縁燈芯油痕あり
956	0963	皿	土師器	C9北区 西側	Ⅱ面	包含層1、B9北区Ⅰ面表土除去	(7.2)	(5.8)	0.6	−	1.9	4/12	1/12	橙	橙、にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	硬質、細砂微、粗砂微	
957	0966	皿	土師器	C9北区 西側	Ⅱ面	包含層1	9.4	6.7	0.5	−	1.6	9/12	10/12	浅黄	浅黄	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂微量	非ロクロ
978	0935	皿	土師器	C9北区	Ⅱ面	SX34−a上層	(7.4)	(4.2)	−	−	1.8	2/12	1/12	にぶい黄橙、明黄橙	にぶい黄橙、明黄橙	ロクロナデ?	ロクロナデ?	細砂微	窯内での焼成か一部還元気味
979	0936	皿	土師器	C9北区	Ⅱ面	SX34−a上層	(9.2)	−	−	−	(1.9)	2/12	−	にぶい黄橙	浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少く、粗砂微量	非ロクロ
980	0921	皿(柱状高台)	土師器	C9北区	Ⅱ面	SX34−a上層	−	4.9	1.7	2.7	(2.7)	−	12/12	黄橙	黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、絞り痕	細砂並、粗砂少	
981	0923	有台皿か	土師器	C9北区	Ⅱ面	SX34−a上層	−	(6.2)	3.0	−	(2.4)	−	8/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並、赤色粒並	全体摩耗顕著
982	0938	有台埦(内黒)	土師器	C9北区	Ⅱ面	SX34−a上層	−	−	1.2	−	(1.6)	−	−	黒	褐灰、橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、礫微、赤色粒、海面骨針少	
983	0929	甕	須恵器	C9北区	Ⅱ面	SX34−a上層、SX34−b上層	−	−	−	−	(17.0)	−	−	灰	灰	同心円当て具痕	平行タタキ	粗砂並、礫並	
999	0950	有台埦	土師器	C9北区	Ⅱ面	SX34(a～b間アゼ)	−	(5.8)	0.8	1.5	(2.3)	−	2/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り後ナデ	細砂並、粗砂並、礫微	
1007	0951	有台埦	土師器	C9北区	Ⅱ面	SX34−b上層	−	6.2	1.5	−	(2.3)	−	11/12	にぶい黄橙、浅黄橙	にぶい黄橙、浅黄橙	ロクロナデ、ミガキ?	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒多	底部台状
1008	0954	埦か	土師器	C9北区	Ⅱ面	SX34−b上層	−	4.1	1.7	−	(1.2)	−	12/12	橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂微、礫微、赤色粒少	底部台状
1017	0960	有台埦(内黒)	土師器	C9北区	Ⅱ面	SX34−b下層、SX34−b上層	−	(5.8)	0.6	1.7	(1.9)	−	2/12	黒	橙、淡橙	ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ	細砂多、粗砂微	
1018	0989	皿	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層1	(9.4)	(6.0)	0.4	−	2.0	3/12	3/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂・礫微量、白色粒多い	
1019	0991	無台埦	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層1	(13.5)	(5.8)	−	−	3.6	1/12	1/12	浅黄	浅黄	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、ナデ	粗砂微量	
1020	0994	鉢か埦か	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層1、C10北区Ⅱ面ベース	−	(8.8)	−	−	(3.4)	−	5/12	橙	橙	不明	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、礫微	
1021	0987	無台埦	土師器	C9北区 東側	Ⅲ面	包含層1	−	5.7	1.6	−	(2.4)	−	12/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、白色粒	底部摩耗著しい
1022	0988	無台埦	土師器	C9北区 東側	Ⅲ面	包含層1(東壁)	(15.2)	(7.0)	1.1	−	4.2	1/12以下	3/12	灰黄褐	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂少、礫微	全体摩耗
1035	1000	有台埦	土師器	C9北区 東側	Ⅲ面	包含層2、C9北区東側Ⅲ面包含層1	−	7.4	0.6	1.3	(2.7)	−	10/12	にぶい黄橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂並、礫微、赤色粒多(5mm大)	
1044	1036	皿か(柱状高台)	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	6.3	−	−	(2.7)	−	11/12	−	浅黄橙	−	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂少、礫微、赤色粒少(3mm大含)	
1045	1021	有台埦	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	−	0.9	−	(4.4)	−	−	浅黄橙	黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ	粗砂少、礫微、赤色粒並	
1046	1023	有台埦	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	(6.7)	0.8	1.7	(2.5)	−	6/12	黄橙	黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ	粗砂少、礫微	全体摩耗、台部の貼付け雑
1047	1032	埦	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	6.0	2.1	−	(2.8)	−	12/12	橙、黄橙	橙、黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂少、礫微	
1048	1039	埦か	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	4.1	1.4	−	(1.5)	−	12/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂微	全体摩耗
1049	1038	埦か	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	3.7	1.5	−	(1.5)	−	12/12	黄橙、浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ?	細砂並、粗砂少、礫微	

第10表　出土土器観察表9

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
1050	1040	無台埦(柱状高台)	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	4.0	1.7	−	(2.3)	−	12/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並、赤色粒並	
1051	1041	無台埦(柱状高台)	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	4.6	2.0	−	(2.5)	−	12/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂並、粗砂並、赤色粒少	
1052	1025	無台埦(内黒)	土師器	C9北区 西側	Ⅲ面	包含層3	−	(5.0)	0.6	−	(1.1)	−	7/12	黒	浅黄橙、明黄橙、黒	ミガキ	ロクロナデ、ケズリ、回転糸切り後周縁部ヨコナデ	細砂多、粗砂少、礫微	
1053	1020	Ⅲ(柱状高台)	土師器	C9北区 東側	Ⅲ面	包含層3	−	4.4	1.5	−	(2.5)	−	12/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	精緻、粗砂微、礫微	底部摩耗顕著
1054	1015	有台埦	土師器	C9北区 東側	Ⅲ面	包含層3	−	(6.8)	0.6	1.6	(2.1)	−	3/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り後ロクロナデ	細砂微、礫微、白色粒微	
1055	1018	有台埦	土師器	C9北区 東側	Ⅲ面	包含層3	−	6.8	1.0	2.0	(2.9)	−	5/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り後ロクロナデ	粗砂多、白色粒微	
1056	1016	鉢か	土師器	C9北区 東側	Ⅲ面	包含層3	−	(7.5)	1.0	−	(2.1)	−	4/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂並、粗砂多、白色粒微	内外摩耗顕著
1091	1062	Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅰ面	遺構検出	(13.4)	(8.4)	0.8	−	3.3	3/12	3/12	橙	橙	ヨコナデ	ヨコナデ	細砂・粗砂微量	非ロクロ
1098	1118	Ⅲ(柱状高台)	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層1	−	3.8	0.6	2.0	(2.1)	−	7/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多	内面回転しながらくぼませる
1099	1120	無台埦	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層1	−	5.6	1.5	−	(2.0)	−	11/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並、赤色粒、海面骨針	全体摩耗
1100	1121	Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(12.3)	7.0	0.5	−	3.0	1/12	8/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	緻密、粗砂並	歪みあり
1101	1123	Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層1	「14.5」	−	0.4	−	(2.3)	2/12	−	橙	橙	ヨコナデ、指押え	ヨコナデ、ナデ	粗砂含む	非ロクロ
1102	1132	Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層1	「13.0」	−	−	−	(2.1)	1/12	−	橙	橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂並	非ロクロ
1103	1138	Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(12.8)	−	−	−	(2.8)	1/12	−	浅黄橙	浅黄橙	摩耗により不明	摩耗により不明	緻密、粗砂少	非ロクロ
1104	1140	Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(14.3)	−	−	−	(2.7)	1/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	緻密、粗砂並、赤色粒	非ロクロ
1105	1141	Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(12.8)	−	0.5	−	2.3	1/12	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	粗砂含む	非ロクロ
1106	1146	Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層1	(9.7)	(6.4)	0.5	−	1.3	1/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	緻密、粗砂並	非ロクロ
1107	1124	Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層1、C9北区西側Ⅱ面包含層1	8.3	−	0.6	−	最大高2.1(最小高1.4)	5/12	−	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	粗砂含む	非ロクロ
1108	1087	Ⅲ	土師器	C9南区 東側	Ⅱ面	包含層1	(9.9)	4.8	1.8	−	2.8	1/12	12/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	摩耗により不明	ロクロナデ、回転糸切り	細砂並、粗砂微	
1109	1088	Ⅲ(柱状高台)	土師器	C9南区 東側	Ⅱ面	包含層1	−	4.0	2.0	−	(2.4)	−	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂び、礫微	
1110	1106	Ⅲ(柱状高台)	土師器	C9南区 東側	Ⅱ面	包含層1	−	4.4	1.5	−	(2.4)	−	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂並、粗砂並、礫微、赤色粒微	
1111	1109	無台埦	土師器	C9南区 東側	Ⅱ面	包含層1	−	(6.0)	0.8	−	(2.5)	−	3/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並、赤色粒少	
1112	1110	無台埦	土師器	C9南区 東側	Ⅱ面	包含層1	−	5.3	0.6	−	(1.1)	−	9/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並	
1162	1073	Ⅲ	土師器	C9南区	Ⅱ面	包含層1(集石1下)	(8.6)	(6.2)	0.8	−	1.5	2/12	4/12	橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	精緻、赤色粒微	歪み大
1163	1076	Ⅲ	土師器	C9南区	Ⅱ面	包含層1(集石1下)	(7.5)	(4.0)	0.5	−	1.6	2/12	2/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	精緻	非ロクロ
1173	1081	Ⅲ	土師器	C9南区	Ⅱ面	包含層1(集石2周辺)	(7.6)	(2.7)	0.8	−	2.1	1/12	3/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り?	細砂並、粗砂微	
1174	1082	Ⅲ(柱状高台)	土師器	C9南区	Ⅱ面	包含層1(集石2周辺)	−	5.6	2.8	−	(3.4)	−	12/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂並、粗砂微	
1179	1152	Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層2	(9.4)	−	0.8	−	(1.8)	1/12	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂並	非ロクロ
1180	1160	灯明Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層2	「13.0」	「9.1」	0.4	−	2.7	小片	−	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	緻密、粗砂並、赤色粒	非ロクロ、内外面油痕
1181	1163	Ⅲ	土師器	C9南区 西側	Ⅱ面	包含層2	(8.9)	(6.6)	0.5	−	1.4	2/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂並、赤色粒微	非ロクロ、内外面摩耗
1182	1156	Ⅲ	土師器	C9南区 東側	Ⅱ面	包含層2	(12.4)	−	−	−	(2.4)	2/12	−	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂並	非ロクロ

第11表　出土土器観察表10

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
1193	1166	甕	常滑	C9南区 西側	Ⅱ面	遺構検出	−	−	−	−	(9.9)	−	−	灰白	灰白	ヨコナデ、指押え	ナデ、格子タタキ(押印)	粗砂・礫目立つ	常滑大甕
1200	1079	埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	包含層1(集石1下)、東側Ⅱ面包含層1	−	(5.6)	0.9	−	(2.4)	−	8/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並	
1201	1354	皿か	土師器	C9南区	Ⅱ面	SK12、C9南区Ⅱ面SX37−a(SK12とのアゼ)	−	5.2	0.7	2.4	(2.5)	−	6/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒少(4mm大)	
1206	1008	無台埦(内黒)(赤彩)	土師器	C9南区	Ⅱ面	SX34(サブトレ上層)、C9北区東側Ⅲ面包含層3	−	6.6	0.8	1.4	(2.7)	−	12/12	黒	橙	ミガキ	ロクロナデ	粗砂並、礫微、白色粒	外面赤彩
1210	1191	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	SX36	(8.8)	(5.5)	0.7	−	1.5	3/12	6/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	緻密、粗砂少、赤色粒	胎土の練りが不十分で縞状
1211	1195	無台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	SX36	−	(7.0)	0.6	0.7	(2.4)	−	6/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並	
1212	1196	有台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	SX36	−	(7.2)	1.0	2.2	(2.8)	−	5/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ	粗砂並、赤色粒少	
1213	1201	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	SX36	(8.0)	(4.8)	0.5	−	1.6	2/12	4/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	緻密、細砂多、粗砂多	胎土マーブル状
1238	1174	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	P32	(8.3)	−	0.8	−	1.4	2/12	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂並、赤色粒	非ロクロ、内外面摩耗
1239	1176	無台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	P32	(15.5)	(6.2)	1.0	−	5.2	小片	4/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並	全体摩耗
1240	1179	無台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	P32	−	4.2	1.5	−	(2.1)	−	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並、赤色粒微	
1241	1180	埦か(柱状高台)	土師器	C9南区	Ⅱ面	P32	−	5.2	3.1	−	(3.2)	−	10/12	橙	橙	摩耗により不明	摩耗により不明	粗砂並、礫、赤色粒並	全体摩耗顕著
1251	1215	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	(14.0)	−	−	−	(2.7)	2/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	細砂多、粗砂多、赤色粒少	非ロクロ
1252	1258	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	−	4.0	0.8	−	(1.1)	−	12/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂少、礫微	
1253	1269	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	−	(5.0)	0.5	−	(2.0)	−	3/12	黄橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂少	
1254	1272	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	−	(3.9)	0.7	−	(5.1)	−	−	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂少、礫少	
1255	1284	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	(8.8)	(5.4)	0.6	−	1.3	2/12	2/12	浅黄橙、黄橙、灰白	浅黄橙、橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂微	内外面自然釉?
1256	1288	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	(8.2)	(6.2)	0.4	−	1.6	5/12	4/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	粘土質、細砂多	非ロクロ
1257	1290	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	(13.8)	(8.6)	0.4	−	2.5	7/12	2/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	細砂多い	非ロクロ
1258	1298	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	(14.9)	−	−	−	(2.5)	3/12	−	にぶい橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	細砂多、礫微、赤色粒微	非ロクロ
1259	1299	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	(7.7)	(5.0)	0.4	−	1.8	2/12	2/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多、赤色粒	非ロクロ
1260	1305	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	(8.2)	(6.0)	0.7	−	1.3	1/12	4/12	灰白	灰白	摩耗により不明	摩耗により不明、回転糸切り	粘土質、細砂多	円柱技法
1261	1313	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	「12.4」	−	0.6	−	2.1	1/12	−	浅黄橙	浅黄橙	摩耗により不明	摩耗により不明	粘土質、細砂多	非ロクロ
1262	1266	皿(柱状高台)	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	−	4.0	4.1	−	(4.1)	−	11/12	黄橙	浅黄橙、黄橙	−	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並	
1263	1281	皿(柱状高台)	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	(9.0)	3.7	1.3	−	2.5	4/12	12/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂微、粗砂少	傾き、歪みあり
1264	1219	皿	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	(7.0)	−	−	−	(1.4)	2/12	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	緻密、細砂多、粗砂多	非ロクロ
1265	1251	埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	−	(5.8)	1.9	−	(2.5)	−	5/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並	
1266	1282	埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	−	5.2	0.8	−	(2.3)	−	12/12	黄橙、橙	黄橙、橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂微	
1267	1309	埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	「12.2」	−	−	−	(1.9)	1/12	−	浅黄橙	浅黄橙	摩耗により不明	ヨコナデ	粘土質、細砂多	ロクロ土師器
1268	1315	埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	「12.0」	(6.4)	0.8	−	3.3	1/12	2/12	浅黄橙	浅黄橙	摩耗により不明	摩耗により不明、回転糸切り	細砂多、粗砂微	

第12表　出土土器観察表11

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
1269	1260	埦(柱状高台)	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	－	6.6	1.9	－	(2.4)	－	12/12	浅黄橙、灰褐	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	精緻、粗砂微	
1270	1278	埦(内黒)	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	－	5.1	1.1	－	(2.6)	－	12/12	黒、浅黄橙	浅黄橙、黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ、回転糸切り	粗砂少、礫微	Ⅵ期
1271	1224	無台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	－	5.6	1.8	－	(2.7)	－	12/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒多	
1272	1226	無台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	－	(6.3)	1.0	1.4	(2.25)	－	8/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒少、海面骨針少	全体摩耗
1273	1227	無台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	－	4.7	1.5	－	(2.0)	－	7/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒少	
1274	1241	無台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	－	4.2	1.4	－	(2.3)	－	10/12	灰黄褐	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、礫微、赤色粒少	
1275	1242	無台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	－	4.3	1.1	－	(1.6)	－	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒少(4mm大)	
1276	1273	有台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	－	4.6	0.9	1.7	(2.0)	－	9/12	橙、浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂少	
1277	1277	有台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	(13.8)	(7.3)	0.5	1.5	3.8	1/12	7/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ、回転糸切り	精緻、粗砂少、白色粒少	
1278	1283	有台埦	土師器	C9南区	Ⅱ面	ベース	－	7.2	1.0	2.0	(2.6)	－	9/12	にぶい褐、橙	にぶい黄橙、黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ、回転糸切り	粗砂少、白色粒少	
1279	1316	瓶	須恵器	C9南区	Ⅱ面	ベース	－	－	－	－	(6.5)	－	－	灰	暗紫灰	ロクロナデ	ロクロナデ	粗砂少く、石英含む	小松産
1280	1318	甕	弥生土器	C9南区	Ⅱ面	ベース	(13.0)	－	－	－	(3.2)	2/12	－	浅黄橙	にぶい黄橙	摩耗により不明	ヨコナデ、擬凹線9～10条	細砂多、粗砂並、礫並、雲母微	法仏期?
1357	1342	皿	土師器	C10北区西側	Ⅰ面	包含層	(8.7)	(7.4)	0.4	－	1.3	1/12	2/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多、赤色粒	非ロクロ
1358	1343	皿(柱状高台)	土師器	C10北区西側	Ⅰ面	包含層	－	4.2	1.6	－	(1.8)	－	5/12	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ロクロナデ	ヨコナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂少、赤色粒微、石英微	内外面黒斑
1362	1351	皿	土師器	C10北区	Ⅰ面	遺構検出	「11.0」	－	－	－	(2.1)	1/12	－	浅黄橙	浅黄橙	摩耗により不明	摩耗により不明	細砂多、礫微、赤色粒微	非ロクロ、口縁歪みあり、内外面油痕
1369	1061	皿	土師器	C10北区	Ⅰ面	SX20－a	(10.4)	(4.3)	0.6	－	1.8	1/12	1/12	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	精緻、白色粒	非ロクロ、歪み大
1375	1477	皿	肥前	C10北区	Ⅱ面	包含層(SX37－a・b間東西アゼ1下)	(9.6)	－	－	－	(1.6)	1/12	－	白濁釉(染付)				緻密、細砂少、粗砂少	輪花皿、型押し、呉須の発色は悪く、17C後半
1376	1474	皿	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層(SX37－b上)	「13.5」	－	－	－	(3.0)	1/12	－	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	細砂並、粗砂並	非ロクロ
1377	1475	皿	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層(SX37－b上)	(8.8)	(6.9)	0.5	－	(1.6)	2/12	2/12	にぶい黄褐	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、未調整?	粉っぽくきめ細かい、細砂多、粗砂少	ロクロ土師器、摩耗あり
1378	1476	皿(柱状高台)	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層(SX37－b上)	－	4.6	2.0	2.9	(3.0)	－	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂やや多、粗砂やや多	
1379	1436	埦	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層1、Ⅱ面包含層1(中央アゼ)	－	5.1	0.9	－	(2.5)	－	12/12	浅黄橙～にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂並、粗砂並、礫少	
1380	1438	有台埦	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層1	－	(6.4)	1.0	1.6	(2.8)	－	1/12	淡橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り?	浅黄橙色、細砂多、粗砂多	
1381	1108	皿	土師器	C10北区 西側	Ⅱ面	包含層1	(16.0)	－	－	－	(3.1)	1/12	－	にぶい黄褐	褐灰	ロクロナデ	ロクロナデ	粗砂多	内面油煙痕、外面漆付着?
1382	1486	皿	土師器	C10北区 西側	Ⅱ面	包含層1	(14.0)	(7.0)	0.6	－	2.6	4/12	3/12	灰白	灰白	摩耗により不明	摩耗により不明、回転糸切り	緻密、粉っぽい、細砂多	
1383	1488	皿	土師器	C10北区 西側	Ⅱ面	包含層1	(12.0)	(8.7)	0.4	－	(2.7)	2/12	－	にぶい橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多、粗砂多、赤色粒微	非ロクロ、歪みあり
1384	1495	皿か(高台)	土師器	C10北区 西側	Ⅱ面	包含層1	－	3.5	0.9	1.3	(1.6)	－	12/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、赤色粒並	全体摩耗
1385	1496	皿か(柱状高台)	土師器	C10北区 西側	Ⅱ面	包含層1	－	6.2	4.6	－	(4.6)	－	3/12	明黄褐	明黄褐	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多	
1386	1487	皿	土師器	C10北区 西側	Ⅱ面	包含層1	9.0	7.4	0.4	－	1.5	4/12	－	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂多い、	非ロクロ
1403	1454	皿	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層1(東西アゼ1)	－	6.5	1.8	－	(2.4)	－	12/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗く砂っぽい、細砂多、粗砂多	

第13表　出土土器観察表12

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
1404	1455	皿	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層1(東西アゼ1)	−	6.0	1.3	−	(1.9)	−	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂並、海面骨針	
1405	1460	皿	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層1(東西アゼ1)、Ⅱ面ベース	(9.2)	(6.0)	0.5	−	1.4	2/12	8/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多	
1412	1439	碗(染付)(肥前)	磁器	C10北区	Ⅱ面	包含層1(中央アゼ)	−	−	−	−	(3.1)	1/12	−		白			緻密、細砂微、粗砂微	釉:やや透明感に欠ける、呉須:発色並、17Cか
1413	1444	皿(墨痕)	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層1(中央アゼ)	−	(4.1)	1.6	−	(2.3)	−	12/12	にぶい褐〜にぶい橙	にぶい褐〜にぶい橙	ロクロナデ、糸切り	ロクロナデ、回転糸切り	細砂並、粗砂並、赤色粒	底部墨痕
1424	1522	皿	土師器	C10北区 東側	Ⅱ面	包含層1(集石1下中央アゼ西側)	(13.0)	(8.5)	0.6	−	2.4	3/12	2/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多、粗砂多	非ロクロ、内面指押え目立つ
1439	1451	皿	肥前	C10北区	Ⅱ面	包含層1(SX19−c下)	「15.0」	−	−	−	(2.9)	1/12	−	透明釉(淡オリーブ灰)		ロクロナデ	染付	灰白、緻密	初期伊万里
1440	1470	埦	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層1(SX19−c下)	「16.2」	−	−	−	(2.6)	1/12	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂やや多、粗砂やや多	非ロクロ
1454	1358	無台埦	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層1(SX37a・b間東西アゼ下)、SX37(a・b間アゼ1)、西側Ⅱ包含層2、Ⅱ面包含層1　SX37−b	(14.6)	7.1	1.3	−	4.1	2/12	11/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂並	内面摩耗、破片化後一部煤付着
1455	1479	皿	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層1(SX37−a・b間東西アゼ1下)	(6.6)	(5.1)	0.5	−	(1.4)	1/12	1/12	浅黄橙	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	きめ細やか、細砂少、粗砂少	ロクロ土師器、一部外面煤付着、外面口縁付近光沢あり
1456	1480	皿	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層1(SX37−a・b間東西アゼ1下)	(13.7)	(8.6)	0.5	−	3.1	1/12	4/12	灰白	灰白	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ、ナデ、回転糸切り	やや粉っぽくきめ細かい、細砂少、粗砂少	胎土白色系
1462	1452	皿	青磁	C10北区	Ⅱ面	包含層1(礎石1周辺)	(8.5)	(2.8)	0.9	−	2.3	1/12	1/12	青磁釉(明オリーブ灰)		劃花文	ロクロナデ、ヘラケズリ	灰白、堅緻	龍泉窯系劃花文皿
1464	1534	碗	青磁	C10北区 西側	Ⅱ面	包含層2、C9南区Ⅱ面包含層1　集石2周辺、C9南区東側Ⅱ面包含層1	−	6.2	1.6	2.0	(1.95)	−	6/12	青磁釉(オリーブ灰)	露胎(灰)	劃花文	ヘラケズリ、露胎	灰白、堅緻	龍泉窯系劃花文碗、円盤状に打ち欠き
1465	1529	皿	土師器	C10北区 西側	Ⅱ面	包含層2	(8.2)	(4.0)	−	−	1.7	2/12	2/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂並、粗砂微、赤色粒微	非ロクロ、内面摩耗
1466	1530	埦	土師器	C10北区 西側	Ⅱ面	包含層2	(13.8)	−	−	−	(4.5)	1/12	−	橙	にぶい橙	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ	粗砂微、礫微、赤色粒微、白色粒微	
1473	1339	有台埦(内黒)	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層2(SX19−a下)C10南区Ⅰ面SX19(サブトレ中層)(Ⅱ面包含層含む)	−	−	0.8	−	(2.0)	−	2/12	褐灰	橙	ミガキ	ヨコナデ	細砂多、粗砂微、石英微	ロクロ土師器
1474	1538	皿	土師器	C10北区	Ⅱ面	包含層2(SX20−a下)	−	(6.8)	1.0	−	(2.4)	−	3/12	にぶい黄褐〜褐灰	橙、褐灰	ナデ	ナデ	精緻、粗砂微	ロクロ土師器、内外面煤付着
1478	1357	無台埦	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−a	−	5.7	1.5	−	(1.7)	−	9/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒並	
1479	1362	無台埦か	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37(a・b間　東西アゼ1)	−	3.6	1.4	−	(1.6)	−	8/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒多、海面骨針	
1484	1391	皿	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	(8.0)	(6.5)	0.3	−	1.6	2/12	2/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、回転糸切り	細砂多、赤色粒少	非ロクロ
1485	1392	皿か(柱状高台)	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	−	(5.8)	−	−	(4.0)	−	3/12	にぶい橙	にぶい橙	摩耗により不明	ナデ、摩耗により不明	細砂多、粗砂並、赤色粒並	ロクロ土師器
1486	1393	皿か(柱状高台)	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	−	(6.9)	4.4	−	(4.6)	−	2/12	にぶい橙	にぶい橙	摩耗により不明	摩耗により不明	細砂多、粗砂多、赤色粒並	ロクロ土師器
1487	1394	皿か(柱状高台)	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	−	6.2	6.2	−	(6.4)	−	12/12	橙	橙	ナデ?	ロクロナデ	粗砂多、赤色焼土塊、海面骨針	全体摩耗
1488	1385	無台皿	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	(9.2)	(4.3)	0.6	−	2.0	1/12以下	5/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	赤色粒少	外面摩耗
1489	1386	無台皿か	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	−	(4.6)	0.9	−	(2.1)	−	6/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	赤色粒少	

第14表　出土土器観察表13

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
1490	1387	無台皿か	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	−	(6.4)	1.0	−	(1.6)	−	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	赤色粒少	
1491	1382	埦か皿(柱状高台)	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	−	5.3	1.5	−	(2.1)	−	12/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒多、海面骨針	全体摩耗
1492	1365	有台埦か	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	−	(6.5)	0.6	1.5	(1.8)	−	3/12	にぶい橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂少	
1493	1372	無台埦か	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	−	(4.2)	1.3	−	(1.8)	−	11/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	赤色粒少、雲母少	
1494	1383	無台埦	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	(14.4)	6.4	1.3	−	5.5	1/12	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多、赤色粒微	底部台状
1495	1399	無台埦	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	−	(5.7)	1.7	−	(2.5)	−	8/12	にぶい褐	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、赤色焼土塊、海面骨針	内外面薄く煤付着
1496	1364	双耳瓶	須恵器	C10北区	Ⅱ面	SX37−b	−	−	−	−	(6.0)	−	−	にぶい黄橙	灰	ロクロナデ	ナデ、カキメ	砂粒含む	小松産
1525	1405	底部	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−c	−	(6.6)	2.7	−	(3.0)	−	7/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、赤色焼土塊	外底角棒状痕(台から外した時の痕跡か)
1526	1406	底部	土師器	C10北区	Ⅱ面	SX37−c	−	6.4	1.4	−	(1.9)	−	10/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、海面骨針	
1528	1507	天目碗	肥前	C10北区	Ⅱ面	SX45−a	−	(4.5)	0.7	1.2	(5.3)	−	5/12	黒褐	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、ケズリ	明灰色、緻密	肥前天目茶碗、17C中頃
1529	1508	碗	肥前	C10北区	Ⅱ面	SX45−a	(9.2)	(5.2)	0.4	0.7	6.1	2/12	4/12		白				釉：光沢あり、内面ピンホール、底部砂目あり
1530	1509	皿	肥前	C10北区	Ⅱ面	SX45−a　磁器1、C10南区Ⅱ面SX45−b	−	4.8	0.9	1.8	(2.6)	−	12/12		白				釉：透明感あり、内外面離れ砂顕著
1531	1510	香炉	肥前	C10北区	Ⅱ面	SX45−a　磁器2	(9.4)	−	−	−	(4.2)	2/12	−	灰白	明緑灰	ロクロナデ、露胎	ロクロナデ、沈線	明灰白、密	肥前青磁香炉
1532	1545	皿	土師器	C10北区	Ⅱ面	ベース	(8.4)	(4.8)	0.8	−	2.3	1/12	5/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り?	粗砂微、白色粒	内外面摩耗、黒い付着物あり
1533	1551	皿か	土師器	C10北区	Ⅱ面	ベース	(13.2)	−	−	−	(2.4)	1/12	−	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	緻密、粗砂多、赤色粒多	非ロクロ
1534	1540	皿(柱状高台)	土師器	C10北区	Ⅱ面	ベース	−	(4.6)	1.4	−	(1.7)	−	9/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂並、赤色粒多	
1535	1555	皿(柱状高台)	土師器	C10北区	Ⅱ面	ベース	−	(4.3)	1.6	−	(2.6)	−	12/12	にぶい黄橙～黒褐	にぶい黄橙～黒褐	ロクロナデ	ロクロナデ、ナデ、回転糸切り	粗砂並、赤色粒微	破片化後煤付着
1536	1552	埦(内黒)	土師器	C10北区	Ⅱ面	ベース	−	−	0.9	−	(1.8)	−	−	黒	橙	ロクロナデ後ミガキ	ロクロナデ	粗砂並、礫微	
1537	1548	有台埦	土師器	C10北区	Ⅱ面	ベース	−	6.4	1.0	1.8	(2.0)	−	10/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り後ロクロナデ	粗砂並、赤色粒少、白色粒微	内外面摩耗顕著、台部やや雑な貼付け
1548	1556	皿	土師器	C10南区 西側	0面	遺構検出(SK4含む)	(7.8)	(5.6)	0.4	−	1.3	2/12	2/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少い、雲母含む	非ロクロ
1552	1563	皿	土師器	C10南区	0面	(上段)検出面精査	「10.4」	「7.0」	−	−	2.0	1/12	2/12	淡橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ	細砂少	非ロクロ、内外面煤状付着物
1555	1564	皿	土師器	C10南区 西側	0面	SK4上面	(8.3)	(6.2)	0.4	−	1.1	3/12	3/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少い	非ロクロ
1556	1565	皿	土師器	C10南区 西側	0面	SK4上面	(12.2)	(7.7)	0.4	−	2.5	3/12	2/12	淡黄	淡黄	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少い	非ロクロ、2段ナデ
1557	1566	皿	土師器	C10南区 西側	0面	SK4上面	(7.9)	(6.2)	0.6	−	1.0	3/12	3/12	浅黄橙	にぶい黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	精緻、細砂少、粗砂並、赤色粒	
1558	1567	皿	土師器	C10南区 西側	0面	SK4上面	(6.8)	(4.0)	0.5	−	1.5	2/12	3/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少い	非ロクロ
1559	1560	花瓶	青磁	C10南区 西側	0面	SK4、検出面(西壁)	−	−	−	−	(3.7)+(3.1)+(3.5)+(3.6)	−	−	青磁釉(明緑灰)		ロクロナデ	浮牡丹唐草	灰白、堅緻	龍泉窯系牡丹唐草文瓶、断面漆継ぎ、内外面2次被熱
1560	1579	皿	土師器	C10南区	0面	SK4、I面検出面精査	(11.4)	(7.2)	0.6	−	2.1	3/12	3/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂含み、石英微量	非ロクロ、2段ナデ
1561	1574	皿	土師器	C10南区	0面	SK4	(9.2)	(4.0)	0.6	−	2.1	2/12	2/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少い	非ロクロ
1579	1588	皿	土師器	C10南区	0面	SK4　No.1、I面検出面精査	7.9	2.2	0.5	−	1.3	9/12	12/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂粒少い	非ロクロ
1580	1589	皿	土師器	C10南区	0面	SK4　No.2、SK4	8.0	4.6	0.4	−	1.6	8/12	11/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少い	非ロクロ、2段ナデ
1581	1590	皿	土師器	C10南区	0面	SK4　No.3、SK4	7.3	3.4	0.5	−	1.6	11/12	11/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少い	非ロクロ、2段ナデ
1583	1592	皿	土師器	C10南区	0面	SK4　No.4、西側0面遺構検出SK4含む、I面検出面精査	(15.4)	(10.9)	0.4	−	2.3	5/12	3/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂含み、粗砂少い	非ロクロ、2段ナデ

第15表　出土土器観察表14

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
1584	1593	皿	土師器	C10南区	0面	SK4　No.4、西側0面遺構検出SK4含む	7.9	4.4	0.4	−	1.5	9/12	11/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂含み、粗砂少い	非ロクロ、2段ナデ
1586	1594	皿	土師器	C10南区	0面	SK4　No.5	8.2	3.1	0.5	−	1.5	10/12	10/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
1587	1595	皿	土師器	C10南区	0面	SK4　No.5下、SK4	(11.8)	(6.6)	0.5	−	2.5	3/12	2/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂含む	非ロクロ、2段ナデ
1588	1596	皿	土師器	C10南区	0面	SK4　No.6	(9.2)	(5.8)	0.5	−	1.2	2/12	2/12	灰白	灰白	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	精緻、細砂少	
1590	1598	皿	土師器	C10南区	0面	SK4　No.6、No.7、SK4	(11.4)	(7.5)	0.5	−	2.5	2/12	3/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂粒少い	非ロクロ、2段ナデ
1591	1599	皿	土師器	C10南区	0面	SK4　No.7、No.8、SK4、西側0面SK4上面、Ⅱ面SX37−d	(12.4)	(8.6)	0.6	−	2.4	4/12	5/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂含む	非ロクロ、2段ナデ
1593	1608	皿	土師器	C10南区	I面	包含層(SK4西)No.1	(7.8)	−	0.4	−	1.5	6/12	−	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ		非ロクロ
1595	1610	皿	土師器	C10南区	I面	包含層(SK4西)No.3	(8.0)	−	0.7	−	1.3	5/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ、指押え	細砂少い	非ロクロ
1599	1614	皿	土師器	C10南区	I面	包含層(SK4西)No.6、I面包含層(SK4下)	8.1	−	0.6	−	1.9	9/12	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少い	非ロクロ
1600	1615	埦	土師器	C10南区	I面	包含層(SK4西)No.7	−	6.8	1.0	−	(3.9)	1/12	12/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、赤色粒少	
1601	1617	皿	土師器	C10南区	I面	包含層(SK4北側)	(7.8)	−	0.5	−	1.3	1/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少	
1603	1624	皿	土師器	C10南区	I面	包含層(SK4下)	「9.8」	−	−	−	(1.3)	1/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ?	ヨコナデ?ナデ	細砂少	非ロクロ、口縁灯芯油痕1ヶ所
1617	1662	皿	土師器	C10南区	I面	SD13	(7.0)	(5.2)	0.3	−	1.0	2/12	2/12	にぶい黄橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多、赤色粒微	非ロクロ、外面黒斑?
1621	1326	皿	土師器	C10南区	I面	SX19−a	(8.6)	(5.6)	0.6	−	1.4	2/12	2/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多、赤色粒微	非ロクロ
1625	1329	皿	土師器	C10南区	I面	SX19−b	(11.6)	−	−	−	(2.2)	1/12	−	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多、赤色粒微	非ロクロ、内外面褐色顔料
1626	1332	皿	土師器	C10南区	I面	SX19−b	「9.2」	(6.7)	0.7	−	1.8	1/12	2/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、雲母微	
1641	1634	無台皿か	土師器	C10南区	I面	SX23−a、Ⅱ面包含層1　SX23−a西側下	(14.2)	(6.0)	1.3	−	(4.6)	1/12以下	5/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、赤色粒少	外面黒雲母少
1642	1630	皿	土師器	C10南区	I面	SX23−a、SX23−b	(8.6)	(6.0)	0.4	−	1.2	3/12	3/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少い	非ロクロ
1643	1626	すり鉢(須佐唐津か)	陶器	C10南区	I面	SX23−a(中央アゼ)	(28.0)	−	−	−	(7.7)	2/12	−		黄灰	卸目		礫	内面降灰、須佐唐津か?17C
1647	1642	埦(内黒)	土師器	C10南区	I面	SX23−b	−	(8.4)	0.6	1.1	(3.7)	−	3/12	黒	橙	ミガキ	ケズリ、回転糸切り	赤色粒少、雲母少	
1648	1636	皿	土師器	C10南区	I面	SX23−b	「10.6」	−	−	−	(1.9)	1/12	−	黒	灰白	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多く、雲母含む	非ロクロ
1649	1644	皿	土師器	C10南区	I面	SX23−b	(8.4)	(7.1)	0.4	−	1.0	3/12	3/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少い	非ロクロ
1661	1659	有台皿	須恵器	C10南区	I面	SX23−b(中央アゼ西側)、Ⅱ面遺構検出　SX19−b下	(13.8)	6.4	0.9	1.5	(4.0)	1/12以下	3/12	灰白	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂少	
1662	1652	埦か	土師器	C10南区	I面	SX23−b(中央アゼ西側)	−	4.8	0.9	−	(1.4)	−	12/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	赤色粒少	
1671	1577	皿	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SK4下)、C10南区0面SK4、I面包含層(SK4下)	(13.5)	8.8	0.6	−	2.2	1/12	11/12	淡黄	淡黄	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	精緻、粗砂並	口縁端部灯明痕
1672	1772	皿	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SK4下)、I面包含層(SK4下)、(SK4・SK5間)、東側0面SK4	(13.4)	(10.6)	0.3	−	2.2	4/12	1/12	橙	橙	ヨコナデ	ヨコナデ	細砂少	非ロクロ、内外面油痕、歪みあり
1673	1776	皿	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SK4下)、(SK4・SK5間下)	13.0	6.0	0.7	−	最大高3.5(最小高2.9)	7/12	10/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ	細砂並、粗砂並	傾きあり
1674	1725	皿	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SK4下)	(10.5)	(7.0)	0.6	−	2.1	2/12	1/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	精緻、細砂微、白色粒微	非ロクロ
1675	1730	皿	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SK4下)	(8.5)	(4.0)	0.4	−	1.8	4/12	6/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	砂粒含む	非ロクロ
1676	1740	皿(柱状高台)	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SK4下)	−	4.1	1.8	−	(2.3)	−	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂並、粗砂少、赤色粒微	

第16表　出土土器観察表15

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
1694	1750	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SK4北側下)	−	−	0.8	−	(2.0)	−	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ	細砂少、粗砂少	ロクロ土師器、高台剥離?
1695	1756	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SK4北側下)	(8.7)	−	0.7	−	2.1	1/12	−	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少、粗砂少、礫微	非ロクロ
1717	1773	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SK4・SK5間)	(7.8)	−	0.5	−	1.8	4/12	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂・粗砂少い	非ロクロ、燈芯油痕あり
1734	1785	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SK4・SK5間下)	(14.6)	(10.0)	−	−	2.7	1/12	3/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂並、粗砂並、海面骨針少	非ロクロ、歪みあり
1736	1680	有台Ⅲ	須恵器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SX19−b下)スエ1、遺構検出(SX19−b下)	14.3	6.7	0.7	1.3	4.0	2/12	9/12	灰	灰	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	砂礫含む	小松産
1747	1705	Ⅲ	肥前	C10南区 東側	Ⅱ面	包含層1(SX23−b含む)	(13.2)	(7.6)	0.6	1.1	3.0	5/12	6/12	透明釉(灰白)		圏線、染付	圏線	明灰、堅緻	見込コンニャク印判、被熱?高台内一重圏線、畳付け砂付着
1748	1706	Ⅲ	土師器	C10南区 東側	Ⅱ面	包含層1(SX23−b含む)	(10.8)	(8.2)	0.5	−	1.9	1/12	2/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂多い	非ロクロ
1753	1692	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SX23−b西側下)	(13.8)	(8.0)	0.5	−	2.9	3/12	3/12	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少い	非ロクロ
1754	1694	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SX23−b西側下)	(7.8)	(5.3)	0.7	−	1.6	2/12	3/12	浅黄橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	赤色粒少、雲母	
1755	1704	碗	白磁	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SX23−b西側下)	「16.0」	−	−	−	(2.3)	1/12以下	−	白磁釉(オリーブ灰)		ロクロナデ	ロクロナデ	明灰、堅緻	白磁碗Ⅳ類
1766	1711	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SX23−c下)	9.8	6.5	0.7	−	2.4	7/12	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂並	歪みあり
1772	1718	埦	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SX23−c下)No.5	−	(6.0)	2.1	−	(2.4)	−	9/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂微、礫微、赤色粒微	
1778	1723	Ⅲ(柱状高台)	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(SX23−c下)No.7	−	3.7	0.7	1.9	(2.5)	−	12/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂並、粗砂微	高台中央は粘土充填されず凹みをなす
1780	1790	壺	越前	C10南区	Ⅱ面	包含層1(中央アゼ)	(16.0)	−	−	−	(9.4)	1/12	−	にぶい橙	にぶい赤褐	ロクロナデ、ナデ	ロクロナデ	細砂・粗砂多い	塗土のハケ痕あり　17C後半
1788	1800	Ⅲか埦(柱状高台)	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層1(東西アゼ2)	−	(6.6)	5.0	−	(5.2)	−	−	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂多、粗砂多	
1791	1803	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層2(SK4下)、Ⅱ面包含層1(SK4北側下)、Ⅱ面包含層1(SK4下)、Ⅱ面包含層1(SK4・SK5間下)	(12.6)	−	−	−	(2.1)	6/12	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少、粗砂少	非ロクロ、口縁部煤付着(灯明痕)
1796	1808	Ⅲか	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層2(SK4北側下)	「14.0」	−	−	−	(2.6)	1/12以下	−	黄灰	黄灰	ロクロナデ	ロクロナデ	細砂少	破片化後断面含め煤付着
1803	1801	無台埦	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層2(SK4・SK5間下)、Ⅱ面包含層1(SK4・SK5間下)	−	5.0	1.5	−	(3.3)	−	10/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り後板状敷物痕	粉っぽい、粗砂多	内面摩耗顕著、外面ロクロヒダ目立つ
1804	1815	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層2(SK4・SK5間下)	(13.0)	(6.9)	0.7	−	2.8	2/12	1/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂少、粗砂少	
1805	1819	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層2(SK4・SK5間下)	(13.3)	(4.8)	1.7	−	4.1	1/12	4/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂少	
1806	1820	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層2(SK4・SK5間下)	(14.0)	4.8	0.7	−	3.2	1/12以下	12/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	細砂少、粗砂少	全体摩耗
1807	1822	Ⅲ	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層2(SK4・SK5間下)	(8.5)	4.4	1.7	−	2.3	1/12	10/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、礫(4㎜)微、赤色粒微	
1808	1833	有台埦	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層2(SK4・SK5間下)	−	(6.8)	0.7	2.0	(2.9)	−	2/12	にぶい橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ	粗砂少	全体摩耗
1809	1840	有台埦	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層2(SK4・SK5間下)	−	−	1.5	−	(1.8)	−	−	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、菊花状のナデ	粗砂多、赤色粒	

第17表　出土土器観察表16

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点			法量					口径遺存度	底径遺存度	色調		調整		胎土	備考
				区	面	遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	底高(cm)	器高(cm)			釉薬等(内面)	素地(外面)	内面	外面		
1810	1836	有台埦	土師器	C10南区	Ⅱ面	包含層2(SK4・SK5間下)、西側Ⅱ面SK5下遺構検出、C11北区Ⅱ面包含層2(SK4下)	−	−	1.0	−	(2.7)	−	−	黄橙	黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り後深いナデ	粗砂多	
1852	1427	皿	土師器	C10南区	Ⅱ面	SX37−d	(8.6)	(5.6)	0.5	−	(2.2)	2/12	3/12	浅黄橙	黄橙、灰	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、礫少	
1853	1433	皿	土師器	C10南区	Ⅱ面	SX37−d	−	3.6	1.4	1.9	(2.2)	−	12/12	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	粗砂多、赤色粒	破片化後断面含め煤付着
1854	1428	埦	土師器	C10南区	Ⅱ面	SX37−d	(12.6)	−	−	−	(3.8)	1/12	−	黒、橙	橙	摩耗により不明	ロクロナデ	粗砂多、赤色粒微	破片化後断面含め煤付着
1878	1852	皿	土師器	C10南区	Ⅱ面	SX45−b	(10.0)	(5.8)	0.2	−	2.3	1/12	1/12	にぶい黄橙	にぶい黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂少	非ロクロ、内外煤付着
1881	1847	皿	土師器	C10南区	Ⅱ面	SX45−b(中央アゼ)	(8.0)	(7.2)	0.3	−	1.2	2/12	2/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多	非ロクロ、歪みあり
1882	1850	皿	土師器	C10南区	Ⅱ面	SX45−b(中央アゼ)	(12.0)	(9.4)	0.4	−	2.0	1/12	1/12	灰白	灰白	ナデ?	ナデ?	細砂少、赤色粒少	非ロクロ、全体摩耗顕著
1889	1856	碗	白磁	C11北区西側	0面	壁立て(SK5含む)	−	−	−	−	(1.9)	1/12以下	−	透明釉(灰白)		ロクロナデ	ロクロナデ	明灰白、堅緻	白磁碗V類
1896	1347	皿	土師器	C11北区	0面	SK5	(7.8)	(6.1)	0.4	−	0.9	2/12	1/12	灰白	灰白	ナデ?	ナデ?	細砂少、赤色粒少	非ロクロ、全体摩耗顕著
1897	1348	皿	土師器	C11北区	0面	SK5	(13.3)	(9.5)	0.5	−	2.7	1/12	3/12	灰白	灰白	ナデ?	ヨコナデ、ナデ	細砂多、赤色粒少	非ロクロ、全体摩耗
1900	1863	皿	土師器	C11北区	0面	P11	(8.0)	−	−	−	1.9	3/12	−	橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	雲母含む	非ロクロ
1901	1864	皿	土師器	C11北区	0面	P11	(14.0)	(9.7)	0.5	−	2.2	1/12	1/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少	非ロクロ、歪みあり
1902	1867	皿	土師器	C11北区	0面	P11	(8.3)	(5.1)	0.5	−	1.7	1/12	4/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	赤色粒少	
1907	1872	皿	土師器	C11北区	Ⅰ面	包含層(SK5南側)	(14.0)	(10.4)	0.4	−	2.1	1/12	1/12	浅黄	浅黄	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	粗砂多	非ロクロ
1913	1876	焜炉	土製品	C11北区	Ⅰ面	SK6	最大長(9.3)	最大幅(6.7)	最大厚(5.5)	−	(5.5)	−	−	灰白	灰白、淡橙	ナデ	(被熱痕)	淡黄橙	重量123.20g
1914	1877	皿か	土師器	C11北区	Ⅰ面	SK6	(14.0)	−	−	−	(2.7)	1/12	−	灰白	灰白	ナデ	ヨコナデ	細砂少、雲母	非ロクロ
1923	1787	有台埦	土師器	C11北区	Ⅱ面	包含層1(SK5下)、C10南区Ⅱ面包含層1試掘トレンチ4南側、包含層1(SK4・SK5間)、包含層1(SX22　中央アゼ西側)	(14.0)	−	−	−	(4.0)	3/12	−	橙	橙	ロクロナデ	ロクロナデ	細砂多、海面骨針少	
1924	1887	鍋	土師器	C11北区	Ⅱ面	包含層1(SK5下)	「23.0」	−	−	−	(3.0)	1/12以下	−	にぶい橙	にぶい橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	礫少	非ロクロ
1925	1892	皿	土師器	C11北区	Ⅱ面	包含層1(SK5下)	(13.6)	(9.3)	−	−	3.0	3/12	3/12	浅黄橙	浅黄橙	ロクロナデ?	ロクロナデ、ナデ?	赤色粒少	口縁油痕あり、内外面摩耗あり
1939	1901	皿	土師器	C11北区	Ⅱ面	包含層1(SK5南側下)	(10.7)	(7.2)	0.5	−	2.6	2/12	2/12	灰白	灰白	ロクロナデ	ロクロナデ、回転糸切り	赤色粒少、雲母	ロクロ土師器
1943	1908	有台皿	土師器	C11北区	Ⅱ面	包含層2(SK5下)、包含層1(SK5南側下)	(14.6)	(8.0)	0.5	2.0	3.3	1/12	3/12	黒～浅黄	橙	ミガキ	ロクロナデ後ミガキ、ロクロナデ	細砂並、粗砂多	内面底部黒斑、外面赤彩
1944	1905	有台埦か	土師器	C11北区	Ⅱ面	包含層2(SK5下)	−	6.0	0.6	1.8	(2.2)	−	7/12	橙	橙	ロクロナデ?	ロクロナデ?	雲母少	
1947	1913	皿	土師器	C11北区	Ⅱ面	SX44	(8.5)	(7.2)	0.3	−	1.5	2/12	2/12	浅黄橙	橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	雲母含む	非ロクロ
1958	1923	有台埦か皿	土師器	C11南区	Ⅰ面	カクラン(Ⅱ面包含層)	−	(7.6)	0.8	1.9	(2.5)	−	5/12	橙	にぶい橙	ロクロナデ	ロクロナデ	赤色粒少、雲母	
1962	1925	皿	土師器	C11南区	Ⅱ面	SX42(カクラン含む)	(8.8)	(7.2)	0.4	−	1.2	1/12	2/12	浅黄橙	浅黄橙	ヨコナデ、ナデ	ヨコナデ、ナデ	細砂少	非ロクロ、内面煤付着?
1963	1924	鉢	陶器	C11南区	Ⅱ面	SX42(カクラン含む)	−	−	−	−	(2.4)	1/12以下	−	灰釉(黄オリーブ灰)		ロクロナデ	ロクロナデ	明黄灰、良好	近世陶器、鍋か

第18表　石器・石製品観察表

報告番号	資料番号	器種名	種別	石材等	出土地点区	出土地点面	出土地点遺構・その他	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	器高(cm)
石1	1957	石鉢か	石製品：その他		A3北区	Ⅱ面	包含層	－	－	－	(14.1)g	(2.6)
石2	1956	磨石か	石製品：その他		A3北区	Ⅱ面	包含層2	4.8	3.8	3.4	86.3g	－
石3	1959	石鉢	石製品：その他	火山礫凝灰岩	A4南区　西側	Ⅱ面	検出面	口径「32.0」	－	－	(173.6)g	(6.5)
石4	1958	仕上げ砥石	石製品：工具	鳴滝砥石(中山か)、被熱	A4南区　西側	Ⅲ面	包含層1	(6.8)	(4.5)	1.4	(46.7)g	－
石5	1964	砥石	石製品：工具		B5南区　西側	Ⅰ面	SD2-a(北より)	(4.1)	(3.1)	5.0	(7.6)g	－
石6	1967	礎石	石製品：その他	火山礫凝灰岩	B5南区　西側	Ⅰ面	SD2-a(北より)	(22.7)	(21.0)	8.4	3800g	－
石7	1968	礎石	鉄製品：その他	火山礫凝灰岩	B5南区	Ⅰ面	SD2-b(南側石列)	38.2	24.0	10.0	8000g	－
石8	1969	石垣石か	石製品：その他		B5南区	Ⅰ面	SD2-b底	22.4	(28.0)	16.4	11500g	－
石9	1960	硯	石製品：工具	細粒砂岩	B5南区　東側	Ⅰ面	SD2-b底(集石)(南側石列下含む)	(9.4)	(9.6)	1.6	(174.5)g	－
石10	1961	中砥石	石製品：工具	凝灰岩、近世か	B5南区　東側	Ⅱ面	包含層1	(10.6)	(5.2)	2.2	(150.4)g	－
石11	1962	砥石か	石製品：工具		B5南区　東側	Ⅲ面	SD36上層(3面包含層2)	(11.8)	(5.3)	4.7	(432.5)g	－
石12	1970	石垣石か	石製品：その他		B6北区	Ⅱ面	SK14	(31.5)	(43.6)	(30.4)	34850g	－
石13	1963	仕上げ砥石	石製品：工具	鳴滝砥石(中山か)、被熱	B6北区　東側	Ⅱ面	ベース	(5.35)	(2.9)	(0.6)	(12.8)g	－
石14	1965	磨石か	石製品：工具		B8北区　西側	Ⅱ面	包含層1	(7.5)	(5.7)	1.1	(45.6)g	－
石15	1966	礎石	石製品：その他	火山礫凝灰岩	B9北区　東側	Ⅲ面	包含層2	21.7	20.4	8.2	3800g	－
石16	1971	敷石	石製品：その他		C9北区　西側	Ⅱ面	包含層1	(26.7)	(29.1)	9.6	11600g	－
石17	1973	打製石斧	石製品：工具		C9北区　西側	Ⅱ面	包含層2	(7.2)	(7.6)	1.9	(138.6)g	－
石18	1972	石垣石か	石製品：その他		C11北区	0面	SK5	17.2	35.8	23.4	11100g	－
石19	1974	砥石か	石製品：工具		C11北区	Ⅰ面	SX22	(5.5)	(4.8)	(1.7)	(47)g	－
石20	1975	打製石斧	石製品：工具		C11北区	Ⅱ面	SX44	(10.2)	10.6	2.2	(272.5)g	－

第19表　木製品観察表

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点区	出土地点面	出土地点遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)
木1	2011	木羽板(コバイタ)or折敷底板(オシキソコイタ)	木製品	B5南区	Ⅱ面	包含層(SD2-a下)	最大長(7.3)	最大幅(4.75)	最大厚(0.25)

第20表　金属製品観察表

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点区	出土地点面	出土地点遺構・その他	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)
金3	1934	漆地金銅張り鉄製品	鉄製品：調理・調度品	A4区　西側	Ⅰ面	壁立て	(2.85)	(2.65)	(0.5)	2.98g
金5	1933	鉄釘	鉄製品：建築	A4北区	Ⅱ面	ベース(SX13周り)	(7.5)	0.65	0.65	5.36g
金9	1936	鉄釘	鉄製品：建築	B8北区	Ⅰ面	SX29	(4.8)	0.55	0.6	4.09g
金10	1938	鉄釘	鉄製品：建築	B8北区	Ⅰ面	SX29下(サブトレ)(3面包含層含む)	(4.7)	0.95	0.6	4.02g
金11	1942	鉄釘	鉄製品：建築	B8北区	Ⅱ面	SX48	(4.25)	(1.25)	0.8	6.10g
金12	1937	鉄釘	鉄製品：建築	B8南区	Ⅰ面	SX18　No.24	(5.15)	0.75	0.7	8.27g
金14	1939	鉄釘	鉄製品：建築	B8南区	Ⅱ面	包含層1(中央アゼ層)	(4.0)	(0.60)	(0.55)	1.86g
金15	1941	鉄釘	鉄製品：建築	B8南区　西側	Ⅱ面	包含層2	(5.85)	0.75	0.7	6.70g
金16	1943	鉄釘	鉄製品：建築	B8南区　西側	Ⅲ面	包含層1(礎石11 ～ 15周り)	(2.95)	(1.30)	(0.75)	4.38g
金18	1944	鉄釘	鉄製品：建築	C9区　東側	Ⅱ面	遺構検出(SX26下)	(12.0)	(1.15)	0.8	17.73g
金20	1947	鉄釘	鉄製品：建築	C10北区　西側	Ⅱ面	包含層2	(3.3)	1.10	(1.15)	3.59g
金22	1946	鉄釘	鉄製品：建築	C10南区	Ⅱ面	包含層1(中央アゼ)(断面図の近世陶器含む)	(3.7)	(0.80)	(0.4)	1.41g

第21表　銅銭観察表

報告番号	資料番号	器種名	種別	出土地点区	出土地点面	出土地点遺構・その他	口径(cm)	底径(cm)	底厚(cm)	備考
銭1	1930	銅銭(祥符元寶)	銅・銅合金他：銭貨	B6南区	Ⅲ面	包含層2(SX63上)	最大長2.40	最大幅(1.85)	最大厚0.12	重量0.95g
銭2	1929	銅銭(開元通寶)	銅・銅合金他：銭貨	B7南区	Ⅳ面	包含層1　上面	最大長2.48	最大幅2.49	最大厚0.12	重量2.24g

第４章　自然科学的分析

第１節　木製品の樹種同定

１．は　じ　め　に

石川県白山市の古宮遺跡から出土した木製品の樹種同定を行った。

２．試 料 と 方 法

試料は、B5南区のⅡ面包含層(SD2-a下)から出土した木製品１点である。時期については古代末～中世と考えられている。試料について、切片採取前に木取りの確認を行った。

樹種同定は、材の横断面(木口)、接線断面(板目)、放射断面(柾目)について、カミソリで薄い切片を切り出し、ガムクロラールで封入して永久プレパラートを作製した。その後乾燥させ、光学顕微鏡にて検鏡および写真撮影を行った。

３．結　　果

同定の結果、試料は針葉樹のヒノキであった。同定結果を第22表に示す。

第22表　古宮遺跡出土木製品の樹種同定結果一覧

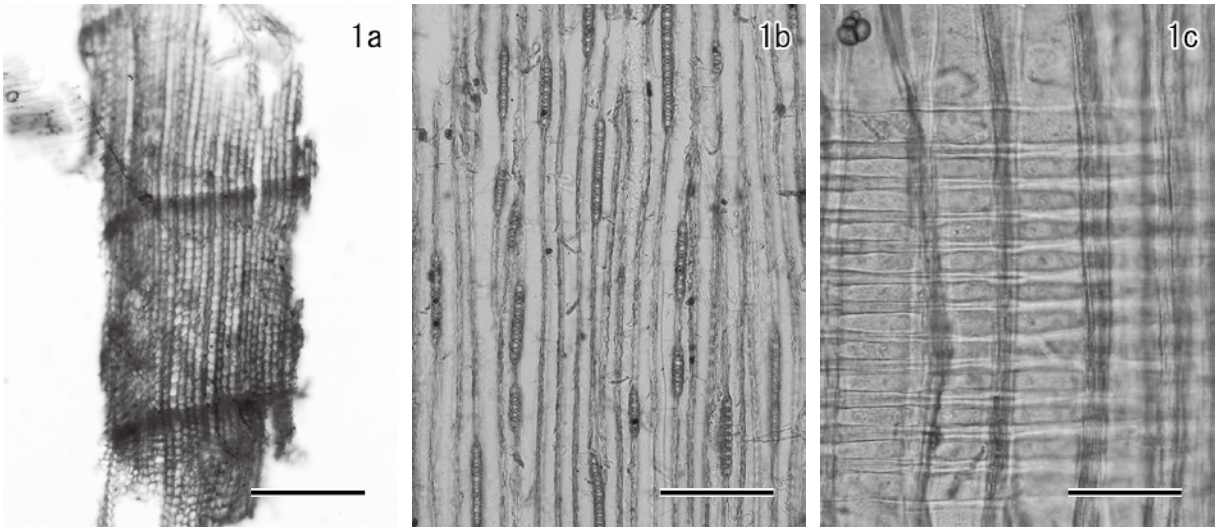
試料No.	管理No.	地区	面	出土地点	器種	樹種	木取り	時期
木1	2011	B5南区	Ⅱ面	包含層(SD2-a下)	木羽板or折敷底板	ヒノキ	柾目	古代末～中世

以下に、同定された材の特徴を記載し、図版に光学顕微鏡写真を示す。

(1)ヒノキ　*Chamaecyparis obtusa* (Siebold et Zucc.) Endl.　ヒノキ科　第69図　1a-1c(木1)

仮道管と放射組織、樹脂細胞で構成される針葉樹である。晩材部は薄く、早材から晩材への移行は急である。放射組織は単列で、高さ１～15列である。分野壁孔はトウヒ～ヒノキ型で、１分野に２個みられる。

ヒノキは福島県以南の暖温帯に分布する常緑高木の針葉樹である。材はやや軽軟で加工しやすく、強度に優れ、耐朽性が高い。



第69図　古宮遺跡出土木製品の光学顕微鏡写真

1a-1c.ヒノキ(木1)　a：横断面(スケール=500 μm)、b：接線断面(スケール=200 μm)、c：放射断面(スケール=50 μm)

第２節　石製品の石質同定

１．は　じ　め　に

古宮遺跡は、石川県白山市鶴来地区の手取川に面した平安時代から中世にかけての遺跡である。ここでは、打製石斧や砥石などの石製品について、肉眼観察による石材同定を行った。

２．試 料 と 方 法

試料は、石製品20点である（第23表）。

石材の同定は、主に肉眼観察により行い、デジタルカメラを用いて石材の接写撮影を行った。

第23表　石製品とその詳細

分析No.	資料番号	地区	面	出土地点	器種
1	1957	A3北区	Ⅱ面	包含層	行火　石鉢か
2	1956	A3北区	Ⅱ面	包含層2	磨石か
3	1959	A4南区　西側	Ⅱ面	検出面	石鉢
4	1958	A4南区　西側	Ⅲ面	包含層1	砥石
5	1964	B5南区　西側	Ⅰ面	SD2-a（北寄り）	砥石か硯か
6	1967	B5南区　西側	Ⅰ面	SD2-a（北寄り）	礎石
7	1968	B5南区	Ⅰ面	SD2-b（南側石列）	礎石
8	1969	B5南区	Ⅰ面	SD2-b底	石垣か
9	1960	B5南区　東側	Ⅰ面	SD2-ｂ底（集石）（南側石列下含む）	砥石加工の硯
10	1961	B5南区　東側	Ⅱ面	包含層1	砥石
11	1962	B5南区　東側	Ⅲ面	SD36上層（3面包含層2）	砥石
12	1970	B6北区	Ⅱ面	SK14	石垣
13	1963	B6北区　東側	Ⅱ面	ベース	砥石
14	1965	B8北区　西側	Ⅱ面	包含層1	砥石か磨石か
15	1966	B9北区　東側	Ⅲ面	包含層2	礎石
16	1971	C9北区　西側	Ⅱ面	包含層1	敷石
17	1973	C9北区　西側	Ⅱ面	包含層2	打製石斧か
18	1972	C11北区	0面	SK5	石垣か
19	1974	C11北区	Ⅰ面	SX22	砥石
20	1975	C11北区	Ⅱ面	SX44	打製石斧

３．結　　果

第23表に、肉眼観察により石製品の石材同定を行った結果を示す。なお、各石材の記載は、表面観察による色調や構成鉱物、岩石組織、破断面の特徴等について行った。

以下に、代表的な石材の特徴について記載した。

１．シルト岩（第71図-1）

灰白色で硬質の砂質シルトである。

２．砂岩（第71図-2）

灰色で片理があり、細粒雲母を多く含む硬質のシルト質細砂である。

３．凝灰岩（軽石質）（第71図-3）

いずれも灰色で、軽石（1～50mm）が混じる軟質の泥質岩である。

４．凝灰岩（泥質）（第71図-4）

灰色～灰白色～黄灰色で、層理が見られる硬質～やや硬質の泥質凝灰岩である。一部の石材には軽石が含まれる。

５．凝灰岩（シルト質）（第71図-5）

淡黄灰色および黄灰色で、シルト質岩、やや軟質あるいは軟質のシルト質・泥岩質凝灰岩である。

6．凝灰岩(砂質)(第71図-6)

灰色および黄灰色で、砂質岩、やや硬質あるいは硬質の砂質・粘土質岩である。。一部の石材には軽石(1-13mm)が含まれる。

7．凝灰角礫岩(第71図-7)

淡緑灰色で、軽石(1-3mm)や岩片(2-10mm)が混じるやや硬質の凝灰質岩である。

8．花崗岩(第71図-8)

灰白色で、黒雲母を特徴的に含み、長石類や石英からなる花崗岩質岩である。

第24表　石材の特徴と同定結果

分析No.	資料番号	器種	特徴	岩石名	備考1	備考2
1	1957	行火　石鉢か	淡黄灰色、シルト質岩、やや軟質	凝灰岩(シルト質)		
2	1956	磨石か	灰白色、砂質シルト、硬質	シルト岩		
3	1959	石鉢	灰色、礫混じり砂質岩、軟質	凝灰岩(砂質)	礫は軽石か	
4	1958	砥石	黄灰色、粘土質、硬質	凝灰岩(泥質)		
5	1964	砥石か硯か	黄灰色、シルト質泥岩、軟質	凝灰岩(シルト質)		
6	1967	礎石	灰色、軽石(1-30mm)混じり、泥質岩、軟質	凝灰岩(軽石質)	軽石：白色～灰色	
7	1968	礎石	灰色、軽石(1-25mm)混じり、泥質岩、軟質	凝灰岩(軽石質)	軽石：白色～灰色	1967と同質
8	1969	石垣か	灰色、軽石(1-25mm)混じり、泥質岩、軟質	凝灰岩(軽石質)	軽石：白色～灰色	1967と同質
9	1960	砥石加工の硯	灰色、シルト質細砂、片理あり、細粒雲母多く含む、硬質	砂岩		
10	1961	砥石	灰白色、軽石(2mm)混じり粘土岩、やや硬質	凝灰岩(泥質)		
11	1962	砥石	灰白色、凝灰質、泥岩、層理面あり、やや硬質	凝灰岩(泥質)		
12	1970	石垣	灰色、軽石(1-30mm)混じり、泥質岩、軟質	凝灰岩(軽石質)	軽石：白色～灰色	1967と同質
13	1963	砥石	灰色、泥質岩、層理面あり、軟質	凝灰岩(泥質)		
14	1965	砥石か磨石か	灰白色、凝灰質、泥岩、層理面あり、やや硬質	凝灰岩(泥質)		1962と同質
15	1966	礎石	灰色、軽石(1-30mm)混じり、泥質岩、軟質	凝灰岩(軽石質)	軽石：白色～灰色	1967と同質
16	1971	敷石	灰白色、黒雲母含む、花崗岩質	花崗岩		
17	1973	打製石斧か	灰色、軽石(1-13mm)混じり、砂質岩、やや硬質	凝灰岩(砂質)	軽石：白色	
18	1972	石垣か	灰色、軽石(1-50mm)混じり、泥質岩、軟質	凝灰岩(軽石質)	軽石：白色～灰色	1967と同質
19	1974	砥石	黄灰色、凝灰質泥質岩、層理面あり、やや硬質	凝灰岩(泥質)		1962と同質
20	1975	打製石斧	淡緑灰色、軽石(1-3mm)・岩片(2-10mm)混じり凝灰質岩、やや硬質	凝灰角礫岩		

4．考　　察

第25表に、各石製品とその石材についてまとめた。

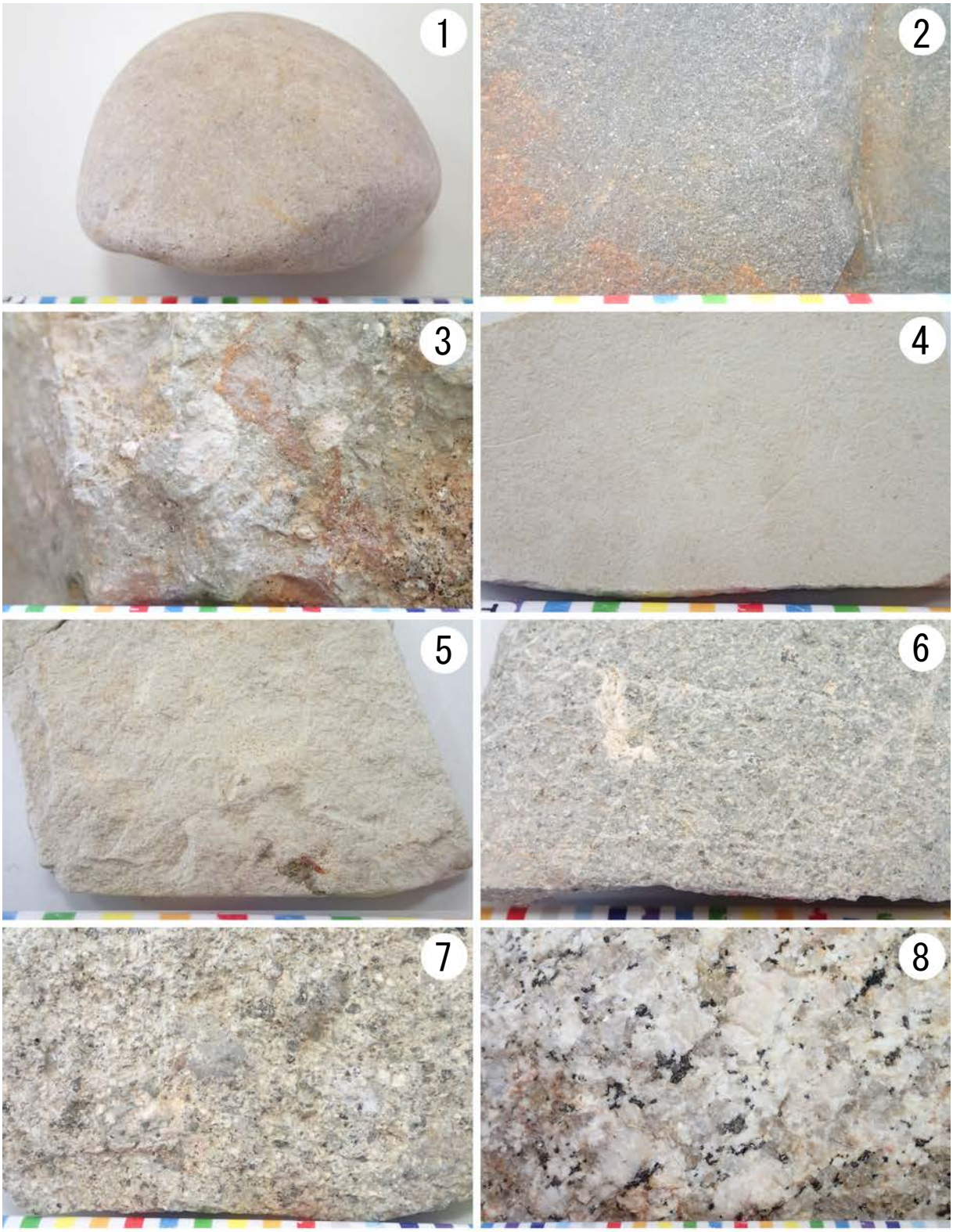
第25表　石製品と石材の関係

大分類	中分類	岩石名	0面	Ⅰ面					Ⅱ面									Ⅲ面		総計
			石垣か	石垣か	礎石	砥石	砥石か硯か	砥石加工の硯	行火　石鉢か	石垣	石鉢	打製石斧	打製石斧か	砥石	砥石か磨石か	敷石	磨石か	礎石	砥石	
堆積岩	砕屑岩	シルト岩															1			1
		砂岩						1												1
	火山砕屑岩	凝灰岩(軽石質)	1	1	2					1								1		6
		凝灰岩(泥質)				1								2	1				2	6
		凝灰岩(シルト質)					1		1											2
		凝灰岩(砂質)									1		1							2
		凝灰角礫岩										1								1
火成岩	深成岩	花崗岩														1				1
総　計			1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1	2	20

遺跡周辺や上流域では、第四紀後期更新世の古白山火山の安山岩-デイサイト溶岩・火砕堆積物及び岩屑なだれ堆積物(凡例VQ3)、中期更新世の高位段丘及び扇状地堆積物(凡例th)、中期更新世の戸室山、加賀室及び丸山火山の安山岩-デイサイト溶岩・火砕堆積物(凡例VQ2)、前期更新世の法恩寺山等の安山岩-デイサイト溶岩・火砕堆積物(凡例VQ1)が分布する。

また、新第三紀鮮新世の願教寺山等の安山岩-デイサイト溶岩・火砕堆積物(凡例VN3)、前期中新世の糸生層最上部等の流紋岩火砕岩・溶岩(凡例Izrp)や流紋岩溶岩・火砕岩(Izr)、竹田層及び栢野層のデイサイト火砕岩(凡例Kad)や糸生層下部-上部等の安山岩-デイサイト溶岩・火砕岩など(凡例Iwa)、漸新世の西谷流紋岩等(Nr)が分布する。

第70図　古宮遺跡と周辺の地質図（鹿野ほか（1990）20万の１地質図幅「金沢」を編集）



第71図　岩石表面の拡大写真（マーカー幅：2㎜）

1. シルト岩（分析No.2）　2. 砂岩（分析No.9）　3. 凝灰岩（軽石質）（分析No.12）
4. 凝灰岩（泥質）（分析No.13）　5. 凝灰岩（シルト質）（分析No.5）
6. 凝灰岩（砂質）（分析No.17）　7. 凝灰角礫岩（分析No.20）　8. 花崗岩（分析No.16）

さらに、古第三紀暁新世太美山層群の流紋岩溶岩・火砕岩など(凡例Fr)、白亜紀後期の濃飛流紋岩等の流紋岩-デイサイト火砕岩など(凡例NH)、白亜紀の手取層群の砂岩シルト岩互層(T3c)や塊状または厚層理砂岩(T3b)あるいは中-粗粒砂岩泥岩互層(T3a)、三畳紀の飛騨花崗岩類(凡例Hn)、古生代中-末期の飛騨変成岩類(Hm)が分布する。

このうち、新第三紀前期中新世の流紋岩火砕岩・溶岩(凡例Izrp)は、軽石質凝灰岩や火山礫凝灰岩からなり、現在でも凝灰岩の石切り場として知られ(高田･日本遺跡学会, 2019)、本遺跡の石垣や礎石、打製石斧などの凝灰岩製の石製品は、こうした周辺に分布する凝灰岩が利用されたと考えられる。

砥石などに利用されたシルト岩や砂岩には、手取川上流部に分布する白亜紀の手取層群の砂岩シルト岩互層(T3c)などに由来する河床礫が利用されたと考えられる。また、敷石も、同様に手取川上流部に分布する三畳紀の飛騨花崗岩類(凡例Hn)などに由来する河床礫が利用されたと考えられる。

いずれの石製品も、現地性の高い石材を利用したと推定される。

引用・参考文献

鹿野和彦ほか　1990　『20万分の1地質図「金沢」』地質調査所
高田祐一　　2019　『産業発展と石切場』戎光祥出版

第３節　花　粉　分　析

１．は　じ　め　に

石川県白山市白山町地内に所在する古宮遺跡では、古植生を検討するために堆積物試料が採取された。以下では、試料に対して行った花粉分析の結果を示し、堆積当時の古植生について検討した。

２．試 料 と 方 法

分析試料は、C9区やB7区、B8区から採取された計６試料である(第26表)。これらの試料について、以下の処理を施し、分析を行った。

試料(湿重量約４g)を遠沈管にとり、10%水酸化カリウム溶液を加え10分間湯煎する。水洗後、46%フッ化水素酸溶液を加え１時間放置する。水洗後、比重分離(比重2.1に調整した臭化亜鉛溶液を加え遠心分離)を行い、浮遊物を回収し、水洗する。水洗後、酢酸処理を行い、続けてアセトリシス処理(無水酢酸９：硫酸１の割合の混酸を加え20分間湯煎)を行う。水洗後、残渣にグリセリンを滴下し、保存用とする。検鏡は、この残渣より適宜プレパラートを作製して行った。プレパラートは樹木花粉が200に達するまで検鏡し、その間に現れる草本花粉・胞子を全て数えた。なお、十分な量の花粉化石が含まれていなかった試料については、プレパラート１枚を検鏡するに留めた。また、保存状態の良好な花粉を選んで単体標本(PLC.3344～3351)を作製し、写真を第73図に載せた。

第26表　分析試料一覧

試料No.	調査区	面	層	遺構	時期	堆積物の特徴
1	C9南	2	－	P32	室町時代	黒色(10YR2/1)シルト
2	B7南			SX46		黒色(7.5YR1.7/1)シルト
4	B8南　東側	－		SK19南壁	－	暗褐色(10YR3/4)シルト
6	B7南	3	包含層1	礎石16－17間アゼ	鎌倉時代～室町時代	灰オリーブ色(5Y4/2)シルト
8	B7南　東側	4				暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト
10	B7南	3	ベース	礎石17東側アゼ		浅黄色(2.5Y7/4)シルト

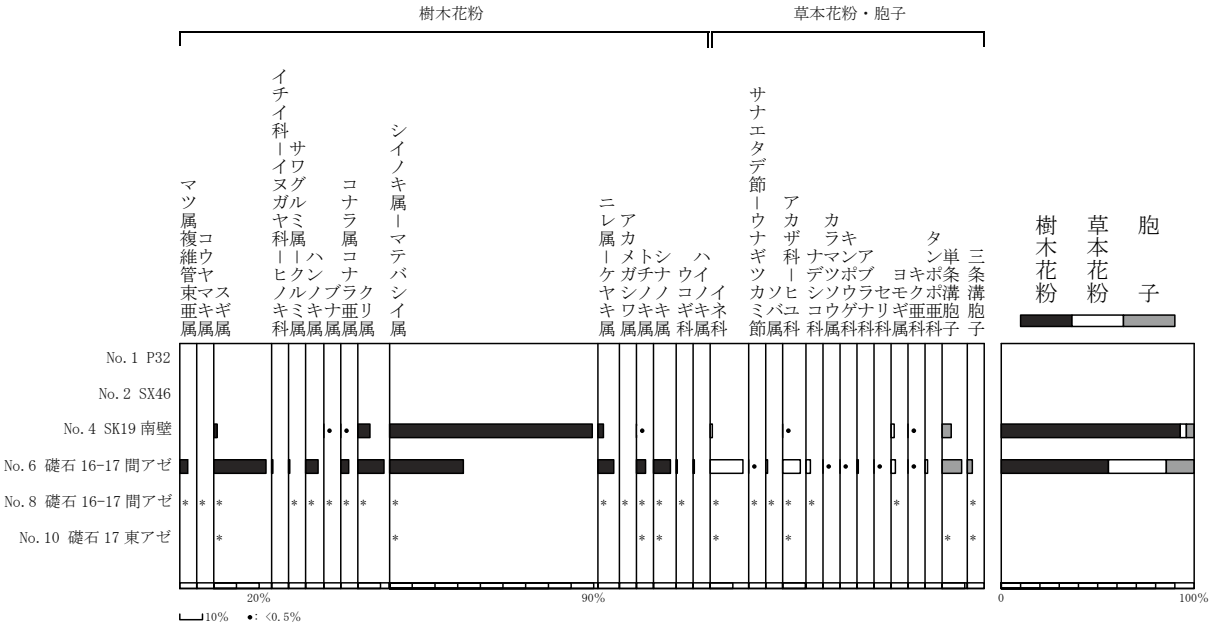
第27表　産出花粉胞子一覧表

学名	和名	No.1	No.2	No.4	No.6	No.8	No.10
樹木							
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属	−	−	−	7	1	−
Sciadopitys	コウヤマキ属	−	−	−	−	2	−
Cryptomeria	スギ属	−	−	3	46	15	1
Taxaceae − Cephalotaxaceae − Cupressaceae	イチイ科 − イヌガヤ科 − ヒノキ科	−	−	−	1	−	−
Pterocarya − Juglans	サワグルミ属 − クルミ属	−	−	−	1	2	−
Alnus	ハンノキ属	−	−	−	11	3	−
Fagus	ブナ属	−	−	1	−	1	−
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	−	−	1	7	2	−
Castanea	クリ属	−	−	11	23	2	−
Castanopsis − Pasania	シイノキ属 − マテバシイ属	−	−	184	65	8	1
Ulmus − Zelkova	ニレ属 − ケヤキ属	−	−	5	14	2	−
Mallotus	アカメガシワ属	−	−	−	−	1	−
Aesculus	トチノキ属	−	−	1	8	2	1
Tilia	シナノキ属	−	−	−	15	1	1
Araliaceae	ウコギ科	−	−	−	1	1	−
Symplocos	ハイノキ属	−	−	−	1	−	−
草本							
Gramineae	イネ科	−	−	2	52	4	2
Polygonum sect. Persicaria − Echinocaulon	サナエタデ節 − ウナギツカミ節	−	−	−	1	3	−
Fagopyrum	ソバ属	−	−	−	3	2	−
Chenopodiaceae − Amaranthaceae	アカザ科 − ヒユ科	−	−	1	28	6	2
Caryophyllaceae	ナデシコ科	−	−	−	7	5	−
Thalictrum	カラマツソウ属	−	−	−	1	−	−
Ranunculaceae	キンポウゲ科	−	−	−	1	−	−
Brassicaceae	アブラナ科	−	−	−	2	−	−
Apiaceae	セリ科	−	−	−	1	−	−
Artemisia	ヨモギ属	−	−	3	7	2	−
Tubuliflorae	キク亜科	−	−	1	1	−	−
Liguliflorae	タンポポ亜科	−	−	−	4	−	−
シダ植物							
monolete type spore	単条溝胞子	−	−	9	31	−	138
trilete type spore	三条溝胞子	−	−	−	8	1	29
Arboreal pollen	樹木花粉	−	−	206	200	43	4
Nonarboreal pollen	草本花粉	−	−	7	108	22	4
Spores	シダ植物胞子	−	−	9	39	1	167
Total Pollen & Spores	花粉・胞子総数	−	−	222	347	66	175
unknown	不明	−	−	−	13	−	−

３．結　　果

6試料から検出された花粉・胞子の分類群数は、樹木花粉16、草本花粉12、形態分類のシダ植物胞子2の、総計30である。これらの花粉・胞子の一覧表を第27表に、分布図を第72図に示した。分布図における樹木花粉の産出率は樹木花粉総数を基数とした百分率で、草本花粉と胞子の産出率は産出花粉胞子総数を基数とした百分率で示してある。図表においてハイフン(-)で結んだ分類群は、それらの分類群間の区別が困難なものを示す。

検鏡の結果、4試料(No.1、No.2、No.8、No.10)からは十分な量の花粉化石が得られなかった。十分な量の花粉化石が得られたNo.4のSK19南壁では、樹木花粉のシイノキ属-マテバシイ属の産出が目立つ。また、No.6の礎石16-17間アゼの樹木花粉ではスギ属やハンノキ属、コナラ属コナラ亜属、クリ属、シイノキ属-マテバシイ属、ニレ属-ケヤキ属、トチノキ属、シナノキ属が、草本花粉ではイネ科、アカザ科-ヒユ科の産出が目立つ。



第72図　古宮遺跡における花粉分布図

樹木花粉は樹木花粉総数、草本花粉・胞子は産出花粉胞子総数を基数として百分率で算出した。
＊は樹木花粉200個未満の試料について、検出した分類群を示す。

４．考　　察

6試料のうち4試料においては、十分な花粉化石が得られなかった。一般的に、花粉は湿乾を繰り返す環境に弱く、酸化的環境下で堆積すると紫外線や土壌バクテリアなどによって分解され、消失してしまう。したがって、堆積物が酸素と接触する機会の多い堆積環境では、花粉化石が残りにくい。今回の4試料の採取層準は、酸化的環境に晒されていたために、花粉化石が分解・消失してしまったと考えられる。

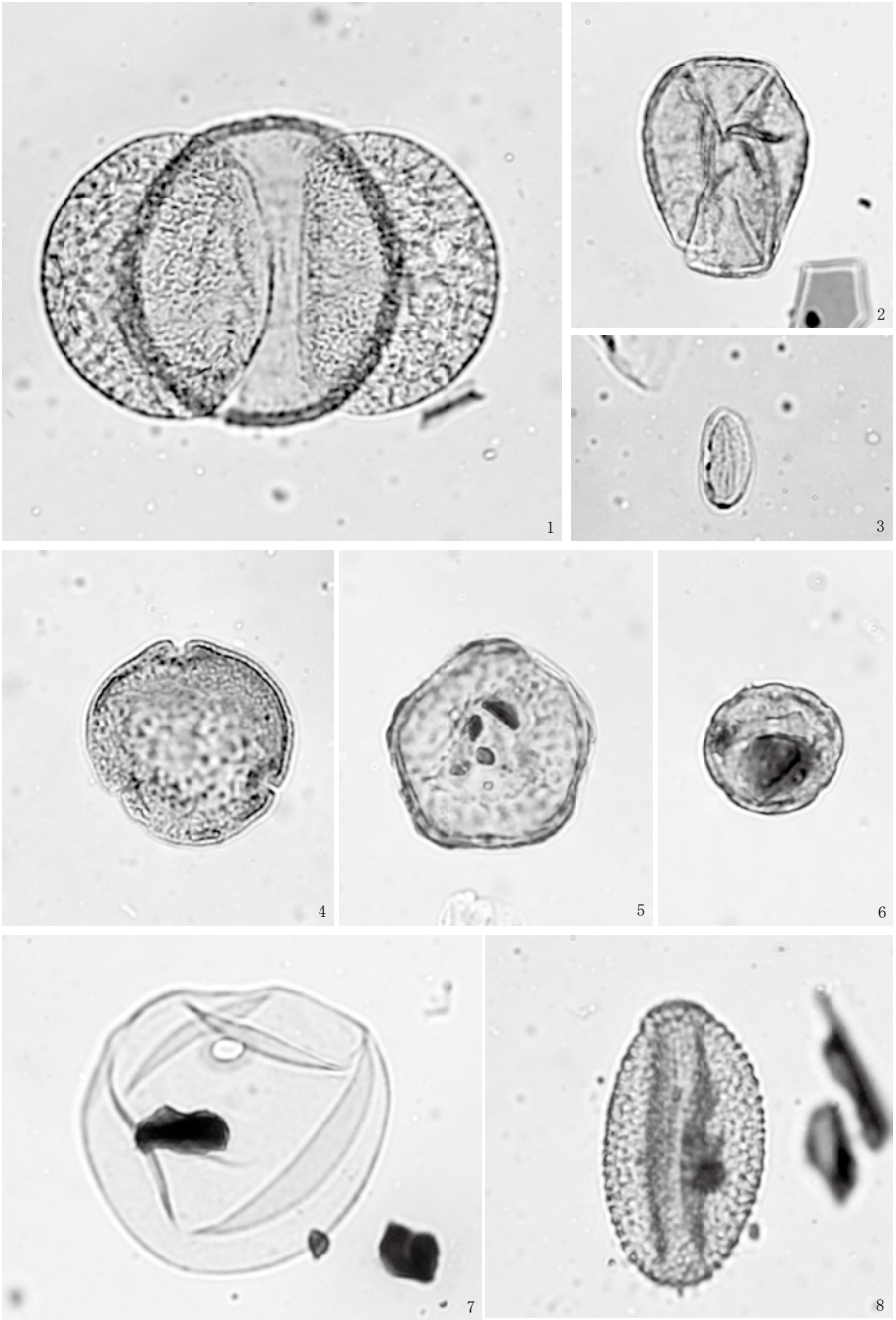
そうしたなか、十分な量の花粉化石が得られた試料No.6の礎石16～17間アゼ3面(鎌倉時代～室町時代)では、樹木花粉のシイノキ属-マテバシイ属の産出が目立っており、当時の遺跡周辺にはシイ類からなる照葉樹林が分布していたと考えられる。また、スギ属やシナノキ属の産出も目立ち、遺跡周辺にはスギやシナノキ属も分布していたと考えられる。なお、シナノキ属については、宗教施設と関係している可能性もある。すなわち、シナノキ属という分類群には、1168年に中国の天台山から栄西が持ち帰ったとされ、寺院を中心に植栽がよく見られるボダイジュ(堀田, 1995)が含まれている。今回得られたシナノキ属花粉がボダイジュかどうかは不明であるが、シナノキ属花粉と宗教施設の関連性の検討が今後の課題であろう。その他には、マツ属複維管束亜属やコナラ属コナラ属、クリ属といった二次林要素の花粉の産出も見られ、遺跡周辺の開けた明るい場所にはクリやコナラ、ニヨウマツ類などから成る二次林も広がっていた可能性がある。ハンノキ属は手取川周辺の低地に分布していたと考えられ、ニレ属-ケヤキ属やトチノキ属などが河畔林を形成していた可能性がある。

草本花粉では、イネ科とアカザ科-ヒユ科の産出が目立つため、試料採取地点周辺にはイネ科やアカザ科-ヒユ科が分布を広げていた可能性がある。また、栽培植物のソバ属も産出しており、当時の遺跡周辺においてソバ栽培が行われていた可能性がある。なお、ソバ属は4面の礎石16～17間アゼ(No.8)でも確認されている。

十分な量の花粉化石が得られたSK19南壁（No.4）では、照葉樹林要素のシイノキ属-マテバシイ属が突出する。SK19南壁（No.4）の堆積時には、遺跡周辺においてシイ類からなる照葉樹林が分布を拡大させていた可能性がある。

引用・参考文献

堀田　満　　1995　「シナノキ」『週刊朝日百科植物の世界』第76号　朝日新聞社　118-121頁



第73図　産出した花粉化石

1. マツ属複維管束亜属（PLC.3344　No.6）
2. コナラ属コナラ亜属（PLC.3345　No.6）
3. シイノキ属-マテバシイ属（PLC.3346　No.4）
4. シナノキ属（PLC.3347　No.6）
5. ニレ属-ケヤキ属（PLC.3348　No.6）
6. アカザ科-ヒユ科（PLC.3349　No.6）
7. イネ科（PLC.3350　No.6）
8. ソバ属（PLC.3351　No.6）

第５章　総　　括

第１節　遺跡の変遷と出土したカワラケについて

１．遺跡の変遷(第４～68図、第２～21表、図版１～40)

今回、一般県道手取川自転車道線(通称、手取キャニオンロード)改築事業に伴い、1,350㎡(平面積550㎡)を発掘調査した。調査区は旧線路敷部分の幅約５ｍ、延長約110ｍの細長いもので、工事との調整から、Ａ区・Ｂ区・Ｃ区の３地区に分けて調査を行った。

調査の結果、北側のＡ区では２面の遺構面を確認し、中世後半のカワラケをまとめて廃棄したとみられる土坑SX13がみつかった。中央部のＢ区では整地層や遺物包含層を挟み平安時代後期～室町時代後期にかけての最大５層の遺構面を確認し、SB01やSB02など建物の礎石や礎石列、石列をもつ区画溝SD1・2、飛び石の道状遺構SX72、石畳状の敷石遺構SX71、石段状の遺構など石を用いた遺構を多く検出した。また、焼土や炭化物、被熱痕跡のある礎石や土坑など火災痕跡をSX46・47・70など複数の遺構や整地層・包含層で確認した。南側のＣ区では４面の遺構面を確認し、土石流の堆積とみられる人頭大以上の自然礫層を掘り込む石列や土坑、柱状高台をもつカワラケが多く出土した包含層や落ち込みSX37などを検出した。Ｂ区の遺構面の時期は、第Ⅰ面は室町時代後半～戦国時代、第Ⅱ・Ⅲ面は室町時代中頃～後半、第Ⅳ面は鎌倉時代前半～室町時代前半、第Ⅴ面は平安時代後半～鎌倉時代前半、第Ⅵ面以下は平安時代中頃～後半頃が中心と考えられる(第41図・図版14)。出土遺物は大量出土の素焼きの皿「カワラケ」を中心に、中国製の青磁や白磁の花瓶や碗･皿、瀬戸焼の製品、加賀焼や珠洲焼、越前焼のすり鉢や甕、砥石などの石製品、鉄釘や銅銭など、小片になったものが多いが、豊富な遺物が大量に出土しており、当地での多彩な活動の痕跡がみられる。

今回は、調査区の幅が狭く全体を把握することはできなかったが、Ｂ･Ｃ区を中心に検出した遺構は、当時の「白山本宮」に関係した施設とみられ、次節の文献史料からも知られる度重なる白山本宮での火災や洪水などのたびに繰り返された神殿の再建などを裏付けるものである。『白山比咩神社旧社地(安久濤之森)乙図』(金剱宮蔵　明治初期)(図版14)には、南北41間、東西35間の敷地中央に緑の高まりが描かれている。古宮公園の水戸明神裏にある大岩とみられ、現在でも磐座として信仰の対象とされていることからも、今回の調査区のＢ・Ｃ区は絵図に描かれた白山本宮(白山比咩神社旧社地)の一画にあたり(第４図・図版14)、Ｂ区北側で検出された平らな面を持つ大きな石列は、位置や方向からも絵図にある敷地境の北辺部分に積まれた石積みまたは土塀の基礎とみられる。文明12(1480)年の大火により白山本宮は現在白山比咩神社のある三宮の地へと遷座したが、旧社地の中心部分は現在まで開発を受けず残されていることから、遺構の遺存状況は良好と推定される。

次節の文献『白山之記』にみえる「嘉祥元(848)年の勅命により白山本宮に40余りの神殿・仏閣の造立がなされた」と書かれた時期の遺構は今回の調査区内では明らかとなっていないが、平安時代中頃の遺物が出土していることから、周辺にこれら白山本宮に伴う社殿などの施設が建てられていた可能性がある。Ｂ区は礎石建物など遺構の遺存状況が良好であった平安時代末～鎌倉時代頃とみられるⅣ・Ⅴ面の調査で終了し、山砂により保護層を設けて現地にて保存したが、今後、周辺地で最下層面までの調査を行えば、文献に記されたこの地に白山本宮が遷座された時期の遺構がみつかる可能性がある。また、Ｂ区Ⅳ面SB01bでみつかったの飛石状の礎石を伴う建物は、現在の白山比咩神社神門横に鎮座する荒御前神社の礎石構造との類似点がみられ、今後類例を検討する必要がある。

２．出土したカワラケについて(第49～68図、第２～21表、図版15～40)

今回出土した遺物の9割以上は、細かく割られた平安時代後期～室町時代後期の素焼き土師器の皿であるカワラケ片で占められ、遺構や包含層、整地層などから多量に出土している。白山登山前に白山本宮に立ち寄り、カワラケを使用した安全祈願の祈りを行った後、山へと向かった人々の姿が想像される。また、この状況からは、白山本宮では長期間に渡りカワラケを用いた祭事が頻繁に行われ、次節の文献にみられる度重なる火災や洪水などの災害後に行われた敷地造成の際に、造成土にカワラケ片が混ぜられていた状況がうかがえる。

出土したカワラケのほとんどは小破片で、紙数も限られることから図化した土器は全体の一部である。また、カワラケの種類で出土量が多いのは、平安時代後半～鎌倉時代初めにかけてつくられたとみられる底部に柱状高台を持つ土器である。この時期には寛治5(1091)年の加賀国司藤原為房の下向日記である『為房卿記』の中に白山本宮において為房による国司神拝が行われたとされ、その後も中世の間神拝が続けられていることからも加賀一の宮となった白山本宮において度々大規模な儀礼が行われ、その際にカワラケが用いられたとみられる。

この柱状高台を持つカワラケについて、出土した調査区や面ごとに形態やサイズに違いがあるか、時期はいつかなど、図化し今回掲載したカワラケ以外に計測のみを行ったものも含め分析を行っているが、紙数が限られることから、この成果は別稿で改めて報告する予定である。

今後も遺跡内での調査区の正確な位置や各面と遺構の詳細な時期、文献資料にみられる自然災害の比定、祭事の内容などと出土遺物の時期とを総合的に検討することで旧社地の構造が復元的に推考できる。また、調査事例の増加や加賀国総社の府南社と想定されている小松市南野台遺跡の調査成果、小松市那谷寺、加賀市南郷堂林廃寺跡など同様な性格を持つ他の遺跡と比較することで、白山本宮の構造や変遷をより明らかにできるものと考えている。

第２節　白山本宮の造営について

１．は　じ　め　に

白山比咩神社に伝わる記録『白山大神宮御鎮座伝記』によると、白山の大神が最初に鎮座したのは、現在の社地の北に所在する舟岡山であった。同記録では、舟岡山から手取川の十八講河原へ遷座したのちに、安久濤之森の社地に鎮座したとある。この旧社地の西側は手取川の断崖で、河畔の景勝が安久濤ヶ淵であり、「古宮」とよばれている。また白山縁起のなかで最古の内容を記す『白山之記』(重要文化財、白山比咩神社所蔵)は、霊亀元年(715)に白山比咩神が示現し、天長9年(832)には加賀・越前・美濃に、白山登拝の拠点となる三馬場が開かれたと伝える。三馬場は天台宗の総本山である比叡山延暦寺の末寺となり、比叡山の地主神であった近江坂本の「日吉七社」の例にならい、それぞれの社の構成を、七社を基軸に再編・整備した。

白山比咩神社が初めて文献に登場するのは『日本文徳天皇実録』で、仁寿3年(853)に加賀国白山比咩神が従三位に叙された記事である。その6年後の貞観元年(859)、全国267社に神階の叙位があり、白山比咩神は正三位に昇叙されている(『日本三代実録』)。このような「神階」とよばれる位階授与は、神社の序列化を進め、神社に対する律令国家による新しい組織化が図られたものであると考えられている。

また延長5年(927)に奏上された『延喜式』巻9･10は「神名帳」とよばれるが、全国の3,132座の神々

が記載されている。「神名帳」に記載された神社は「式内社」と称され、神祇官から幣帛が頒下される官幣社と、国司から頒下される国幣社に大別され、さらに国家祭祀とのかかわりによって大社と小社に区分されていた。白山比咩神社は『延喜式』（巻10、神祇10）の加賀国42座の内、石川郡10座に登載されている。白山信仰の拠点で白山三馬場の中心となる加賀、越前、美濃の中で、加賀の白山比咩神社のみが延喜式神名帳に登載され、官社として位置づけられていたことは重要である。

加賀馬場では、11世紀以来、加賀国の一宮として国鎮守的な立場となった白山本宮と、その別当寺である白山寺が管内寺社の中心となった。特に白山寺の長吏は、白山七社の惣長吏を兼ね、加賀馬場全体を代表する存在となっていた。

２．加賀一宮としての白山本宮

『白山之記』には、嘉祥元年（848）の勅命によって白山本宮に40余宇に及ぶ神殿・仏閣の造立がなされ、若干の神田・講田が免田とされ、鎮護国家の壇場に定め置かれたことが記されている。さらに続けて「凡白山本宮、延喜神名帳に入る、三十三年に一度御造替と云々、国司重任の劫（功）を募り、事を行い造らしむ、公家御大営の社檀（壇）なり」と記述されている。しかし白山本宮において33年に一度の式年遷宮があったことを窺わせる史料は他には見えない。社殿については『続左丞抄』の治暦４年（1068）10月29日に、加賀国白山社の神殿幷に御躰等が焼亡し、再び造立がなされたとある。『白山之記』など在地の史料にこの焼亡を示す記述は見られないが、官社として神社の本殿や御神体が整備されていたことを示すものと考えられる。

また『白山之記』には「白山宮一宮名事」と書き出す部分があり、白山本宮が一宮と称していたことがわかる。諸国の一宮制の成立は、11世紀後半から12世紀前半とされているが、白山本宮が加賀国の一宮となった時期は定かではない。

諸国の一宮制は原則として令制国１国に１社を建前としており、その選定基準を規定したものはない。最も重要な特徴の１つは、各国ごとに設けられた「国の鎮守神」であることとされている。しかしながら諸国の一宮の中には、中世を通じて「一宮」の呼称が成立ないし定着しなかった事例が多数見られ、地域的な多様性があることが指摘されている。それは「国の鎮守神」であると言う性格上、それぞれの地域が持つ政治・社会的な特性と緊密に結び付いているからと考えられている。

一方、通説では一宮の起源は、国司が巡拝する神社の順番にあると言われている。国司の赴任、任国での諸行事、為政の心得などについては、『朝野群載』巻22の「国務条々事」に42箇条にわたり記されている。その中に、「一、神拝後、吉日時を択び、初めて政を行う事」、「一、吉日を択び、始めて交替の政を行う事」とあり、国司は任国に赴任すると、神拝の後に初めて政を行い、交替事務を開始することになっていた。すなわち何よりも神拝が第一とされたのである。寛治５年（1091）６月、加賀国司として加賀国に下向した藤原為房の日記である『為房卿記』には、為房の国司神拝が記載されている。そこには下国中の７月１日から23日に帰洛するまでの記事が見られるが、７月13日に白山本宮において穀物豊穣の祈願として最勝講を厳修するなど、勧農を目的とした国衙祭祀を行っていたことが記されている。さらに天永２年（1111）にも、国守藤原顕輔が白山本宮を神拝し、国司として一宮での法会や神前参拝を行っている（『左京大夫顕輔卿集』）。

また諸国一宮の造営については、一般的には一国平均役が充てられていた。一国平均役とは臨時の課役で、一国内の荘園・公領に一律に課され徴収されたものである。前述のように国司が国衙の祭祀に深く関与することで、社殿などの造営についても、一国平均役の賦課が国衙の保障のもとで行われるようになっていたのである。この状況を示しているのが、永治元年（1141）８月４日付の加賀国司庁

宣案である(『醍醐雑時記』)。これは、醍醐寺領加賀国得蔵荘に課された、白山修造の所課を免除したものであるが、この「白山修造」の所課について、権門勢家を論ぜず徴収する旨が記されており、一国平均役によりその費用が調達されていたことが確認できる。得蔵荘については、伊勢神宮の式年造営料である役夫工米や、京都御所修理の造内裏作料の一国平均役の所課に関しても、醍醐寺からの申請によって朝廷から加賀の国衙経由で免除が認められていた。当時醍醐寺は白河上皇の帰依を得て寺勢を高めており、臨時課役の免除などの優遇を得ていたのである。

白山本宮は一宮として、勧農を目的とした国衙祭祀を担うことで国衙機構と深く係わっており、その経済基盤である神領は、一円知行地の石川郡米丸保と白山麓の河内荘のほかに、国衙領内に設定された多くの神免田で構成されていた。神免田は、田畠の年貢・公事などが免除される代わりに、指定された神社にその分を進納することが定められており、ここでは加賀の国衙によって、白山本宮への進納が義務付けられていた。特に石川郡米丸保は、白山本宮の毎日の御日供(神前への供物)に係る経費を負担する神領で、御供田保とも称していた。

３．一国平均役による造営

『白山之記』によると、白山本宮には宝殿(本殿)・拝殿・彼岸所、管理施設である政所・大倉、摂社である荒御前・糟神・滝宮・禅師宮の各本殿・拝殿・祓殿、白山寺の主要堂宇で御内八堂と呼ばれる講堂、剣講堂・西堂・東堂・十一面堂・馬頭堂・新三昧堂、付属施設の鐘楼・武徳殿・五重塔・四足門・廻廊などの堂宇が40余宇に及んだことが記されている。鎌倉時代においてもその造営は、白山本宮が加賀国の一宮であることから、国衙が国内一円に造営料として賦課する一国平均役によって賄われていた。

寛喜元年(1229)、加賀の国司より申請された白山本宮造営用途の調達が勅許された。これを受け太政官の官務を世襲する小槻季継が、家領加賀国石川郡の北嶋保に課せられる造白山料米の免除を申請するなど(『民経記』)、白山造営料の忌避を企てる動きがあった。これらの動きに対して、白山本宮は強硬な姿勢をもって糾弾した。

嘉禎元年(1235)、加賀の知行国主であった平経高が、白山宮造営料米(造白山料米)として加賀国内の荘園・公領(国衙領)一円に、段別５升あての割合で一国平均役を賦課したところ、石川郡大野荘の地頭代と荘官が造営役の段米を出し渋った。そのため翌年になり、白山本宮の衆徒・神人らが白山三社(本宮・金剣宮・岩本宮)の神輿を奉じて、同荘内に押しかけたのである(『白山宮荘厳講中記録』)。白山衆徒らの神輿動座を知った大野荘の地頭・荘官は、いずれも居館から姿をくらましていたことから、衆徒らは神輿を振り棄てたまま引き上げた。しかしその後も段米の進納が無いため、今度は白山諸社の神鉾を奉じて、再び荘内に押し入った。

この頃の大野荘の荘園領主は定かではなく、史料を欠くため詳細は不明である。鎌倉時代末期には、大野荘の地頭職は幕府執権の北条得宗家が掌握し、得宗被官が地頭代を勤め、地頭代の代官として足立厳阿が現地に派遣されていたことが知られる。厳阿が注進した正中２年(1325)の田数注文によれば、領家・地頭両分の総田数は、282町７反余で、総畠数は36町３反余とされ、年貢・課役の収納分は分米396石１斗９升８合、分大豆109石３斗７升７合、銭200貫783文、綿45両余であった。

白山本宮の造営は、延応元年(1239)６月に至り、知行国主平経高の積極的な支援もあり、ようやく上棟にこぎつけた。しかし８月17日、突如として白山本宮の神殿以下21宇が焼失し、本宮の御正体は武徳殿に遷御、彼岸所の観音像は大講堂に遷された。この火災は、神主の上道氏盛の官倉が火元で、火事さわぎの間に、氏盛の妻が西側の手取川の川岸から落ちて事故死するという惨事もあった(『白山

宮荘厳講中記録』)。そのため翌年の延応２年正月に、再度はじめから造営計画が立て直されたのである(『平戸記』)。

先述の通り白山本宮は比叡山延暦寺の末寺となったが、その造営については、延暦寺を経ず知行国主を通して朝廷に働きかけ、造営のための一国平均役の賦課を得ている。やはり一宮の造営は、一国平均役という国衙・朝廷との係わりの中で行われるもので、本末関係とは別次元での事業であったと考えられる。加賀の国主平経高は、国衙支配の中で一宮白山本宮の造営を重視し、精力的に朝廷に働きかけており、鎌倉時代の加賀国において国衙機構は十分に機能していたと考えられる。

４．守護富樫氏と白山本宮

建武２年(1335)９月、白山本宮に近い石川郡富樫荘を本貫地とする富樫高家が将軍足利尊氏から加賀守護に補任され富樫氏の守護支配が始まった。室町幕府体制下での守護は、鎌倉後期以来の一国平均役の賦課権を段銭の徴収権として掌握し、一国的規模での領域的支配(分国支配)を強めていた。

延文元年(1356)８月、白山本宮・金剱宮の神人等が石川郡大野荘内で段米や升米を譴責することを停止させるよう､朝廷･幕府より守護富樫氏春に命じられた(「天龍寺所蔵文書」)。ここでの「段米」は、加賀一宮白山本宮の造営料のことで、鎌倉期以来の一国平均役の賦課権を踏襲したものである。

また貞治３年(1364)10月には、白山衆徒が造営と称して課役(段米)を大野荘に賦課したことに対し、同荘は一国平均役免除の地であるので停止させてほしいと臨川寺が幕府に訴えたところ、幕府はこれを認め、守護富樫竹童丸(昌家)に停止を命じている(「臨川寺重書案文」)。

さらに明徳５年(1394)３月、幕府が臨川寺の要請を容れ、同寺領である大野荘への守護使の入部と、本宮・金剱宮の神人らによる白山段銭の催促を目的とした乱入を停止するなどし、応永９年(1402)２月には、同荘における国役・守護役の免除と守護使不入権を臨川寺に与えたのである(「天龍寺所蔵文書」)。これらは加賀における守護権力の強化を抑制するとともに、幕府に多額の銭貨を上納し、幕府財政に多大な貢献をする五山系禅院の寺領を保護したものであろう。

こうした中で、至徳元年(1384)11月19日、白山本宮の社殿の上棟が行われ、在京していた守護富樫昌家より、白銀を打ち含んだ剣１振と神馬１疋が寄進され、また加賀国内の国人たちが100余疋の神馬を白山本宮へ奉納した。同年12月13日に正遷宮が行われ、新装の本殿・大拝殿の完成を祝い、盛大な遷座祭が催された(『白山宮荘厳講中記録』)。

応永22年(1415)８月、将軍足利義持が加賀白山長吏に、白山本宮の造営料として、段別５升、町別人夫１人の割合で一国平均役を賦課する旨を、国中に触れるよう沙汰した(「室町家成敗寺社御教書」)。幕府が一国平均役の賦課を認める権限を掌握していると同時に、その免除措置も行っており、五山系禅院が寺領荘園に負担免除を幕府に申請し認められていたのであるが、このことが在地における白山寺社勢力と、荘園領主の紛争の原因となっていた。

応永26年(1419)６月、山城天龍寺領の石川郡横江荘にも、白山本宮の造営段別米・人夫役の免除を行うなど、幕府が五山系禅院領に優遇措置(造営料免除)を与えた(「天龍寺重書目録」)。その結果、造営料の収納がはかどらず、白山本宮の造営が遅々として進まなかった。さらに永享元年(1429)３月、白山若衆徒らは段米の徴収を守護代や幕府の上使が催促しないため、造営が困難に陥っているとして、一味神水し訴えたが認められず、翌年の永享２年閏11月に南禅寺領石川郡宮保へ乱入した(『白山宮荘厳講中記録』、「御前落居奉書」)。幕府は、そうした白山若衆徒たちの宮保への乱入狼藉行為に対し厳しい態度でのぞんだ。このことは、在地の土着勢力として勢威を誇っていた白山本宮が、室町幕府－守護体制のもとで、次第に一国平均役などの既得権益が奪われて行くことになったことを意味するの

である。

５．新たな遷座地

文明12年(1480)10月16日の戌の刻(午後8時頃)、白山本宮の正殿・塔・講堂・大拝殿・常行堂などの堂宇が炎上した。火は今町(現在の白山市鶴来今町付)の公人(本宮の雑務を管掌した下級の役人)道徳の家から出火し、類火が本宮に及んだのである。本宮の社家・寺家の社僧は、ご神体や御本尊を取り出し、三宮(現在の白山比咩神社鎮座地)に遷した。翌日の17日には、本宮の執当(諸堂の管理担当者)である桂林院澄俊が、同じく執当の平等院・了覚房・勝縁房・延命院等とともに、京都に注進し社殿の修造を願い出た。願いは受け入れられ、同年12月12日に神殿御柱の杣取が行われた。この日は戊午の日にあたり、養老2年(718)に本宮造立を行った嘉例にならったものであった(『白山宮荘厳講中記録』)。

その後、長享2年(1488)6月1日、本宮が正式に三宮に遷座した(『白山宮荘厳講中記録』)。文明12年より実に8年が過ぎていたが、以前の鎮座地ではなく、ご神体等を仮に遷した三宮が新たな宝殿として定められ現在に至っている。その間の造営に関する経緯は不明である。戦国期における本宮を取り巻く状況は刻々と変化しており、守護の富樫氏が真宗本願寺派の坊主・門徒らの一向一揆に圧迫されすでに傀儡化し、加賀国内の主導権は本願寺や一向一揆の真宗教団勢力に握られていた。

享禄4年(1531)、本願寺に後押しされた越前の超勝寺・本覚寺と、加賀の本泉寺・松岡寺・光教寺という「賀州三か寺」との争いでは、加賀に下向した下間頼盛が白山本宮惣長吏澄祝法印の助力を得て、賀州三か寺派の清沢願得寺を攻めて放火した。これにより近接する金剱宮と周辺の寺家・在家が悉く焼失したのである(『白山宮荘厳講中記録』)。

白山本宮に関する記述は見られないが、その社殿についてもこれらの影響は少なからずあったことは想像するに難くないであろう。

６．加賀藩主前田家による再興

天正12年(1584)7月28日、正親町天皇から白山七社惣長吏に充て、再興を督励する綸旨が下された。「近年国中錯乱により社頭退転す」との文面からも、戦国期に社頭が荒廃していたことが窺える。この綸旨は、当時の白山本宮の惣長吏が朝廷に働きかけ、実現したものであった。さらに社頭再興の綸旨を獲得したことで、白山本宮は加賀の新たな領主となった前田利家の外護を得たのである。天正14年に利家が金品の奉加を行い、慶長元年(1596)には前田家にる社殿再建が成就している。

白山宮の造営は、前田利長・利常の時代においても続けられた。慶長11年(1606)4月18日に社殿造立のための募財を勧める後陽成天皇の綸旨が下付され、これに応えるように同年6月16日には、利長が白山宮に金品を奉加している。

また慶長16年には、前田家の家臣である篠原一孝・奥村栄明・横山長知が白山宮の社殿建立に関する法度を定めている。この法度によると、工事期間中の大工諸職人・手伝い人は、毎日朝は「天あけ」から晩は「日之暮」まで、作事場に詰めることが義務付けられていた。また用材の切れ端や釘・鋸など一切作事場の外へ持ち出さないこと。境内においては竹木の伐採と運搬用の牛馬の放飼いも禁じられており、これらに違反したものは厳しく処罰するとされていた。また同年12月24日には、前田利光(利常)が白山宮への立願として、年中毎日供米10石8斗と、年中40余度の祭礼料22石5斗の都合33石3斗を寄進している。以後、白山宮の造営は、近世を通じ加賀藩主前田家により藩費で行われていた。

延宝2年(1674)4月、白山宮から加賀藩寺社奉行に提出した社堂書上によると、当時の社頭は、本

社(本殿)・拝殿・御供所・本地護摩堂(本地堂)・荒御前(社)・小宮・鐘撞堂各1宇の7宇から構成され、江戸時代を通して変化はなかったとみられる。社頭の造営は、慶長元年の白山宮の再興後、明治に至るまで約20回が史料から確認でき、造営の内容は、造立(再建)・修理・屋根葺替・神具修覆など多様である。そのなかでも寛文8年(1668)と明和7年(1770)の造営は、社殿の全面的な建て替えをともなう大規模なものであった。

現在の白山比咩神社の本殿(県指定文化財)は、この明和7年に建立されたもので、完成時の藩主は前田重教(10代藩主)である。この造営は、寛延4年(1752)に神主中より藩の寺社奉行所に、社頭大破のため修復を願い出たことが始まりであった。宝暦10年(1760)に加賀藩は造営に着手し、社殿の手斧始が行われ、同13年には本社・本地堂・荒御前社の外遷宮がなされた。しかし、藩の財政難から修覆は遅々として進まなかった。そのため明和4年(1767)、長吏・神主が社頭造営の費用を獲得する目的から「万人講」の興行を寺社奉行に願い出た。万人講は、寺社の修繕を目的とした富突のことで、番号入りの富札を売り出し、後日公開の抽選によって、当選者に賞金を与えるという興行であった。加賀藩領内では、宝暦年間頃から行われており、白山宮の社頭造営の万人講も申請して認められ、明和4年秋から同6年にかけて毎月1回、金沢城下の卯辰八幡宮(現在の卯多須神社)の前で興行されていた。万人講で集めた初穂銀は、祠堂銀として積み立てられ造営に充てられたのである。明和の造営は、寛延4年に修覆の申請が出されてより、完成までに20年の歳月を要したことになる。

7．むすび

白山本宮は、古来より白山信仰の中心として信仰を集めて来た。白山本宮は『延喜式』(「神名帳」)に記載され式内社と称し、11世紀頃には加賀国一宮として国鎮守的な立場となった。そのため国司が赴任後、最初に白山本宮を巡拝した。そして、その造営は国家が臨時に賦課する一国平均役が充てられたのである。鎌倉時代においても引き続き一国平均役での造営がなされたが、次第に造営料の賦課を忌避する動きが顕著となり、在地において荘園領主との軋轢が生じるようになった。

室町幕府体制下では、加賀守護となった富樫氏が一国平均役の賦課権を踏襲し、段米として白山本宮の造営料を徴収した。しかしながら、幕府によって加賀国に点在する五山系禅院領に対して、造営料が免除されたため、造営料の収納がはかどらず、白山本宮の造営が遅々として進まなくなった。白山本宮は在地において勢威を振るっていたが、次第に造営料などの既得権益が奪われて行った。

文明12年(1480)の火災により、白山本宮は三宮(現在に鎮座地)に遷座した。戦国期における本宮を取り巻く状況は刻一刻と変化し、享禄の錯乱で境内地は荒廃したと思われる。天正12年(1584)には、白山本宮の再興を督励する正親町天皇の綸旨が下され、前田利家による社殿の再建が行われた。以後、加賀藩主前田家の崇敬を受け、また藩の祈祷所としてその造営・修覆料はすべて藩費で賄われるようになった。

明治4年(1871)、太政官布告により神社は「国家の宗祀」とされ、神宮・官国幣社以下の経費定額及び神官の職制が定められた。これにより、同年に白山比咩神社は国幣小社に列せられた。祈年祭の幣帛、祭典公事の入費は、地方費から支出され、造営と年分の営繕などの費用は、官費(大蔵省支出)で賄われることになり、この年の大嘗祭には、奉幣使として石川県令内田政風が参向した。大正3年(1914)には国幣中社に昇格し、白山会が組織され、境内の拡張や拝殿の改築が始まり、社頭も一新され旧藩時代の面影も薄れていった。

参考文献

白山本宮神社史編纂委員会　2008 『白山信仰史年表』 白山比咩神社

白山本宮神社史編纂委員会　2015 『白山比咩神社史』古代・中世篇　白山比咩神社

白山本宮神社史編纂委員会　2010 『増訂図説白山信仰』 白山比咩神社

鶴来町史編纂室　1989 『鶴来町史』歴史篇－原始・古代・中世－　石川県石川郡鶴来町

鶴来町史編纂室　1997 『鶴来町史』歴史篇－近世・近代－　石川県石川郡鶴来町

金沢市史編さん委員会　2004 『金沢市史』通史編１原始・古代・中世　金沢市

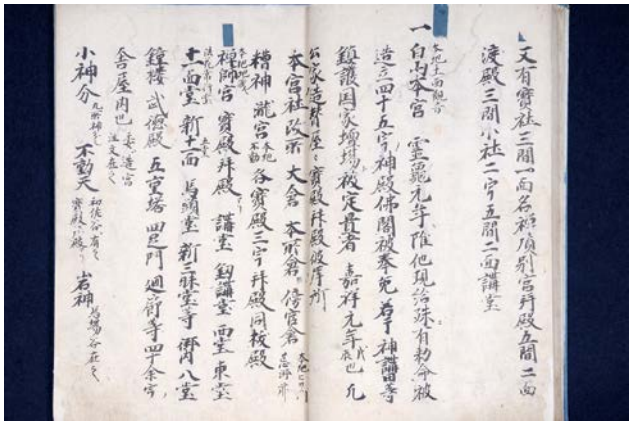
中世諸国一宮制研究会　2000 『中世諸国一宮制の基礎研究』 岩田書院

鶴岡八幡宮　2017 『季刊　悠久』148号　鎌倉市

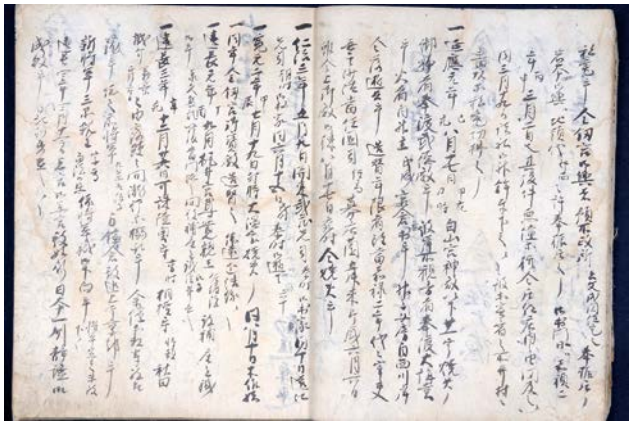
第28表　造営・遷宮史料（中世）

年号	西暦	月日	記事	出典
治暦4	1068	1029	加賀国白山本宮の神殿・御体等が焼亡する	続左丞抄、東寺王代記
延久2	1070	1227	白山宮の焼損した御正体につき、焼け残った像を新造の像内に籠め奉るに陰陽寮に命じて占わせる。不吉にて行わず	扶桑略記、百練抄
大治5	1130	0307	加賀国白山中宮執行大法師某、前年の火災で神事料物等焼失により、越中国目代に、加賀郡津端津所在の越中国衙倉庫の倉米借用を依頼する	「医心方」紙背文書
延応1	1239	0606	加賀国白山本宮神殿の棟上が行われる	白山宮荘厳講中記録
延応1	1239	0817	加賀国白山本宮の神主宮保氏盛の宮倉から出火し、新造の神殿以下21宇を焼失する。その際、本宮の御正体は武徳殿に遷御、彼岸所の観音は大講堂に遷される	白山宮荘厳講中記録
仁治1	1240	0100	加賀国白山本宮の造営につき、公卿の僉議が行われる	平戸記
仁治1	1240	0423	加賀国白山本宮の衆徒等、一国平均の同宮造営段米賦課の認可を訴え、滞京すること二カ年に及ぶ。同日、加賀国知行主前参議民部卿平経高、衆徒等の愁訴の内容を、前関白近衛家実に上申する	平戸記
仁治1	1240	1214	摂政近衛兼経の任太政大臣節会のため、加賀国に禄料の調進が命じられるに際し、白山本宮は造営の事により課役免除の宣旨を下されたが、国主平経高、饗餞の欠如黙止し難く、禄料を調献する	平戸記
寛元2	1244	0719	加賀国白山本宮の大温室が焼失する。次いで8月10日、同室の木作始を行う	白山宮荘厳講中記録
寛元2	1244	0725	加賀国白山本宮造営の事を進言する同宮神主の解状を、関白二条良実、同国知行主平経高に付す	平戸記
建長4	1252	0620	加賀国白山本宮の市場在家が、洪水により流失する	白山宮荘厳講中記録
建長4	1252	1207	加賀国白山本宮の禅師宮の本殿ならびに拝殿が焼失する	白山宮荘厳講中記録
文保1	1317	1011	加賀国白山本宮が焼失する	三宮古記
文保2	1318	0620	加賀国白山本宮の摂社荒御前・滝宮・加須神の本殿遷座が行われる	白山比咩神社文書
元応1	1319	0329	加賀国白山本宮の遷宮が行われる	三宮古記
元亨2	1322	0126	加賀国白山本宮の荘厳講中が、造営祈祷を始める	白山宮荘厳講中記録
嘉暦3	1328	0108	加賀国白山本宮に、初めて談議所が造立される	白山宮荘厳講中記録
元徳1	1329	0223	加賀国白山本宮、一切経蔵の造立に着手し、同年4月に竣工する	白山宮荘厳講中記録
元徳2	1330	0502	後醍醐天皇、延暦寺に命じ、加賀国白山神人の南禅寺領同国得橋郷・笠間保への造営段米の譴責を停止させる	南禅寺文書
元徳2	1330	0600	加賀国白山本宮山王宝殿が造立され、同年9月に遷宮を行う	白山宮荘厳講中記録
観応1 正平5	1350	0319	加賀国白山本宮、本社の外遷宮及び荒御前社の正遷宮を行う	白山比咩神社文書
観応2 正平6	1351	1123	加賀国白山本宮の五重塔・南大門楽屋等、落雷のために焼失する	白山宮荘厳講中記録
延文2 正平12	1357	1116	加賀国白山本宮、本社及び荒御前社の正遷宮を行う	白山比咩神社文書
延文2 正平12	1357	1220	加賀国白山本宮の摂社禅師宮の外遷宮を行う	白山比咩神社文書
貞治4 正平20	1365	0427	加賀国白山本宮が弁才天宝殿の柱立を行う	白山宮荘厳講中記録
至徳1 元中1	1384	1213	加賀国白山本宮が正遷宮を行う	白山宮荘厳講中記録
応永32	1425	0701	加賀国白山本宮の上棟が行われ、ついで28日に遷座する	白山宮荘厳講中記録
応永33	1426	0107	加賀国金劔宮の彼岸所より出火し、仮御殿・拝殿・正殿・大拝殿を焼失する	白山宮荘厳講中記録
宝徳2	1450	1126	加賀国白山本宮が上棟され、ついで12月21日、遷宮を行う	白山宮荘厳講中記録
文明6	1474	0115	加賀国白山本宮の勧学院が炎上する	白山宮荘厳講中記録
文明12	1480	1016	加賀国白山本宮門前付近の今町の公人道徳の家より出火し、同宮の正殿・塔・講堂・大拝殿・常行堂等を類焼する。社家・寺家ともに御神体・本尊等を取り出し、仮に三宮へ遷す	白山宮荘厳講中記録
文明12	1480	1212	加賀国白山本宮神殿の杣取を行う	白山宮荘厳講中記録
長享2	1488	0601	加賀国白山本宮、同三宮本殿に遷座する	白山宮荘厳講中記録
天文5	1536		加賀国白山本宮常行堂が、惣長吏澄祝の許で、永禅法印と弟平等坊澄甚の本願により、起立される	白山宮荘厳講中記録
天文10	1541	0811	白山禅頂の大己貴社が、大風のために転倒する	白山宮荘厳講中記録
天文17	1548	0611	加賀国白山八幡院の住僧常勝坊守逕が本願主となり、大風で転倒した白山禅頂の大己貴社を再建する。ついで28日、仮棟上が行われる	白山宮荘厳講中記録

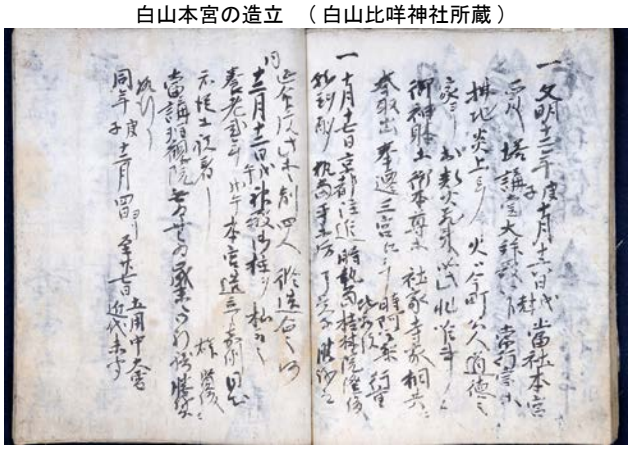
『白山信仰史年表』より作成



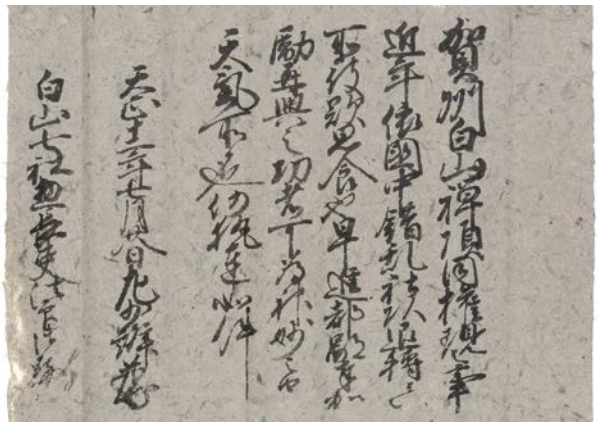
『白山之記（白山縁起）』　嘉祥元年（848）
白山本宮の造立　（白山比咩神社所蔵）



『白山宮荘厳講中記録』　延応元年（1239）8 月
白山本宮の焼失記事　（白山比咩神社所蔵）



『白山宮荘厳講中記録』　文明 12 年（1480）10 月
白山本宮の焼失記事　（白山比咩神社所蔵）



「正親町天皇綸旨」　天正 12 年（1584）
（白山比咩神社所蔵）

明和 7 年（1770）4 月造立の「白山比咩神社」本殿

報告書抄録

ふりがな	はくさんし　ふるみやいせき
書名	白山市　古宮遺跡
副書名	地方道改築事業　一般県道手取川自転車道線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	安中哲徳、垣内光次郎、伊藤克江、(株)パレオ・ラボ(小林克也、藤根　久、森　将志)
編集機関	公益財団法人 石川県埋蔵文化財センター
所在地	〒920－1336　石川県金沢市中戸町18番地1　TEL 076-229-4477　FAX 076-229-3731
発行機関	石川県教育委員会・公益財団法人石川県埋蔵文化財センター
発行年月日	2022年3月22日

所収遺跡名(しょしゅういせきめい)	所在地(ふりがな)	コード		北緯	東経	発掘期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
古宮(ふるみや)遺跡	石川県(いしかわけん) 白山市(はくさんし) 白山町(はくさんまち) 地内	17210	922500	36度 43分 78秒	136度 63分 27秒	20180627 ～ 20181113	1,350㎡	記録保存 調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
古宮遺跡	社寺	奈良・平安時代	竪穴状遺構、石列、土坑、溝、小穴	土師器、須恵器、石製品	整地層や遺構などから、大量のカワラケが出土。
		鎌倉・室町時代	礎石建物、竪穴状遺構、石敷遺構、石段状遺構、石列、土坑、溝、小穴	土師器、陶磁器、石製品、木製品、金属製品、銅銭	白山本宮の所在を裏付ける遺構や遺物を確認。

要約

白山本宮(白山比咩神社)旧社地で、境内地東側の概要が明らかとなった。調査により平安時代後期～戦国時代までの最大5層の遺構面を確認した。遺構面の時期は、第Ⅰ面は室町時代後半～戦国時代、第Ⅱ・Ⅲ面は室町時代中頃～後半、第Ⅳ面は鎌倉時代前半～室町時代前半、第Ⅴ面は平安時代後半～鎌倉時代前半、第Ⅵ面以下は平安時代中頃～後半頃が中心と考えられる。建物の礎石や石列、溝などの遺構を検出し、大量出土の素焼きの皿「カワラケ」を中心に、中国製の青磁や白磁の花瓶や碗・皿、瀬戸焼の製品、加賀焼や珠洲焼、越前焼のすり鉢や甕、砥石などの石製品、鉄釘や銅銭など、豊富な遺物が多数出土した。出土遺物の9割以上は、細かく割られた平安時代後期～室町時代後期のカワラケで占められ、遺構や包含層、整地層から多量に出土している。白山本宮ではカワラケを用いた祭事が頻繁に行われており、敷地造成の際に、造成土にカワラケ片を混ぜていたことがうかがえる。これは、文献史料から知られている白山本宮の火災や洪水などに伴い繰り返された、神殿などの再建を裏付けるものである。

遺跡の位置と環境（西から）

遺跡の位置と環境（北西から）

遺跡の位置と環境（南東から）

遺跡の位置と環境（南から）

着手前調査地全景（北西から）

Ａ区Ⅱ面（Ｂ区Ⅰ面）　全景（東から）

Ｂ区Ⅰ・Ⅱ面　全景（東から）

Ｂ区Ⅱ・Ⅲ面　全景（東から）

Ｂ区Ⅲ面　全景（東から）

Ｂ区Ⅳ・Ⅴ面　全景（東から）

Ｃ区０・Ⅰ面　全景（東から）

Ｃ区Ⅱ面　全景（東から）

Ａ区Ⅱ面　遠景（北西から）

Ａ区Ⅱ面　全景（北西から）

Ａ区Ⅱ面　全景（南東から）

Ａ区Ⅱ面　土坑からまとまって出土した中世のカワラケ（南から）
SX13

Ａ区Ⅱ面　まとまって出土した中世のカワラケ（南から）
SX13

図版 4

Ａ区Ⅱ面　土師器皿（カワラケ）の出土状況（東から）
P93

Ａ区　出土遺物

Ⅱ面 SD11　加賀焼　甕

Ⅱ面 P91　青磁　碗

Ａ区遺構 2・Ｂ区遺構 1

Ⅱ面 SX15　珠洲焼　すり鉢

Ⅱ面 SX16　瀬戸焼　壺

Ｂ区Ⅰ面　全景（東から）

Ｂ区Ⅰ面　全景（北から）

Ｂ区Ⅰ面　遠景（北から）

Ｂ区Ⅱ面　全景（北から）

Ｂ区Ⅱ面　全景（南から）

Ｂ区Ⅰ・Ⅱ面　石列を持つ区画溝（東から）
SD02

Ｂ区Ⅰ～Ⅴ面　敷地を区画する大型の石列（北から）
石列 06

Ｂ区Ⅰ面　石敷の道状遺構（東から）
SX29・SK09

Ｂ区Ⅱ・Ⅲ面　石段状の道状遺構（東から）
SX48・SX49・SX55

Ｂ区Ⅱ・Ⅲ面　石段状の道状遺構（東から）
SD18・SX75

Ｂ区Ⅱ・Ⅲ面　建て替えられた小型の礎石建物（西から）
礎石 07～15

Ｂ区　整地層に混じる多量のカワラケ小片

Ｂ区　まとまって出土した古代のカワラケ底部
Ⅲ面包含層 3（南東から）

Ｂ区　出土遺物

Ⅱ面包含層 1　土師器皿
（カワラケ）

Ⅱ面ベース　土師器皿
（カワラケ）

Ｂ区　出土遺物

Ⅳ面包含層 1　土師器皿
（カワラケ）

Ⅳ面包含層 1　銅銭
（開元通寶）

Ⅲ面 SD36（Ⅲ面包含層 3）
加賀焼　甕

Ⅳ面 SK19　柱状高台皿
（カワラケ）

Ⅳ面包含層 1　柱状高台皿
（カワラケ）

Ⅴ面 SK19　土師器皿
（カワラケ）

Ｂ区Ⅲ面　全景（北から）

Ｂ区Ⅲ面　遠景（南東から）

Ｂ区Ⅲ面　全景（南から）

Ｂ区Ⅱ・Ⅲ面　炭化物を多く含む土で埋められた土坑（西から）
SX46・SX47

Ｂ区Ⅱ・Ⅲ面　敷地を区画する石列と配石状遺構（北から）
石列 06　　SX76

Ｂ区Ⅱ・Ⅲ面　石列を持つ区画溝と配石状遺構（東から）
SD01（石列 04・05）　SX76

Ｂ区Ⅲ面　大型土坑と敷石状遺構（東から）
SX46・47　　SX65

Ｂ区Ⅱ～Ⅳ面　同じ場所で再建された礎石建物（北から）
SB01a・b（礎石 1 ～ 3・P109）

Ｂ区Ⅳ面　再建前の礎石建物（西から）
SB01b（礎石 1 ～ 3・P109・礎石 25 ～ 28）

Ｂ区Ⅱ・Ⅲ面　再建後の礎石建物（東から）
SB01a（礎石 1 ～ 3・P109）

Ｂ区Ⅳ・Ⅴ面　遠景（南から）

Ｂ区Ⅳ・Ⅴ面　全景（南から）

Ｂ区Ⅳ・Ⅴ面　全景（北西から）

Ｂ区　Ⅱ面礎石とⅣ面敷石列（道状遺構）の整地状況（北西から）
礎石 04・05　SX72

Ｂ区Ⅳ面　敷石列の道状遺構（南西から）
SX72

Ｂ区Ⅳ面　大型礎石建物と石畳状の敷石遺構（西から）
SB02（礎石 16・17・35）　SX71

Ｂ区Ⅳ面　大型礎石建物の礎石列と敷石遺構（北西から）
SB02（礎石 16・17・35）　SX71

Ｂ区Ⅳ面　大型礎石建物の北側礎石（西から）
SB02- 礎石 16（上面が赤く焼けている）

Ｂ区Ⅳ面　大型礎石建物の南側礎石（西から）
SB02- 礎石 17（上面が赤く焼けている）

Ｂ区　Ⅳ面礎石建物とＶ面の大型土坑（北西から）
SB01　　SK19

Ｂ区Ｖ面　古代のカワラケが出土した大型土坑（東から）
SK19

Ｃ区０・Ｉ面　全景（南から）

Ｃ区０面　全景（北西から）

Ｃ区０面　中世のカワラケが出土した土坑（東から）
SK04

Ｃ区０面　土坑上面から出土した中世のカワラケ（東から）
SK04

Ｃ区０面　大型の焼けた石を検出した土坑（東から）
SK05

C区Ⅰ面　全景（南東から）

C区Ⅰ面　集石状遺構（北東から）
SX20

C区Ⅰ・Ⅱ面　石列と大型の河原石を用いた石組みの土坑（北から）
SX43

C区Ⅰ・Ⅱ面　石列 01（南東から）

C区Ⅱ面　遠景（南東から）

Ｃ区Ⅱ面　大型礫群検出状況（北西から）

Ｃ区Ⅱ面　全景（南西から）

Ｃ区Ⅱ面　炭層が検出された穴（東から）
P32

Ｃ区Ⅱ面　古代のカワラケが多く出土した落ち込み（北西から）
SX37

Ｃ区Ⅱ面　落ち込みから出土した古代のカワラケ底部（北から）
SX37

図版 14

Ｃ区　まとまって出土した古代のカワラケ底部（南西から）
Ⅱ面包含層１（SX23-c の下）

Ｃ区　出土遺物

Ⅱ面ベース　土師器皿
（カワラケ）

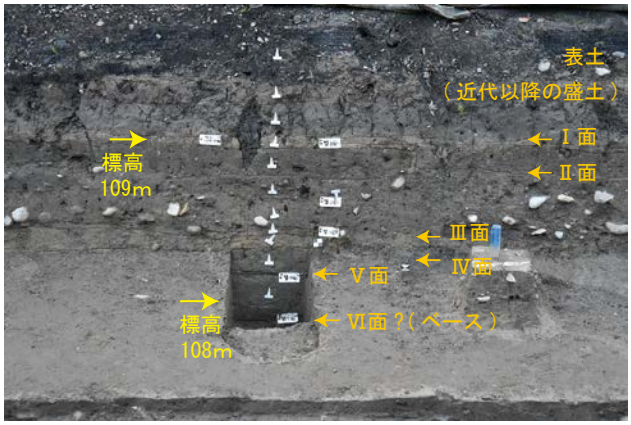
Ⅱ面ベース　土師器皿
（カワラケ）

Ⅲ面包含層３　内黒土師器椀

Ｃ区遺構 4

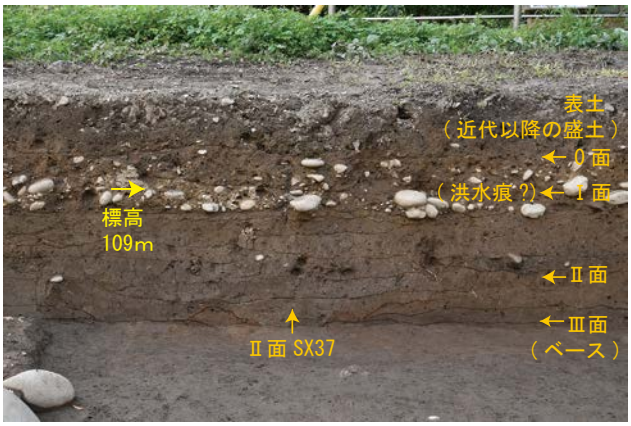
Ⅱ面 SX37　須恵器（双耳瓶）

Ｃ区Ⅲ面　全景（北から）

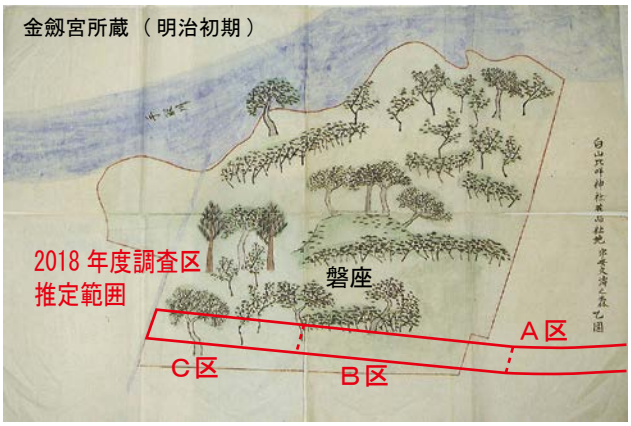


Ｂ区Ⅰ～Ⅴ面（Ⅵ面？）壁断面　土層の堆積状況（東から）

白山本宮旧社地と古宮遺跡調査区の位置（北東から）



Ｃ区Ⅰ～Ⅲ面壁断面　土層の堆積状況（東から）



白山比咩神社（白山本宮）旧社地「安久濤之森　乙図」
金劔宮提供

白山比咩神社（白山本宮）旧社地「安久濤之森　甲図」
金劔宮提供

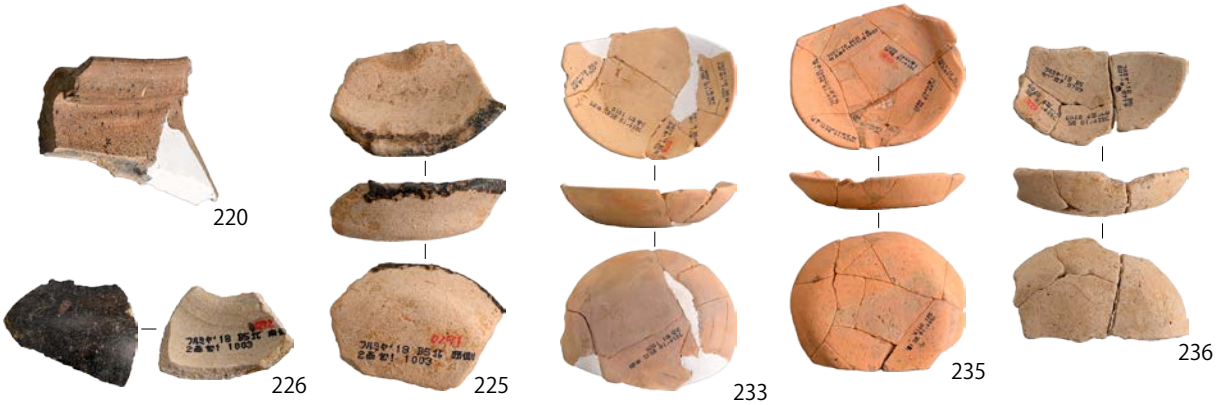
5:SX5(A2 南区 1 面)
9:SX10 土器 1(A2 南区 1 面)
15:SD7(A3 北区 1 面)
17:SX8 土器 1(A3 北区 1 面)
21 ～ 23: 包含層 (A3 北区 2 面)
26: 包含層 (SD11-b 上)(A3 北区 2 面)
27・28: 包含層 (SX15 上)(A3 北区 2 面)
29 ～ 31: 包含層 2(A3 北区 2 面)
41:SD11-b 上面 (A3 北区 2 面)
42:SD11-b(A3 北区 2 面)
46:SX15(A3 北区 2 面)
50:SX15(石周辺)(A3 北区 2 面)
51:SX59(A3 北区 2 面)
57・58:P85(A3 北区 2 面)
62:SX4(A3 南区 1 面)

65: 包含層（A3 南区 2 面）
66 ～ 68: 包含層土器集中 1（A3 南区 2 面）
78: 包含層（SX15 上珠洲 2 下）（A3 南区 2 面）
80 ～ 82: 包含層 2（A3 南区 2 面）
87:SD11-e（A3 南区 2 面）
88 ～ 90: 包含層 2（A3 南区 2 面）
96:SK18（A3 南区 2 面）
101:SX16 アゼ（A3 南区 2 面）
102:SX16（P92 アゼ）（A3 南区 2 面）
103・104:SX16（P94 周りアゼ）（A3 南区 2 面）
106・107・109・112:Pit（A3 南区 2 面）

125・126・128・129: 包含層（A4 北区 2 面）
133・135・136:SD32(A4 北区 2 面）
142・143:SX13 西（A4 北区 2 面）
144:SX13 東（A4 北区 2 面）
145・146・150 ～ 152:SX13(A4 北区 2 面）
155 ～ 157・159・162・164・165:SX13(A4 北区 2 面）

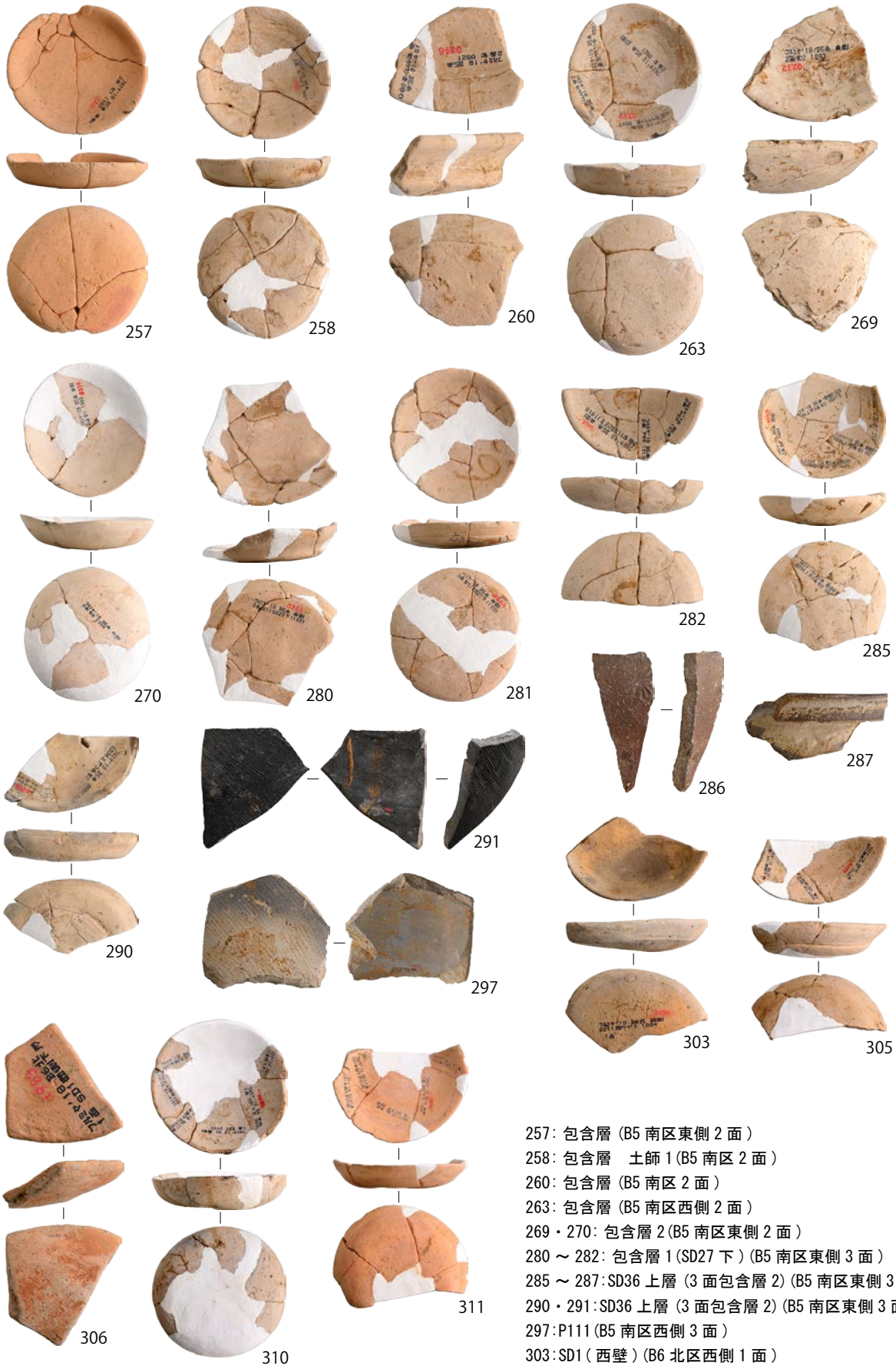
169 ～ 171・175 ～ 177:SX13(A4 北区 2 面)
181:SX13-a(A4 北区 2 面)
187・188:SX13 最下層 (A4 北区 2 面)
190:SX61(A4 北区 2 面)
193 ～ 195・199:Pit(A4 北区 2 面)
200: ベース (A4 北区 2 面)
203: ベース (SX61 東側)(A4 北区 2 面)
204: 包含層 (A4 南区 2 面)
210: 包含層 2(A4 南区西側 2 面)

石 1: 包含層（A3 北区 2 面）
石 2: 包含層 2(A3 北区 2 面）
石 3: 検出面（A4 南区 2 面）
石 4: 包含層 1(A4 南区 3 面）
金 3: 壁立て（A4 区西側 1 面）
金 5: ベース（SX13 周り）(A4 北区 2 面）

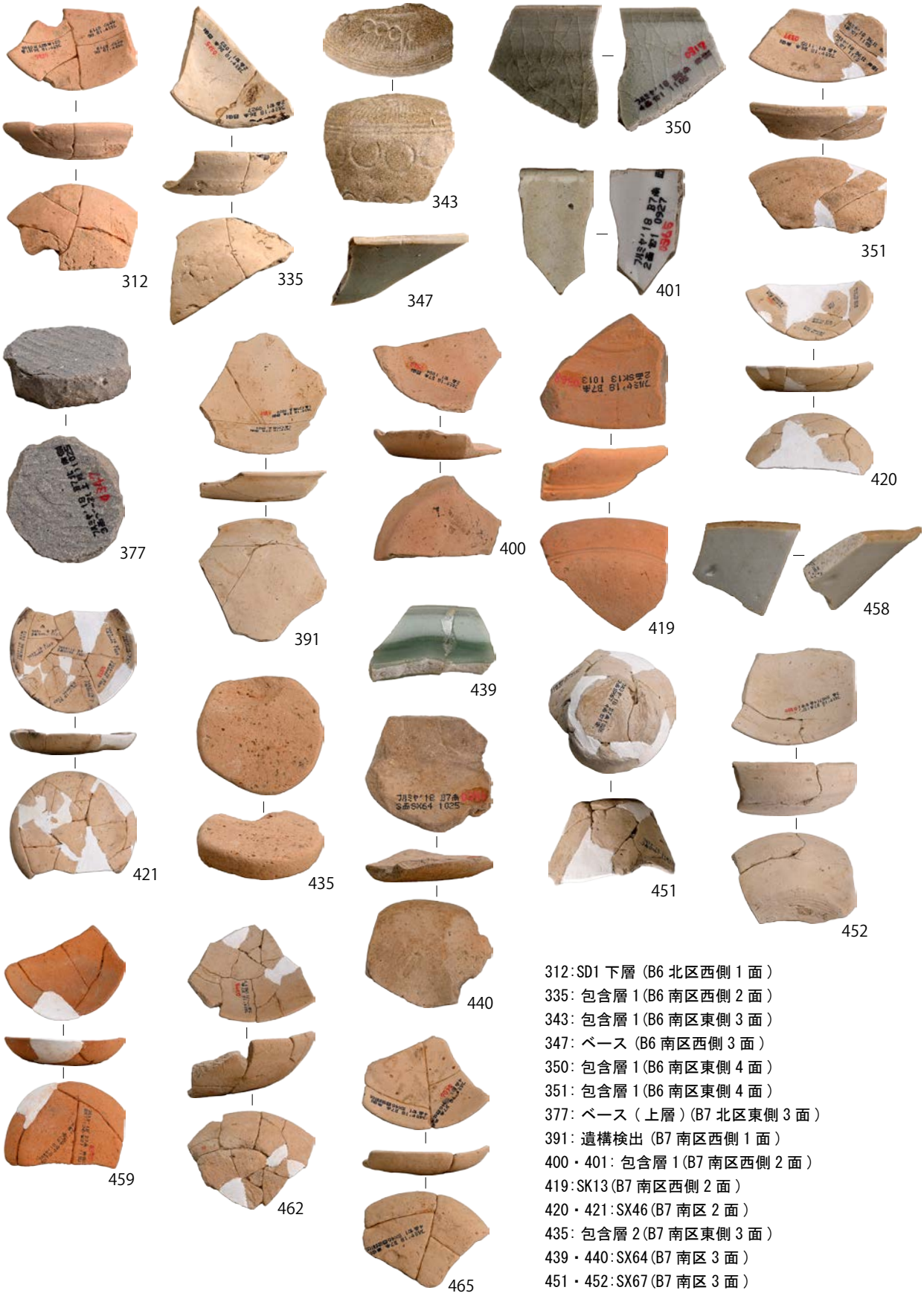


220:SD2-a 下層（B5 北区 1 面）
225: 包含層 1(B5 北区西側 2 面）
226・227: 包含層 1(B5 北区東側 2 面）
233: 包含層 1(B5 北区中央 3 面）
235:SD1-a(B5 南区 1 面）
236:SD1-a 西（B5 南区西側 1 面）

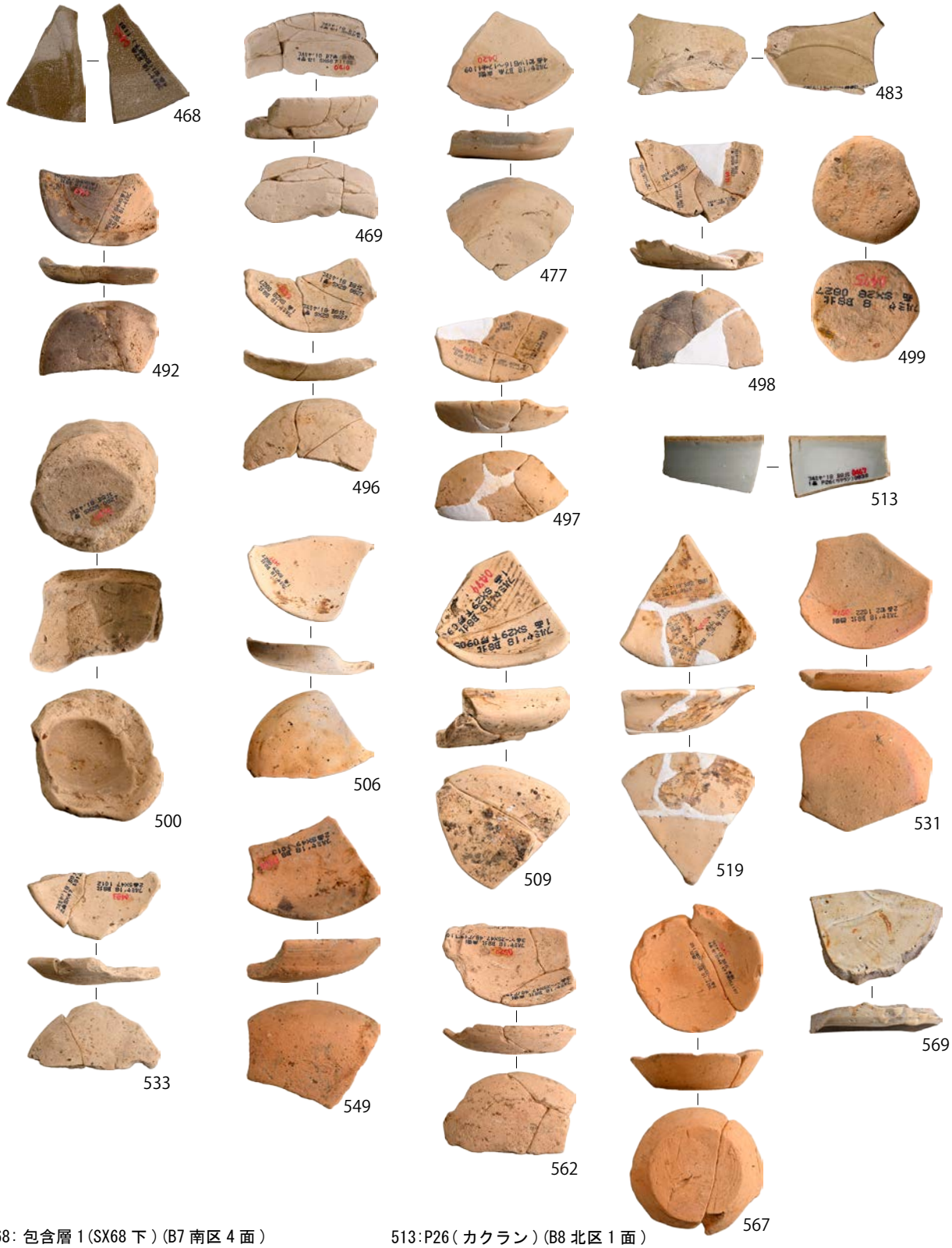
238 ～ 241:SD2-a(B5 南区 1 面）
245:SD2-a 下層（B5 南区東側 1 面）
246:SD2-a 底（B5 南区西側 1 面）
251・252:SD2-a 底（集石）
（南側石列下含む）(B5 南区東側 1 面）



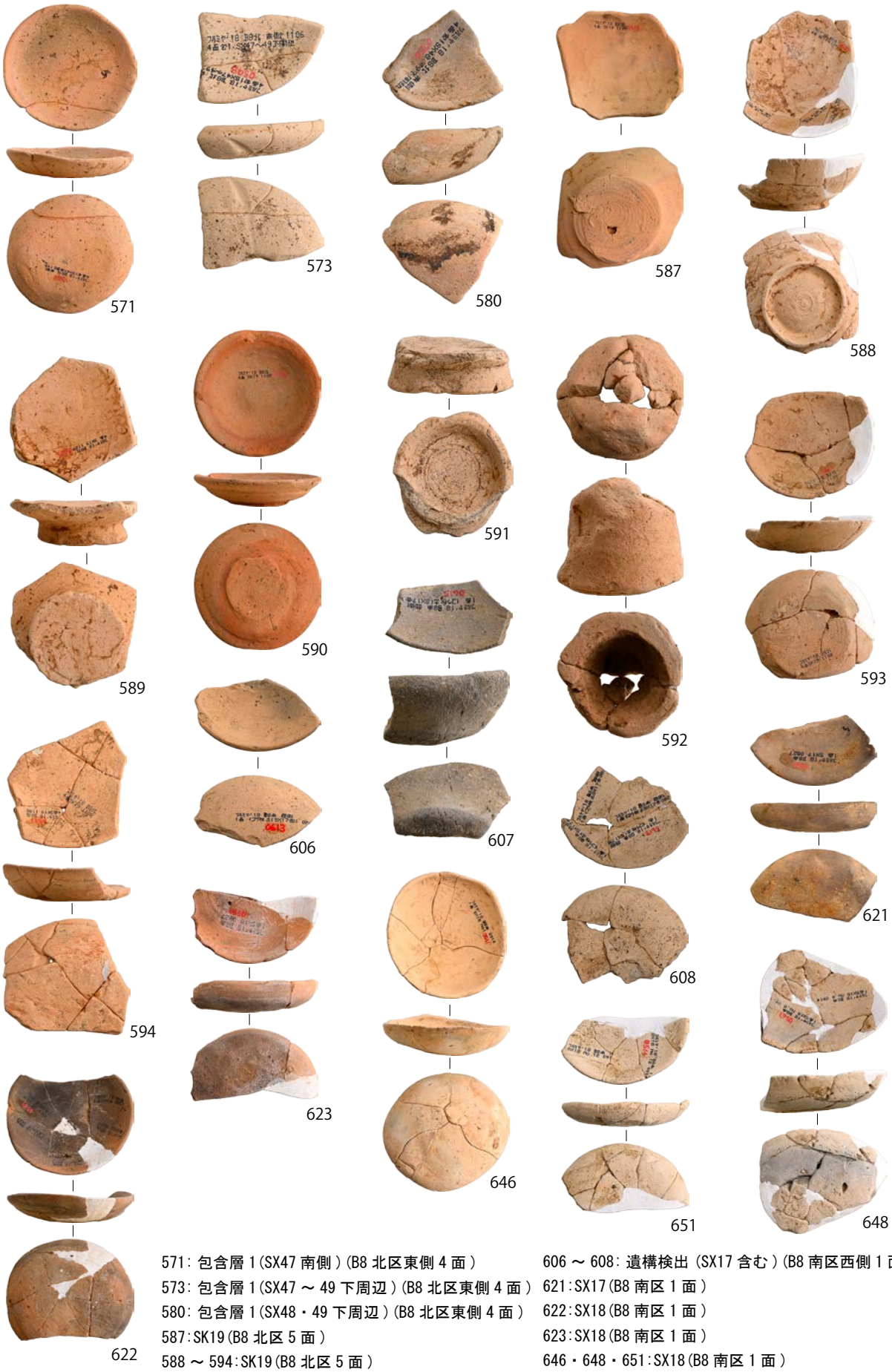
257: 包含層（B5 南区東側 2 面）
258: 包含層　土師 1（B5 南区 2 面）
260: 包含層（B5 南区 2 面）
263: 包含層（B5 南区西側 2 面）
269・270: 包含層 2（B5 南区東側 2 面）
280 ～ 282: 包含層 1（SD27 下）（B5 南区東側 3 面）
285 ～ 287:SD36 上層（3 面包含層 2）（B5 南区東側 3 面）
290・291:SD36 上層（3 面包含層 2）（B5 南区東側 3 面）
297:P111（B5 南区西側 3 面）
303:SD1（西壁）（B6 北区西側 1 面）
305・306・310・311:SD1 下層（B6 北区西側 1 面）



312:SD1 下層（B6 北区西側 1 面）
335: 包含層 1(B6 南区西側 2 面）
343: 包含層 1(B6 南区東側 3 面）
347: ベース（B6 南区西側 3 面）
350: 包含層 1(B6 南区東側 4 面）
351: 包含層 1(B6 南区東側 4 面）
377: ベース（上層）(B7 北区東側 3 面）
391: 遺構検出（B7 南区西側 1 面）
400・401: 包含層 1(B7 南区西側 2 面）
419:SK13(B7 南区西側 2 面）
420・421:SX46(B7 南区 2 面）
435: 包含層 2(B7 南区東側 3 面）
439・440:SX64(B7 南区 3 面）
451・452:SX67(B7 南区 3 面）
458:SX68(B7 南区東側 3 面）
459:SX70(B7 南区東側 3 面）
462: ベース（礎石 17 南側アゼ）(B7 南区東側 3 面）
465: 包含層 1(SX46 西側周辺）(B7 南区東側 4 面）



468: 包含層 1(SX68 下)(B7 南区 4 面)
469: 包含層 1(SX68 下)(B7 南区東側 4 面)
477: 包含層 1(礎石 16 ～ 17 アゼ)(B7 南区東側 4 面)
483: 包含層 1(礎石 17 南西側)(B7 南区東側 4 面)
492:SK9 石下 (B8 北区 1 面)
496 ～ 500:SX28(B8 北区 1 面)
506:SX29(B8 北区 1 面)
509:SX29 下層 (B8 北区 1 面)
513:P26(カクラン)(B8 北区 1 面)
519: 包含層 1(B8 北区西側 2 面)
531: 包含層 2(B8 北区西側 2 面)
533:SX47(B8 北区 2 面)
549:SX49(B8 北・南区 2 面)
562: ベース (SX47・48 間)(B8 北区東側 3 面)
567: ベース (SX55 北側)(B8 北区北西側 3 面)
569: 包含層 1(B8 北区東側 4 面)



571: 包含層 1(SX47 南側)(B8 北区東側 4 面)
573: 包含層 1(SX47 ～ 49 下周辺)(B8 北区東側 4 面)
580: 包含層 1(SX48・49 下周辺)(B8 北区東側 4 面)
587:SK19(B8 北区 5 面)
588 ～ 594:SK19(B8 北区 5 面)
606 ～ 608: 遺構検出 (SX17 含む)(B8 南区西側 1 面)
621:SX17(B8 南区 1 面)
622:SX18(B8 南区 1 面)
623:SX18(B8 南区 1 面)
646・648・651:SX18(B8 南区 1 面)

659・660・667・669:SX18(B8 南区 1 面)
685・686: 包含層 1(B8 南区 2 面)
688 ～ 694: 包含層 1(B8 南区西側 2 面)
733 ～ 735: 包含層 2(B8 南区 2 面)
756: ベース (B8 南区東側 2 面)
762: ベース(礎石 1・2 周辺)(B8 南区東側 3 面)

772: 包含層 1（礎石 1 東側下）(B8 南区東側 4 面）
773: 包含層 1（礎石 1 ～ 3 アゼ）(B8 南区東側 4 面）
775 ～ 780: 包含層 1（礎石 1 ～ 3 周辺）(B8 南区 4 面）
806・807: 包含層 2（礎石 7 ～ 10 北側下）(B8 南区東側 4 面）
815: 遺構検出（カクラン）(B9 北区西側 1 面）
816: 検出面精査 (B9 北区 1 面）
830・831: 包含層 1(B9 北区西側 2 面）
845: 包含層 1(B9 北区 3 面）
846・848・871: 包含層 1(B9 北区西側 3 面）
847・872: 包含層 1(B9 北区東側 3 面）
881・882: 包含層 2(B9 北区東側 3 面）

902

903

904

905

906

907

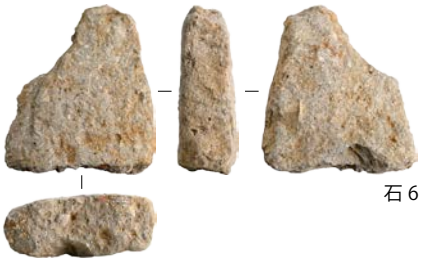
908

909

910

木 1

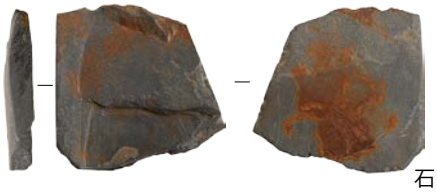
石 5


石 6

石 7

石 8

石 10


石 9

石 11

石 12

902 ～ 907: 包含層 3(B9 北区西側 3 面)
908・909: 包含層 3(B9 北区西側 3 面)
910: 包含層 3(B9 北区東側 3 面)
木 1: 包含層 (SD-2a 下)(B5 南区 2 面)
石 5・6:SD-2a(北より)(B5 南区西側 1 面)
石 7:SD-2b(南側石列)(B5 南区 1 面)
石 8:SD-2b 底 (B5 南区 1 面)
石 9:SD-2b 底 (集石)(B5 南区東側 1 面)
石 10: 包含層 1(B5 南区東側 2 面)
石 11:SD36 上層 (B5 南区東側 3 面)
石 12:SK14(B6 北区 2 面)

石 13

石 14

石 15

金 9

金 10

金 11

金 12

金 14

金 15

金 16

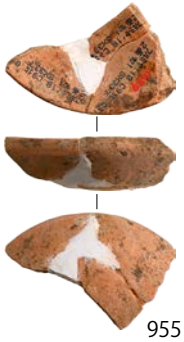
銭 1

銭 2

石 13: ベース (B6 北区東側 2 面)
石 14: 包含層 1(B8 北区西側 2 面)
石 15: 包含層 2(B9 北区東側 3 面)

金 9:SX29(B8 北区 1 面)
金 10:SX29 下 (サブトレ)(B8 北区 1 面)
金 11:SX48(B8 北区 2 面)
金 12:SX18(B8 南区 1 面)

金 14: 包含層 1(B8 南区 2 面)
金 15: 包含層 2(B8 南区西側 2 面)
金 16: 包含層 1(B8 南区西側 3 面)
銭 1: 包含層 2(SX63 上)(B6 南区 3 面)
銭 2: 包含層 1 上面 (B7 南区 4 面)

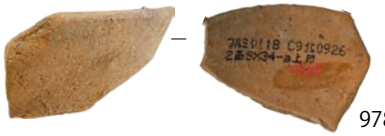

955

956

957

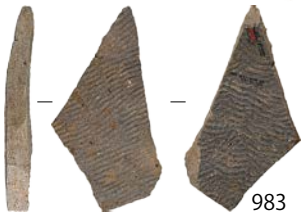
979

980

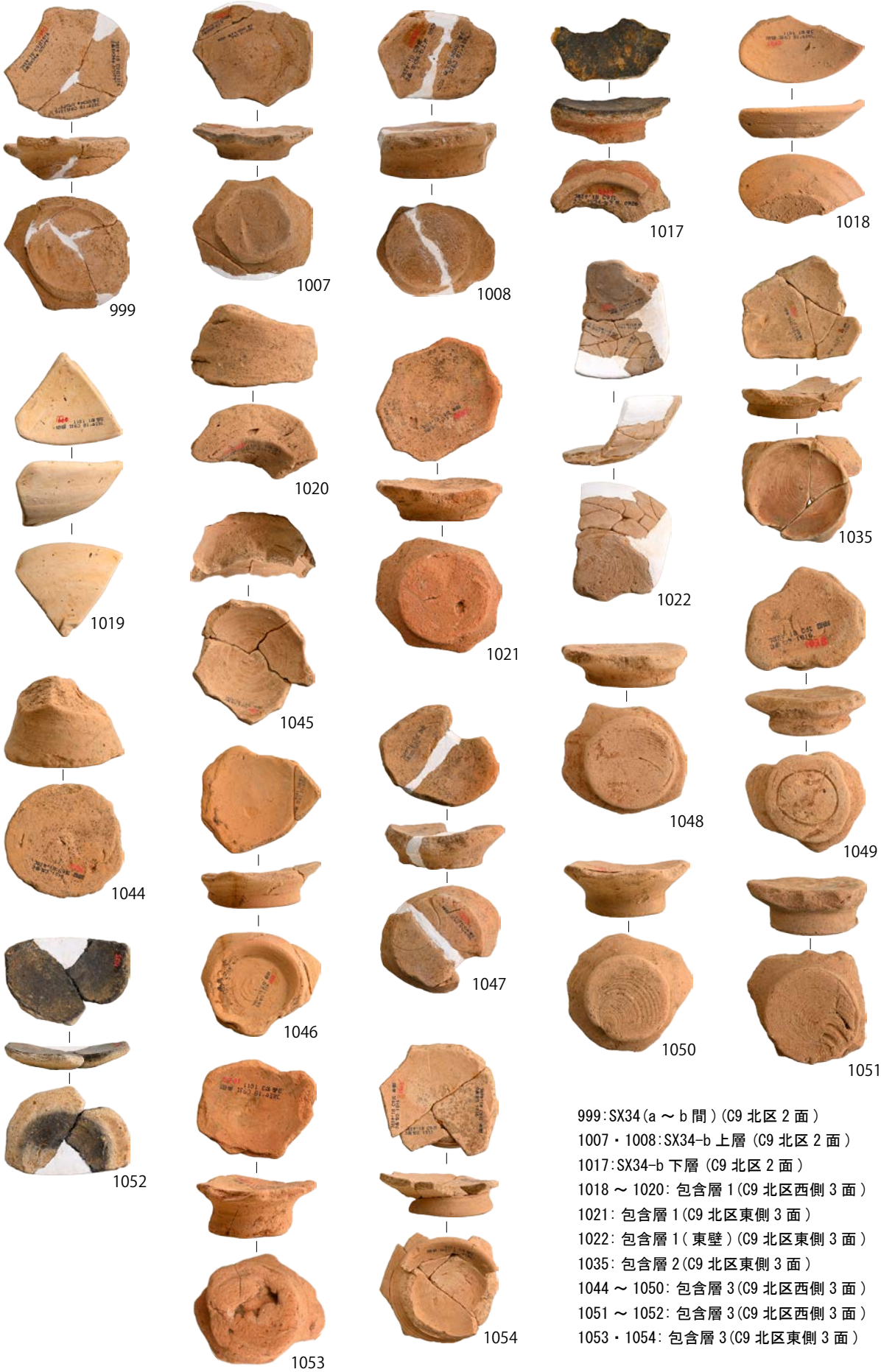

978

981

982


983

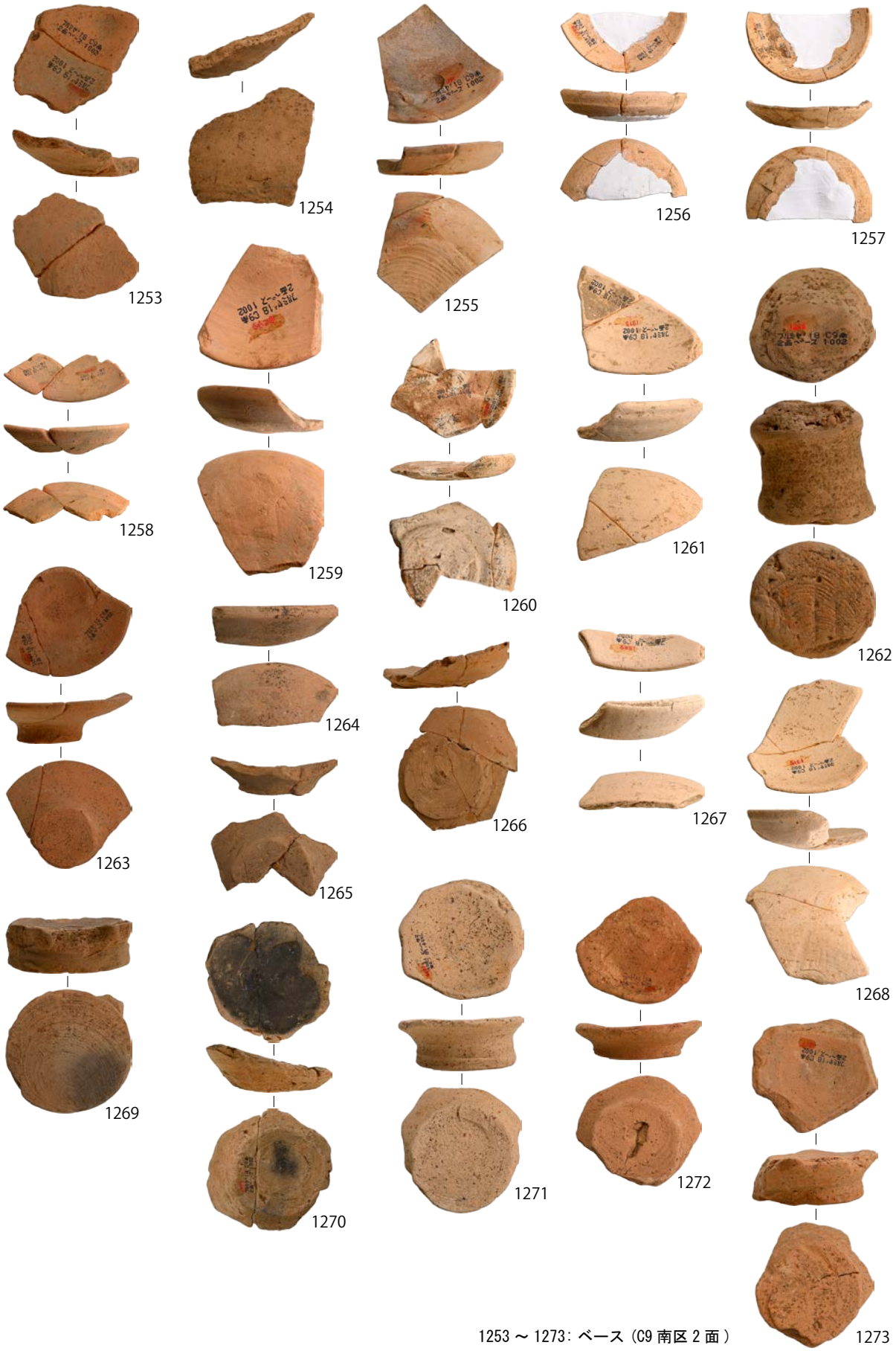
955: 包含層 1(SX33 下)(C9 北区 2 面)
956・957: 包含層 1(C9 北区西側 2 面)
978 ～ 983:SX34-a 上層 (C9 北区 2 面)



999:SX34(a ～ b 間)(C9 北区 2 面)
1007・1008:SX34-b 上層 (C9 北区 2 面)
1017:SX34-b 下層 (C9 北区 2 面)
1018 ～ 1020: 包含層 1(C9 北区西側 3 面)
1021: 包含層 1(C9 北区東側 3 面)
1022: 包含層 1(東壁)(C9 北区東側 3 面)
1035: 包含層 2(C9 北区東側 3 面)
1044 ～ 1050: 包含層 3(C9 北区西側 3 面)
1051 ～ 1052: 包含層 3(C9 北区西側 3 面)
1053・1054: 包含層 3(C9 北区東側 3 面)

1055 ～ 1056: 包含層 3(C9 北区東側 3 面)
1091: 遺構検出 (C9 南区西側 1 面)
1098 ～ 1102: 包含層 1(C9 南区西側 2 面)
1103 ～ 1107: 包含層 1(C9 南区西側 2 面)
1108 ～ 1112: 包含層 1(C9 南区東側 2 面)
1162・1163: 包含層 1(集石 1 下)(C9 南区 2 面)

1173・1174: 包含層 1（集石 2 周辺）(C9 南区 2 面）
1179・1180: 包含層 2(C9 南区西側 2 面）
1181・1182: 包含層 2(C9 南区東側 2 面）
1193: 遺構検出（C9 南区西側 2 面）
1200: 包含層 1（集石 1 下）(C9 南区 2 面）
1201:SK12(C9 南区 2 面）
1206:SX34（サブトレ上層）(C9 南区 2 面）
1210・1211:SX36(C9 南区 2 面）
1212・1213:SX36(C9 南区 2 面）
1238 ～ 1241:P32(C9 南区 2 面）
1251・1252: ベース（C9 南区 2 面）



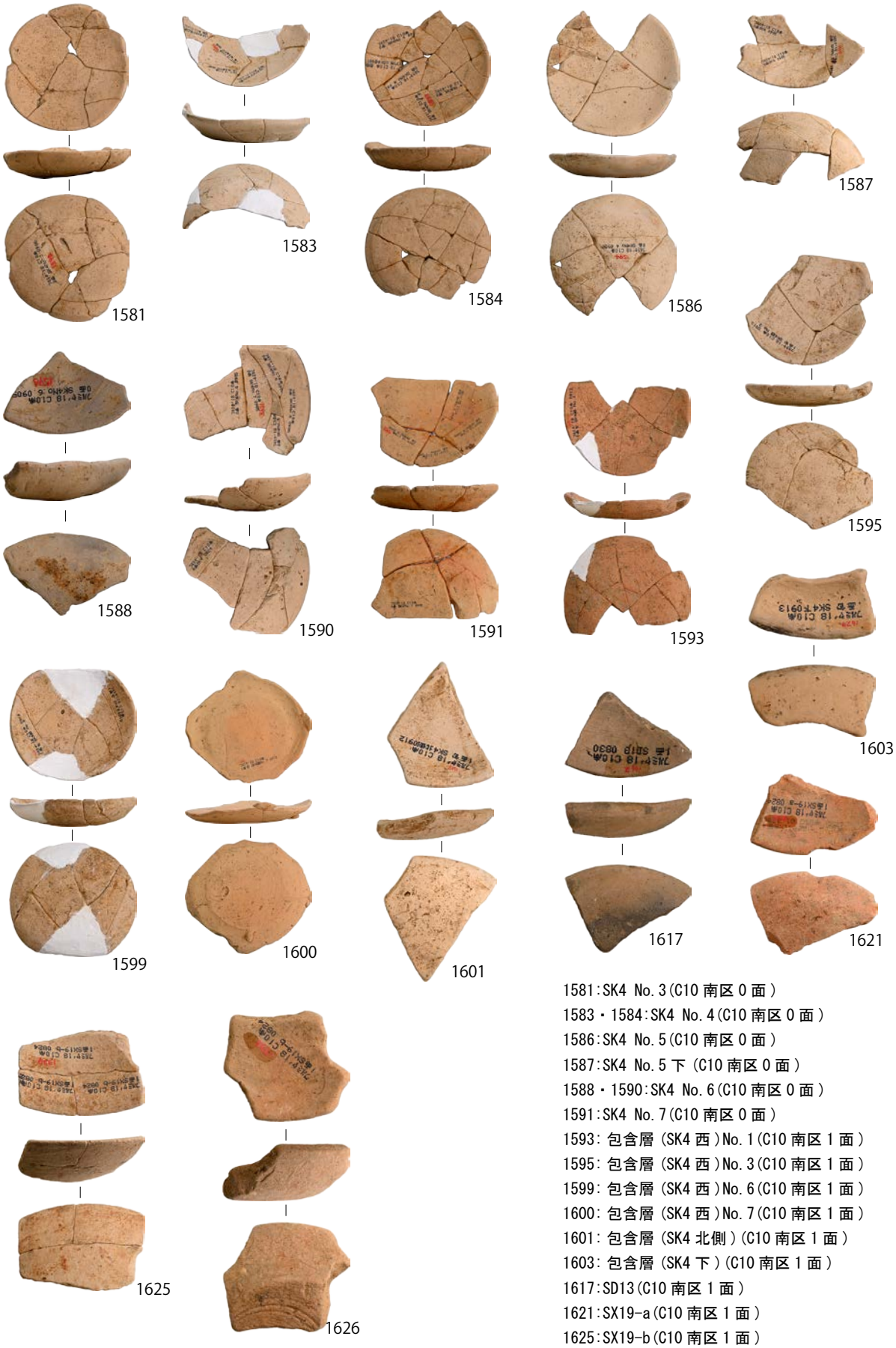
1253 ～ 1273: ベース（C9 南区 2 面）

1274 ～ 1280: ベース（C9 南区 2 面）
1357・1358: 包含層（C10 北区 1 面）
1362: 遺構検出（C10 北区 1 面）
1369:SX20-a(C10 北区 1 面）
1375: 包含層（SX37-a・b 間東西アゼ 1 下）(C10 北区 2 面）
1376 ～ 1378: 包含層（SX37-b 上）(C10 北区 2 面）
1379・1380: 包含層 1(C10 北区 2 面）
1381 ～ 1385: 包含層 1(C10 北区西側 2 面）

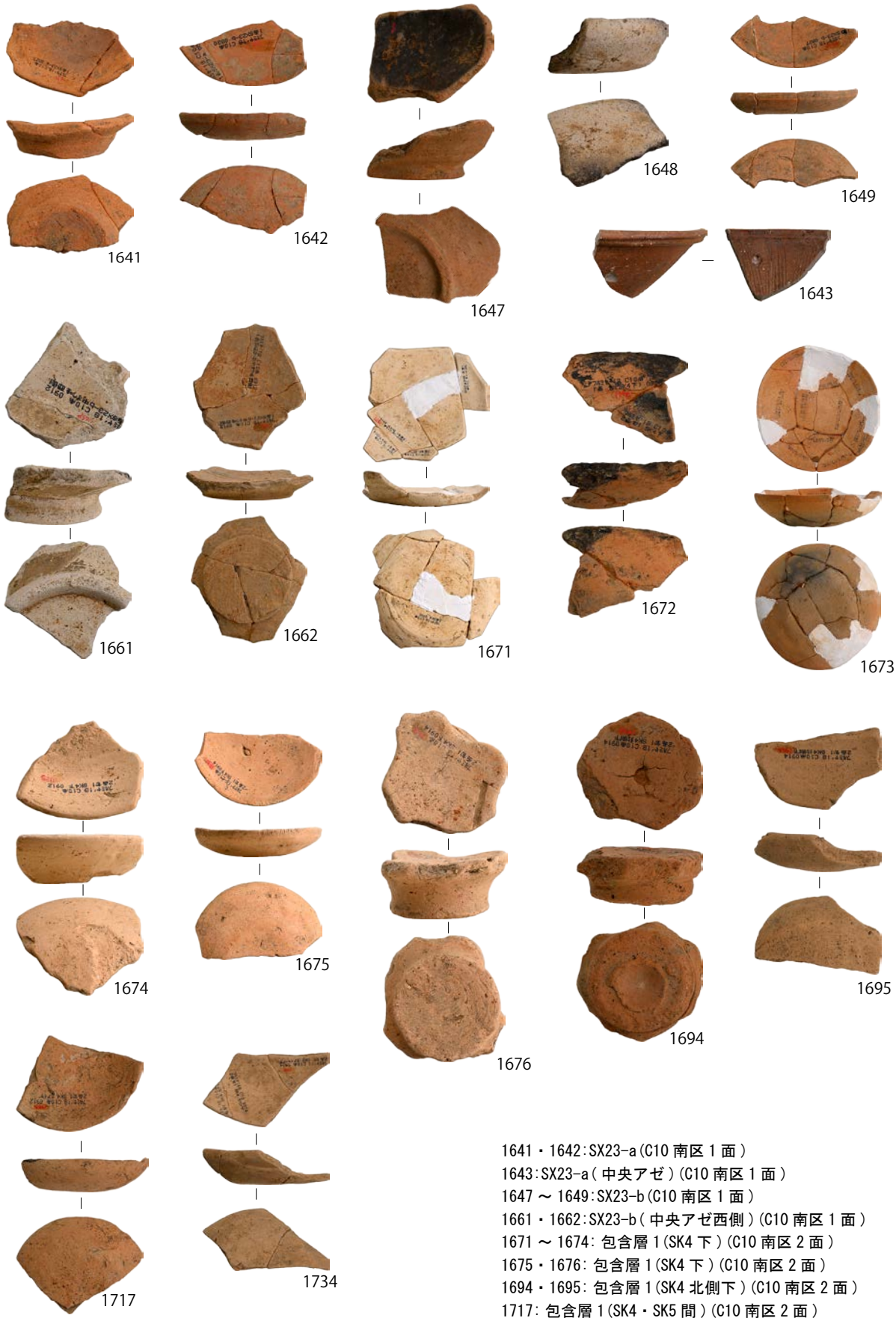
1386: 包含層 1(C10 北区西側 2 面)
1403 ～ 1405: 包含層 1(東西アゼ 1)(C10 北区 2 面)
1412・1413: 包含層 1(中央アゼ)(C10 北区 2 面)
1424: 包含層 1(集石 1 下 中央アゼ)(C10 北区東側 2 面)
1439・1440: 包含層 1(SX19-c 下)(C10 北区 2 面)
1454 ～ 1456: 包含層 1(SX37-a・b 間東西アゼ 1 下)(C10 北区 2 面)
1462: 包含層 1(礎石 1 周辺)(C10 北区 2 面)
1464 ～ 1466: 包含層 2(C10 北区西側 2 面)
1473・1474: 包含層 2(SX20-a 下)(C10 北区 2 面)
1478:SX37-a(C10 北区 2 面)
1479:SX37(a・b 間 東西アゼ 1)(C10 北区 2 面)

1484 ～ 1489:SX37-b(C10 北区 2 面)
1490 ～ 1496:SX37-b(C10 北区 2 面)
1525・1526:SX37-c(C10 北区 2 面)
1528・1529:SX45-a(C10 北区 2 面)
1530:SX45-a 磁器 1(C10 北区 2 面)

1531:SX45-a 磁器 2(C10 北区 2 面)
1532 ～ 1537: ベース (C10 北区 2 面)
1548: 遺構検出 (SK4 含む)(C10 南区西側 0 面)
1552:(上段)検出面精査 (C10 南区 0 面)
1555 ～ 1558:SK4 上面 (C10 南区西側 0 面)
1559 ～ 1561:SK4(C10 南区 0 面)
1579:SK4 No.1(C10 南区 0 面)
1580:SK4 No.2(C10 南区 0 面)

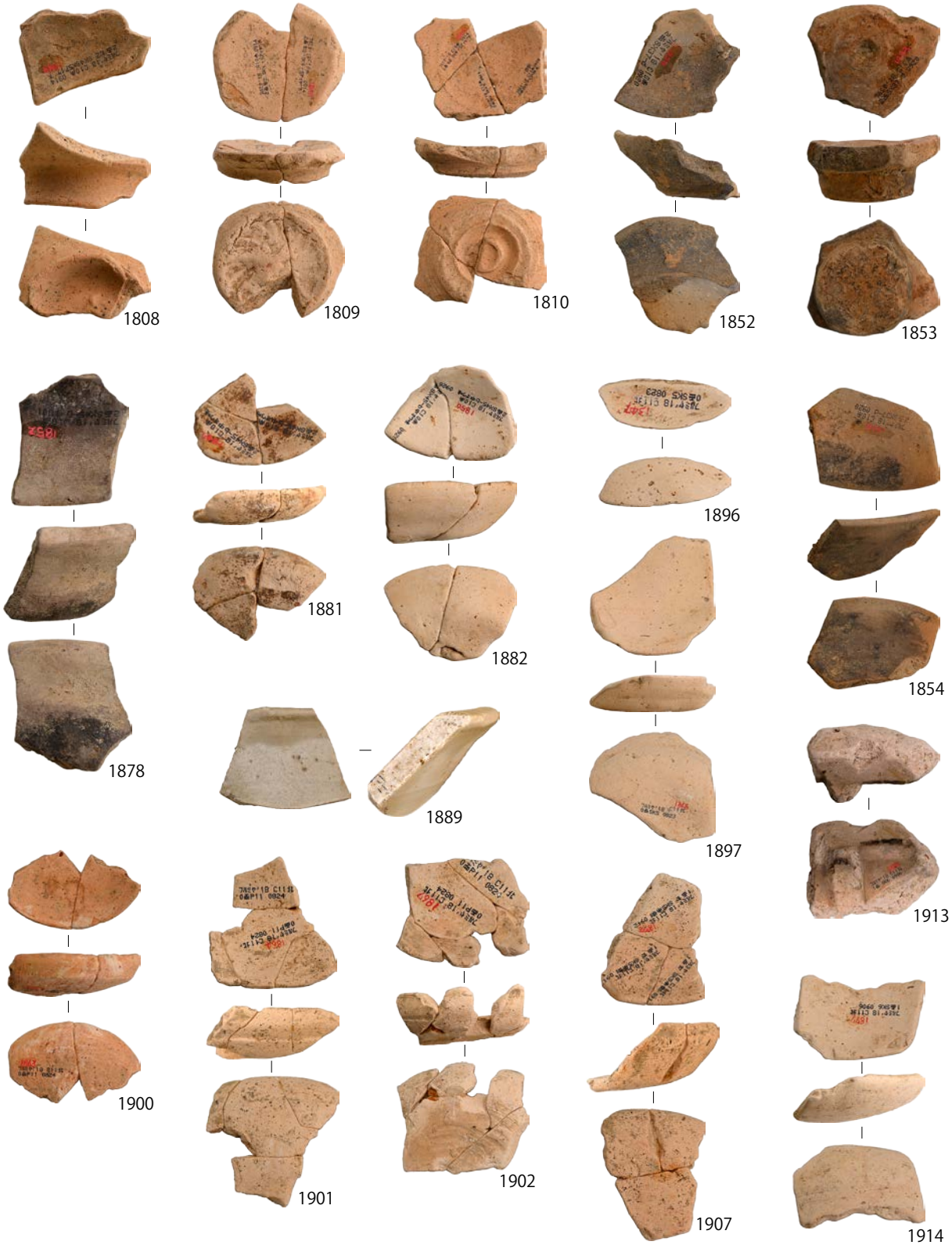


1581:SK4 No.3(C10 南区 0 面)
1583・1584:SK4 No.4(C10 南区 0 面)
1586:SK4 No.5(C10 南区 0 面)
1587:SK4 No.5 下 (C10 南区 0 面)
1588・1590:SK4 No.6(C10 南区 0 面)
1591:SK4 No.7(C10 南区 0 面)
1593: 包含層 (SK4 西)No.1(C10 南区 1 面)
1595: 包含層 (SK4 西)No.3(C10 南区 1 面)
1599: 包含層 (SK4 西)No.6(C10 南区 1 面)
1600: 包含層 (SK4 西)No.7(C10 南区 1 面)
1601: 包含層 (SK4 北側)(C10 南区 1 面)
1603: 包含層 (SK4 下)(C10 南区 1 面)
1617:SD13(C10 南区 1 面)
1621:SX19-a(C10 南区 1 面)
1625:SX19-b(C10 南区 1 面)
1626:SX19-b(C10 南区 1 面)

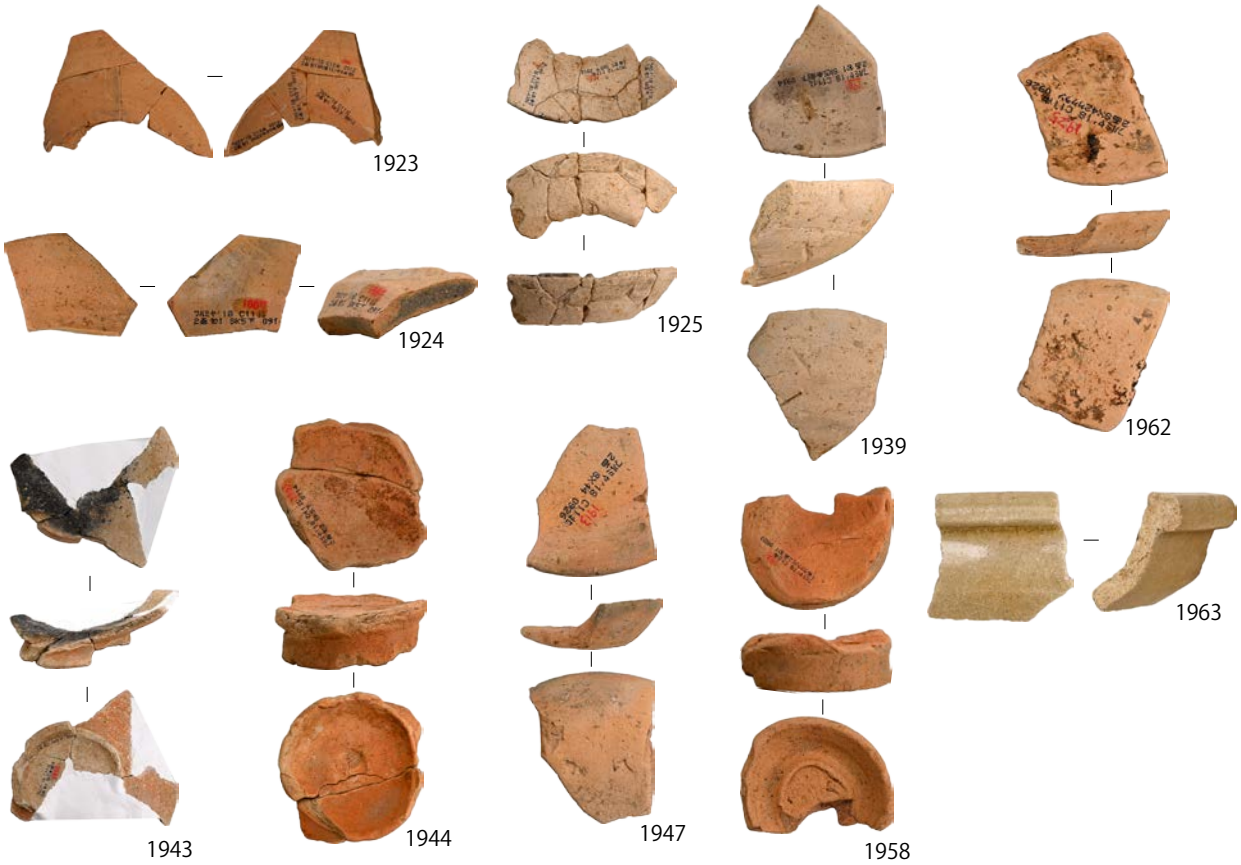


1641・1642:SX23-a(C10 南区 1 面)
1643:SX23-a(中央アゼ)(C10 南区 1 面)
1647 ～ 1649:SX23-b(C10 南区 1 面)
1661・1662:SX23-b(中央アゼ西側)(C10 南区 1 面)
1671 ～ 1674: 包含層 1(SK4 下)(C10 南区 2 面)
1675・1676: 包含層 1(SK4 下)(C10 南区 2 面)
1694・1695: 包含層 1(SK4 北側下)(C10 南区 2 面)
1717: 包含層 1(SK4・SK5 間)(C10 南区 2 面)
1734: 包含層 1(SK4・SK5 間下)(C10 南区 2 面)

1736: 包含層 1(SX19-b 下) スエ 1(C10 南区 2 面)
1747・1748: 包含層 1(SX23-b 含む)(C10 南区東側 2 面)
1753・1754: 包含層 1(SX23-b 西側下)(C10 南区 2 面)
1755: 包含層 1(SX23-b 西側下)(C10 南区 2 面)
1766: 包含層 1(SX23-c 下)(C10 南区 2 面)
1772: 包含層 1(SX23-c 下)No. 5(C10 南区 2 面)
1778: 包含層 1(SX23-c 下)No. 7(C10 南区 2 面)
1780: 包含層 1(中央アゼ)(C10 南区 2 面)
1788: 包含層 1(東西アゼ 2)(C10 南区 2 面)
1791: 包含層 2(SK4 下)(C10 南区 2 面)
1796: 包含層 2(SK4 北側下)(C10 南区 2 面)
1803 ～ 1807: 包含層 2(SK4・SK5 間下)(C10 南区 2 面)



1808 ～ 1810: 包含層 2(SK4・SK5 間下)
(C10 南区 2 面)
1852 ～ 1854:SX37-d(C10 南区 2 面)
1878:SX45-b(C10 南区 2 面)
1881・1882:SX45-b(中央アゼ)(C10 南区 2 面)
1889: 壁たて (SK5 含む)(C11 北区西側 0 面)
1896・1897:SK5(C11 北区 0 面)
1900 ～ 1902:P11(C11 北区 0 面)
1907: 包含層 (SK5 南側)(C11 北区 1 面)
1913・1914:SK6(C11 北区 1 面)



1923 ～ 1925: 包含層 1(SK5 下)(C11 北区 2 面)
1939: 包含層 1(SK5 南側下)(C11 北区 2 面)
1943・1944: 包含層 2(SK5 下)(C11 北区 2 面)
1947:SX44(C11 北区 2 面)
1958: カクラン (2 面包含層)
(C11 南区 1 面)
1962・1963:SX42(カクラン含む)
(C11 南区 2 面)
石 16: 包含層 1(C9 北区西側 2 面)
石 17: 包含層 2(C9 北区西側 2 面)
石 18:SK5(C11 北区 0 面)
石 19:SX22(C11 北区 1 面)
石 20:SX44(C11 北区 2 面)
金 18: 遺構検出 (SX26 下)(C9 区東側 2 面)
金 20: 包含層 2(C10 北区西側 2 面)
金 22: 包含層 1(中央アゼ)(C10 南区 2 面)

白山市　古宮遺跡

発行日　令和４(2022)年３月22日

発行者　石川県教育委員会

〒920－8575　石川県金沢市鞍月１丁目１番地

電話　076－225－1842（文化財課）

公益財団法人石川県埋蔵文化財センター

〒920－1336　石川県金沢市中戸町18番地１

電話　076－229－4477

E－mail　daihyou@ishikawa-maibun.or.jp

印　刷　ソノダ印刷株式会社